

令和7年度
市民意識調査報告書



令和7年10月

伊勢崎市

目 次

I	調査の概要	4
II	調査の結果	8
1	回答者の属性	9
	（1）性別	9
	（2）年齢	11
	（3）職業	13
	（4）伊勢崎市での通算居住年数	15
	（5）同居家族	17
	（6）居住形態	20
2	定住意向	22
	（7）前住地（現在の住まいの直前に住んでいた場所）	22
	（8）伊勢崎市を住まいとして選んだ理由	24
	（9）今後の居住地について	28
	（10）希望する居住先	30
	（11）「（10）希望する居住先」を選んだ理由	32
3	地区の住みよさ	40
	（12）居住地域	40
	（13）住みよさ	42
	（14-1）住みよいと思う点	44
	（14-2）住みにくいと思う点	48
4	現在と将来の伊勢崎市について	52
	（15）伊勢崎市への愛着	52
	（16-1）現在の伊勢崎市のイメージ	54
	（16-2）将来なってほしい伊勢崎市のイメージ	59
	（16-3）「現在の伊勢崎市」と「将来なってほしい伊勢崎市」の比較	64
	（17）今後、市に実施してほしい取組	70
5	市の取組についての評価	74
	市の取組についての満足度	74
	今後、力を入れてほしい取組	82
	（18）「少子高齢化対策」に関する取組への満足度	87
	（19）「少子高齢化対策」に関する特に力を入れてほしい取組	91
	（20）「産業の活性化」に関する取組への満足度	96
	（21）「産業の活性化」に関する特に力を入れてほしい取組	100
	（22）「暮らしの安心実現」に関する取組への満足度	105
	（23）「暮らしの安心実現」に関する特に力を入れてほしい取組	109
	（24）「互いに認め合う多文化共生」への満足度	114
	（25）「人権を尊重するまちづくり」への満足度	116

（２６）「共生社会の実現」に関する取組への満足度	118
（２７）「共生社会の実現」に関する特に力を入れてほしい取組	122
（２８）伊勢崎市はＤＸが進んでいると思うか	127
（２９）「ＤＸの推進」に関する取組への満足度	129
（３０）「ＤＸの推進」に関する特に力を入れてほしい取組	133
（３１）伊勢崎市が「ＳＤＧｓ未来都市」であることの認知度	138
（３２）「いせさきＧＸ」の認知度	140
（３３）「ＳＤＧｓ（いせさきＧＸ）の推進」に関する取組への満足度	142
（３４）「ＳＤＧｓ（いせさきＧＸ）の推進」に関する特に力を入れてほしい取組	146
（３５）自由記述（市に対する意見、要望）	151
Ⅲ 参考資料（調査票）	152

I 調査の概要

1 調査の目的

市民意識の動向と現在の市民の多様なニーズを統計的に把握し、その結果を第3次伊勢崎市総合計画前期アクションプラン（以下、前期アクションプランという。）の進行管理や今後の市政運営の基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の方法

- | | |
|-------------|---|
| (1) 調査地域 | 市内全域 |
| (2) 調査対象者 | 市内に在住する満18歳以上の人 |
| (3) サンプル数 | 2,000人 |
| (4) 抽出方法 | 住民基本台帳から無作為抽出 |
| (5) 実施方法 | 調査票を郵送し、回答を返信用封筒にて返送
又は専用ページからインターネットで回答 |
| (6) 調査期間 | 令和7年6月23日（月）～7月11日（金） |
| (7) 回答者への謝礼 | ISECAポイント 200ポイント（希望者） |

3 調査項目

- (1) 回答者の属性
回答者の性別、年齢、職業、市の通算居住年数等を調査し、属性から傾向を把握する。
- (2) 定住意向について
今後の定住意向を調査し、前期アクションプランの推進にあたっての資料とする。
- (3) 地区の住みやすさについて
住んでいる地区の住みやすさについて、前期アクションプランの地区別計画における伊勢崎、赤堀、東、境の4つの地区ごとに調査し、地区ごとの傾向を把握するとともに、前期アクションプランの推進にあたっての資料とする。
- (4) 現在と将来の伊勢崎市について
市への愛着や市のイメージ、将来の伊勢崎市がどのような市になって欲しいか等について調査し、前期アクションプランの推進にあたっての資料とする。
- (5) 将来に向けた市の取組について
前期アクションプランにおける重点プロジェクトの5つのプロジェクト及び「SDGsの推進」の全6つの項目について、項目ごとに市民の満足度や今後力を入れてほしい取組を調査し、市民の意識やニーズを把握する。

4 報告書の留意点

- (1) 基礎となるべき実数は、有効回答数とした。
- (2) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、すべてパーセント（％）で表した。そのためパーセントの合計が100％にならないことがある。
- (3) 複数回答が可能な質問では、比率算出の基礎数は有効回答者数とし、その項目を選んだ人が有効回答者数からみて何％なのかという見方をした。そのため、各項目の比率の合計は通常100％を超える。
- (4) 本報告書の回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合がある。
- (5) 質問において、記入のなかった回答については、全て「無回答」として扱った。
- (6) 地区別での集計は、「伊勢崎地区」、「赤堀地区」、「東地区」、「境地区」の4地区を単位とした。

5 市内各地区の人口及び回収の状況

(1) 各地区の人口

（令和7年6月1日現在）

	男性 (人)	女性 (人)	計 (人)	割合
伊勢崎地区	59,529	59,488	119,017	61.1%
赤堀地区	11,665	11,450	23,115	11.9%
東地区	12,963	12,886	25,849	13.3%
境地区	13,505	13,264	26,769	13.7%
合計	97,662	97,088	194,750	100.0%

※外国人を除く

(2) 回収の状況

配布数 (人)…A	回収数 (人)…B	回収率 (%) $B/A \times 100$	無効回答数 (人)…C	有効回答数 (人)…D	有効回答率 (%) $D/A \times 100$
2,000	415	20.8	0	415	20.8

・性別

	有効回答数 (人)	割合	配布数 (人)	有効回収率
男性	180	43.4%	1,052	17.1%
女性	232	55.9%	948	24.5%
その他	0	0.0%	－	－
無回答	3	0.7%	－	－
合計	415	100.0%	2,000	20.8%

・年代別

	有効回答数 (人)	割合	配布数 (人)	有効回収率
18～29 歳	14	3.4%	140	10.0%
30 歳代	41	9.9%	210	19.5%
40 歳代	76	18.3%	438	17.4%
50 歳代	121	29.2%	586	20.6%
60 歳代	68	16.4%	242	28.1%
70 歳以上	91	21.9%	384	23.7%
無回答	4	1.0%	－	－
合計	415	100.0%	2,000	20.8%

・地区別

	有効回答数 (人)	割合	配布数 (人)	有効回収率
伊勢崎地区	272	65.5%	1,226	22.2%
赤堀地区	42	10.1%	238	17.6%
東地区	38	9.2%	264	14.4%
境地区	63	15.2%	272	23.2%
無回答	0	0.0%	－	－
合計	415	100.0%	2,000	20.8%

・ナッジ

	有効回答数 (人)	割合	配布数 (人)	有効回収率
ナッジ	183	44.1%	1,000	18.3%
通常	232	55.9%	1,000	23.2%
合計	415	100.0%	2,000	20.8%

Ⅱ 調査の結果

1 回答者の属性

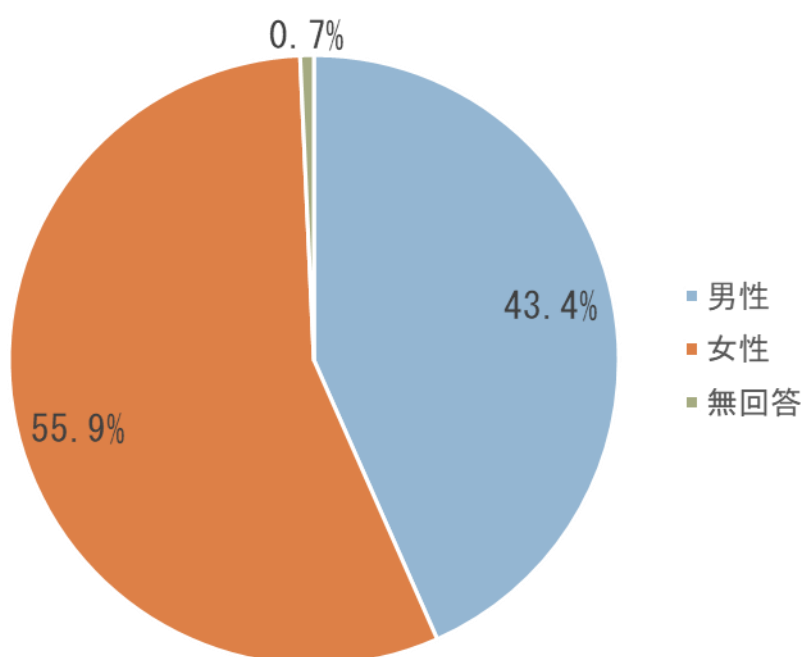
(1) 性別

性別については、「男性」が180人(43.4%)、「女性」が232人(55.9%)、「その他」が0人(0.0%)、「無回答」が3人(0.7%)となった。

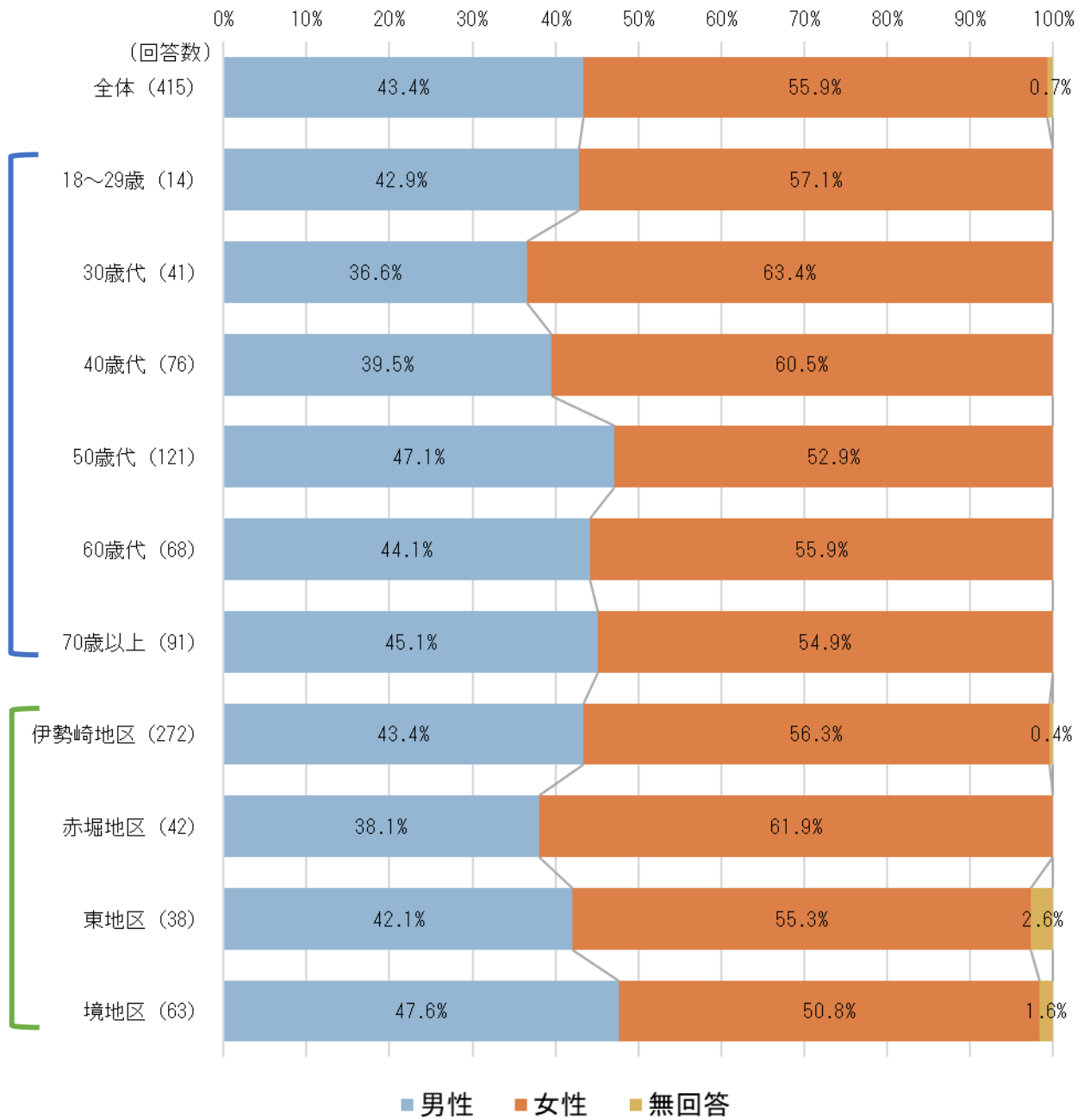
回答者の性別

	回答数	割合
男性	180	43.4%
女性	232	55.9%
その他	0	0.0%
無回答	3	0.7%
合計	415	100.0%

回答者の性別（割合）



回答者の性別（割合）【年代別、地区別】



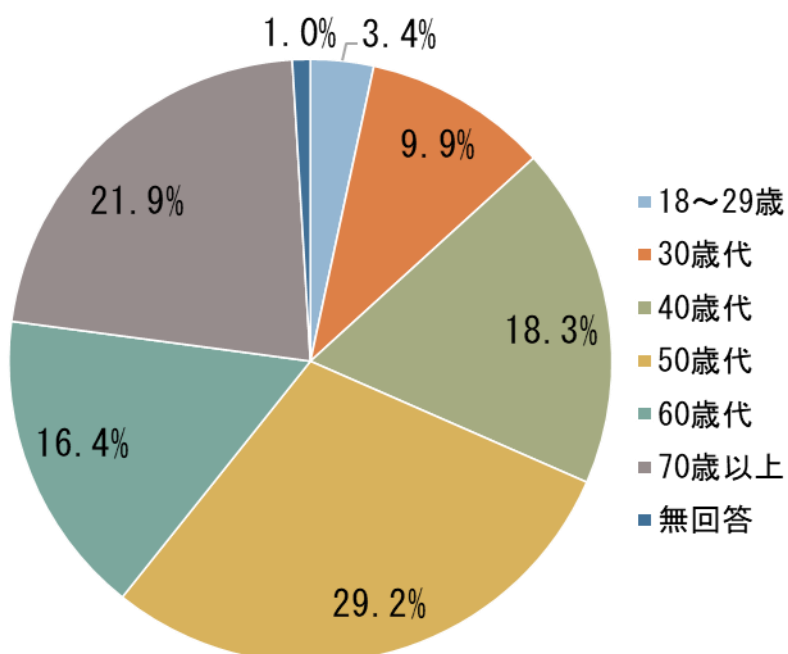
(2) 年齢

年齢については、「18～29 歳」が 14 人(3.4%)、「30 歳代」が 41 人(9.9%)、「40 歳代」が 76 人(18.3%)、「50 歳代」が 121 人(29.2%)、「60 歳代」が 68 人(16.4%)、「70 歳以上」が 91 人(21.9%)、「無回答」が 4 人(1.0%)となった。

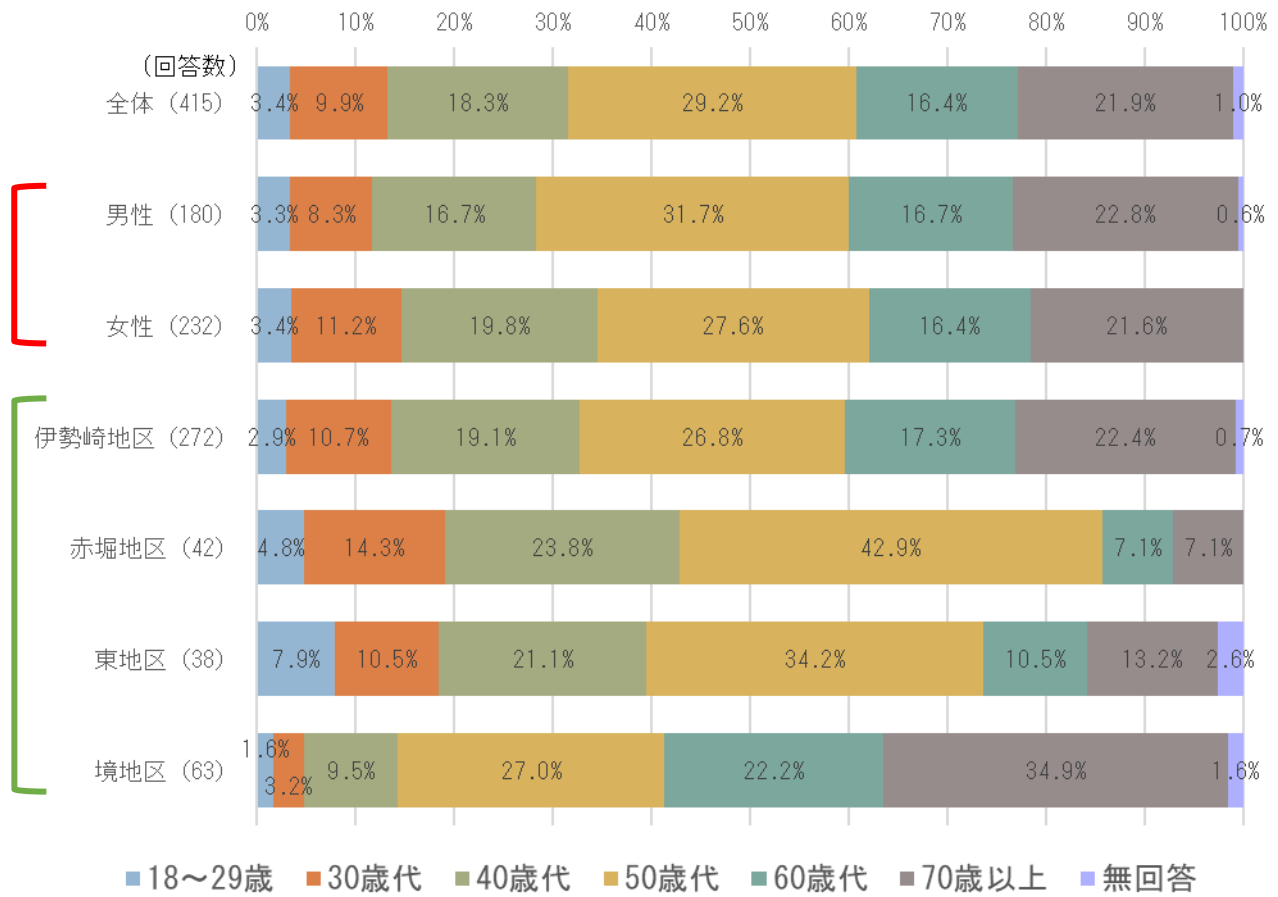
回答者の年齢

	回答数	割合
18～29 歳	14	3.4%
30 歳代	41	9.9%
40 歳代	76	18.3%
50 歳代	121	29.2%
60 歳代	68	16.4%
70 歳以上	91	21.9%
無回答	4	1.0%
合計	415	100.0%

回答者の年齢（割合）



回答者の年齢（割合）【男女別、地区別】



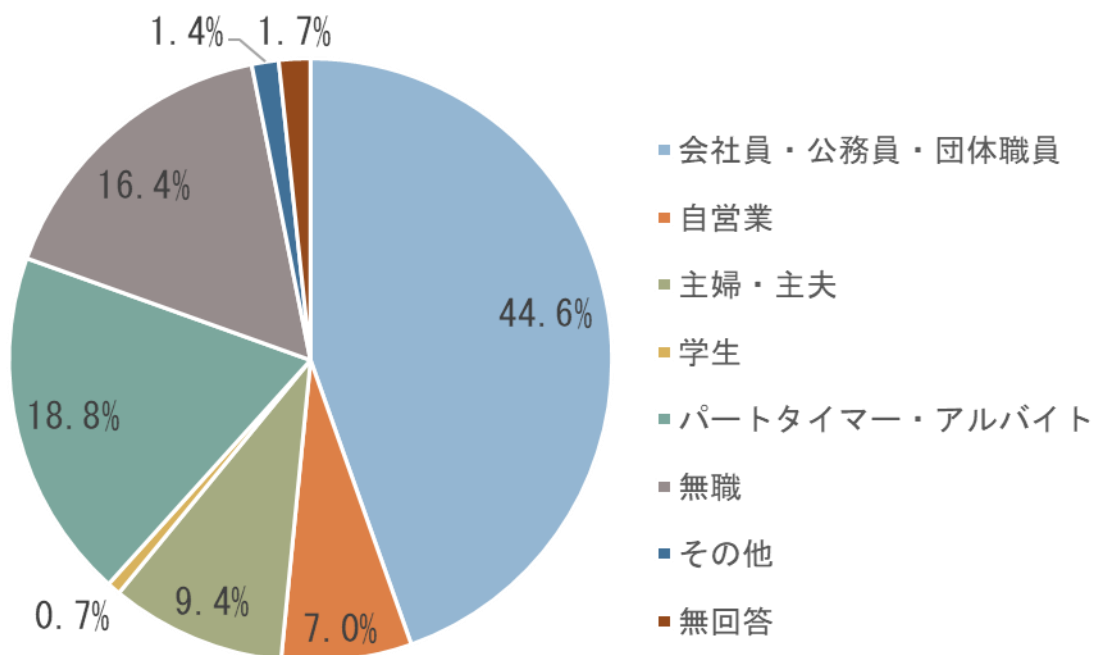
(3) 職業

職業については、「会社員・公務員・団体職員」が185人(44.6%)、「自営業」が29人(7.0%)、「主婦・主夫」が39人(9.4%)、「学生」が3人(0.7%)、「パートタイマー・アルバイト」が78人(18.8%)、「無職」が68人(16.4%)、「その他」が6人(1.4%)、「無回答」が7人(1.7%)となった。

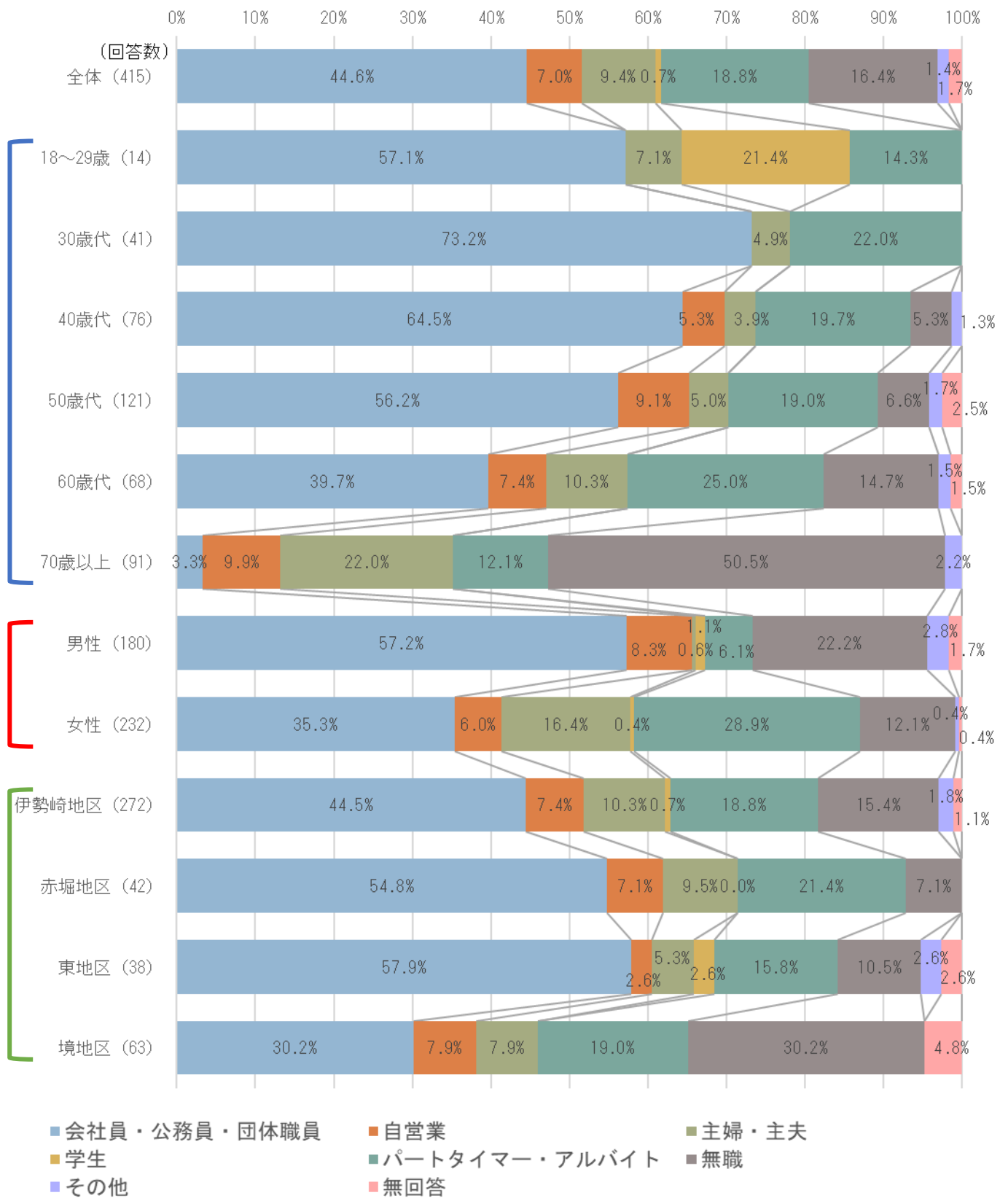
回答者の職業

	回答数	割合
会社員・公務員・団体職員	185	44.6%
自営業	29	7.0%
主婦・主夫	39	9.4%
学生	3	0.7%
パートタイマー・アルバイト	78	18.8%
無職	68	16.4%
その他	6	1.4%
無回答	7	1.7%
合計	415	100.0%

回答者の職業（割合）



回答者の職業（割合）【年代別、男女別、地区別】



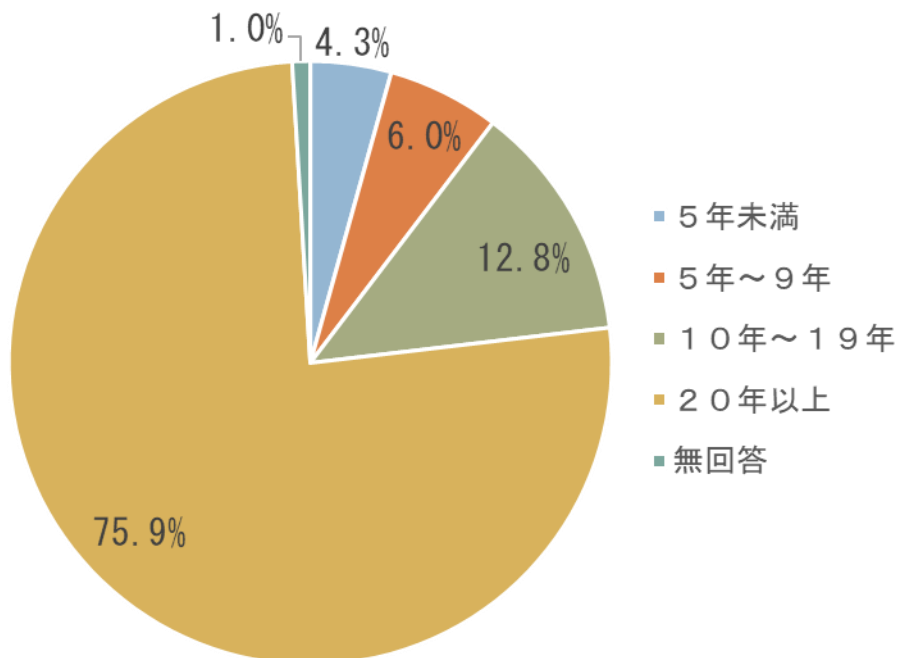
(4) 伊勢崎市での通算居住年数

伊勢崎市での通算居住年数については、「5年未満」が18人(4.3%)、「5年～9年」が25人(6.0%)、「10年～19年」が53人(12.8%)、「20年以上」が315人(75.9%)、「無回答」が4人(1.0%)となった。

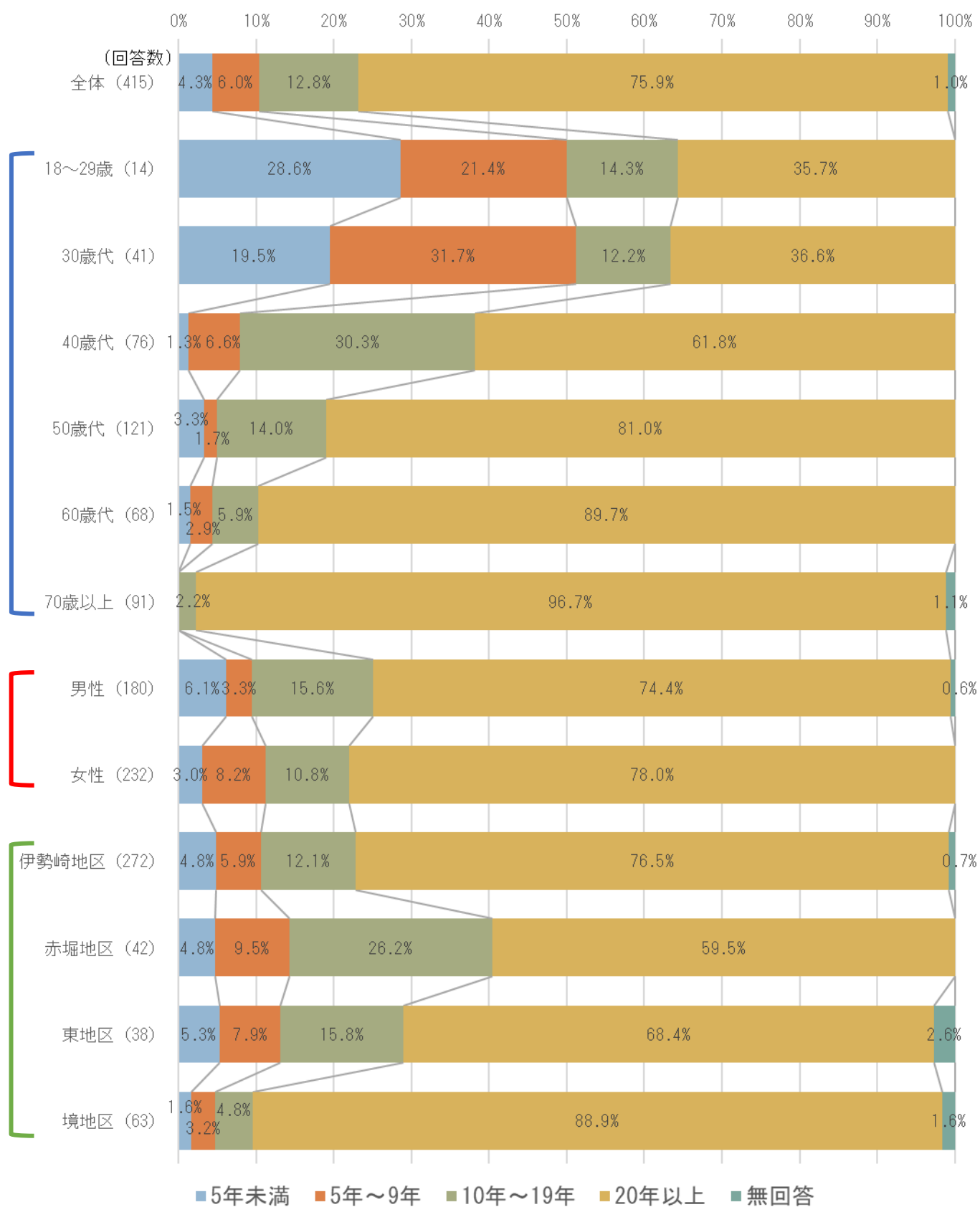
回答者の伊勢崎市での通算居住年数

	回答数	割合
5年未満	18	4.3%
5年～9年	25	6.0%
10年～19年	53	12.8%
20年以上	315	75.9%
無回答	4	1.0%
合計	415	100.0%

回答者の伊勢崎市での通算居住年数(割合)



伊勢崎市での通算居住年数（割合）【年代別、男女別、地区別】



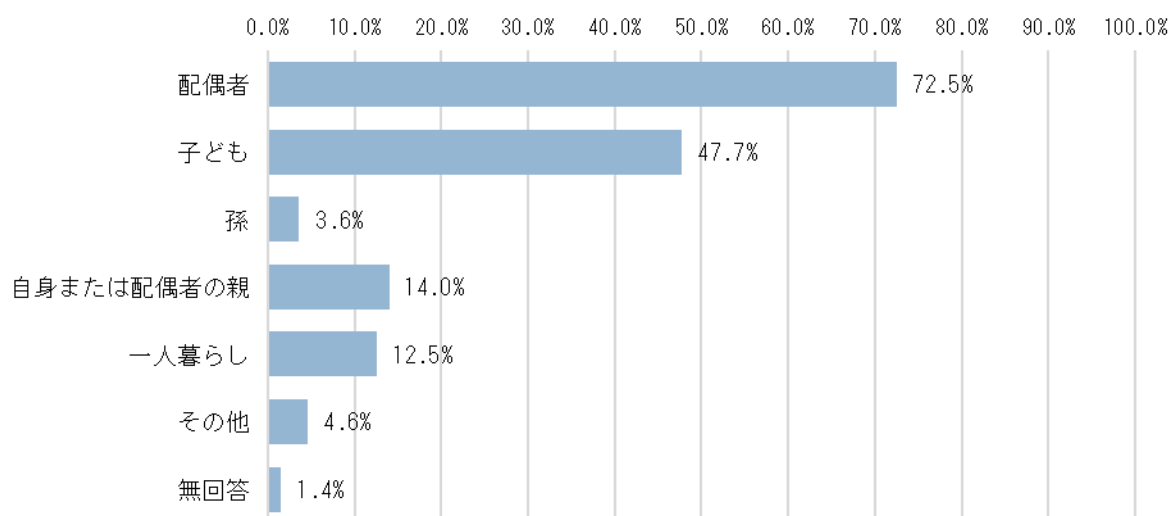
（５）同居家族

同居家族については、「配偶者」が301人(72.5%)、「子ども」が198人(47.7%)、「孫」が15人(3.6%)、「自身または配偶者の親」が58人(14.0%)、「一人暮らし」が52人(12.5%)、「その他」が19人(4.6%)、「無回答」が6人(1.4%)となった。

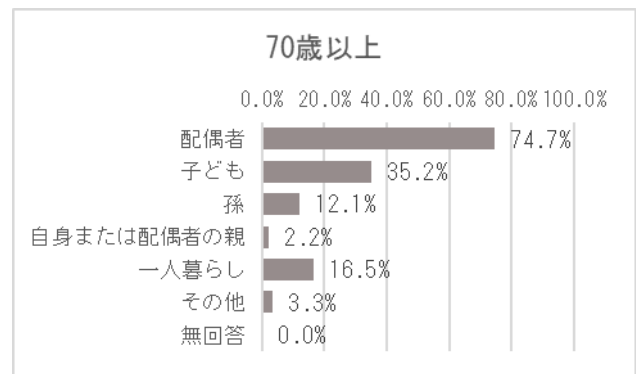
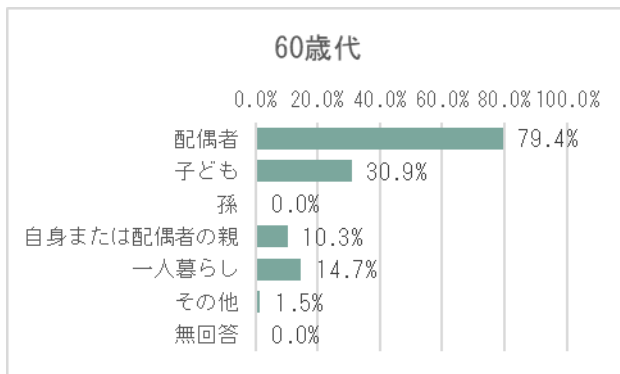
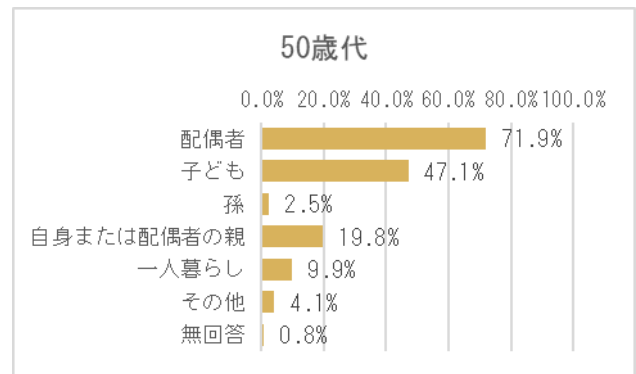
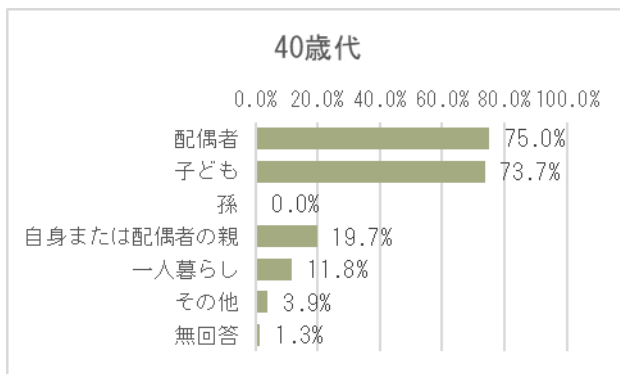
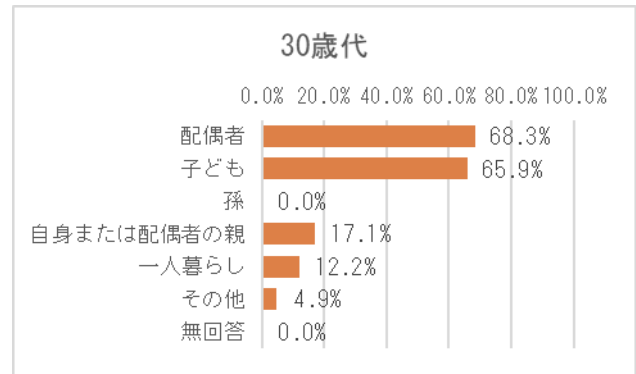
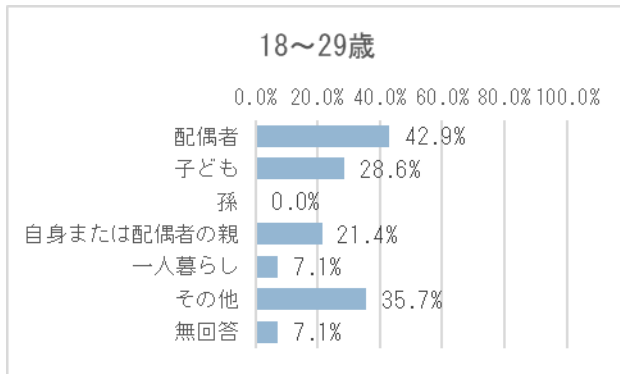
回答者の同居家族【複数回答】

	回答数	割合
配偶者	301	72.5%
子ども	198	47.7%
孫	15	3.6%
自身または配偶者の親	58	14.0%
一人暮らし	52	12.5%
その他	19	4.6%
無回答	6	1.4%

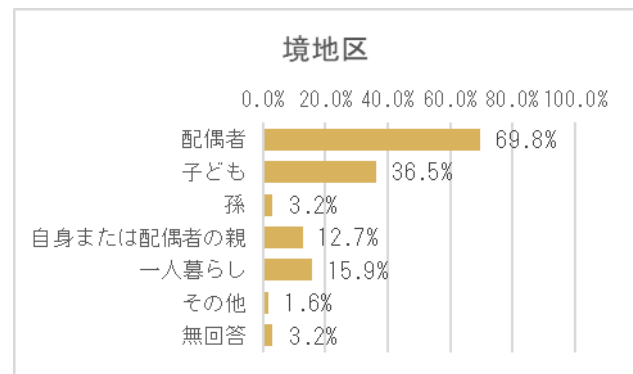
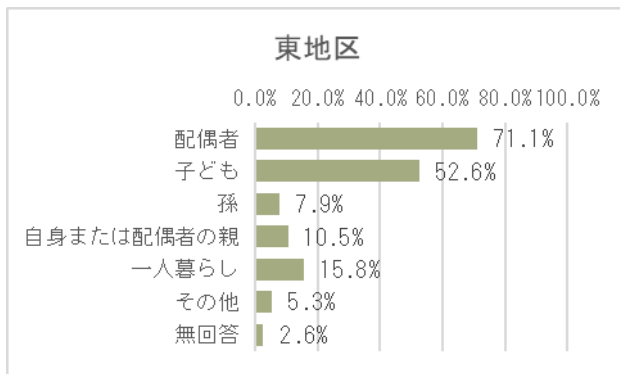
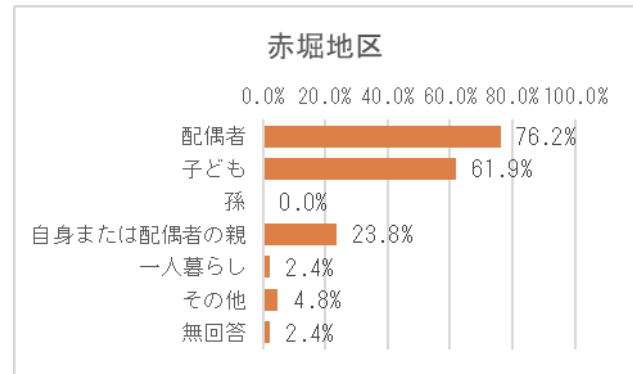
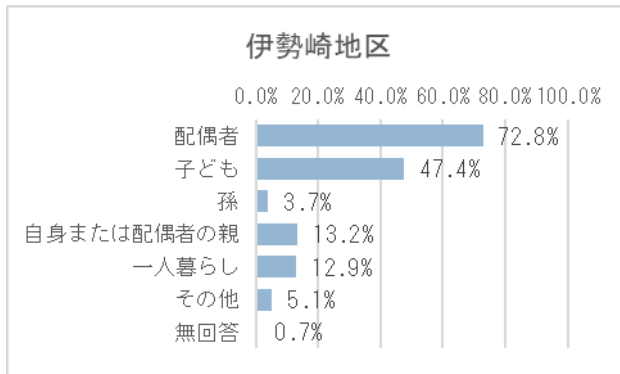
回答者の同居家族（割合）【複数回答】



年代別の回答者の同居家族（割合）



地区別の回答者の同居家族（割合）



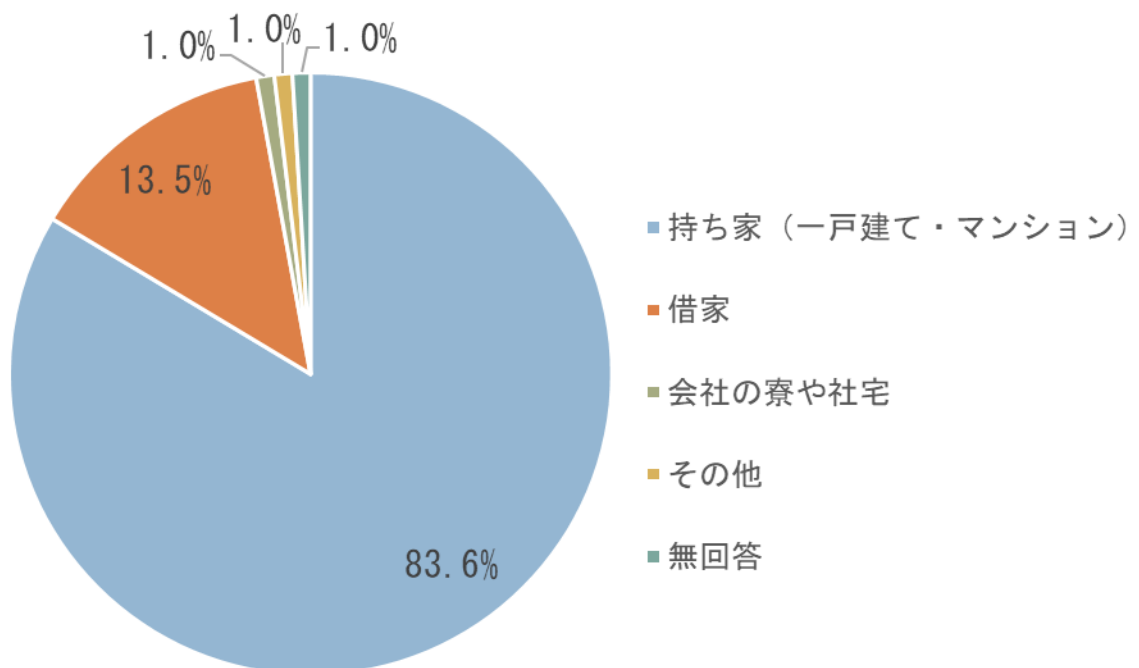
（６）居住形態

居住形態については、「持ち家（一戸建て・マンション）」が 347 人(83.6%)、「借家」が 56 人(13.5%)、「会社の寮や社宅」が 4 人(1.0%)、「その他」が 4 人(1.0%)、「無回答」が 4 人(1.0%)となった。

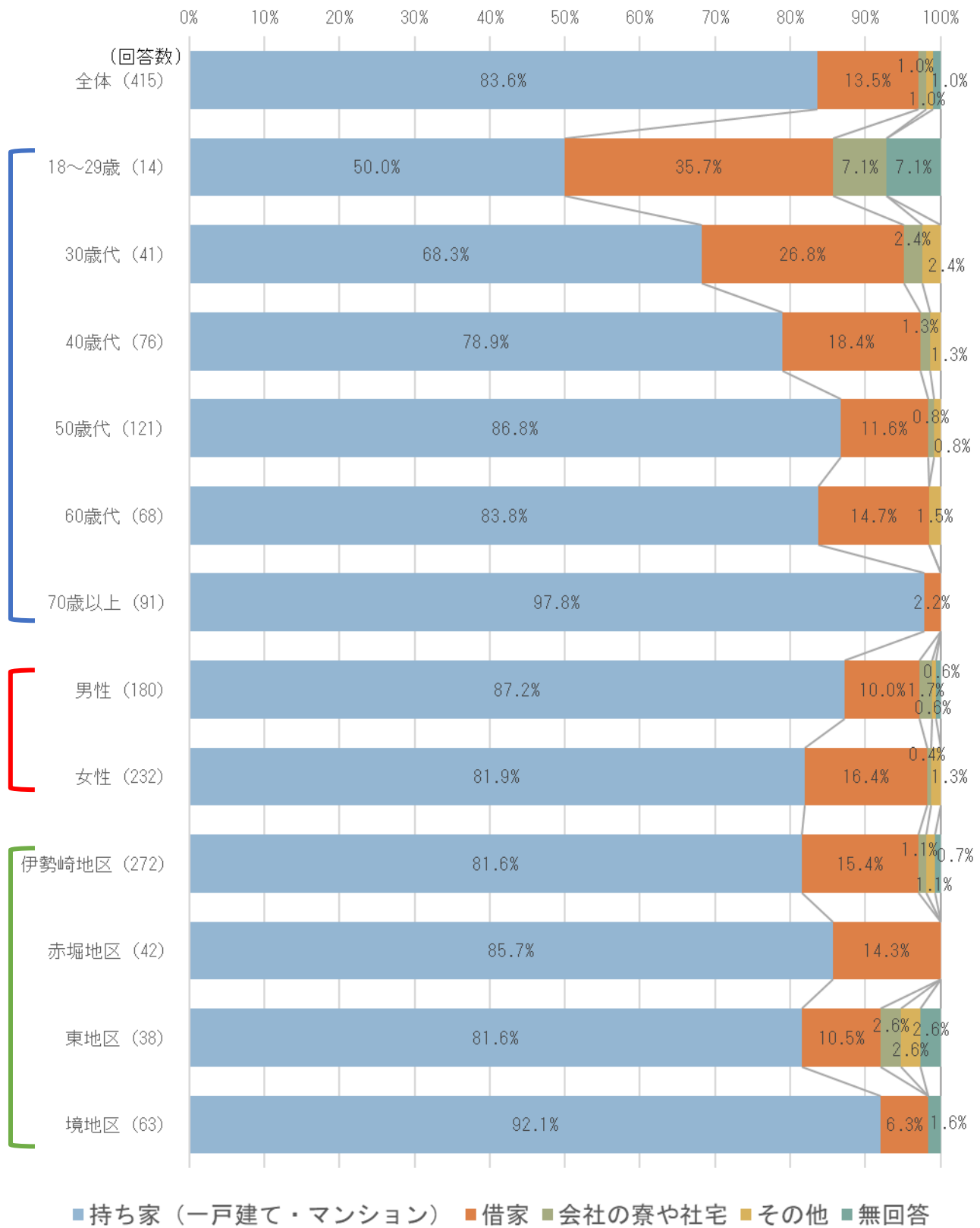
回答者の居住形態

	回答数	割合
持ち家（一戸建て・マンション）	347	83.6%
借家	56	13.5%
会社の寮や社宅	4	1.0%
その他	4	1.0%
無回答	4	1.0%
合計	415	100.0%

回答者の居住形態（割合）



回答者の居住形態（割合）【年代別、男女別、地区別】



2 定住意向

移住・定住の推進に向け、伊勢崎市の長所や今後伸ばしていくべき点を明らかにするため、伊勢崎市を選んだ理由や、もし転居するならどこに住みたいか、また、その場所を選んだ理由について調査を行った。

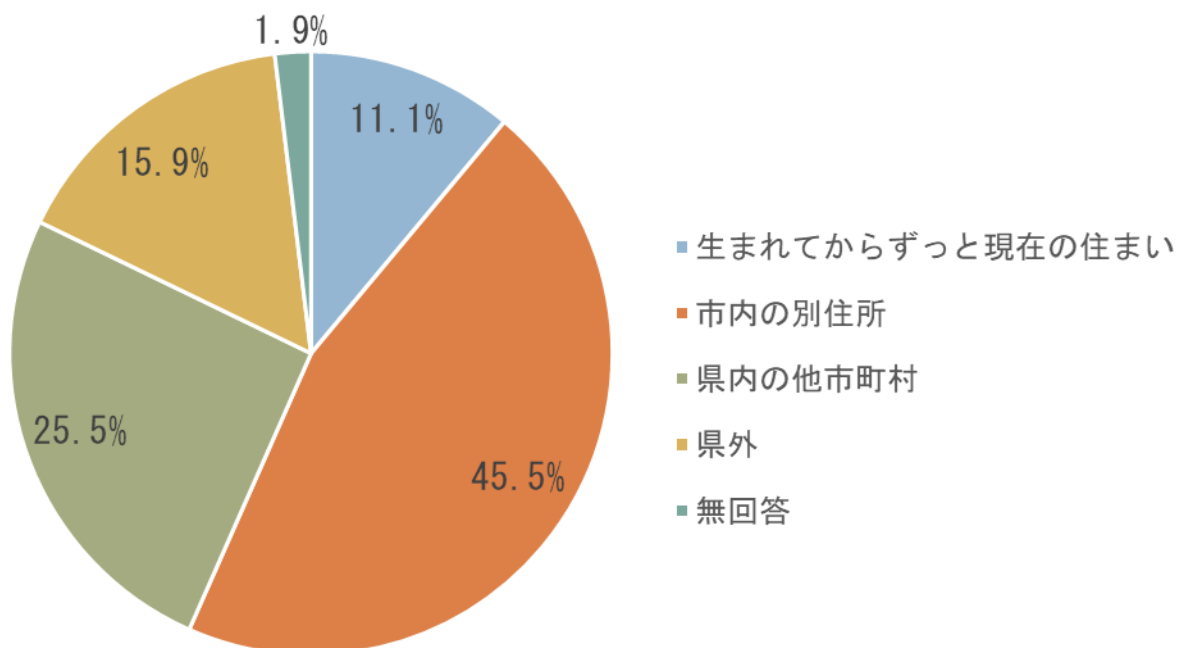
（７）前住地（現在の住まいの直前に住んでいた場所）

現住所の直前に住んでいた場所について聞いたところ、「生まれてからずっと現在の住まい」が46人（11.1%）、「市内の別住所」が189人（45.5%）、「県内の他市町村」が106人（25.5%）、県外が66人（15.9%）、「無回答」が8人（1.9%）となった。

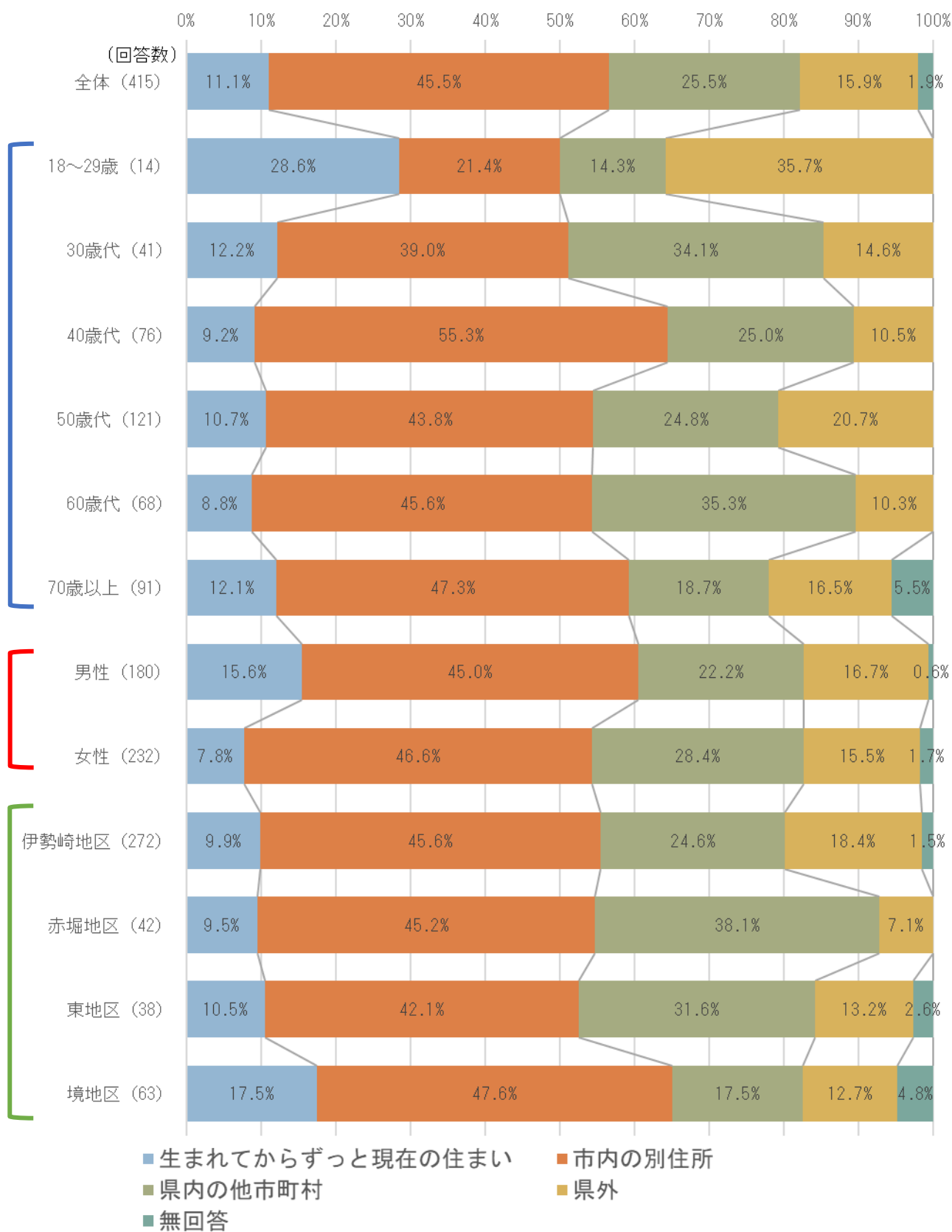
回答者の前住地

	回答数	割合
生まれてからずっと現在の住まい	46	11.1%
市内の別住所	189	45.5%
県内の他市町村	106	25.5%
県外	66	15.9%
無回答	8	1.9%
合計	415	100.0%

回答者の前住地（割合）



回答者の前住地（割合）【年代別、男女別、地区別】



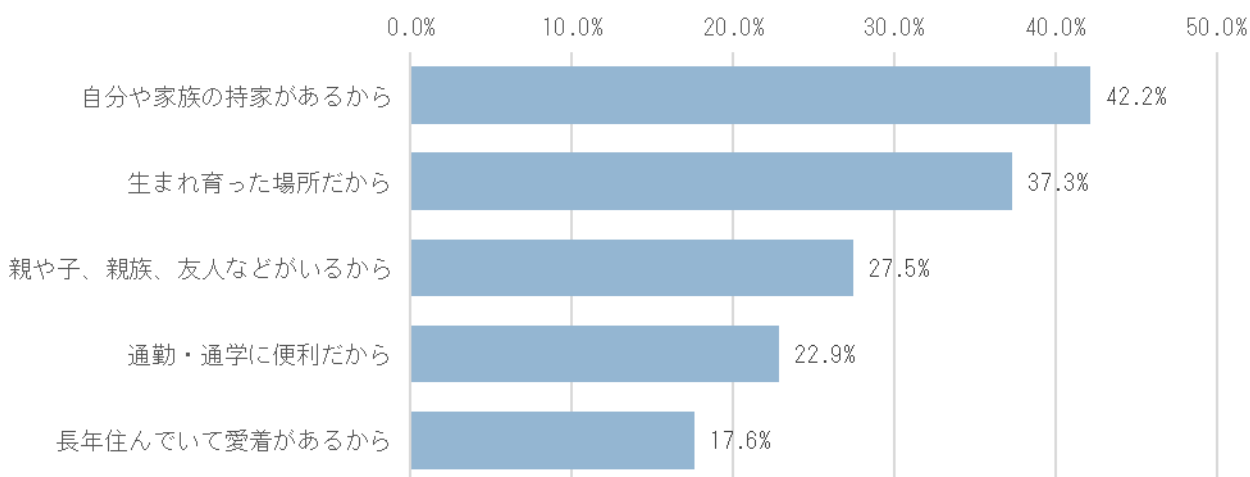
（８）伊勢崎市を住まいとして選んだ理由

伊勢崎市を住まいとして選んだ理由を聞いたところ、「自分や家族の持家があるから」と回答した人が最も多く、175 人 (42.2%) となっている。以下、「生まれ育った場所だから」が 155 人 (37.3%)、「親や子、親族、友人などがいるから」が 114 人 (27.5%) と続いている。

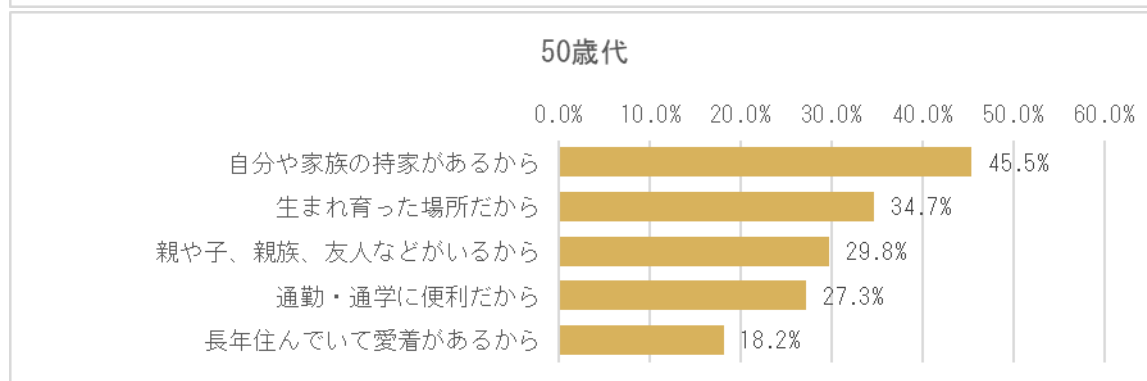
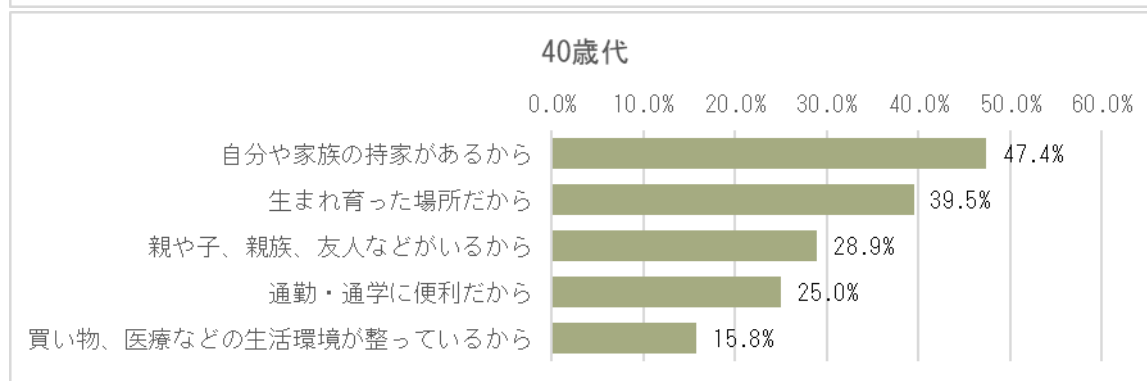
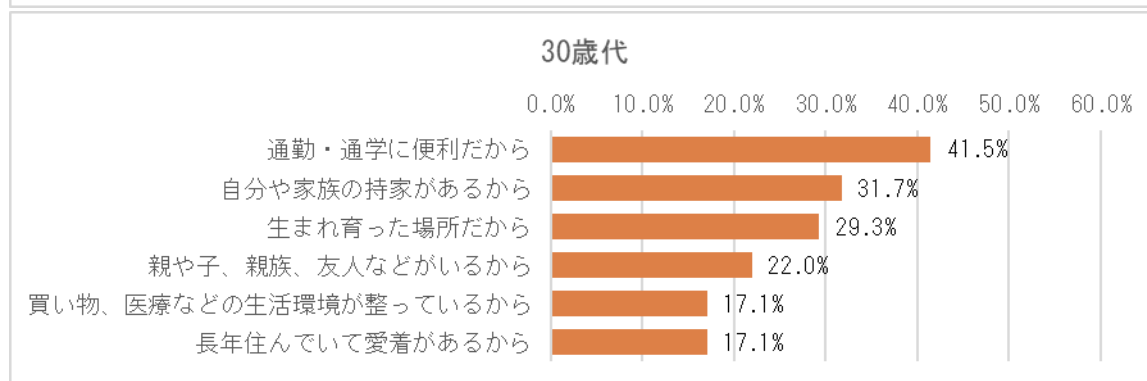
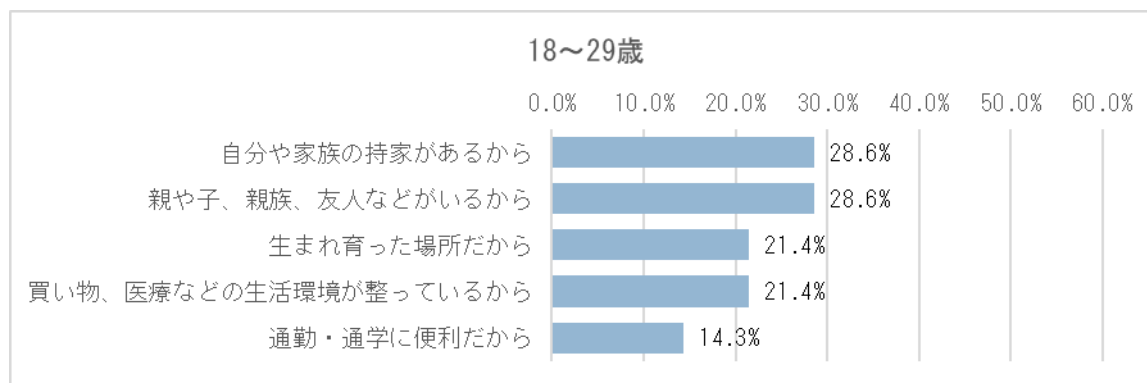
「伊勢崎市を住まいとして選んだ理由」の回答【複数回答】

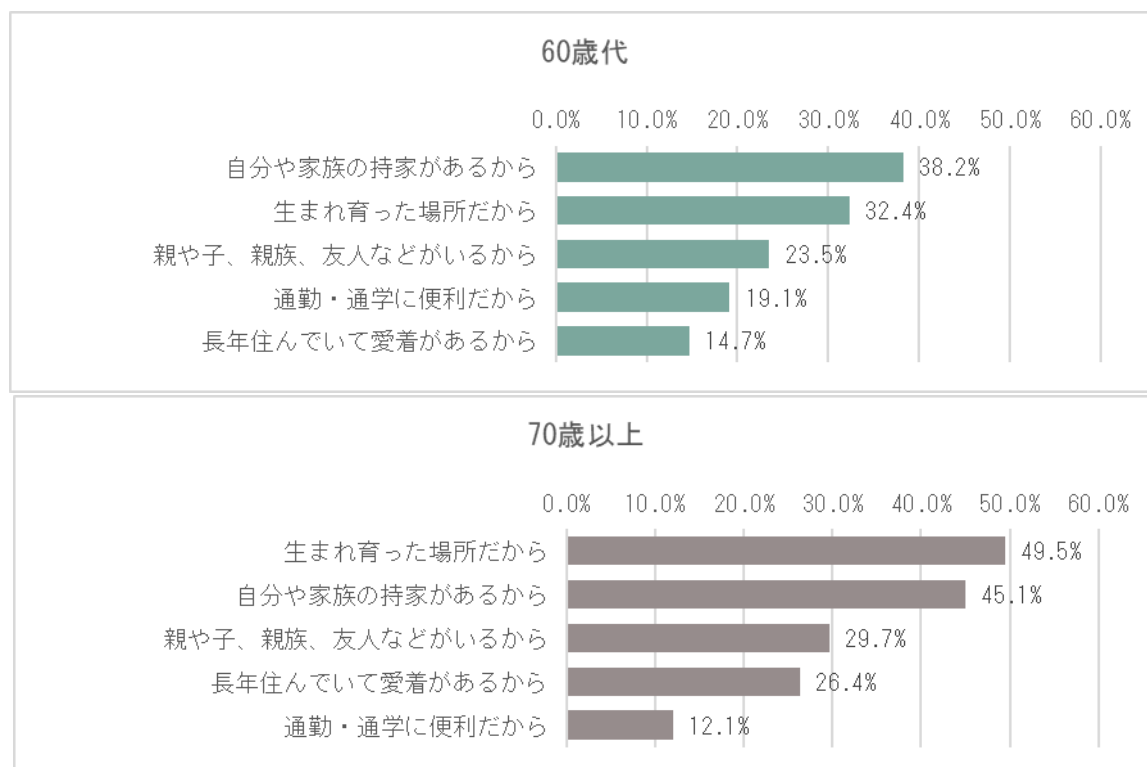
	回答数	割合
自分や家族の持家があるから	175	42.2%
生まれ育った場所だから	155	37.3%
親や子、親族、友人などがいるから	114	27.5%
通勤・通学に便利だから	95	22.9%
長年住んでいて愛着があるから	73	17.6%
買い物、医療などの生活環境が整っているから	54	13.0%
家賃や住宅の価格が手ごろだから	45	10.8%
伊勢崎市が好きだから	36	8.7%
特に理由はない	28	6.7%
自然が身近にあるから	26	6.3%
子育ての環境が整っているから	18	4.3%
余暇や休日を楽しく過ごせる場所があるから	18	4.3%
街のイメージがよいから	14	3.4%
街ににぎわいや活気があるから	8	1.9%
街並みや景観がよいから	8	1.9%
その他	33	8.0%
無回答	4	1.0%

「伊勢崎市を住まいとして選んだ理由」の回答の上位 5 項目（割合）【複数回答】

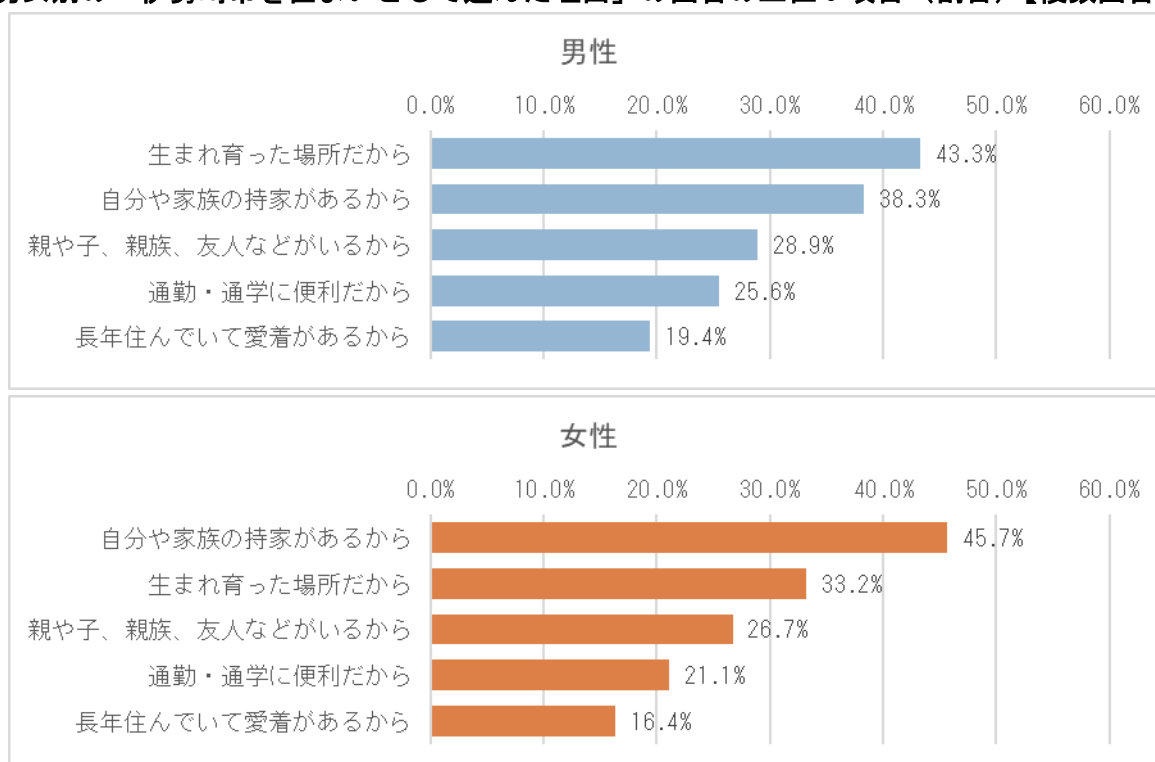


年代別の「伊勢崎市を住まいとして選んだ理由」の回答の上位5項目（割合）【複数回答】

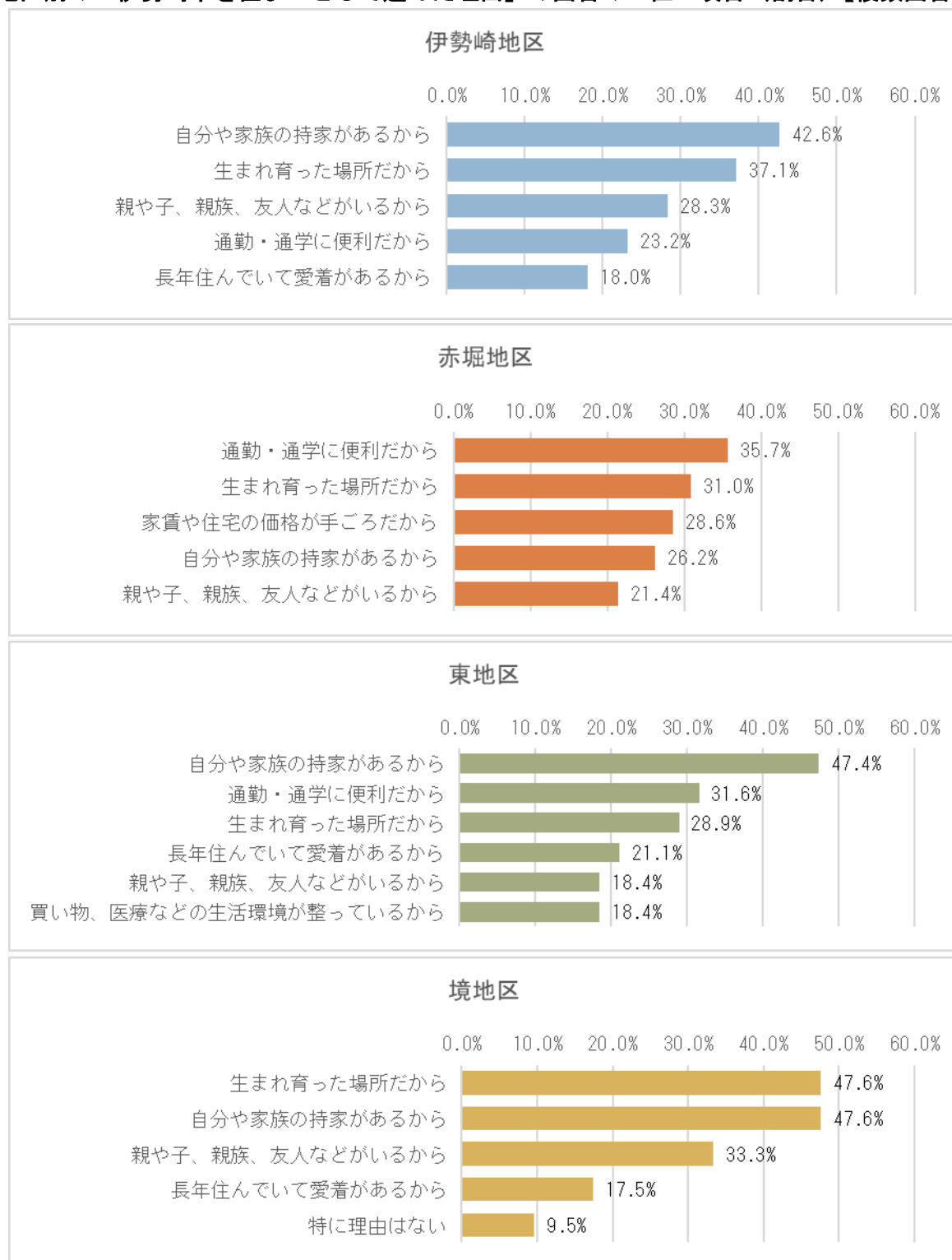




男女別の「伊勢崎市を住まいとして選んだ理由」の回答の上位5項目（割合）【複数回答】



地区別の「伊勢崎市を住まいとして選んだ理由」の回答の上位5項目（割合）【複数回答】



◆その他の回答（主なもの）

- ・配偶者の出身地だったため
- ・転勤により伊勢崎市に戻ってきた
- ・県の方譲宅地に当選したため
- ・前橋市と本庄市の中間で活気があったため

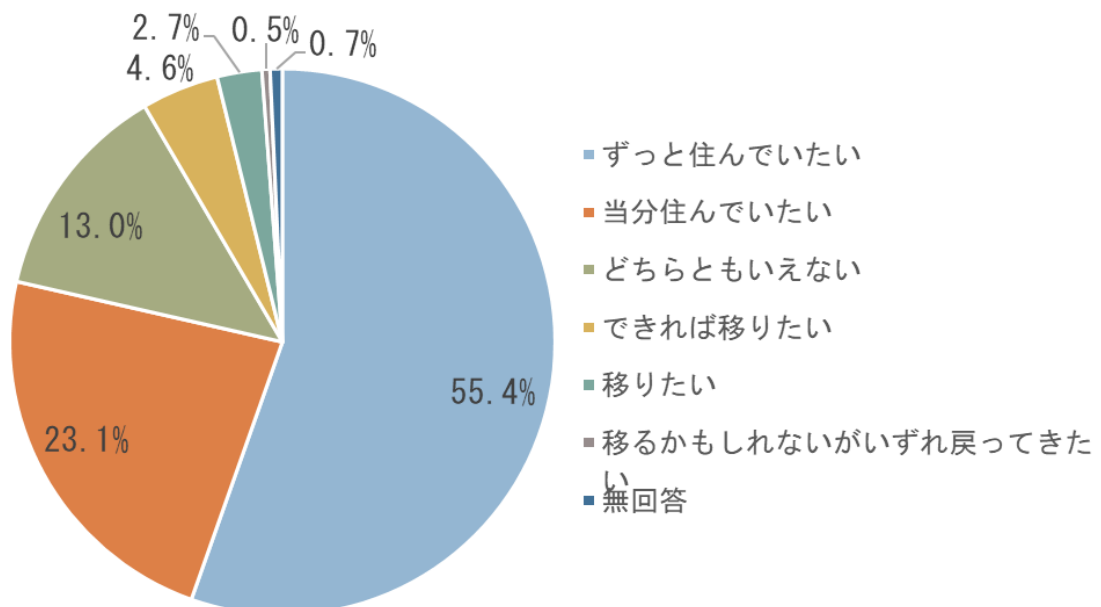
（９）今後の居住地について

これからも今の住まいに住み続けたいか聞いたところ、「当分住んでいたい」を含め「住んでいたい」と回答した人は 326 人(78.5%)、「どちらともいえない」と回答した人は 54 人(13.0%)、「できれば移りたい」を含め「移りたい」と回答した人は 30 人(7.3%)、「移るかもしれないがいずれ戻ってきたい」と回答した人は 2 人(0.5%)「無回答」が 3 人(0.7%)となり、多くの人が「当分住んでいたい」を含め「住んでいたい」と回答した。

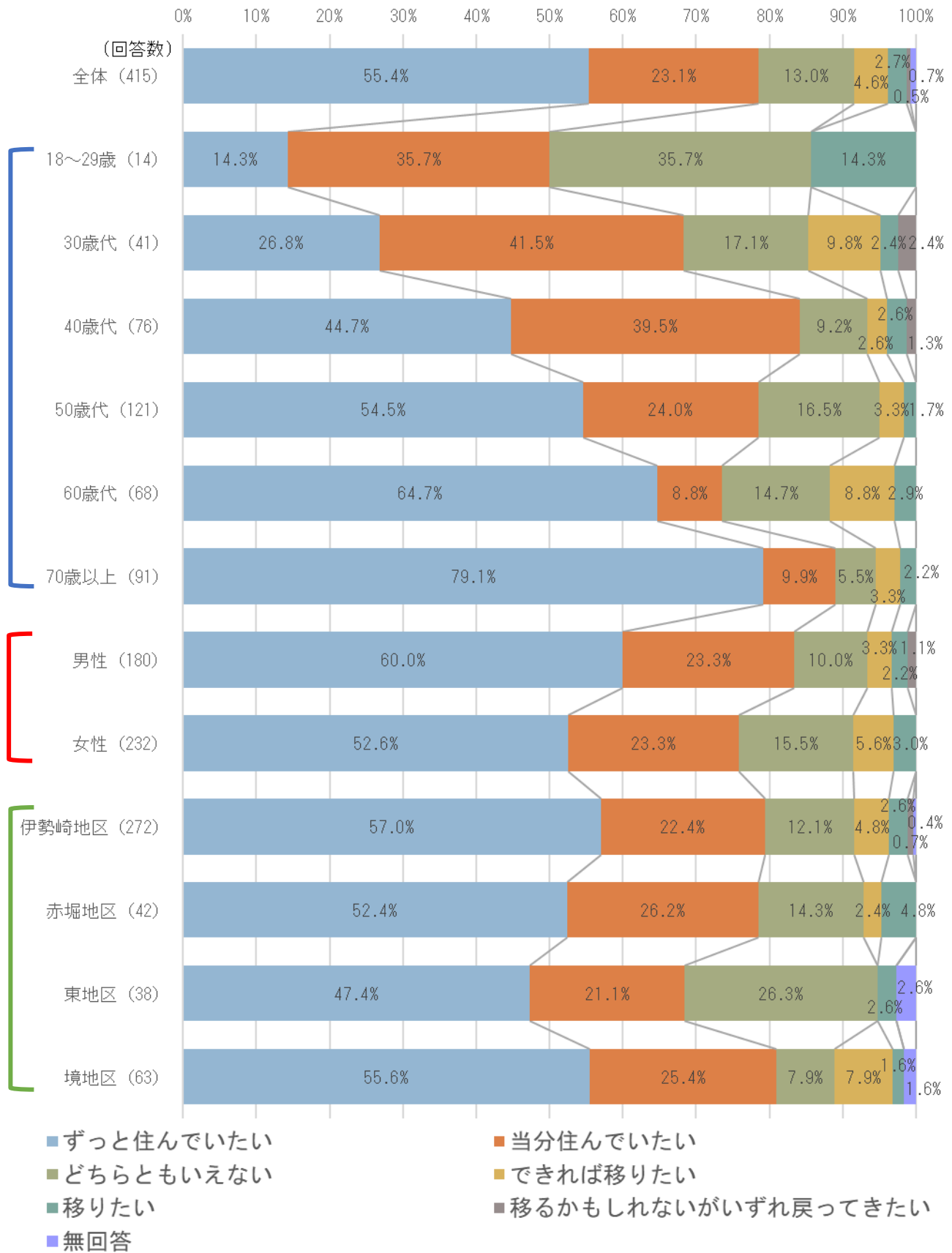
「今後の居住地について」の回答

	回答数	割合
ずっと住んでいたい	230	55.4%
当分住んでいたい	96	23.1%
どちらともいえない	54	13.0%
できれば移りたい	19	4.6%
移りたい	11	2.7%
移るかもしれないがいずれ戻ってきたい	2	0.5%
無回答	3	0.7%
合計	415	100.0%

「今後の居住地について」の回答（割合）



「今後の居住地について」の回答（割合）【年代別、男女別、地区別】



（１０）希望する居住先

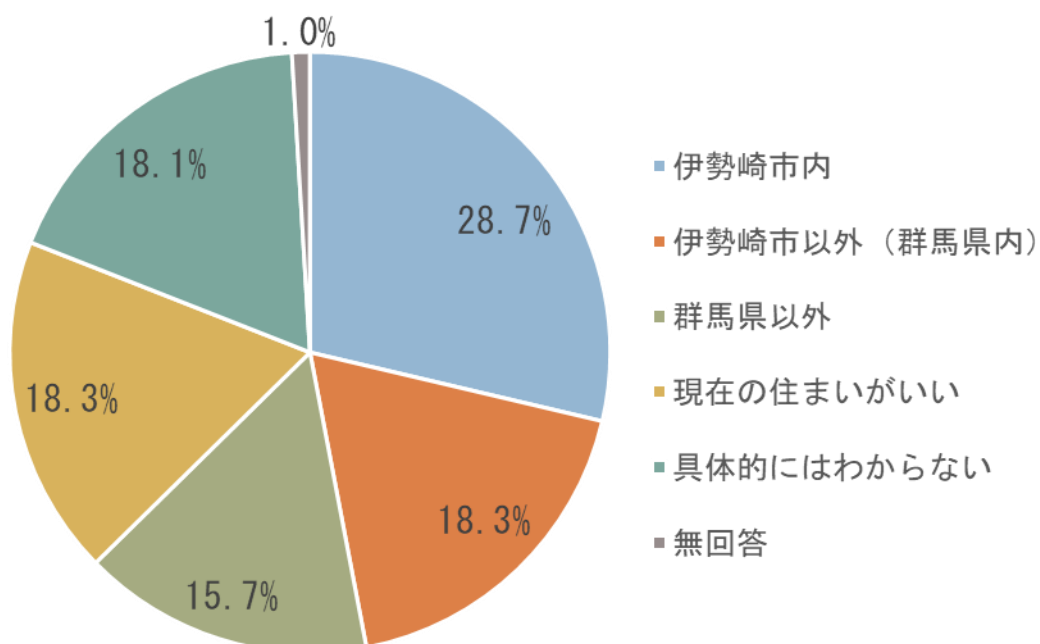
現実の問題は別として、もし転居すると仮定した場合の転居先を聞いたところ、「伊勢崎市内」が119人（28.7%）で最も多くなった。以下、「伊勢崎市以外（群馬県内）」及び「現在の住まいがいい」が76人（18.3%）、「具体的にはわからない」が75人（18.1%）、群馬県以外が65人（15.7%）、「無回答」が4人（1.0%）と続いている。

「伊勢崎市内」と「現在の住まいがいい」を合わせた『伊勢崎市内（計）』は195人（47.0%）となり、「伊勢崎市以外（群馬県内）」と群馬県以外を合わせた『伊勢崎市以外（計）』141人（34.0%）を上回っている。

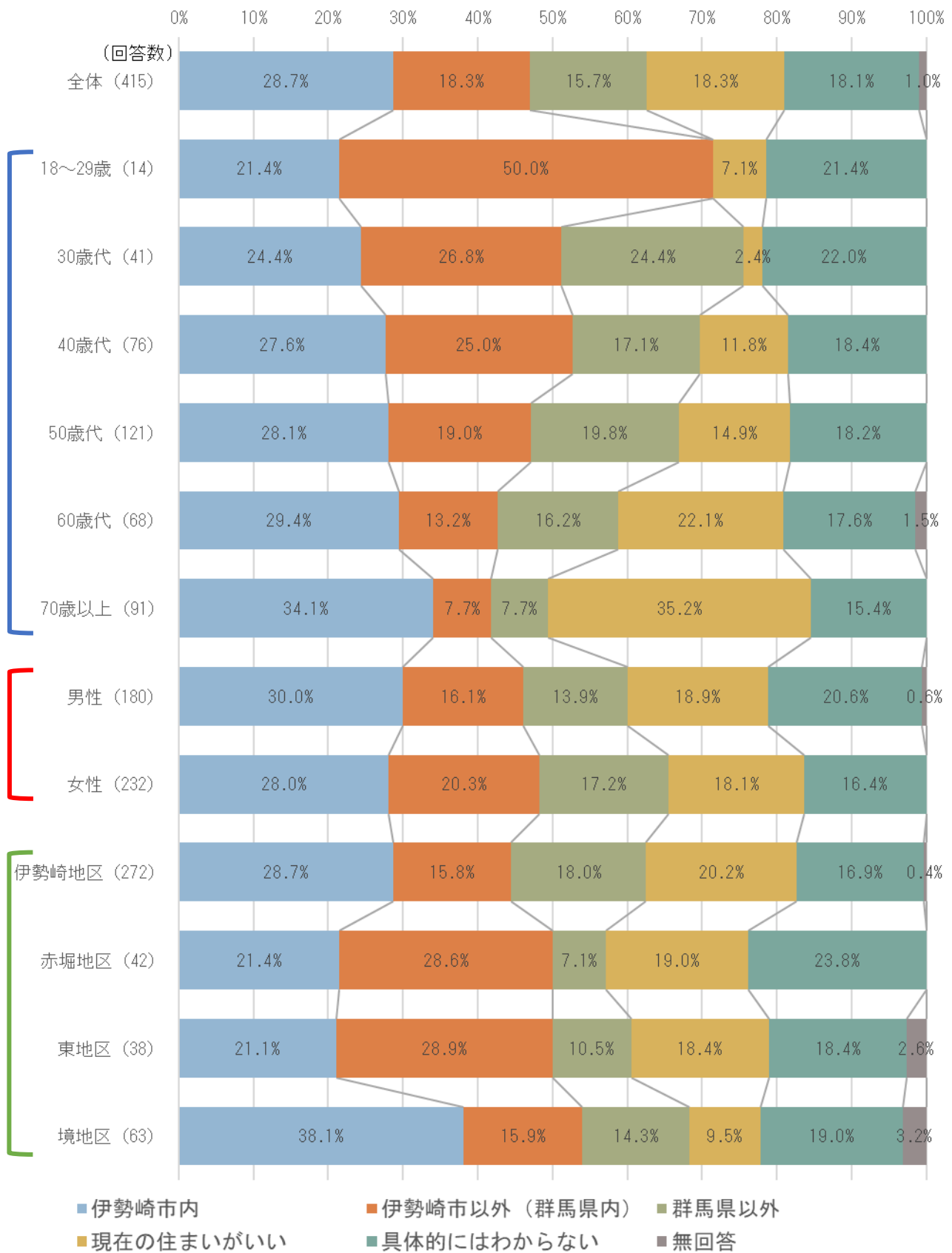
「希望する居住先」についての回答

	回答数	割合
伊勢崎市内	119	28.7%
伊勢崎市以外（群馬県内）	76	18.3%
群馬県以外	65	15.7%
現在の住まいがいい	76	18.3%
具体的にはわからない	75	18.1%
無回答	4	1.0%
合計	415	100.0%

「希望する居住先」についての回答（割合）



「希望する居住先」についての回答（割合）【年代別、男女別、地区別】



（１１）「（１０）希望する居住先」を選んだ理由

「（１０）希望する居住先」として、「伊勢崎市内」と「現在の住まいがいい」を合わせた『伊勢崎市内（計）』と、「伊勢崎市以外（群馬県内）」と「群馬県以外」を合わせた『伊勢崎市以外（計）』とし、それぞれを選んだ理由について集計を行った。

ここでは、世代別の集計として、「18～29 歳」及び「30 歳代」を『若者世代』、「40 歳代」及び「50 歳代」を『ミドル世代』、「60 歳代」及び「70 歳以上」を『シニア世代』として集計を行った。

『伊勢崎市内（計）』を選んだ理由

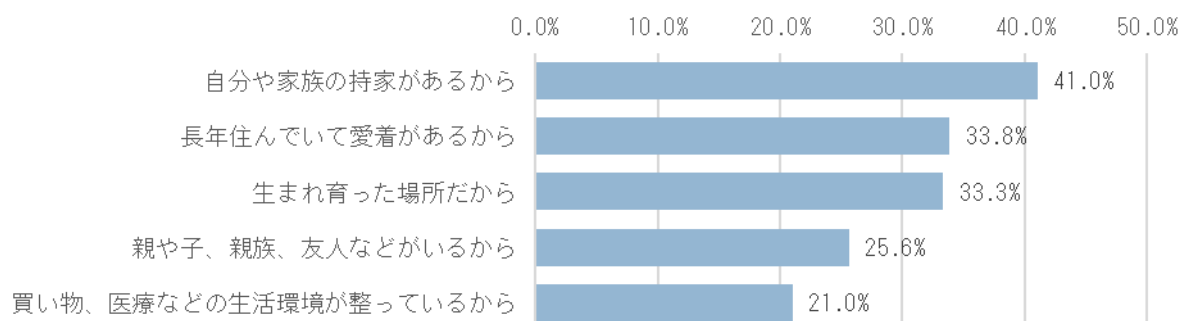
居住先として『伊勢崎市内（計）』を希望した人は 195 人（47.0%）であり、そのうち、希望する理由としては、「自分や家族の持家があるから」と回答した人が最も多く、80 人（41.0%）となっている。以下、「長年住んでいて愛着があるから」が 66 人（33.8%）、「生まれ育った場所だから」が 65 人（33.3%）、「親や子、親族、友人などがいるから」が 50 人（25.6%）、「買い物、医療などの生活環境が整っているから」が 41 人（21.0%）と続いている。

『伊勢崎市内（計）』を選んだ理由【複数回答】

（サンプル数=195）

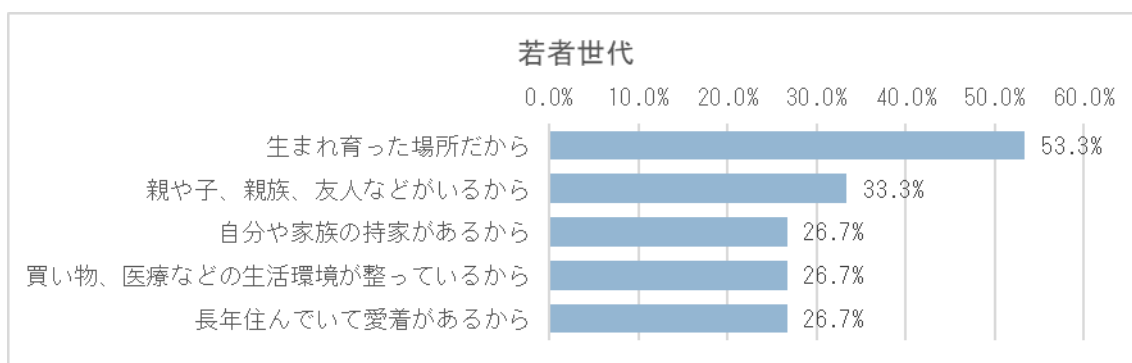
	回答数	割合
自分や家族の持家があるから	80	41.0%
長年住んでいて愛着があるから	66	33.8%
生まれ育った場所だから	65	33.3%
親や子、親族、友人などがいるから	50	25.6%
買い物、医療などの生活環境が整っているから	41	21.0%
通勤・通学に便利だから	27	13.8%
伊勢崎市が好きだから	25	12.8%
家賃や住宅の価格が手ごろだから	19	9.7%
自然が身近にあるから	14	7.2%
余暇や休日を楽しく過ごせる場所があるから	8	4.1%
街並みや景観がよいから	7	3.6%
街のイメージがよいから	7	3.6%
特に理由はない	5	2.6%
その他	5	2.6%
子育ての環境が整っているから	4	2.1%
街ににぎわいや活気があるから	4	2.1%
無回答	0	0.0%

『伊勢崎市内（計）』を選んだ理由の上位5項目（割合）【複数回答】

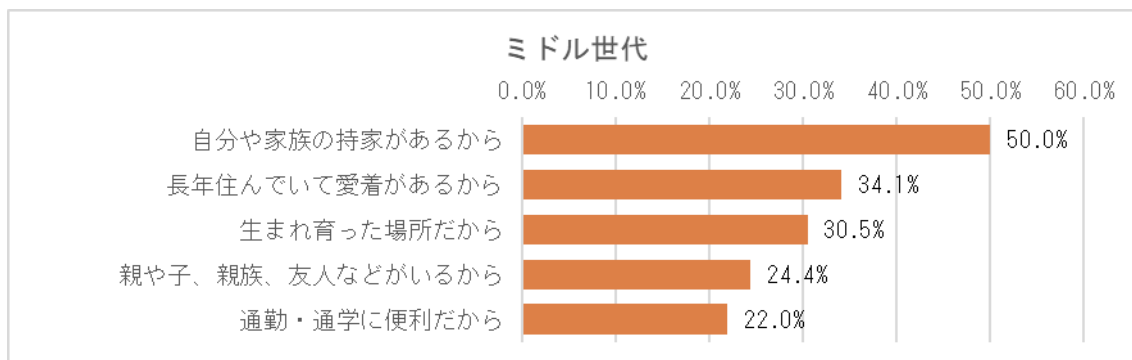


世代別の『伊勢崎市内（計）』を選んだ理由

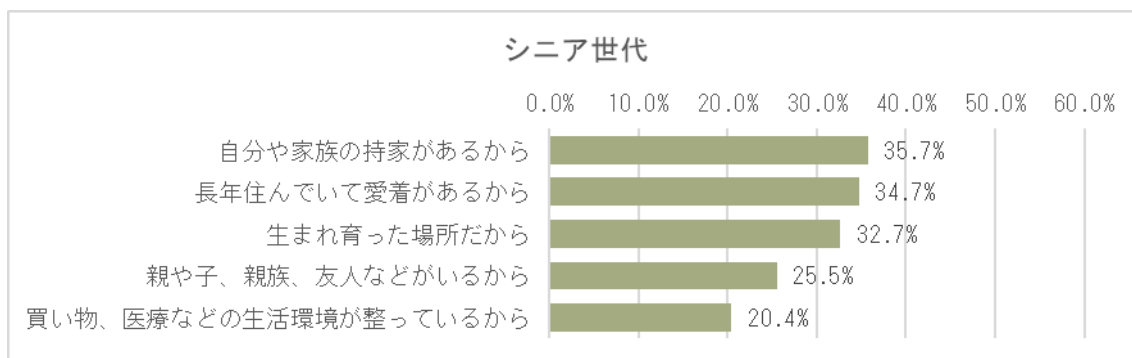
（サンプル数=15）



（サンプル数=82）

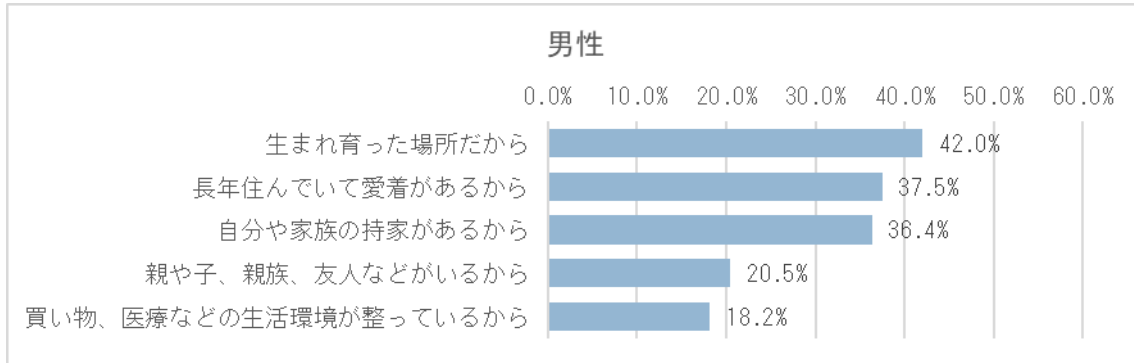


（サンプル数=98）

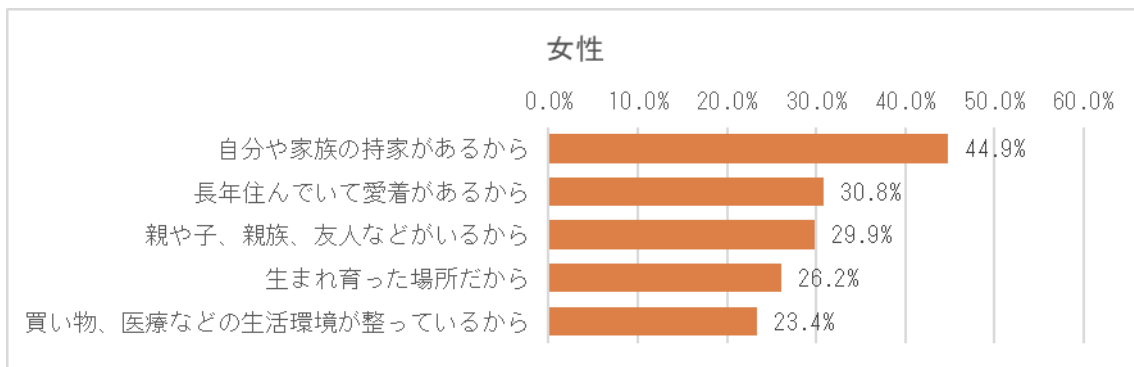


男女別の『伊勢崎市内（計）』を選んだ理由

(サンプル数=88)

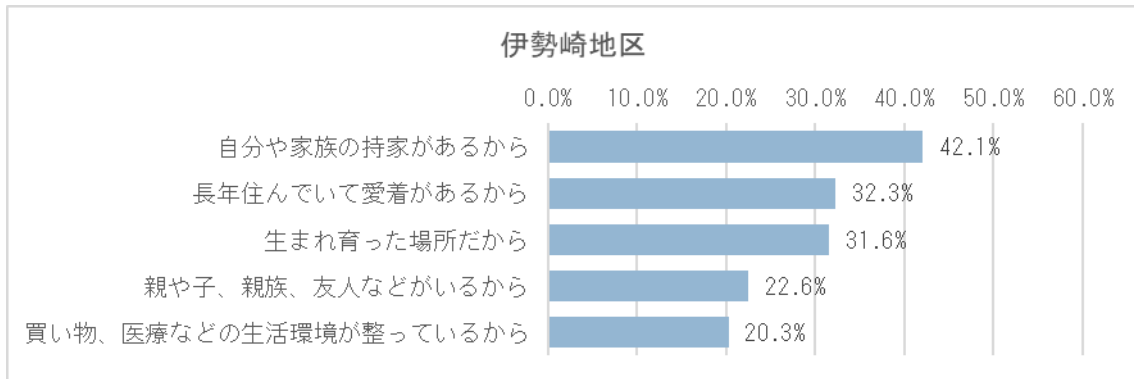


(サンプル数=107)

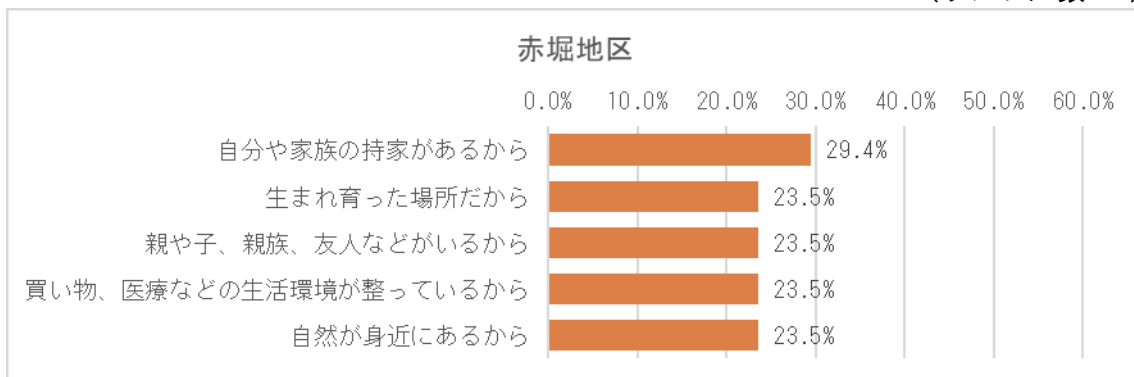


地区別の『伊勢崎市内（計）』を選んだ理由

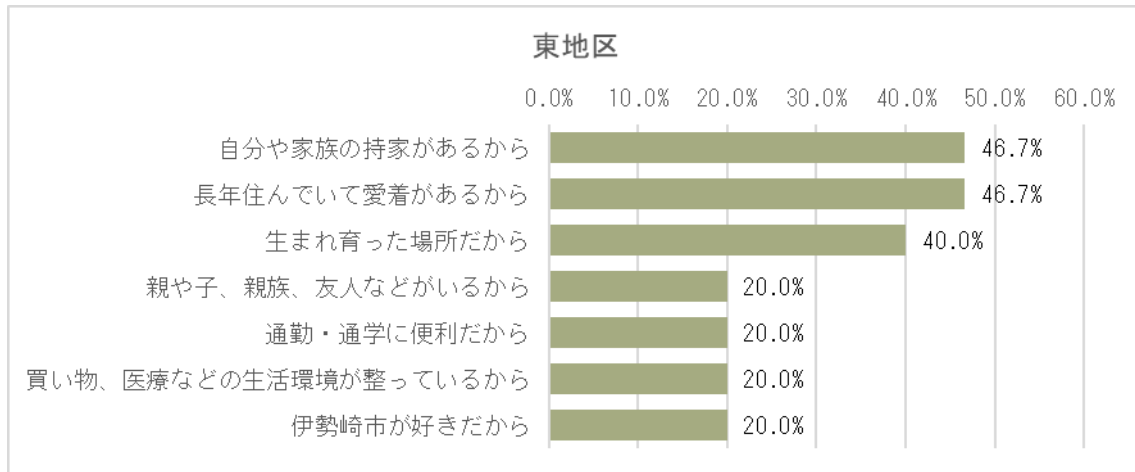
(サンプル数=133)



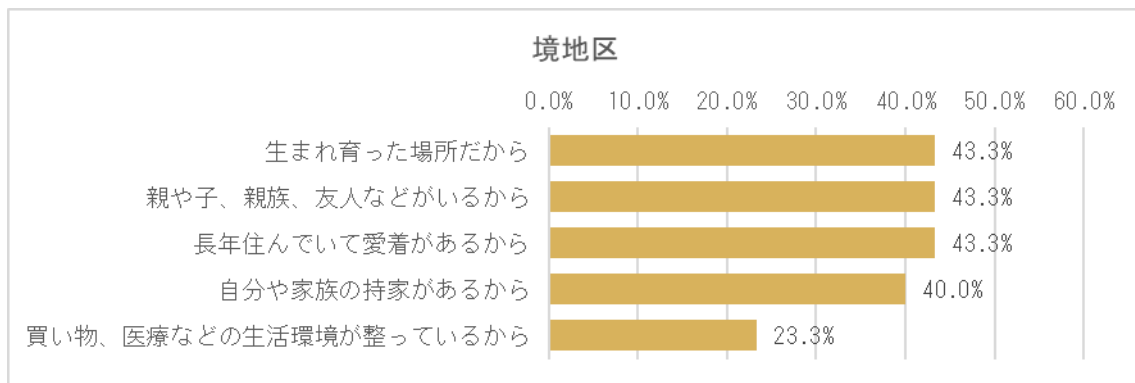
(サンプル数=17)



(サンプル数=15)



(サンプル数=30)



◆「その他」の回答（主なもの）

- ・区画整理により家の周りがきれいになったから

『伊勢崎市以外（計）』を選んだ理由

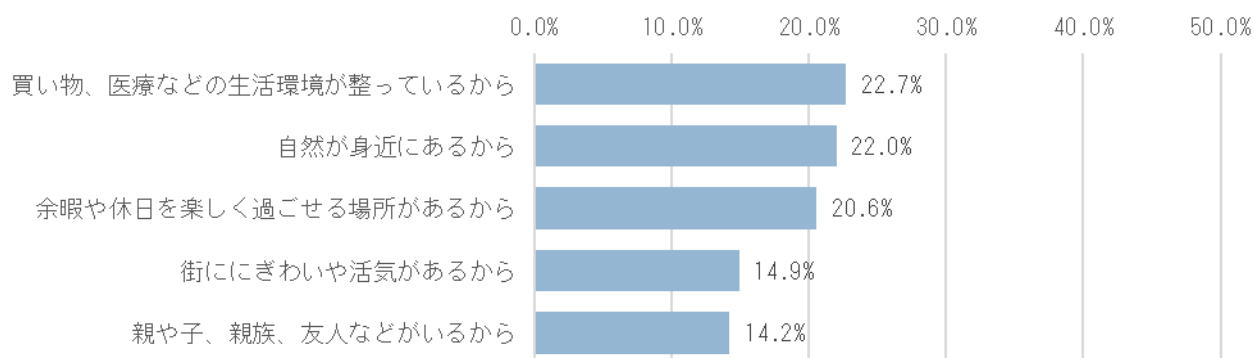
居住先として『伊勢崎市以外（計）』を希望した人は141人（34.0%）であり、そのうち、希望する理由としては、「買い物、医療などの生活環境が整っているから」と回答した人が最も多く32人（22.7%）となっている。以下、「自然が身近にあるから」が31人（22.0%）、「余暇や休日を楽しく過ごせる場所があるから」が29人（20.6%）、「街ににぎわいや活気があるから」が21人（14.9%）、「親や子、親族、友人などがいるから」が20人（14.2%）と続いている。

『伊勢崎市以外（計）』を選んだ理由【複数回答】

（サンプル数=141）

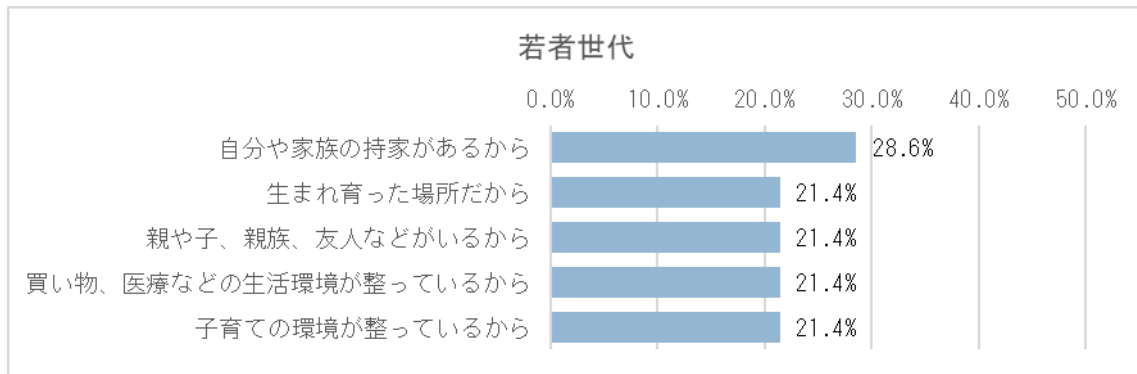
	回答数	割合
買い物、医療などの生活環境が整っているから	32	22.7%
自然が身近にあるから	31	22.0%
余暇や休日を楽しく過ごせる場所があるから	29	20.6%
街ににぎわいや活気があるから	21	14.9%
親や子、親族、友人などがいるから	20	14.2%
生まれ育った場所だから	19	13.5%
その他	19	13.5%
街並みや景観がよいから	16	11.3%
自分や家族の持家があるから	15	10.6%
通勤・通学に便利だから	15	10.6%
特に理由はない	14	9.9%
子育ての環境が整っているから	12	8.5%
街のイメージがよいから	11	7.8%
長年住んでいて愛着があるから	7	5.0%
家賃や住宅の価格が手ごろだから	5	3.5%
伊勢崎市が好きだから	0	0.0%
無回答	0	0.0%

『伊勢崎市以外（計）』を選んだ理由の上位5項目（割合）【複数回答】

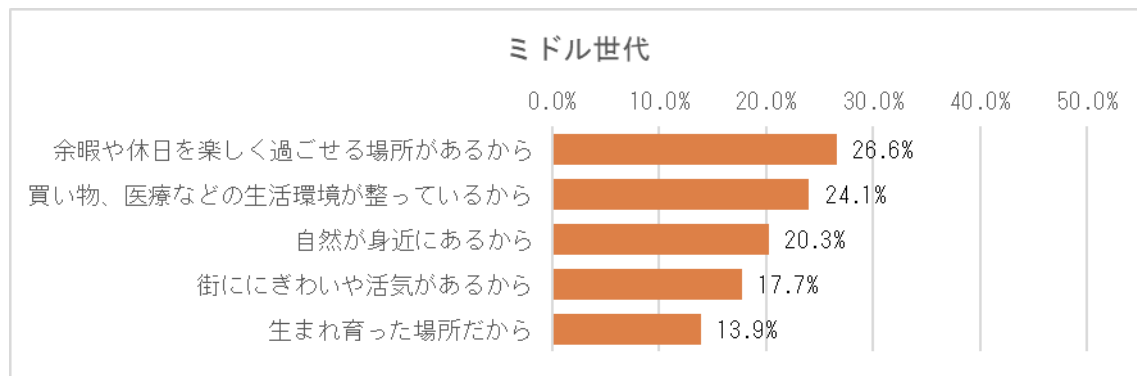


世代別の『伊勢崎市以外（計）』を選んだ理由

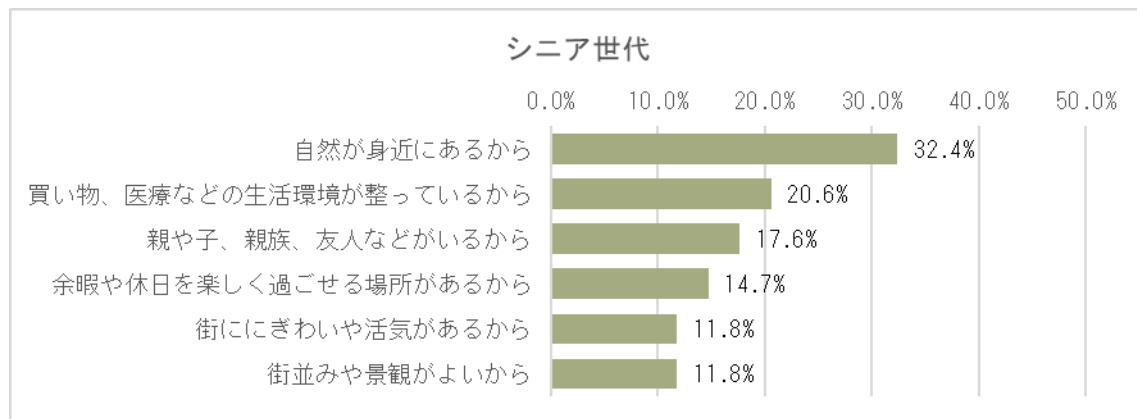
(サンプル数=28)



(サンプル数=79)

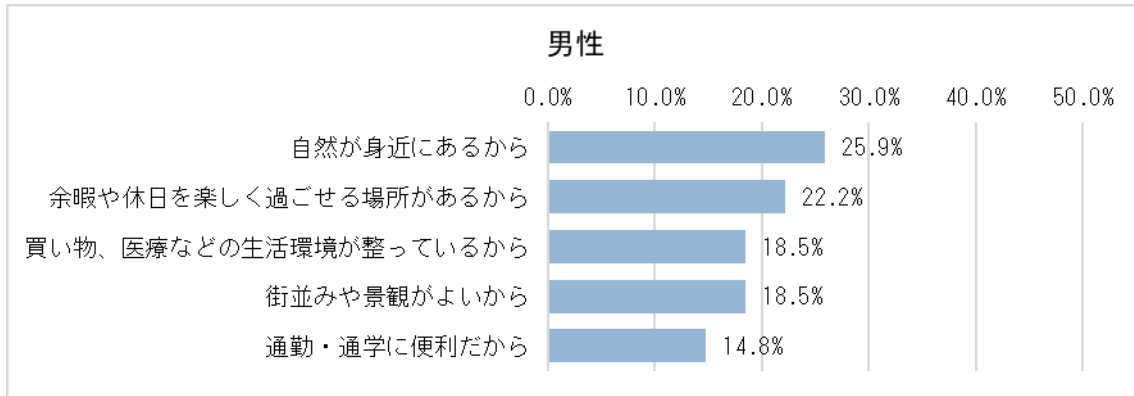


(サンプル数=34)

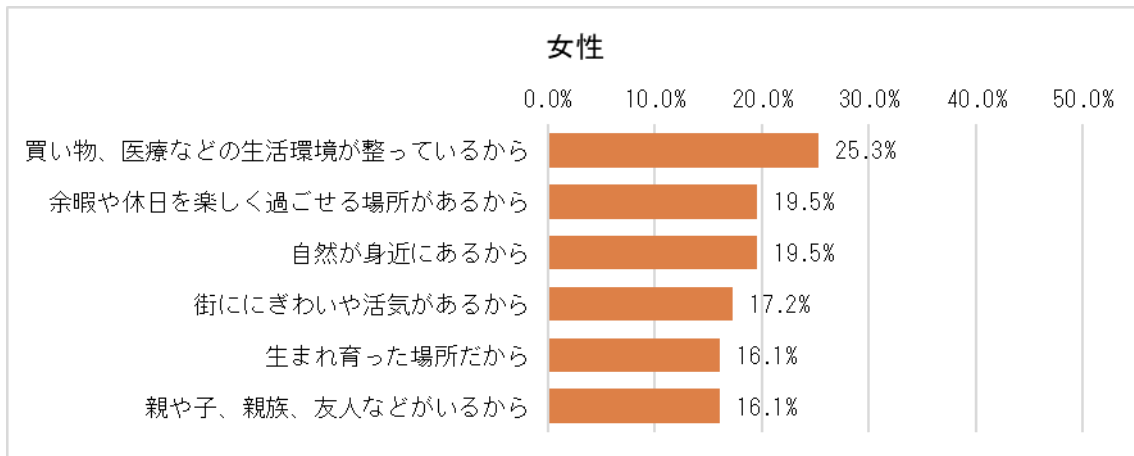


男女別の『伊勢崎市以外（計）』を選んだ理由

(サンプル数=54)

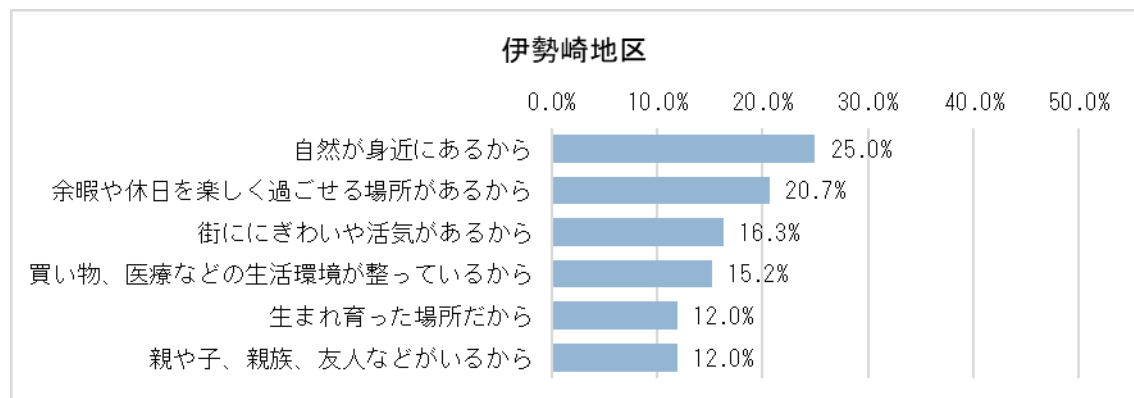


(サンプル数=87)

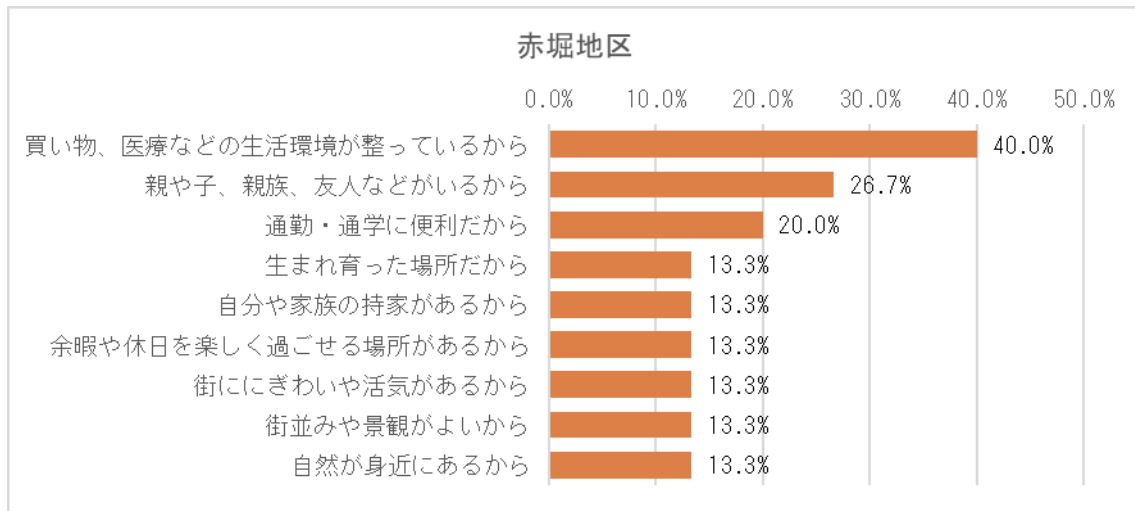


地区別の『伊勢崎市以外（計）』を選んだ理由

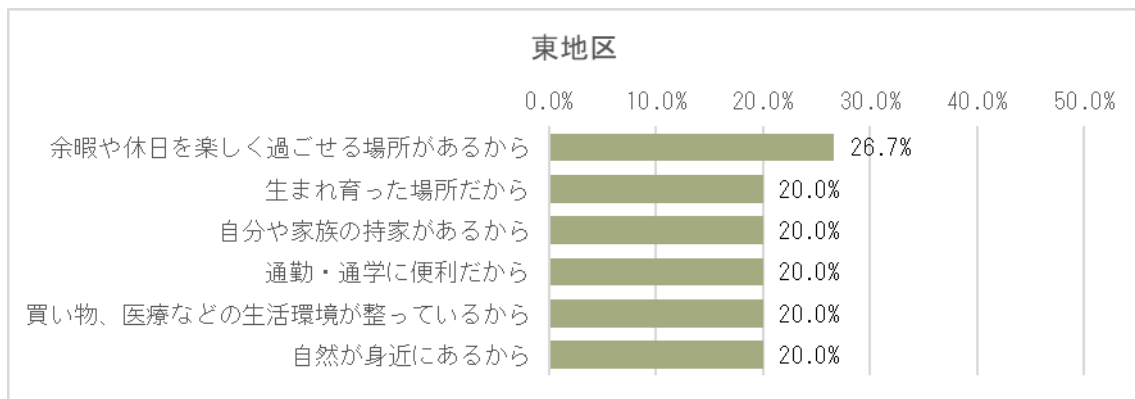
(サンプル数=92)



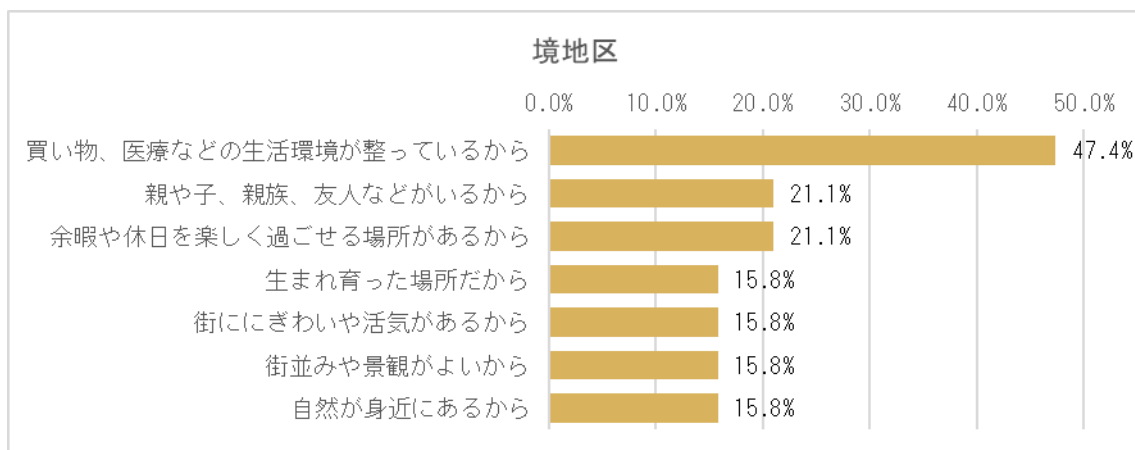
(サンプル数=15)



(サンプル数=15)



(サンプル数=19)



◆「その他」の回答（主なもの）

- ・生活環境が快適だから（伊勢崎市より暑くない場所）
- ・子育て支援が充実しているから
- ・住んだことのない地域に住んでみたいから
- ・治安のいいところに住みたいから

3 地区の住みよさ

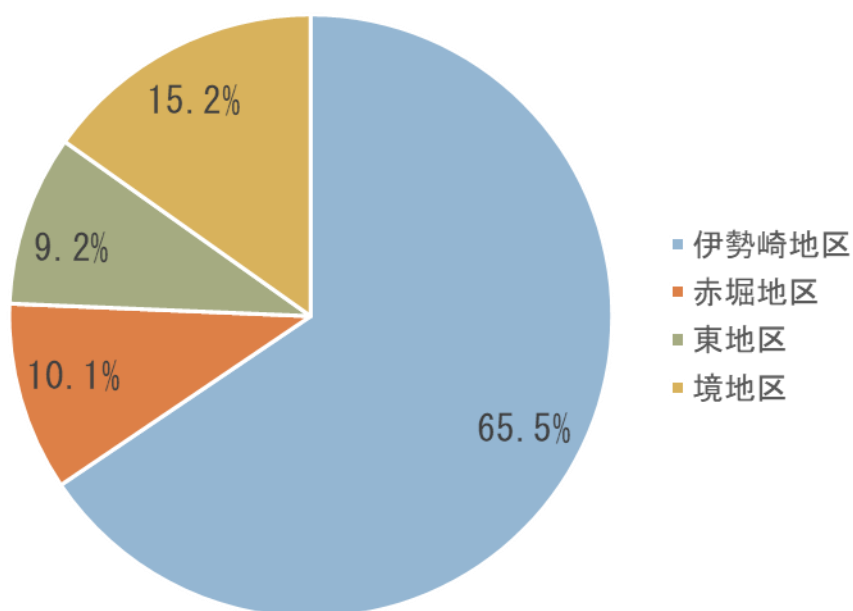
(12) 居住地域

居住地域については、「伊勢崎地区」が272人(65.5%)、「赤堀地区」が42人(10.1%)、「東地区」が38人(9.2%)、「境地区」が63人(15.2%)、「無回答」が0人(0.0%)となった。

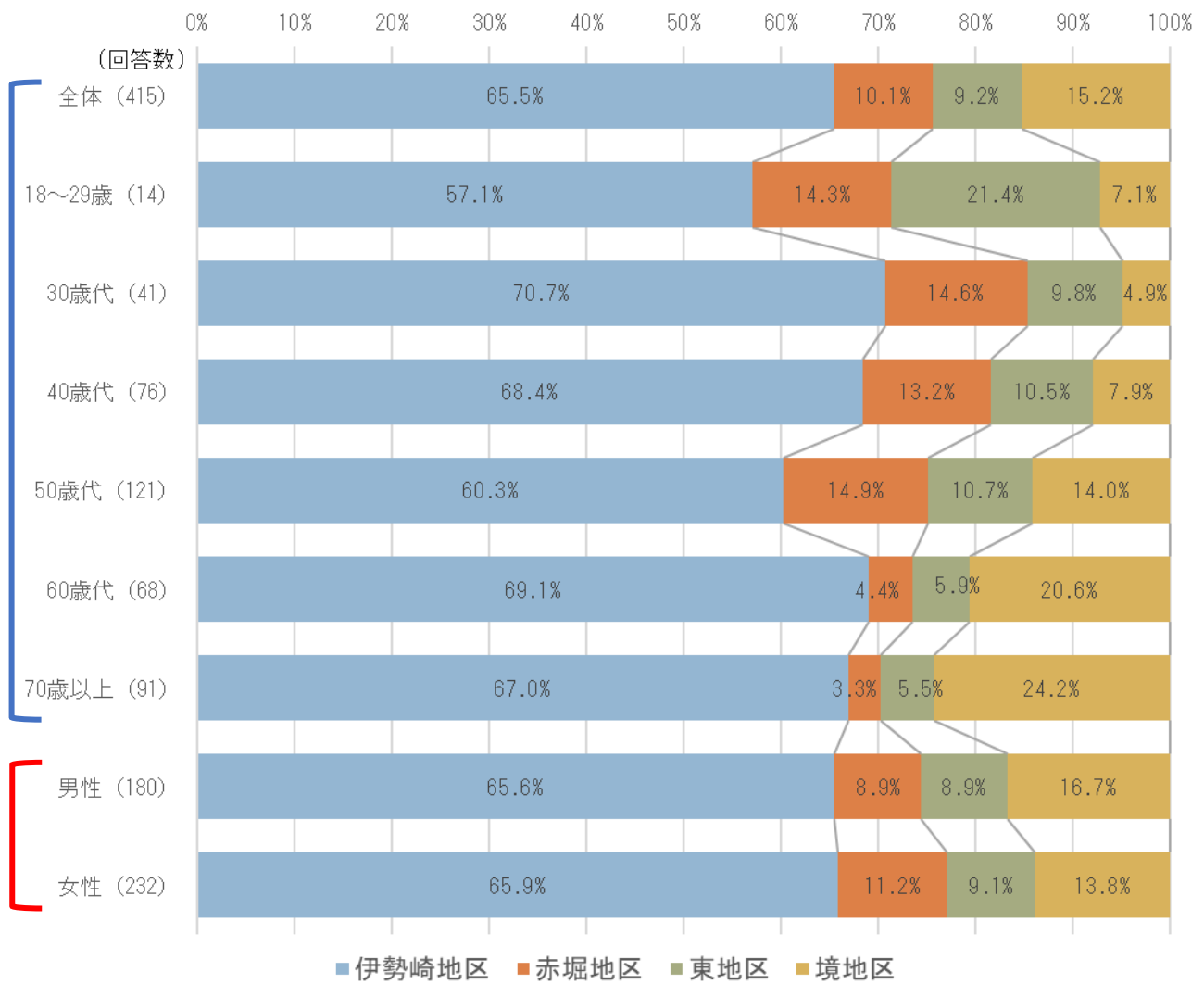
回答者の居住地域

	回答数	割合
伊勢崎地区	272	65.5%
赤堀地区	42	10.1%
東地区	38	9.2%
境地区	63	15.2%
無回答	0	0.0%
合計	415	100.0%

回答者の居住地域（割合）



回答者の居住地域（割合）【年代別、男女別】



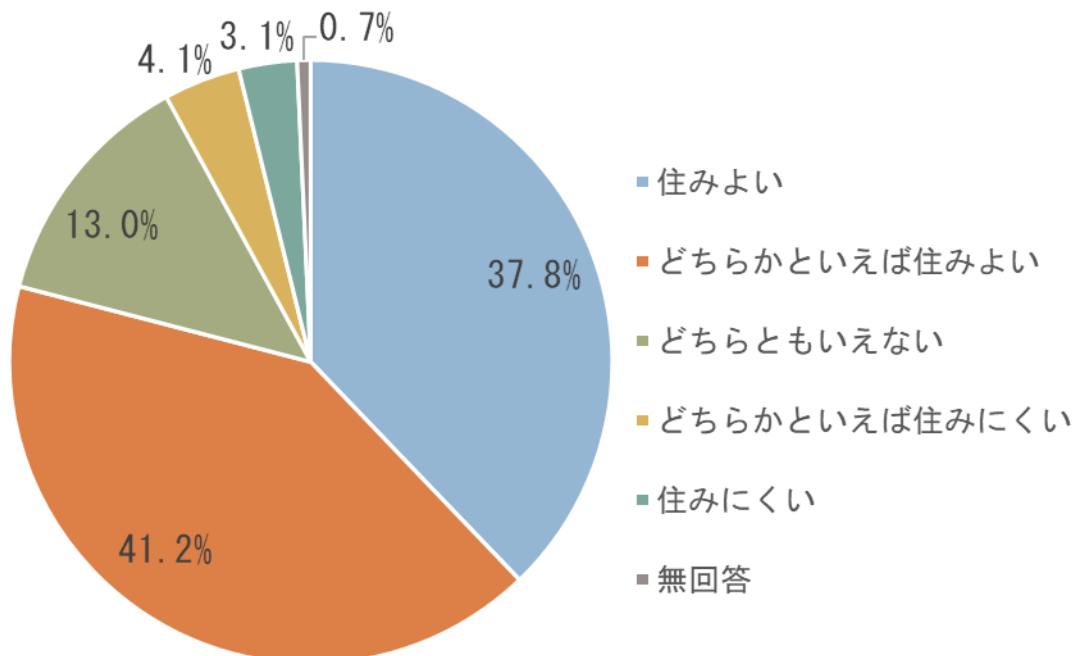
（１３）住みよさ

住んでいる地区の住みよさを聞いたところ、「どちらかといえば住みよい」を含め「住みよい」と回答した人は328人(79.0%)、「どちらともいえない」と回答した人は54人(13.0%)、「どちらかといえば住みにくい」を含め「住みにくい」と回答した人は30人(7.2%)、「無回答」が3人(0.7%)となり、多くの人が「どちらかといえば住みよい」を含め「住みよい」と回答した。

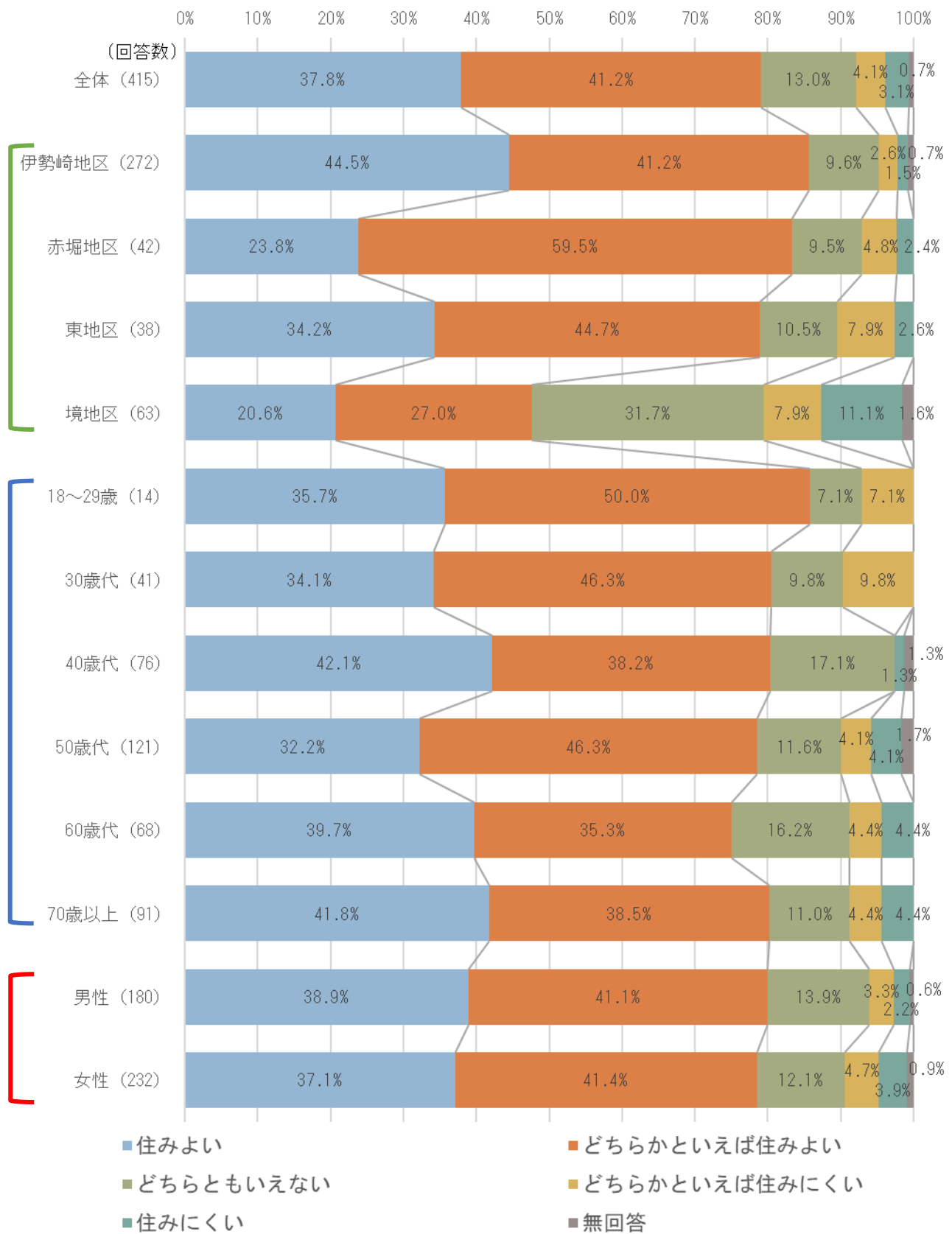
「住みよさ」についての回答

	回答数	割合
住みよい	157	37.8%
どちらかといえば住みよい	171	41.2%
どちらともいえない	54	13.0%
どちらかといえば住みにくい	17	4.1%
住みにくい	13	3.1%
無回答	3	0.7%
合計	415	100.0%

「住みよさ」についての回答（割合）



「住みよさ」についての回答（割合）【地区別、年代別、男女別】



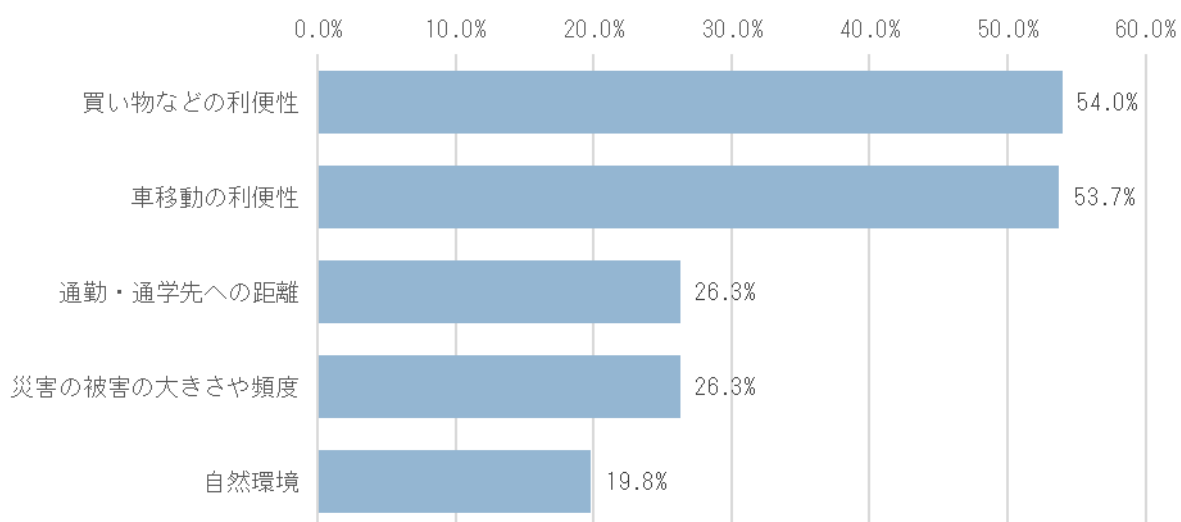
（１４－１）住みよいと思う点

住んでいる地区の住みよいと思う点を聞いたところ、「買い物などの利便性」と回答した人が最も多く、224 人（54.0%）となっている。以下、「車移動の利便性」が 223 人（53.7%）、「通勤・通学先への距離」が 109 人（26.3%）と続いている。

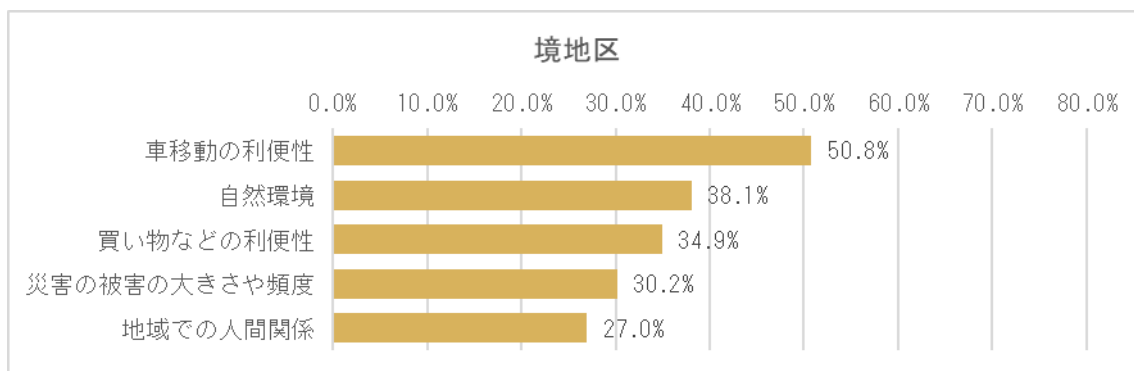
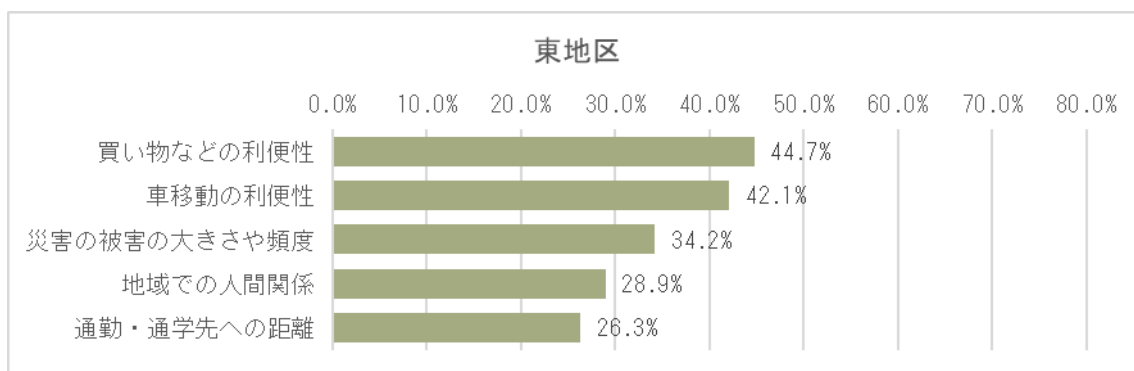
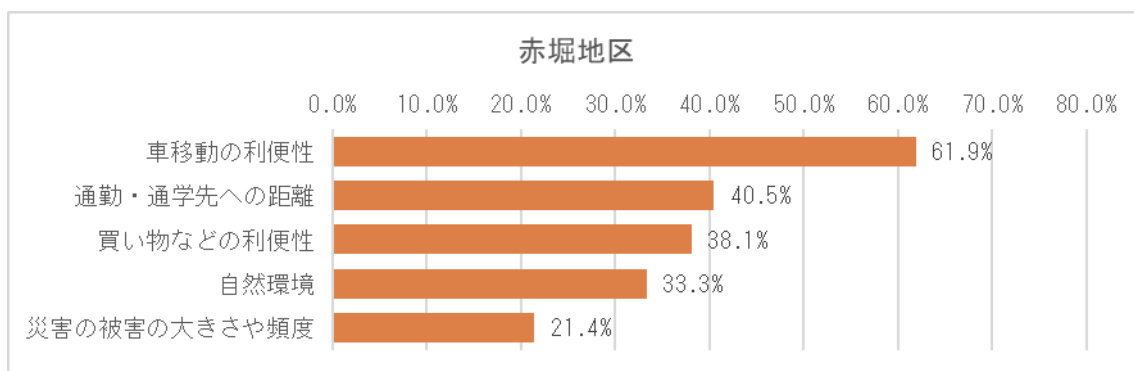
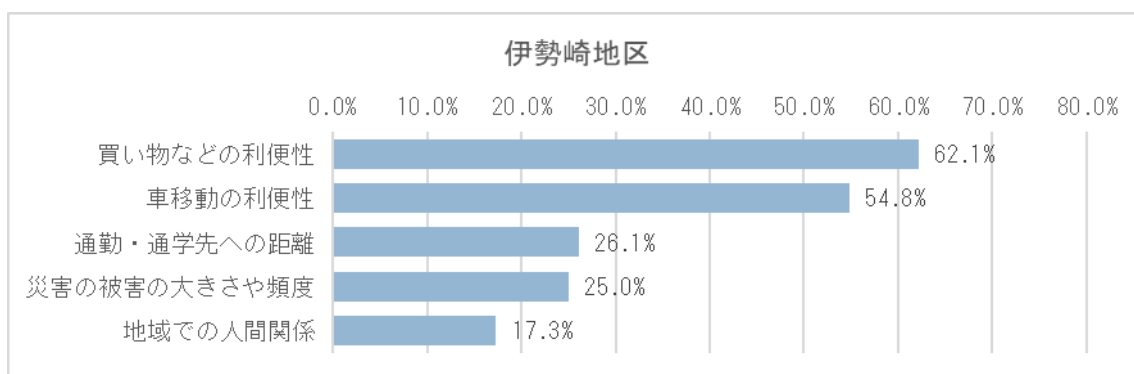
「住みよいと思う点」についての回答【複数回答】

	回答数	割合
買い物などの利便性	224	54.0%
車移動の利便性	223	53.7%
通勤・通学先への距離	109	26.3%
災害の被害の大きさや頻度	109	26.3%
自然環境	82	19.8%
地域での人間関係	80	19.3%
医療体制の充実度	46	11.1%
学校・図書館などの教育施設の充実度	27	6.5%
公園・スポーツ施設の充実度	27	6.5%
バスなどの公共交通機関の利便性	19	4.6%
高齢者・障害者への対応の充実度	13	3.1%
子育て環境の充実度	12	2.9%
学校教育の充実度	3	0.7%
魅力的な仕事の充実度	2	0.5%
無回答	12	2.9%

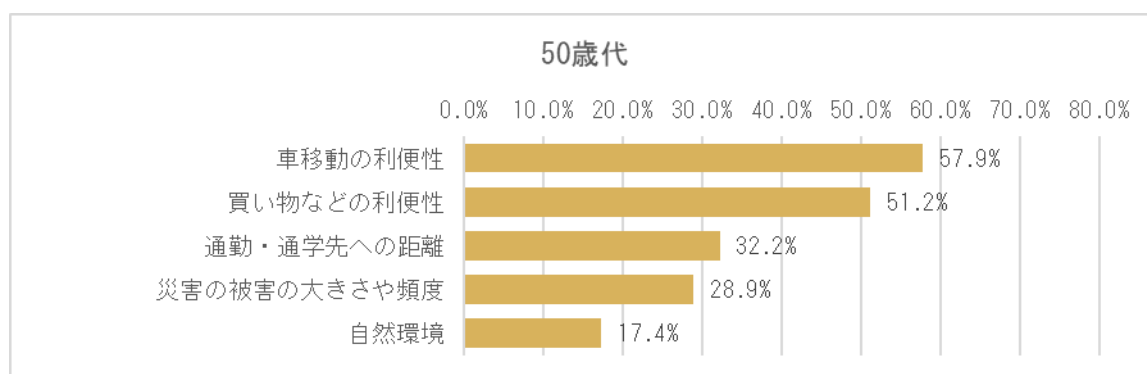
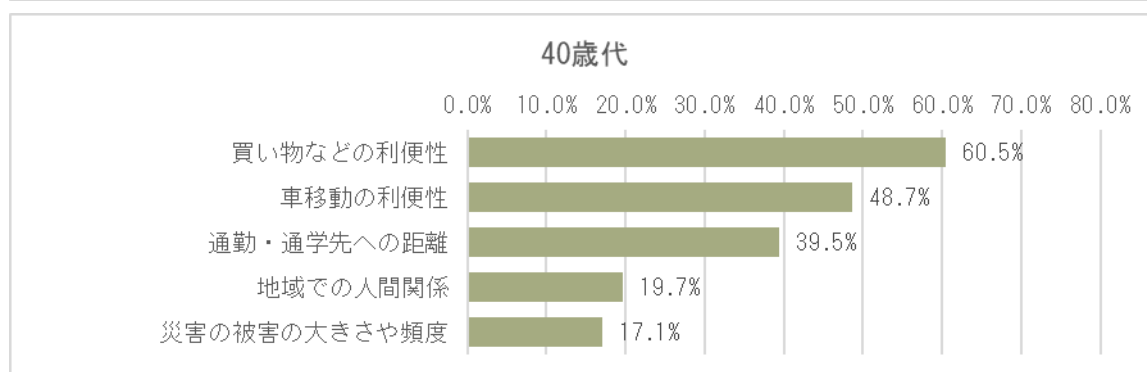
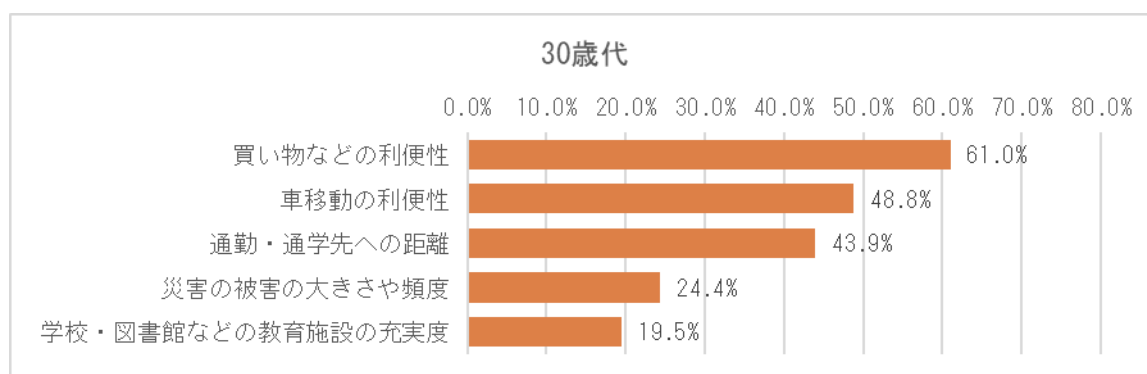
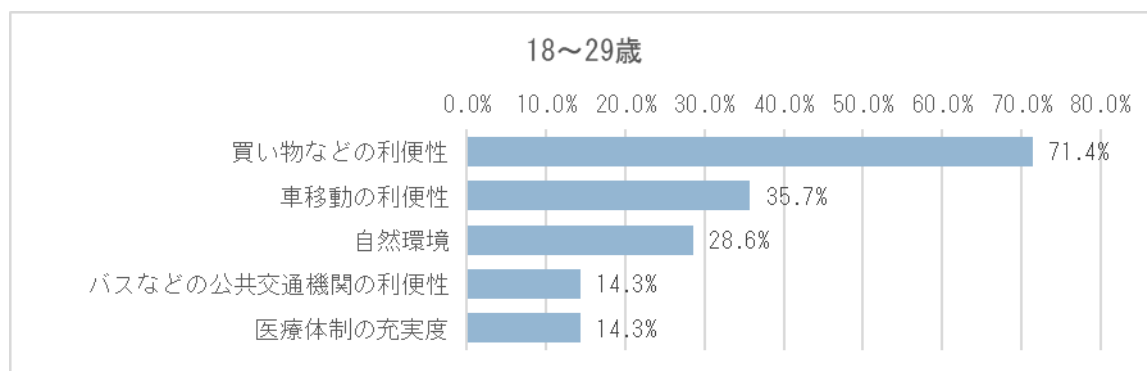
「住みよいと思う点」の回答の上位 5 項目（割合）【複数回答】

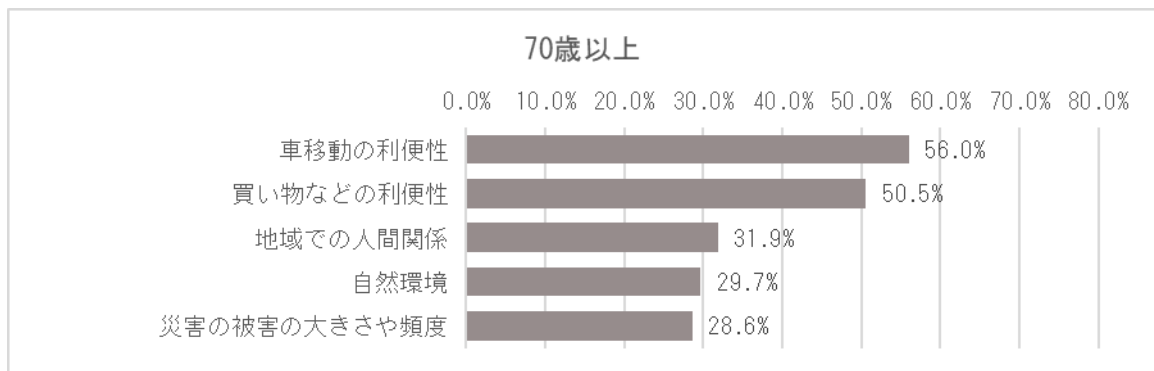
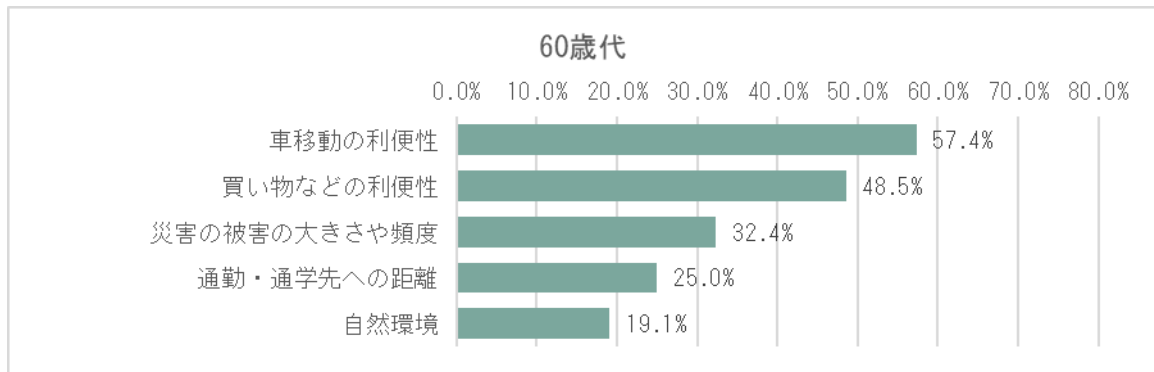


地区別の「住みよいと思う点」の回答の上位5項目（割合）【複数回答】

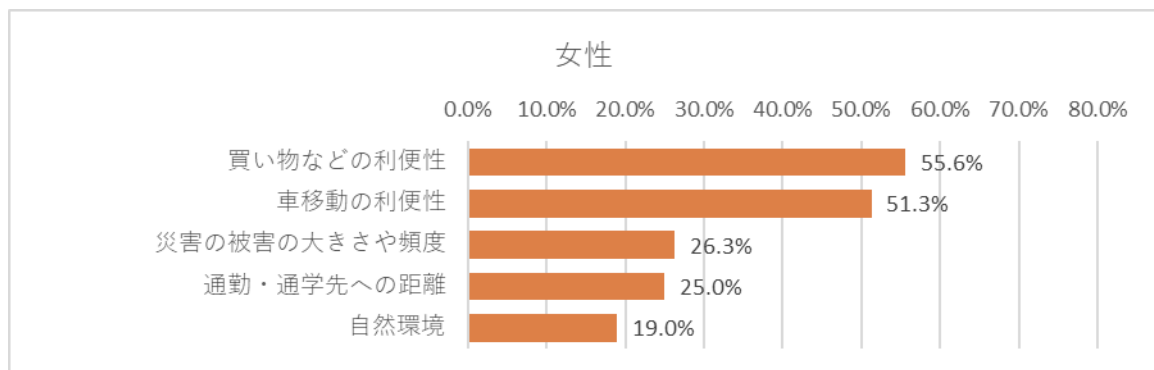
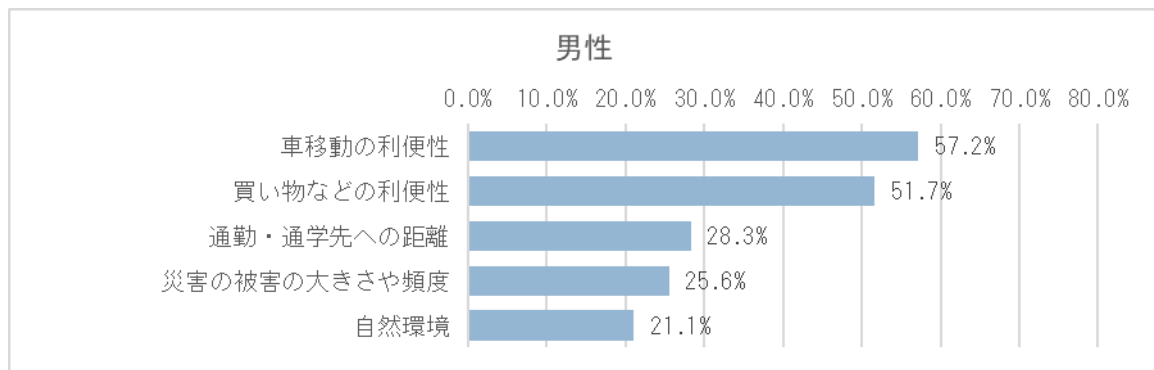


年代別の「住みよいと思う点」の回答の上位5項目（割合）





男女別の「住みよいと思う点」の回答の上位5項目（割合）【複数回答】



◆「その他」の住みよいと思う点（主なもの）

- ・ 東京へのアクセスが良い
- ・ 静かな居住環境
- ・ 特に困ったことがないので、住みやすいのだと思う

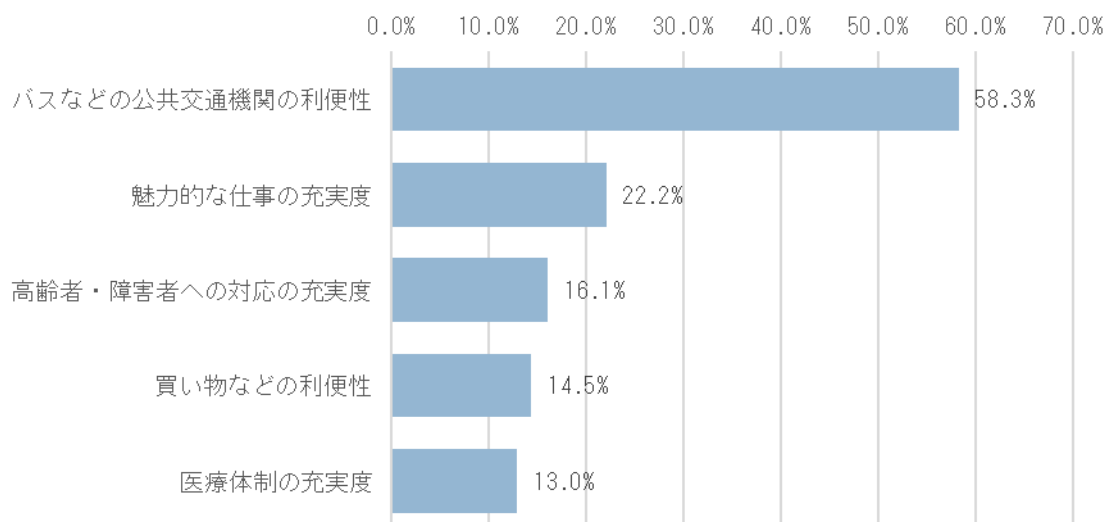
（１４－２）住みにくいと思う点

住んでいる地区の住みにくいと思う点を聞いたところ、「バスなどの公共交通機関の利便性」と回答した人が最も多く、242 人（58.3%）となっている。以下、「魅力的な仕事の充実度」が 92 人（22.2%）、「高齢者・障害者への対応の充実度」が 67 人（16.1%）と続いている。

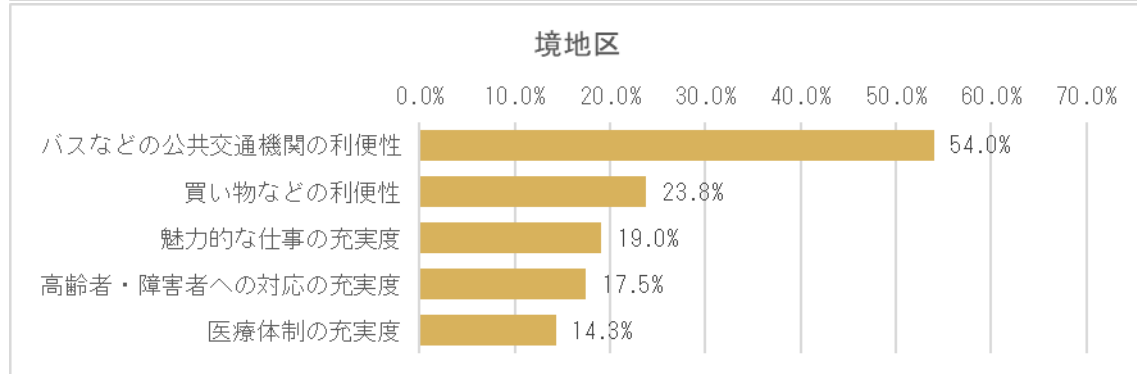
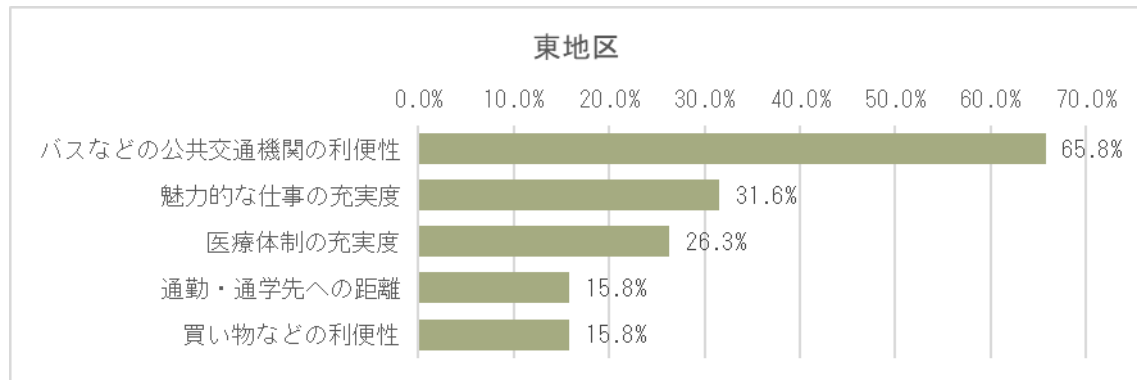
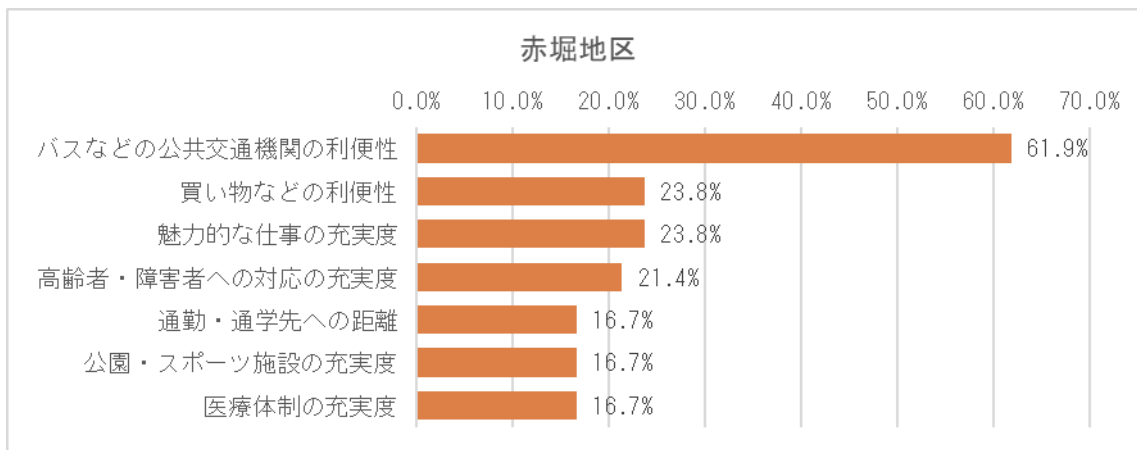
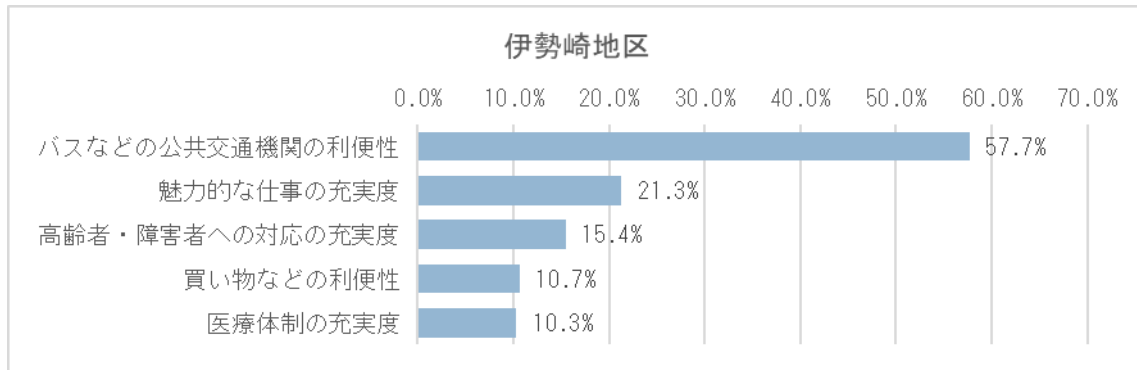
「住みにくいと思う点」についての回答【複数回答】

	回答数	割合
バスなどの公共交通機関の利便性	242	58.3%
魅力的な仕事の充実度	92	22.2%
高齢者・障害者への対応の充実度	67	16.1%
買い物などの利便性	60	14.5%
医療体制の充実度	54	13.0%
公園・スポーツ施設の充実度	42	10.1%
地域での人間関係	41	9.9%
子育て環境の充実度	37	8.9%
通勤・通学先への距離	35	8.4%
自然環境	33	8.0%
車移動の利便性	30	7.2%
学校・図書館などの教育施設の充実度	25	6.0%
災害の被害の大きさや頻度	23	5.5%
学校教育の充実度	20	4.8%
無回答	45	10.8%

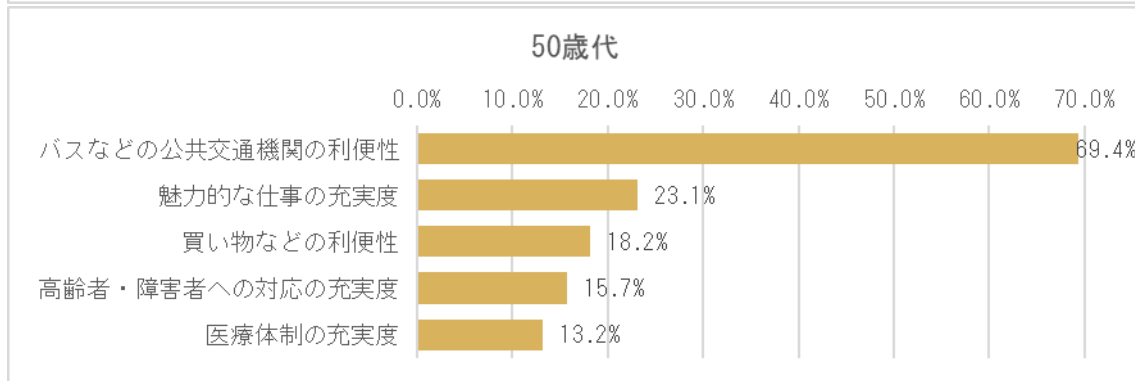
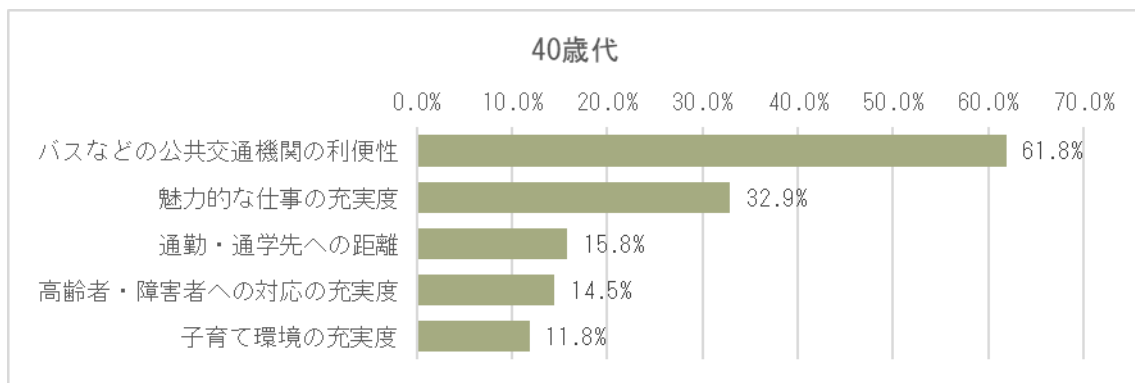
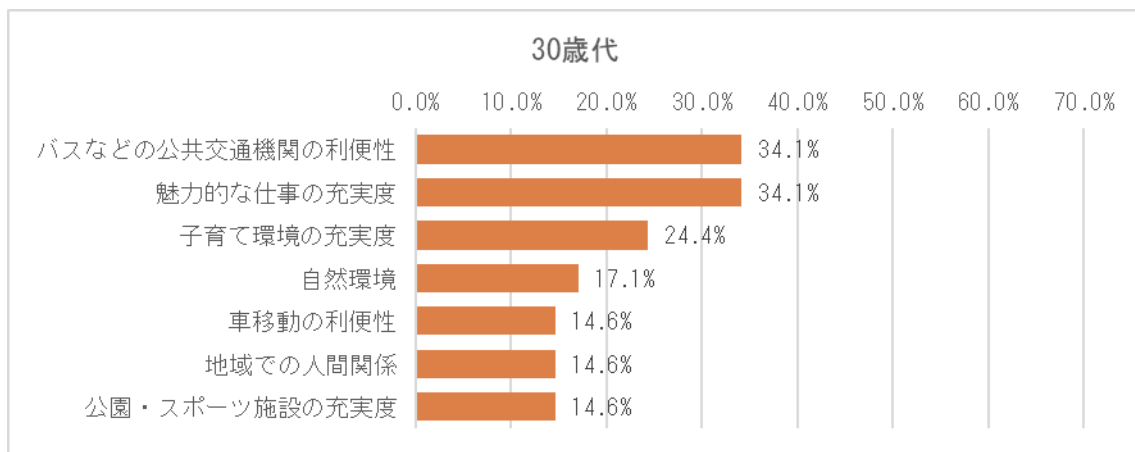
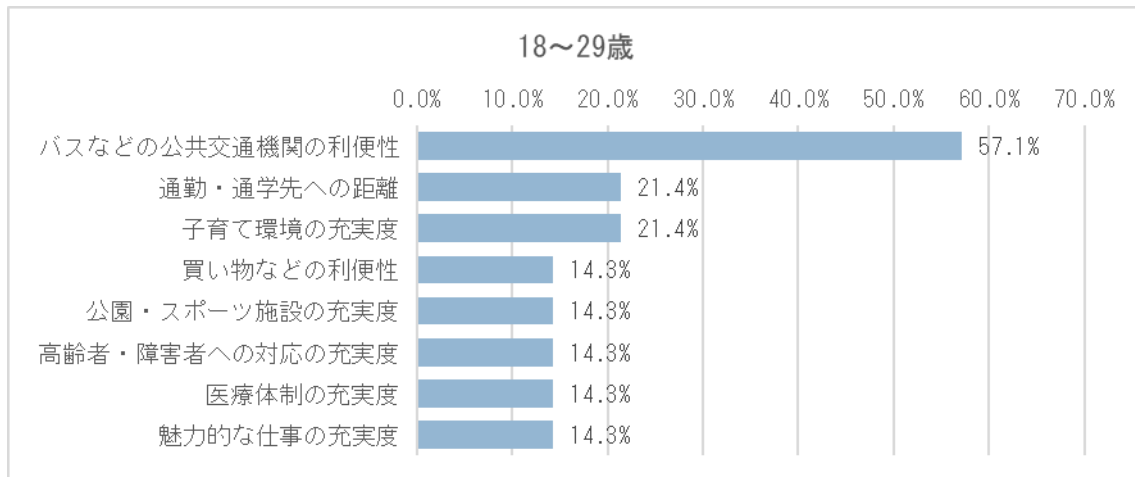
「住みにくいと思う点」の回答の上位 5 項目（割合）【複数回答】

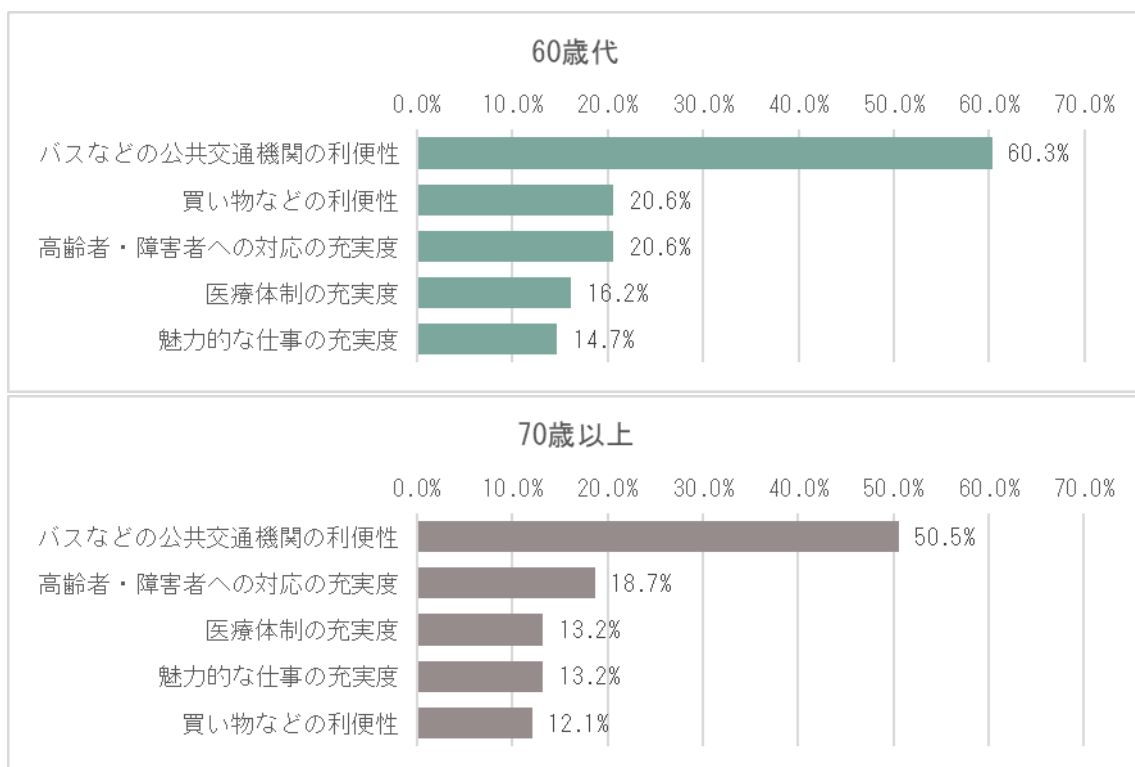


地区別の「住みにくいと思う点」の回答の上位5項目（割合）【複数回答】

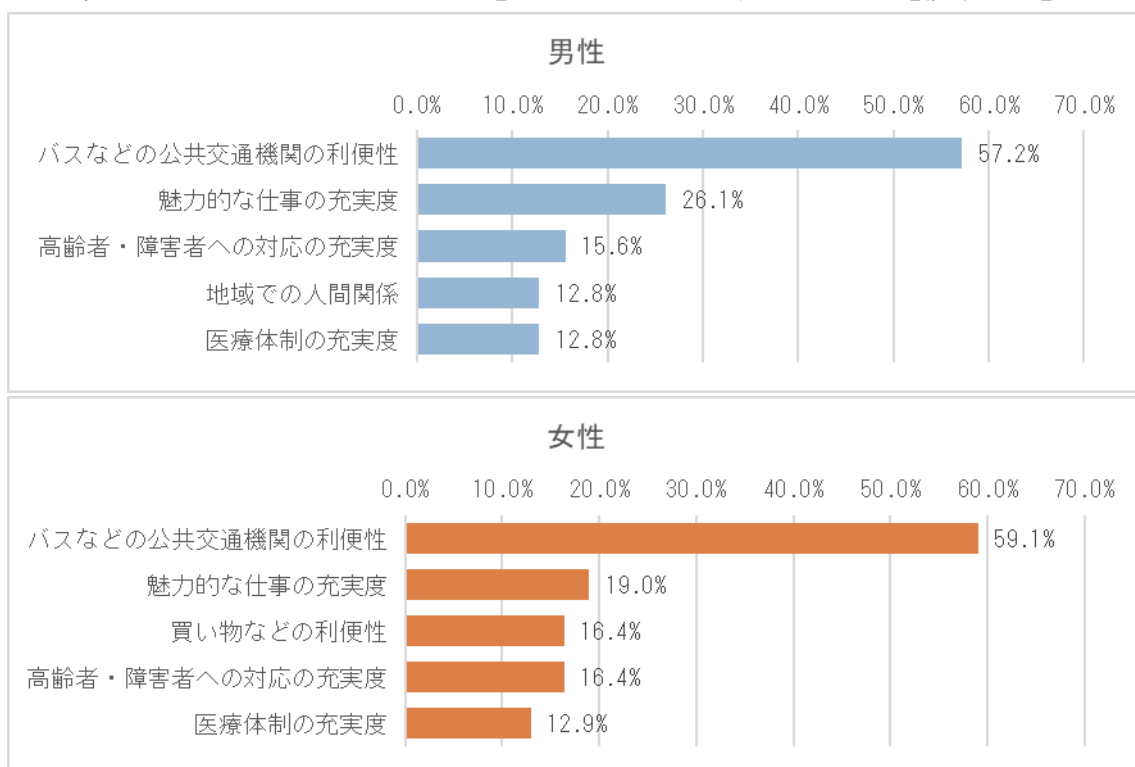


年代別の「住みにくいと思う点」の回答の上位5項目（割合）【複数回答】





男女別の「住みにくいと思う点」の回答の上位5項目（割合）【複数回答】



◆「その他」の住みにくいと思う点（主なもの）

- ・ 回覧板や清掃活動などの地域活動が負担
- ・ 治安に不安がある
- ・ 夏の暑さ
- ・ 外国人のごみ捨てなどのマナー

4 現在と将来の伊勢崎市について

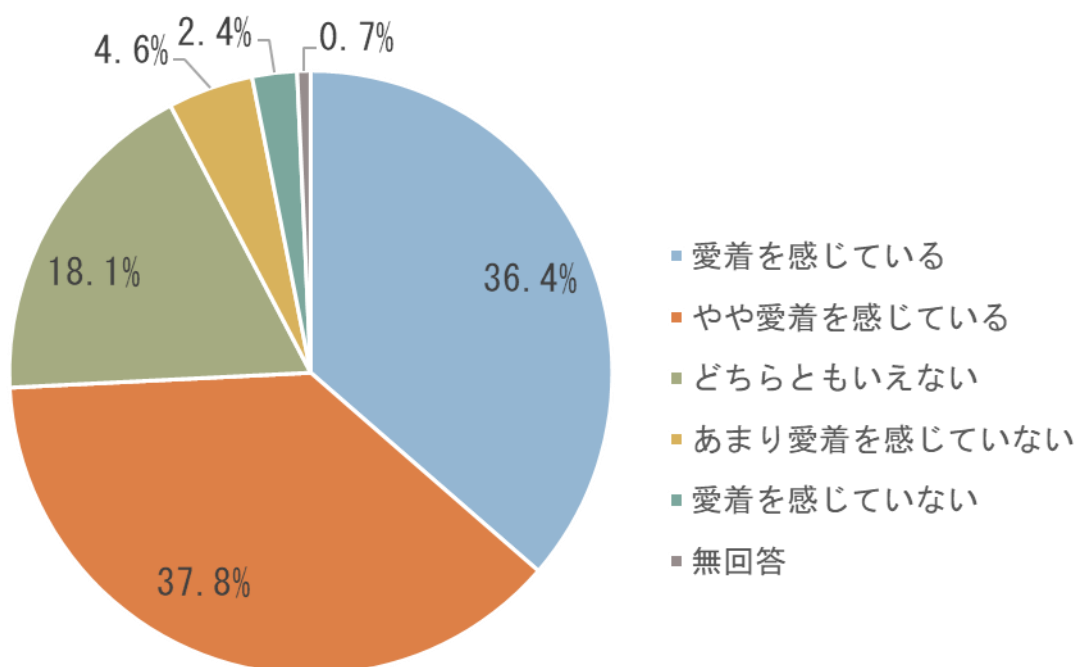
(15) 伊勢崎市への愛着

伊勢崎市に愛着を感じているか聞いたところ、「やや愛着を感じている」を含め「愛着を感じている」と回答した人は 308 人(74.2%)、「どちらともいえない」と回答した人は 75 人(18.1%)、「あまり愛着を感じていない」を含め「愛着を感じていない」と回答した人は 29 人(7.0%)、「無回答」が 3 人(0.7%)となり、多くの人が「やや愛着を感じている」を含め「愛着を感じている」と回答した。

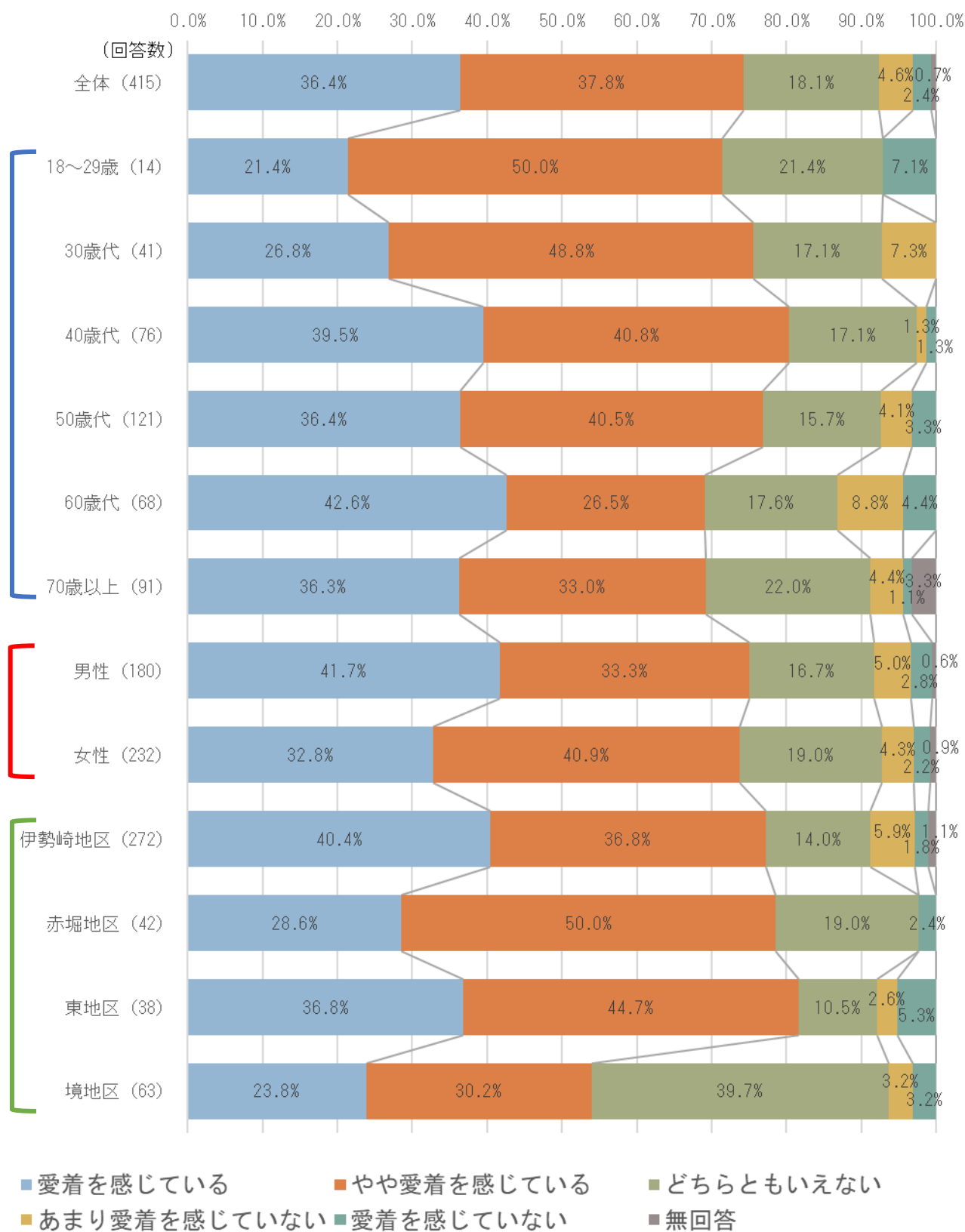
回答者の伊勢崎市への愛着

	回答数	割合
愛着を感じている	151	36.4%
やや愛着を感じている	157	37.8%
どちらともいえない	75	18.1%
あまり愛着を感じていない	19	4.6%
愛着を感じていない	10	2.4%
無回答	3	0.7%
合計	415	100.0%

回答者の伊勢崎市への愛着（割合）



回答者の伊勢崎市への愛着（割合）【年代別、男女別、地区別】



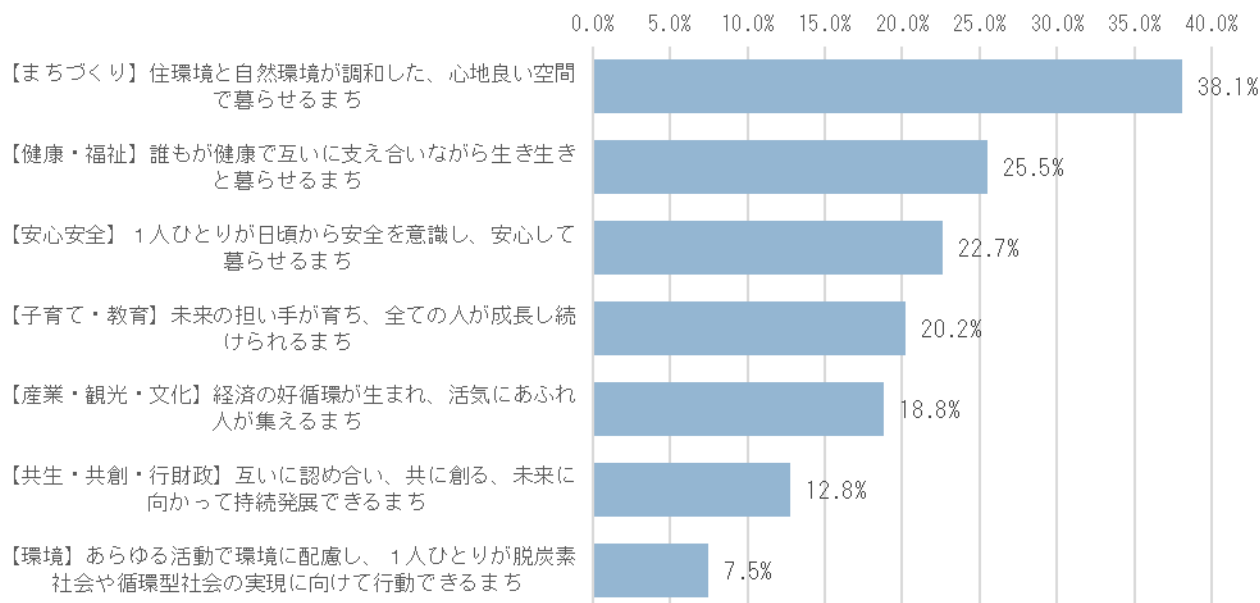
（１６－１）現在の伊勢崎市のイメージ

現在の伊勢崎市のイメージについて聞いたところ、「【まちづくり】住環境と自然環境が調和した、心地良い空間で暮らせるまち」と回答した人が最も多く、158人(38.1%)となっている。以下、「【健康・福祉】誰もが健康で互いに支え合いながら生き生きと暮らせるまち」が106人(25.5%)、「【安心安全】１人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らせるまち」が94人(22.7%)と続いている。

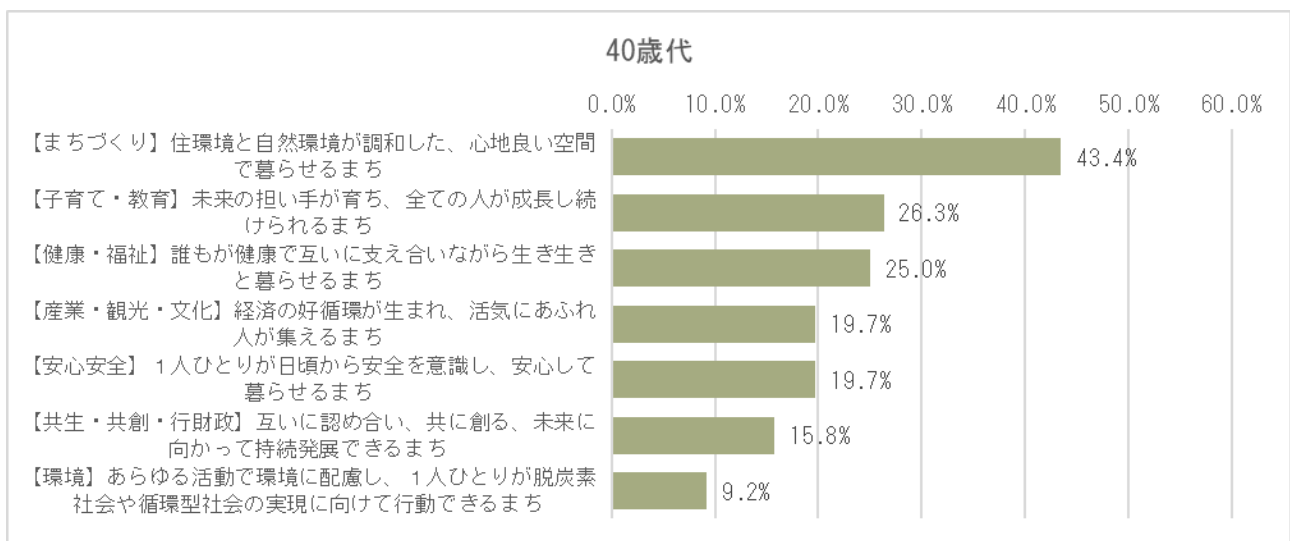
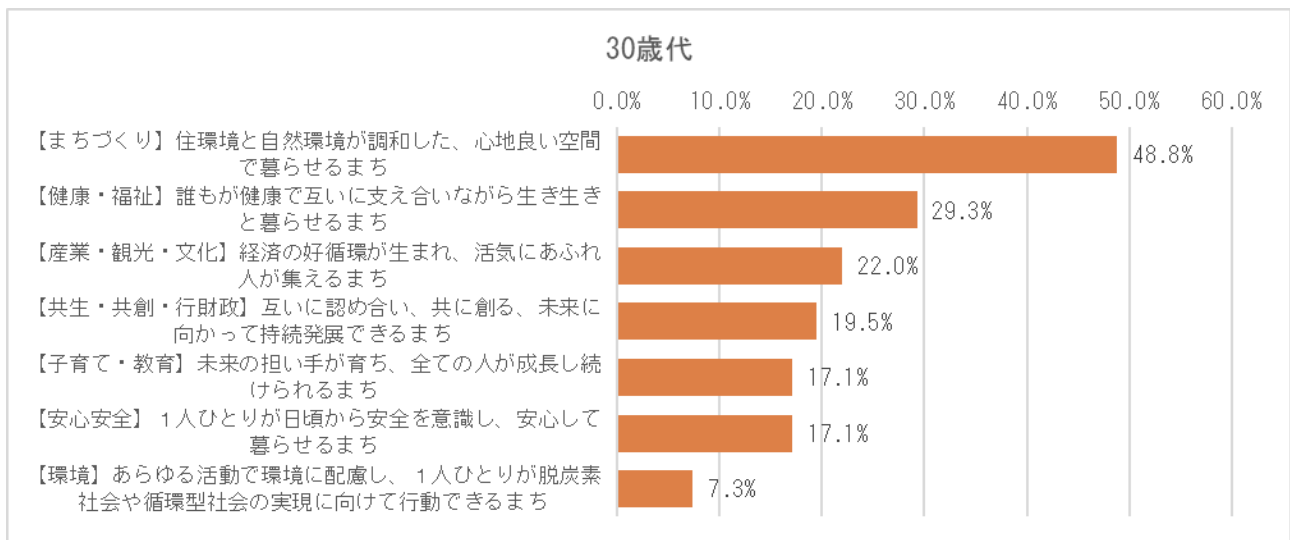
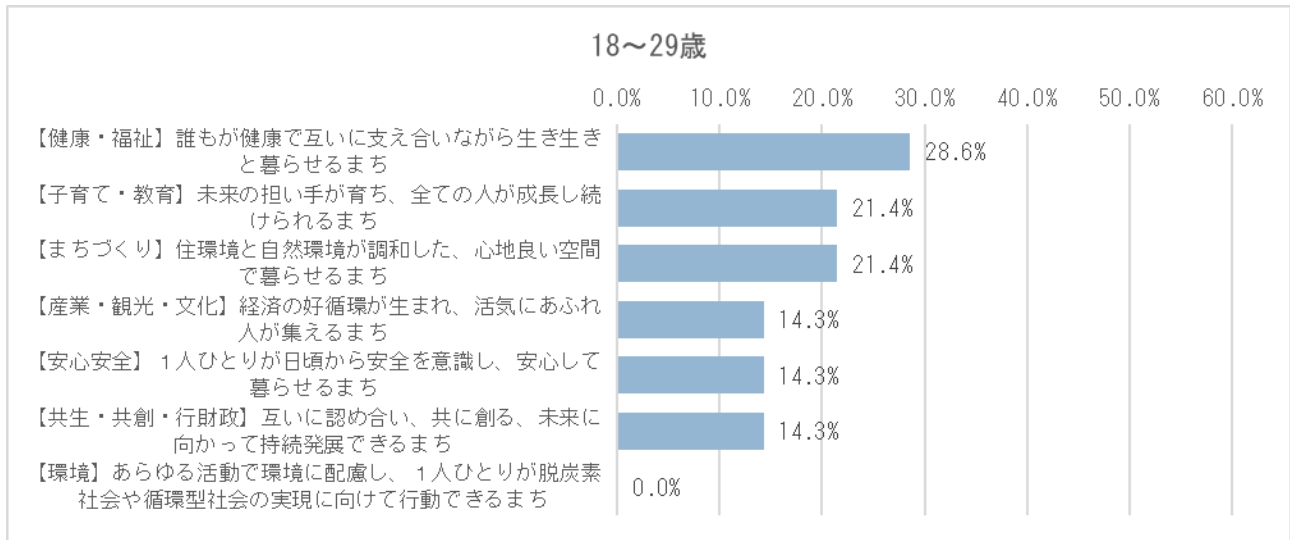
「現在の伊勢崎市のイメージ」についての回答【複数回答】

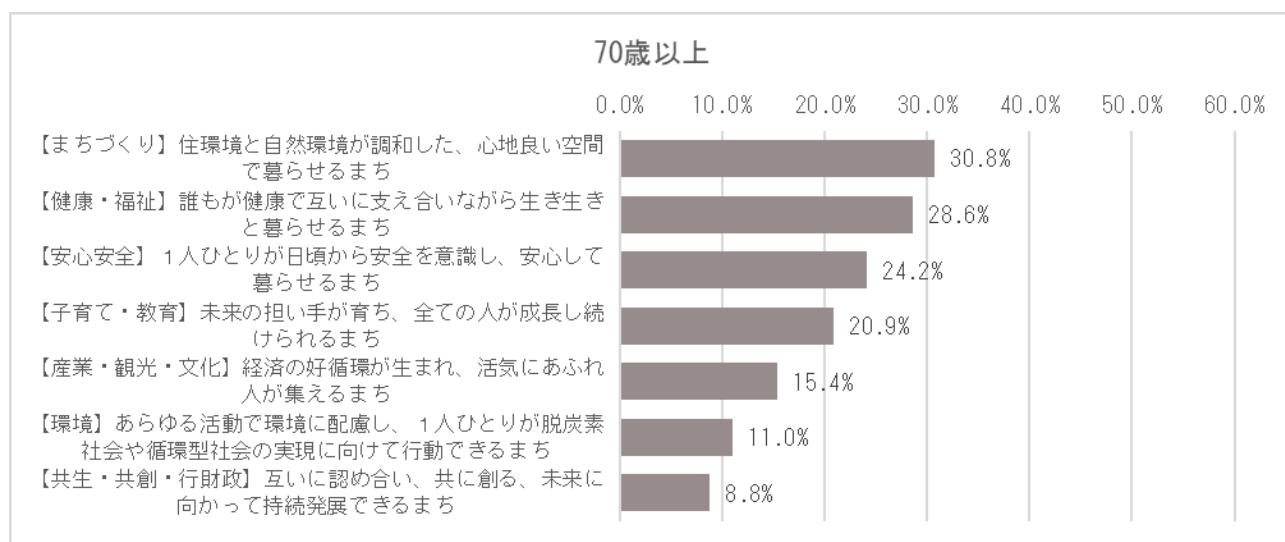
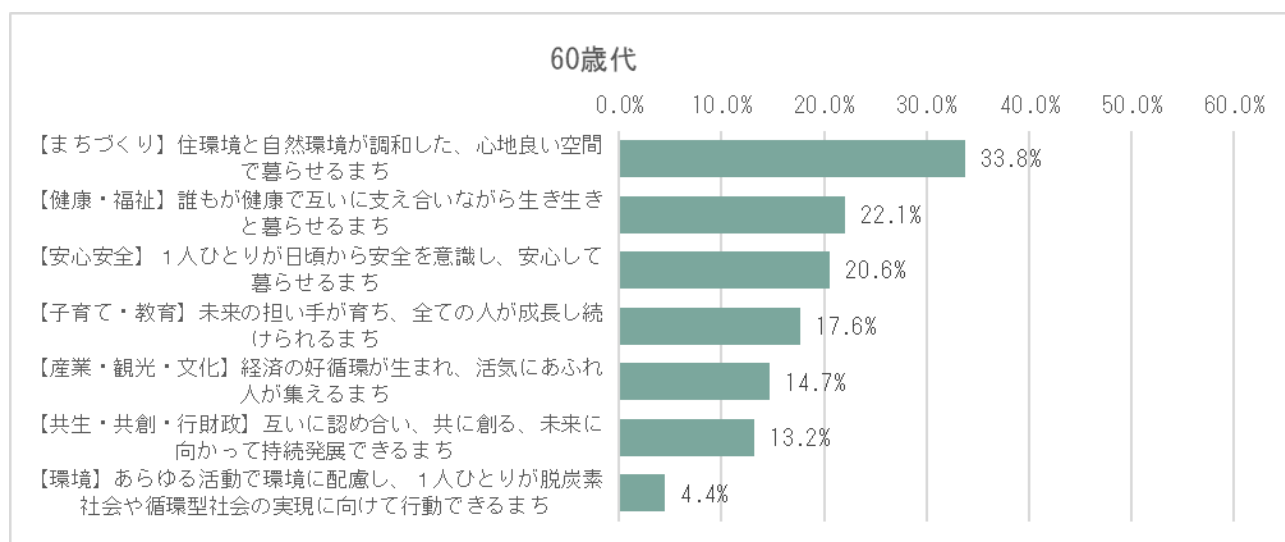
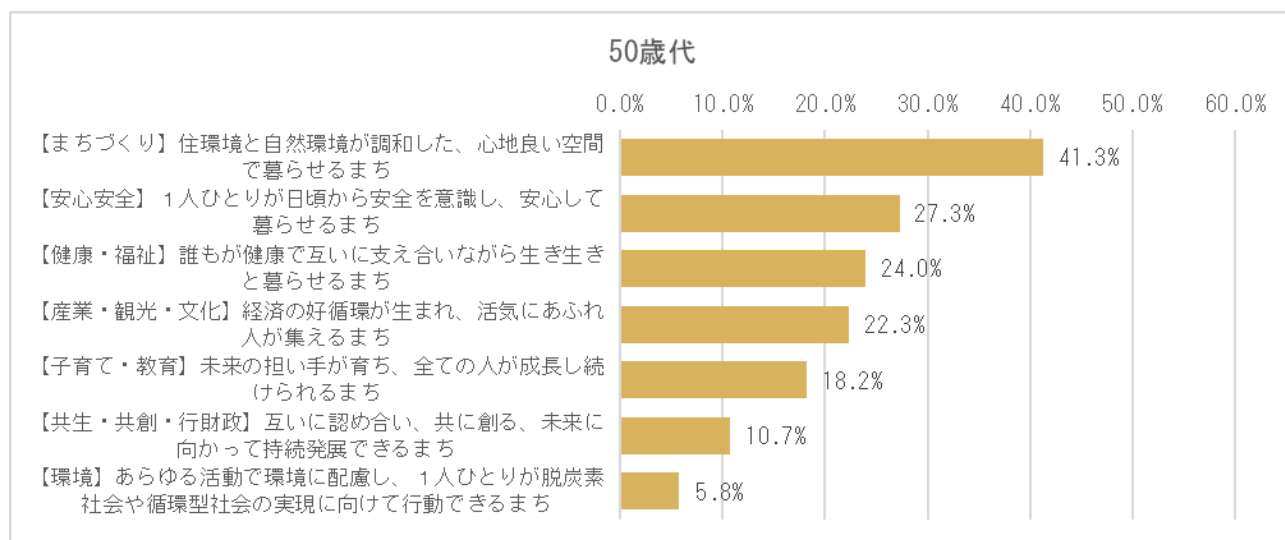
	回答数	割合
【まちづくり】 住環境と自然環境が調和した、心地良い空間で暮らせるまち	158	38.1%
【健康・福祉】 誰もが健康で互いに支え合いながら生き生きと暮らせるまち	106	25.5%
【安心安全】 １人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らせるまち	94	22.7%
【子育て・教育】 未来の担い手が育ち、全ての人が成長し続けられるまち	84	20.2%
【産業・観光・文化】 経済の好循環が生まれ、活気にあふれ人が集えるまち	78	18.8%
【共生・共創・行財政】 互いに認め合い、共に創る、未来に向かって持続発展できるまち	53	12.8%
【環境】 あらゆる活動で環境に配慮し、１人ひとりが脱炭素社会や循環型社会の実現に向けて行動できるまち	31	7.5%

「現在の伊勢崎市のイメージ」についての回答（割合）【複数回答】

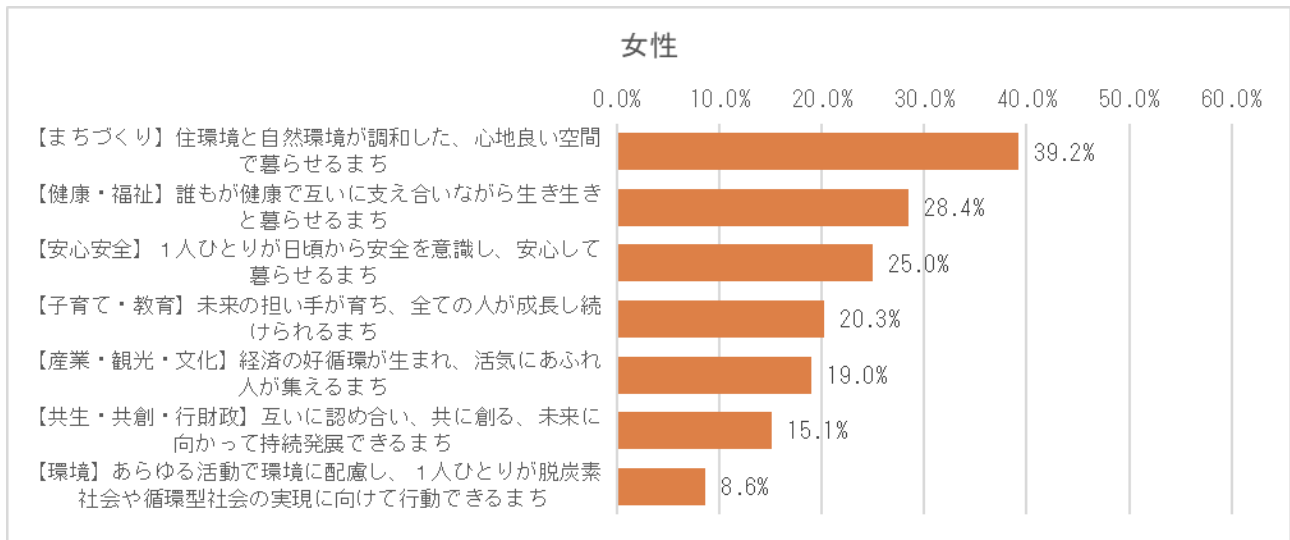
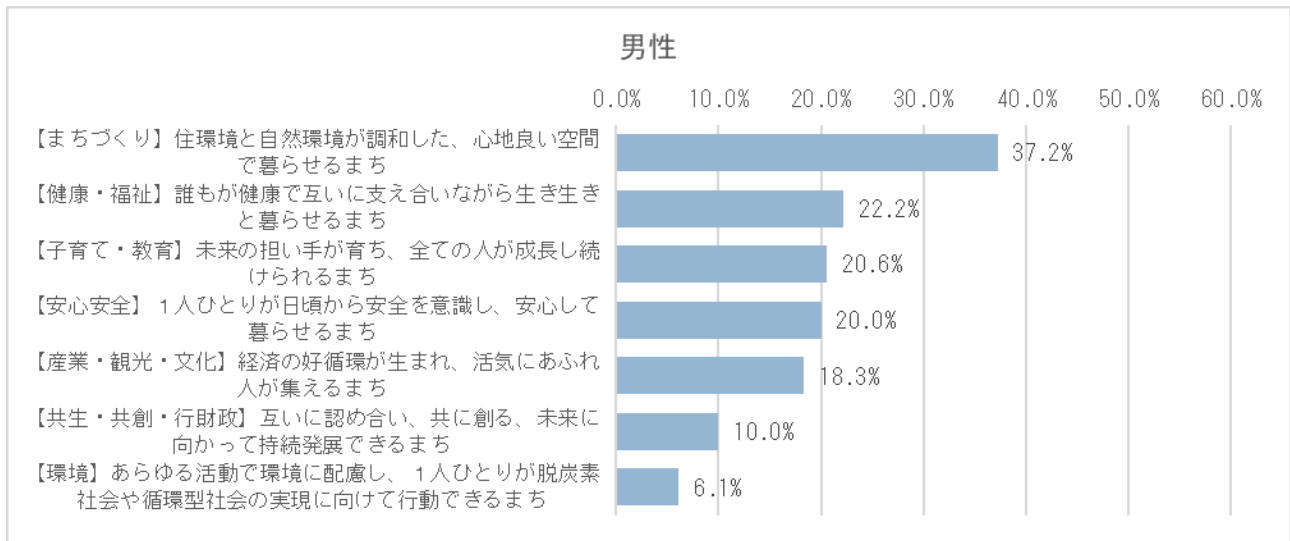


年代別の「現在の伊勢崎市のイメージ」についての回答（割合）【複数回答】

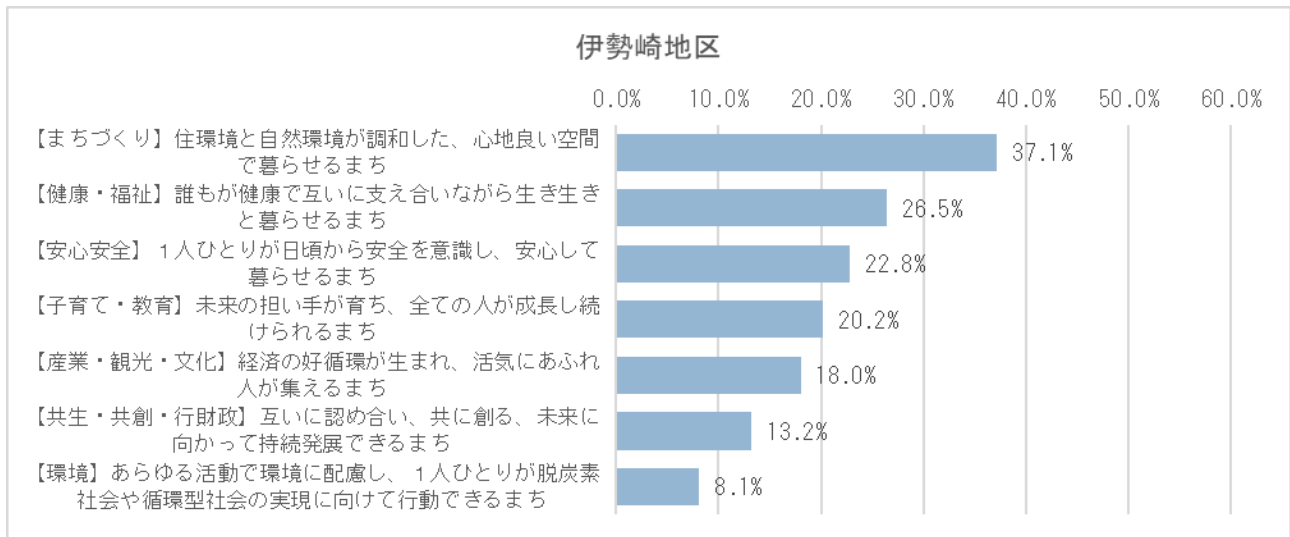




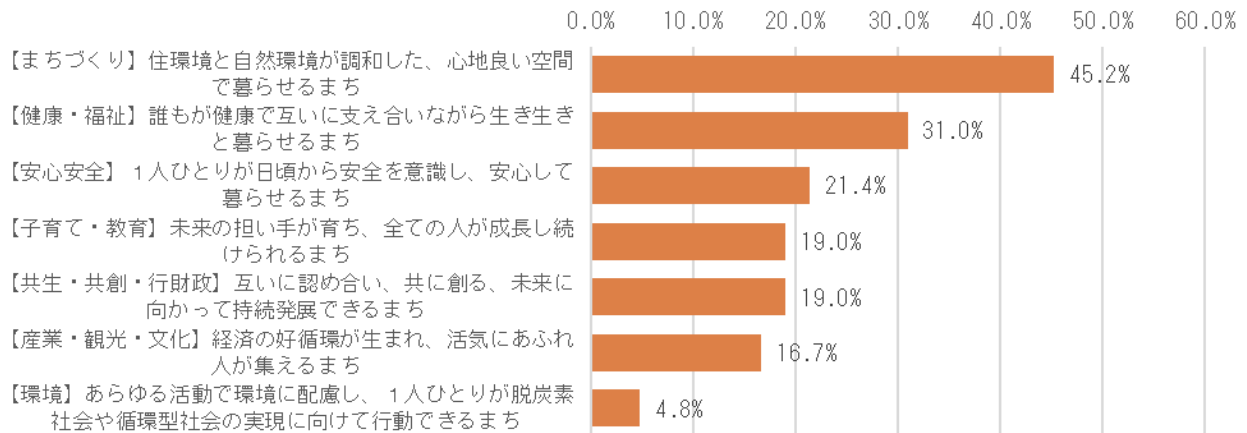
男女別の「現在の伊勢崎市のイメージ」についての回答（割合）【複数回答】



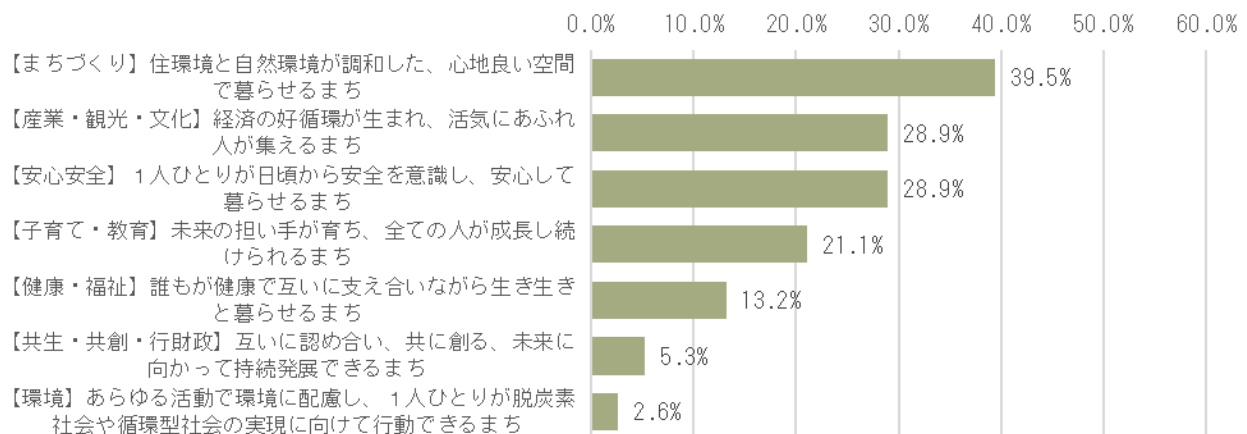
地区別の「現在の伊勢崎市のイメージ」についての回答（割合）【複数回答】



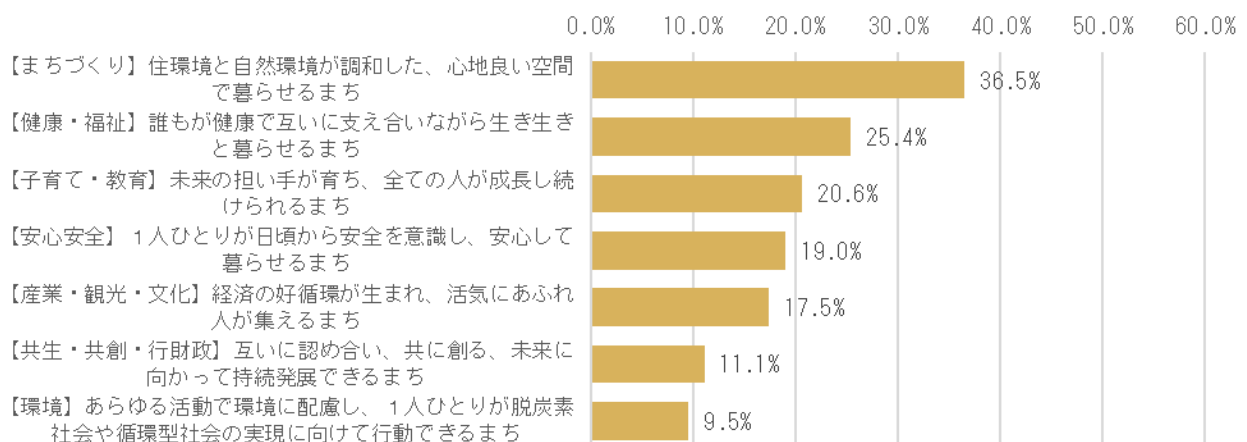
赤堀地区



東地区



境地区



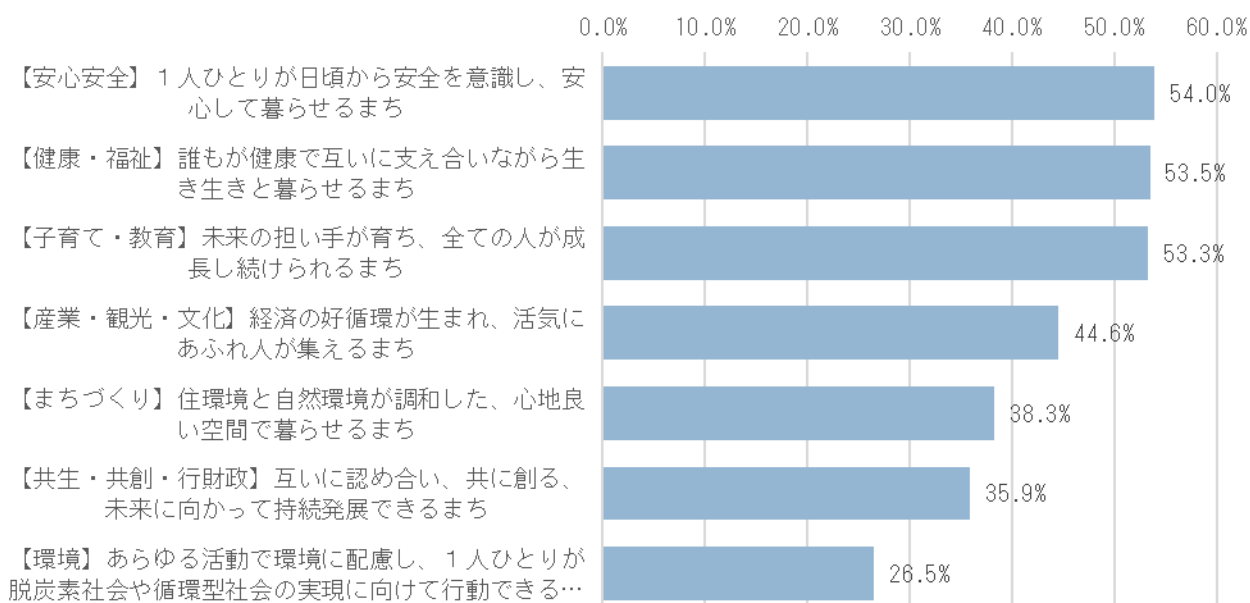
（１６－２）将来なっしてほしい伊勢崎市のイメージ

将来の伊勢崎市が、どのような市になっしてほしいか聞いたところ、「【安心安全】１人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らせるまち」と回答した人が最も多く、224人(54.0%)となっている。以下、「【健康・福祉】誰もが健康で互いに支え合いながら生き生きと暮らせるまち」が222人(53.5%)、「【子育て・教育】未来の担い手が育ち、全ての人が成長し続けられるまち」が221人(53.3%)と続いている。

「将来なっしてほしい伊勢崎市」についての回答【複数回答】

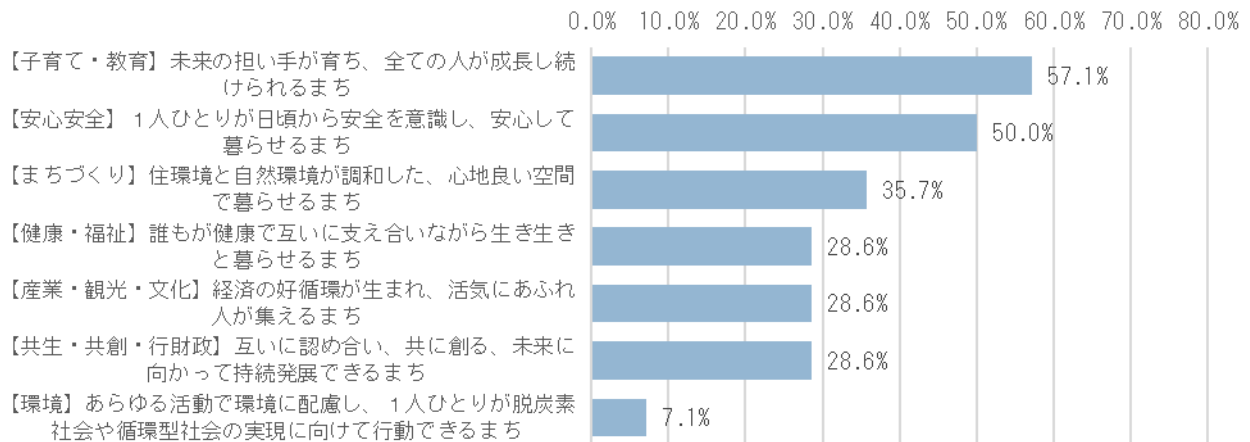
	回答数	割合
【安心安全】 １人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らせるまち	224	54.0%
【健康・福祉】 誰もが健康で互いに支え合いながら生き生きと暮らせるまち	222	53.5%
【子育て・教育】 未来の担い手が育ち、全ての人が成長し続けられるまち	221	53.3%
【産業・観光・文化】 経済の好循環が生まれ、活気にあふれ人が集えるまち	185	44.6%
【まちづくり】 住環境と自然環境が調和した、心地良い空間で暮らせるまち	159	38.3%
【共生・共創・行財政】 互いに認め合い、共に創る、未来に向かって持続発展できるまち	149	35.9%
【環境】 あらゆる活動で環境に配慮し、１人ひとりが脱炭素社会や循環型社会の実現に向けて行動できるまち	110	26.5%

「将来なっほしい伊勢崎市」についての回答（割合）【複数回答】

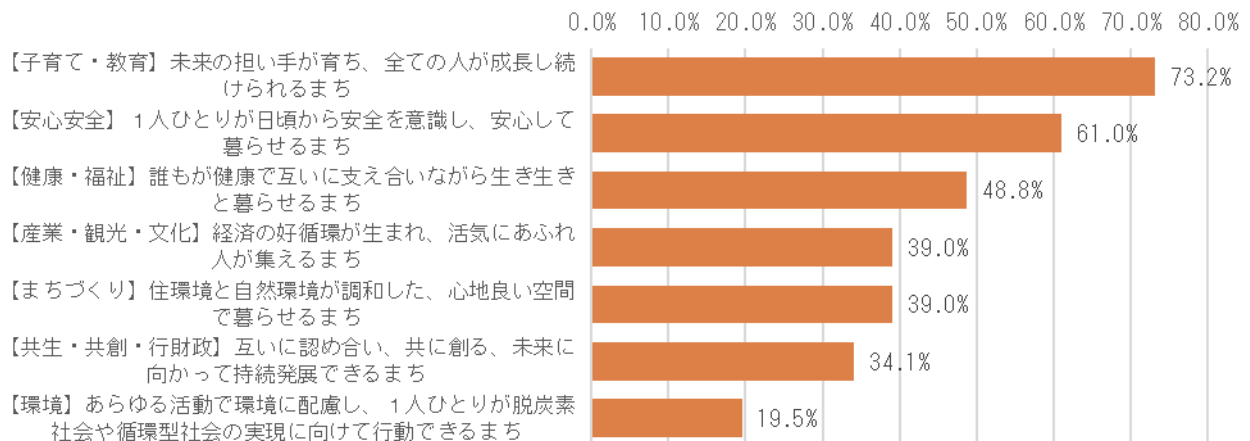


年代別の「将来なっしてほしい伊勢崎市」についての回答（割合）【複数回答】

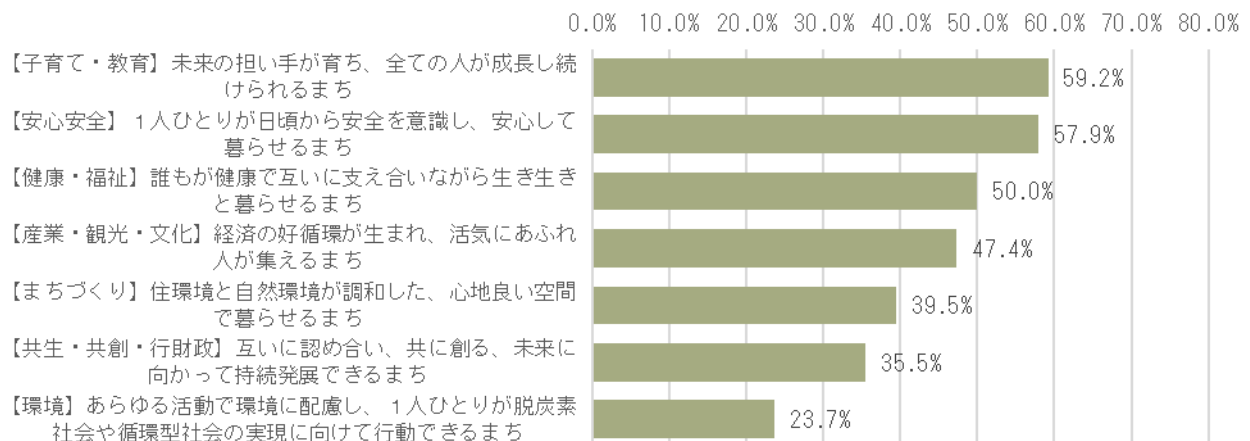
18～29歳



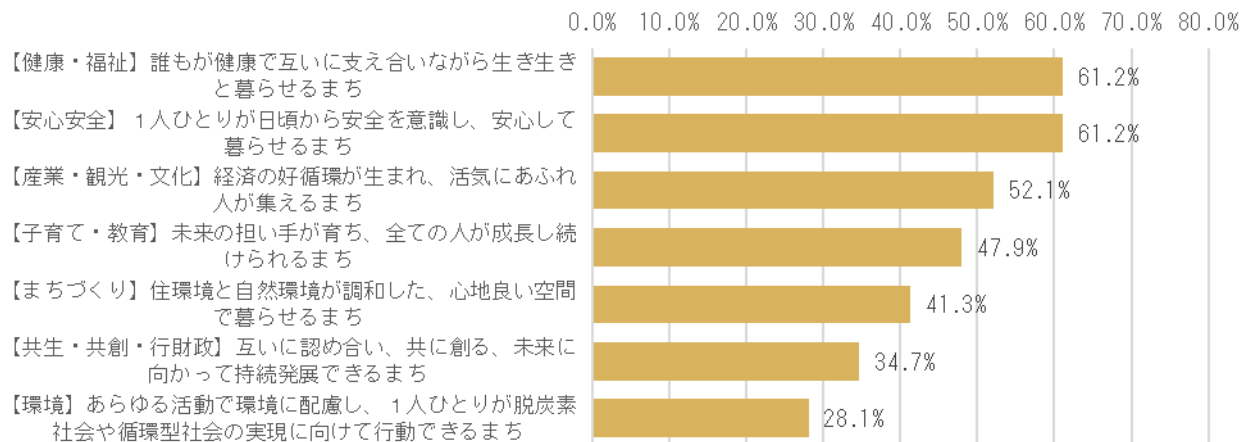
30歳代



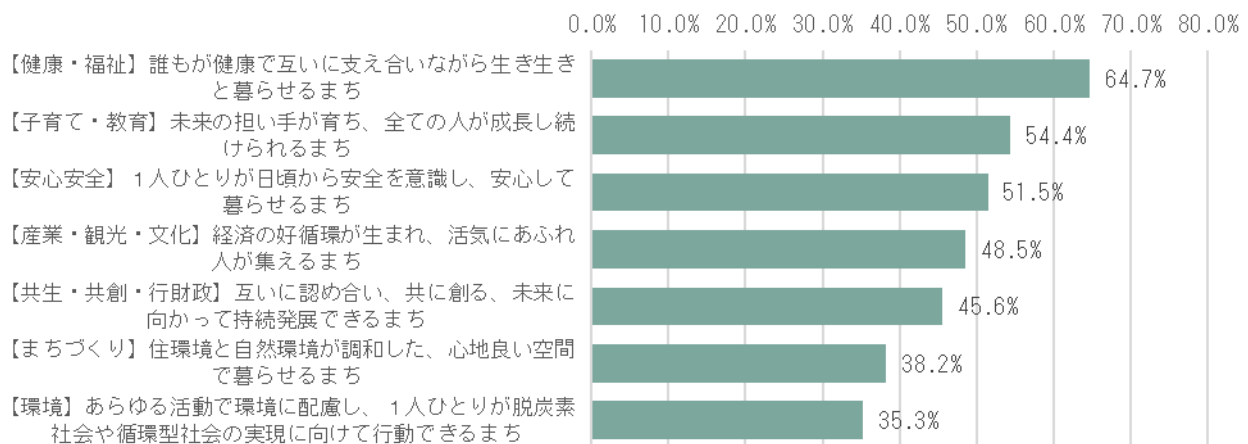
40歳代



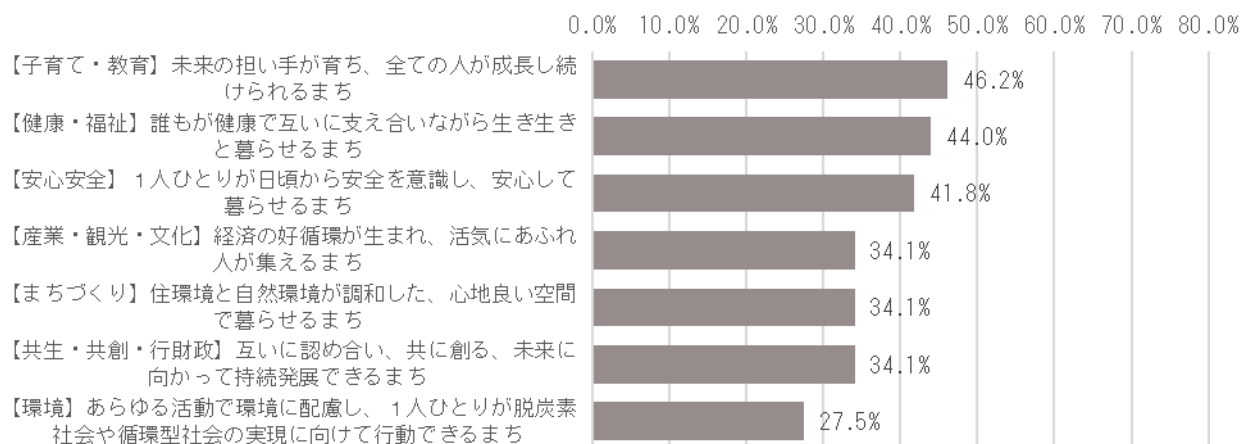
50歳代



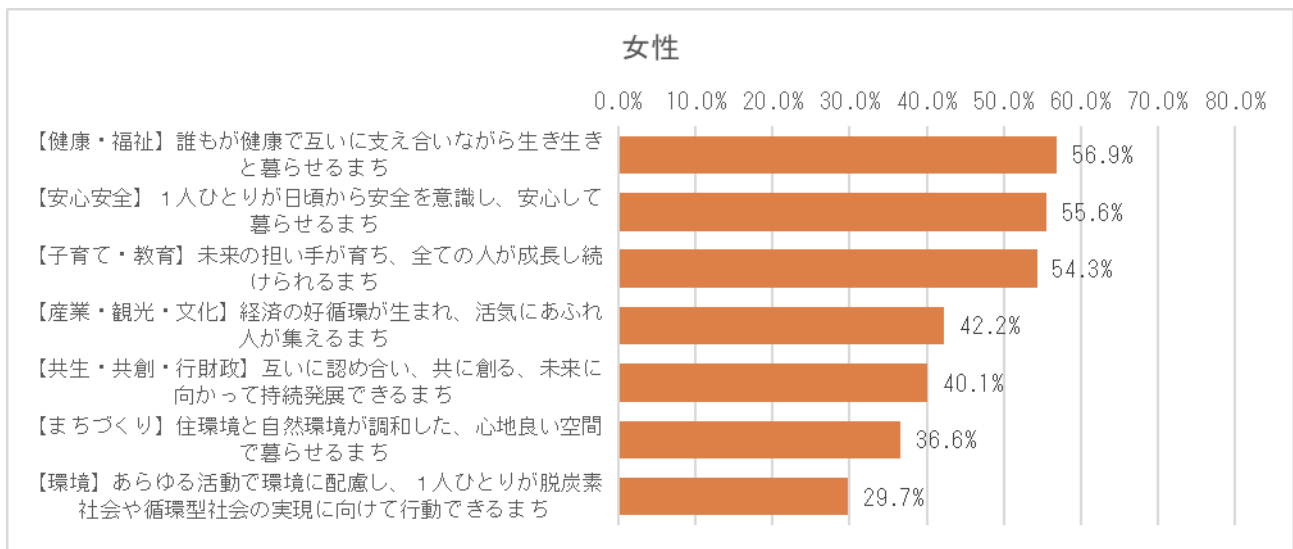
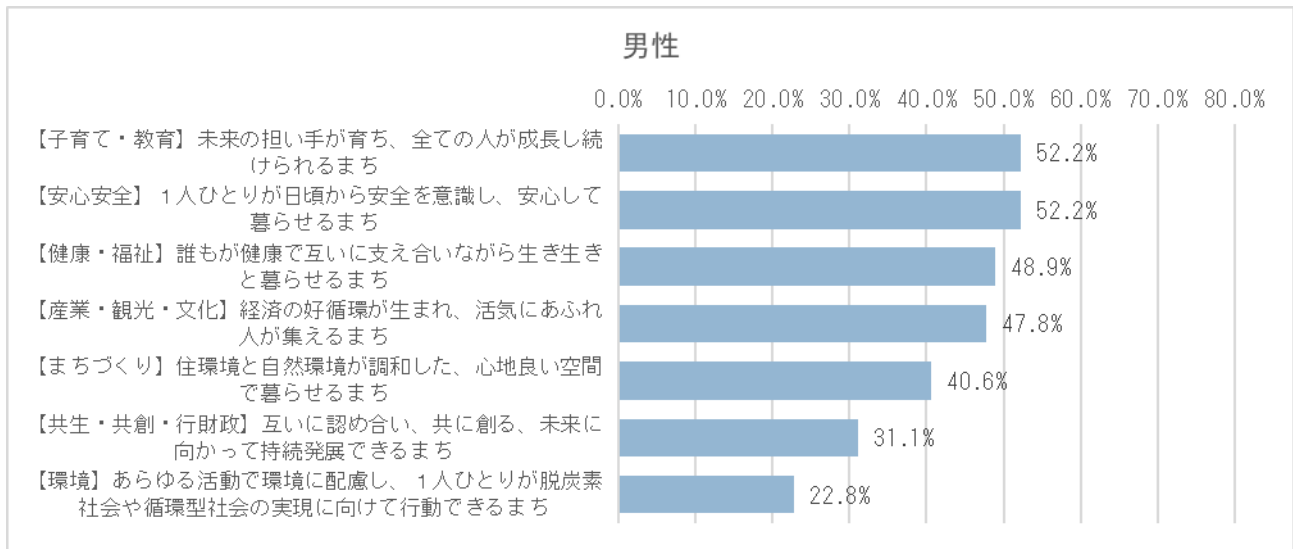
60歳代



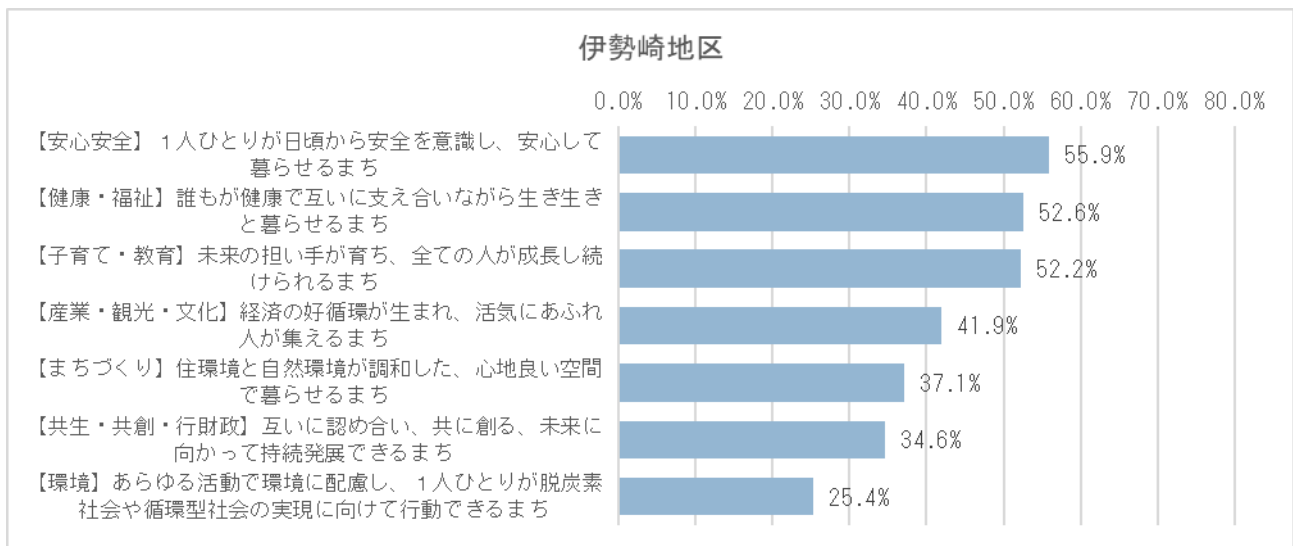
70歳以上



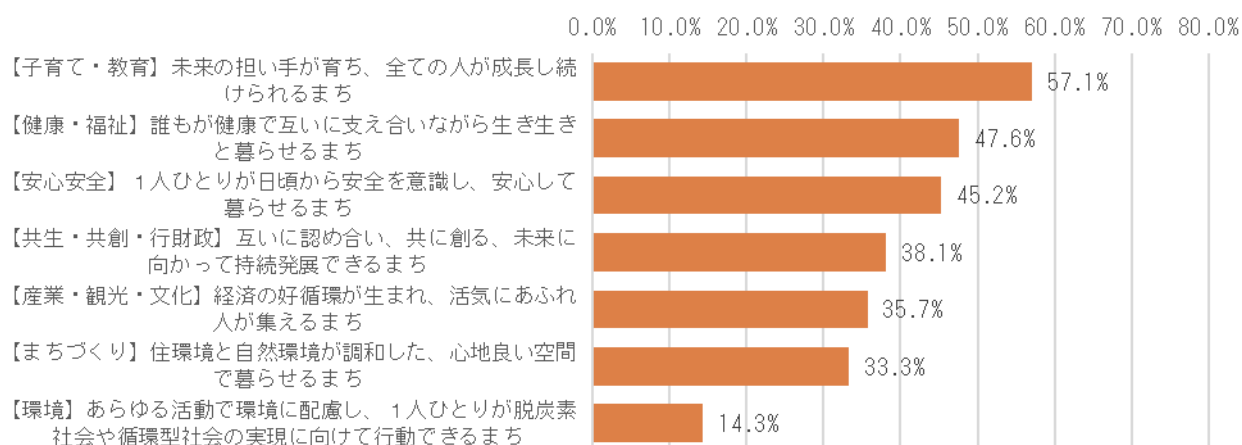
男女別の「将来なっしてほしい伊勢崎市」についての回答（割合）【複数回答】



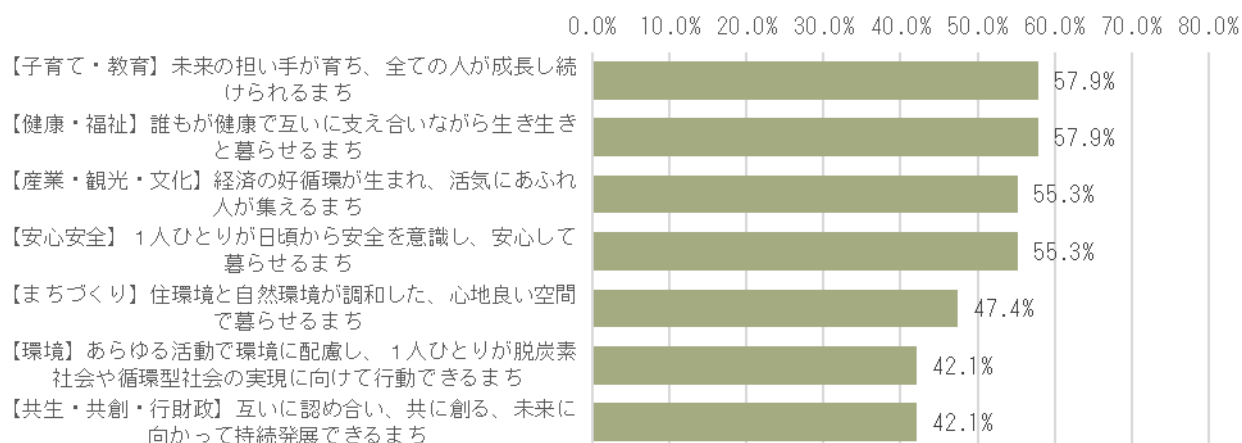
地区別の「将来なっほしい伊勢崎市」についての回答（割合）【複数回答】



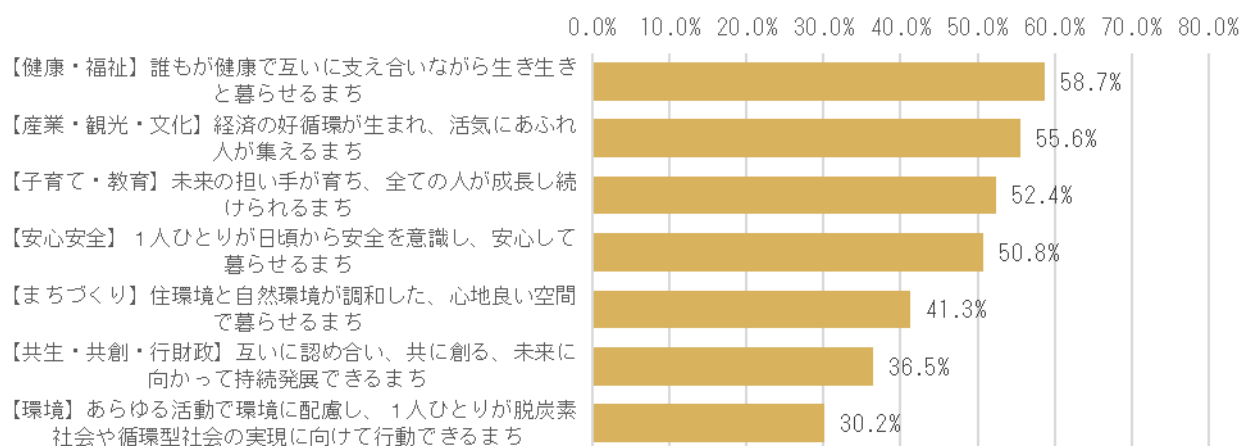
赤堀地区



東地区



境地区

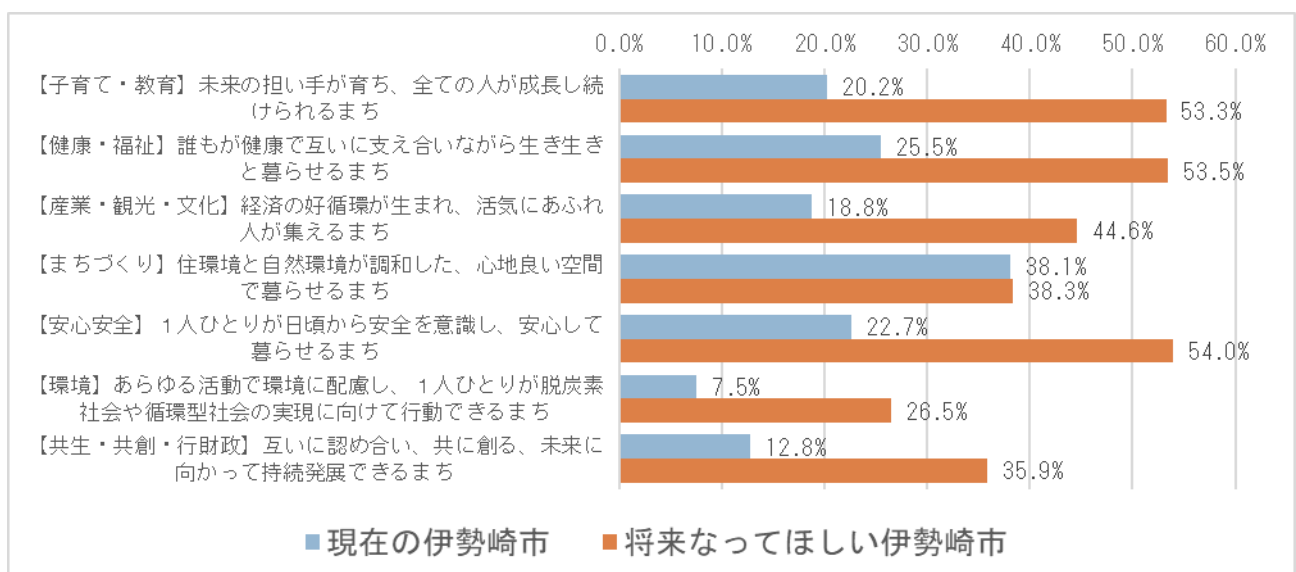


（１６－３）「現在の伊勢崎市」と「将来なっしてほしい伊勢崎市」の比較

「現在の伊勢崎市のイメージ」と「将来なっしてほしい伊勢崎市のイメージ」について、回答の割合を比較した。その結果、「【子育て・教育】未来の担い手が育ち、全ての人が成長し続けられるまち」のギャップが33.0%で最も大きく、以下「【安心安全】1人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らせるまち（31.3%）」、「【健康・福祉】誰もが健康で互いに支え合いながら生き生きと暮らせるまち（28.0%）」と続いている。

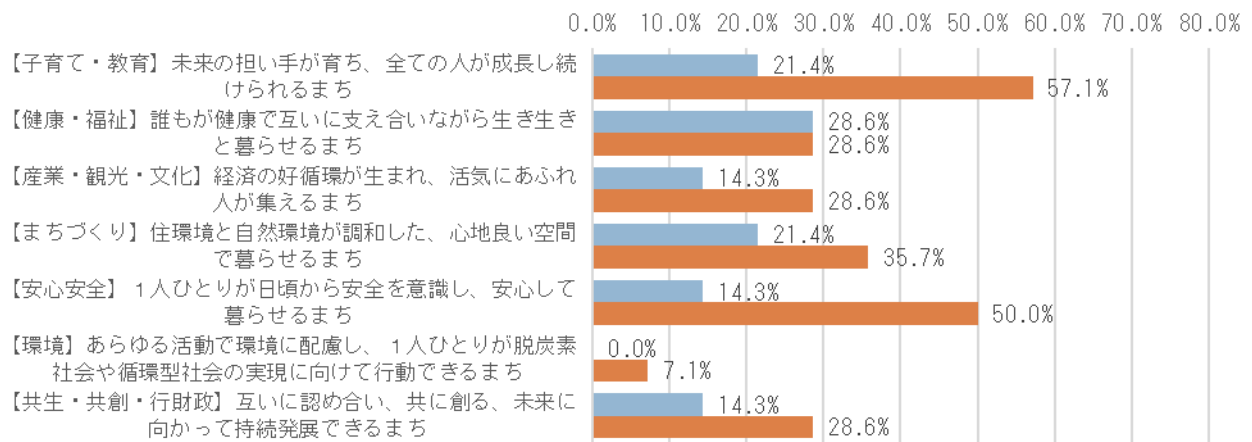
「現在の伊勢崎市」と「将来なっほしい伊勢崎市」の比較（ギャップ）

	現在 (割合)・・・a	将来 (割合)・・・b	ギャップ ・・・(b-a)
【子育て・教育】 未来の担い手が育ち、全ての人が成長し続けられるまち	20.2%	53.3%	33.0%
【健康・福祉】 誰もが健康で互いに支え合いながら生き生きと暮らせるまち	25.5%	53.5%	28.0%
【産業・観光・文化】 経済の好循環が生まれ、活気にあふれ人が集えるまち	18.8%	44.6%	25.8%
【まちづくり】 住環境と自然環境が調和した、心地良い空間で暮らせるまち	38.1%	38.3%	0.2%
【安心安全】 1人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らせるまち	22.7%	54.0%	31.3%
【環境】 あらゆる活動で環境に配慮し、1人ひとりが脱炭素社会や循環型社会の実現に向けて行動できるまち	7.5%	26.5%	19.0%
【共生・共創・行財政】 互いに認め合い、共に創る、未来に向かって持続発展できるまち	12.8%	35.9%	23.1%



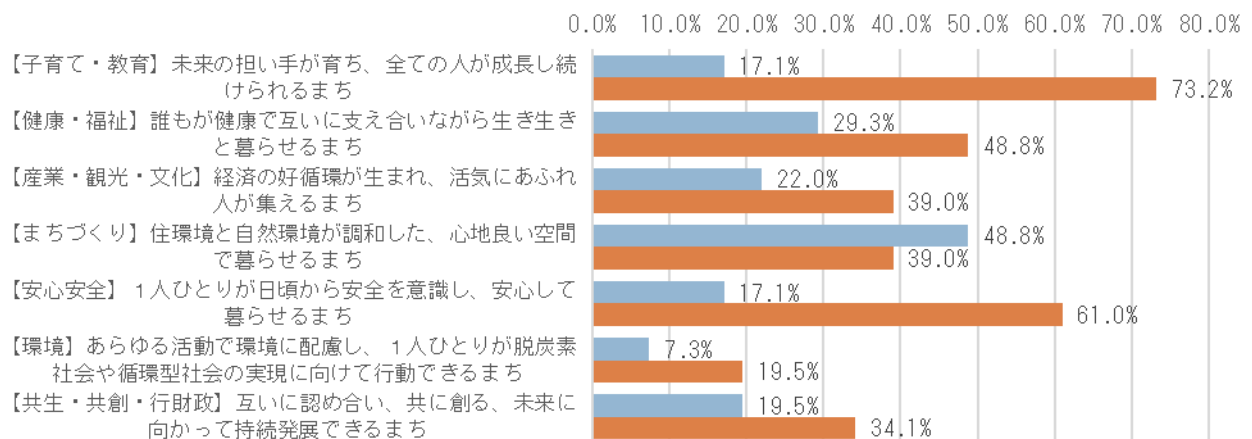
年代別の「現在の伊勢崎市」と「将来なってほしい伊勢崎市」の比較（ギャップ）

18～29歳



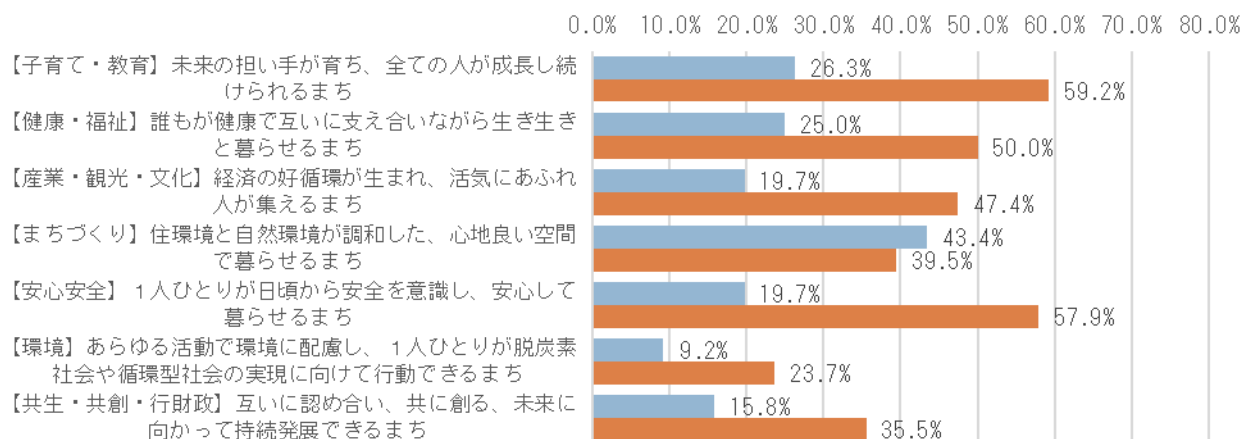
■現在の伊勢崎市 ■将来なってほしい伊勢崎市

30歳代



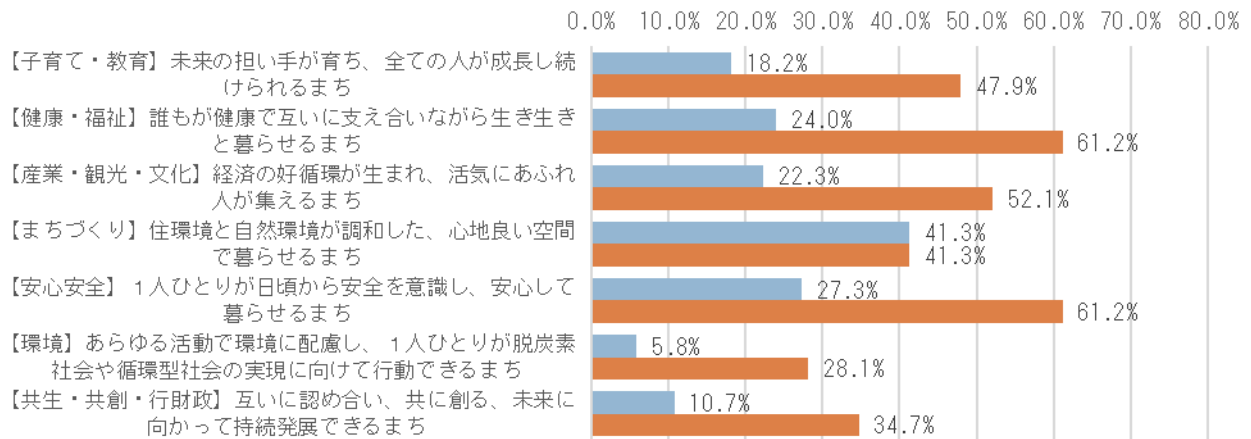
■現在の伊勢崎市 ■将来なってほしい伊勢崎市

40歳代



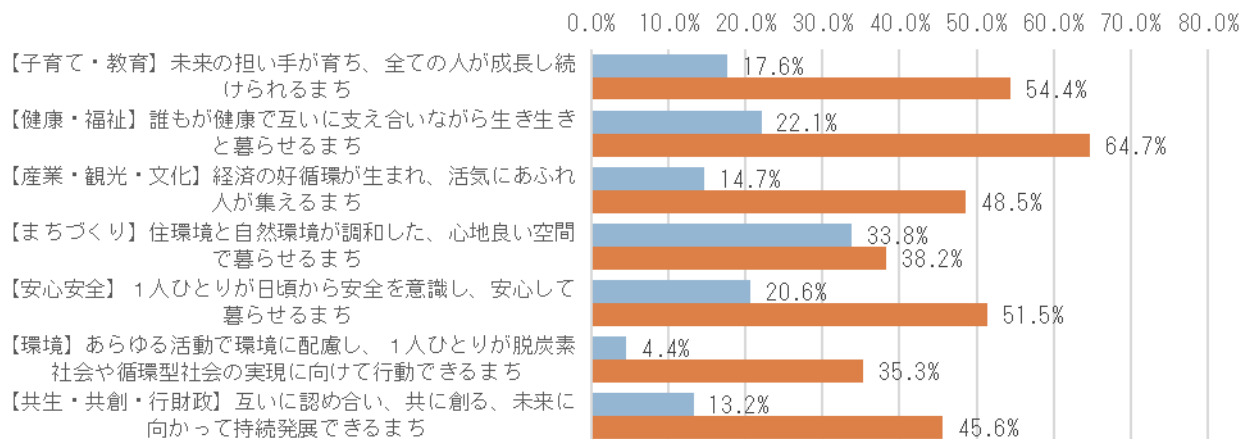
■現在の伊勢崎市 ■将来なってほしい伊勢崎市

50歳代



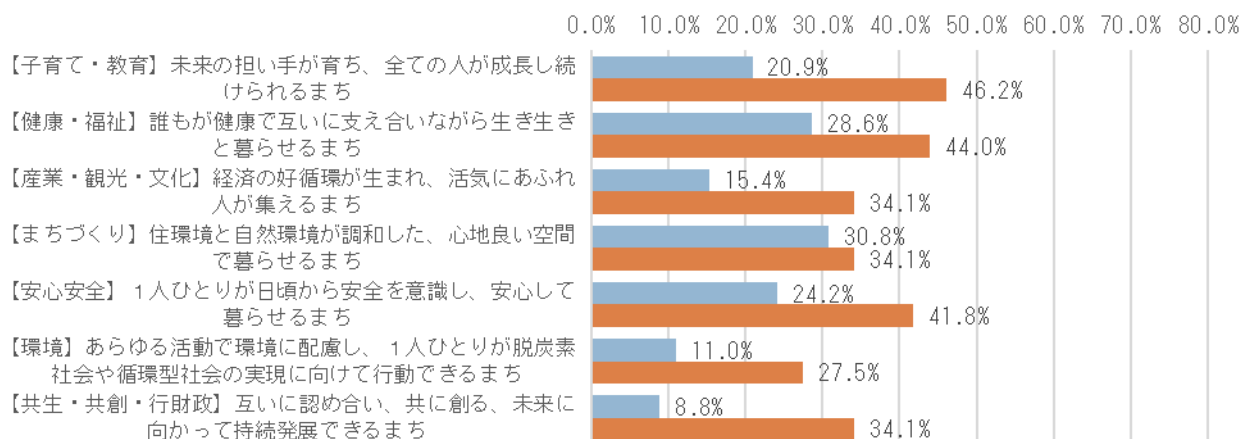
■ 現在の伊勢崎市 ■ 将来なっほしい伊勢崎市

60歳代



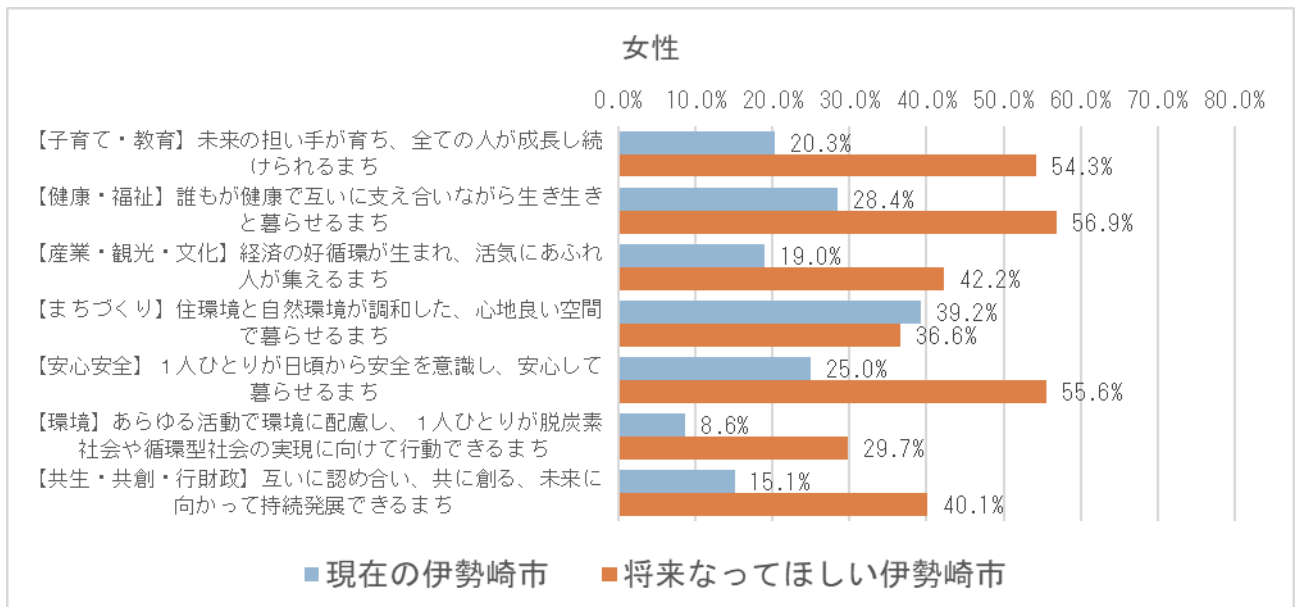
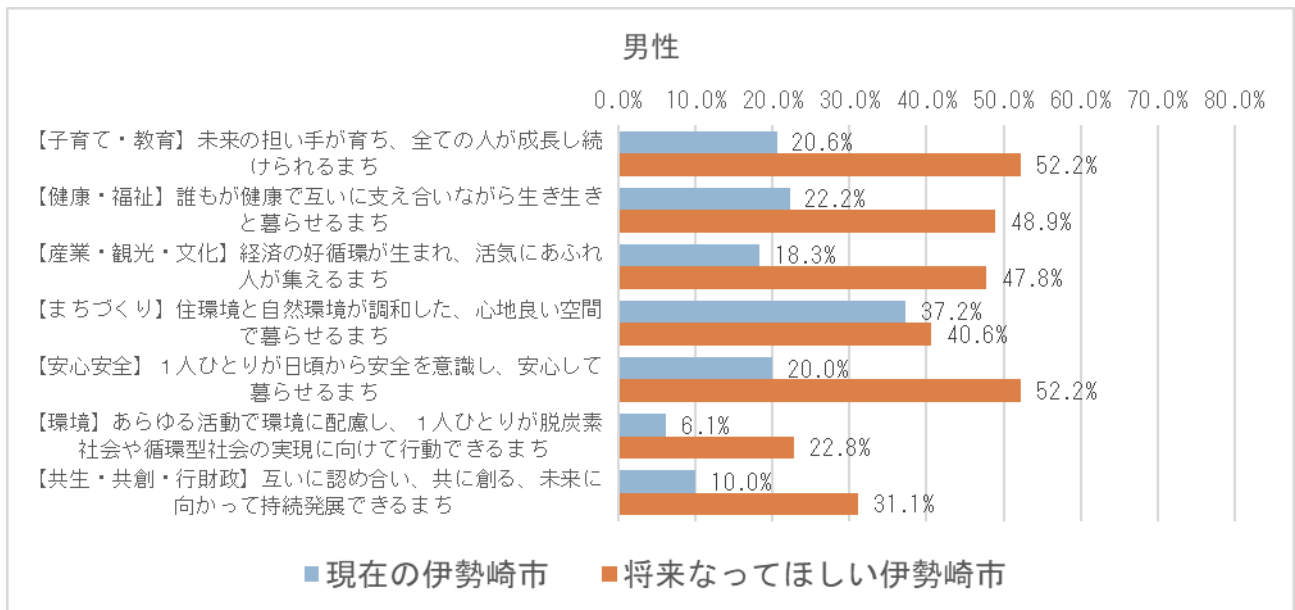
■ 現在の伊勢崎市 ■ 将来なっほしい伊勢崎市

70歳以上



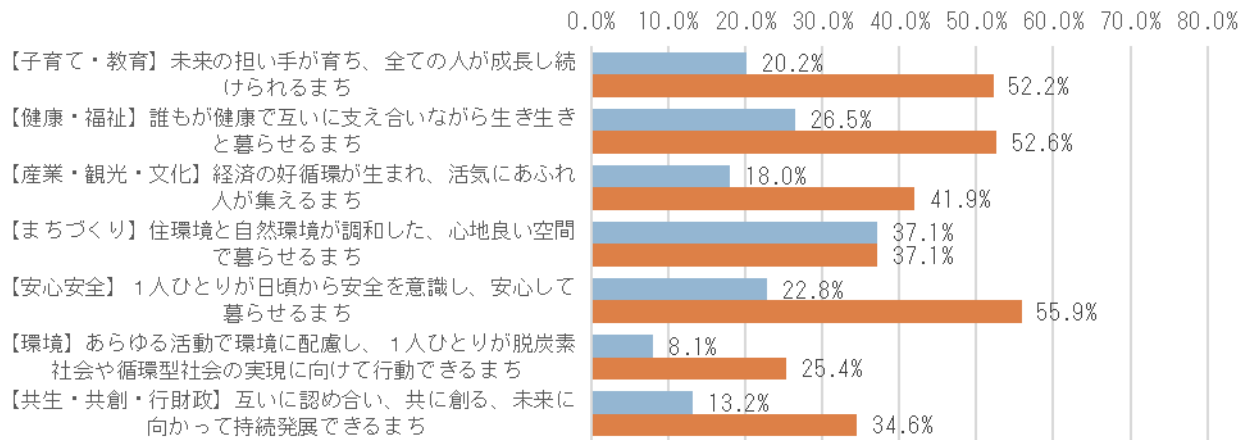
■ 現在の伊勢崎市 ■ 将来なっほしい伊勢崎市

男女別の「現在の伊勢崎市」と「将来なってほしい伊勢崎市」の比較（ギャップ）



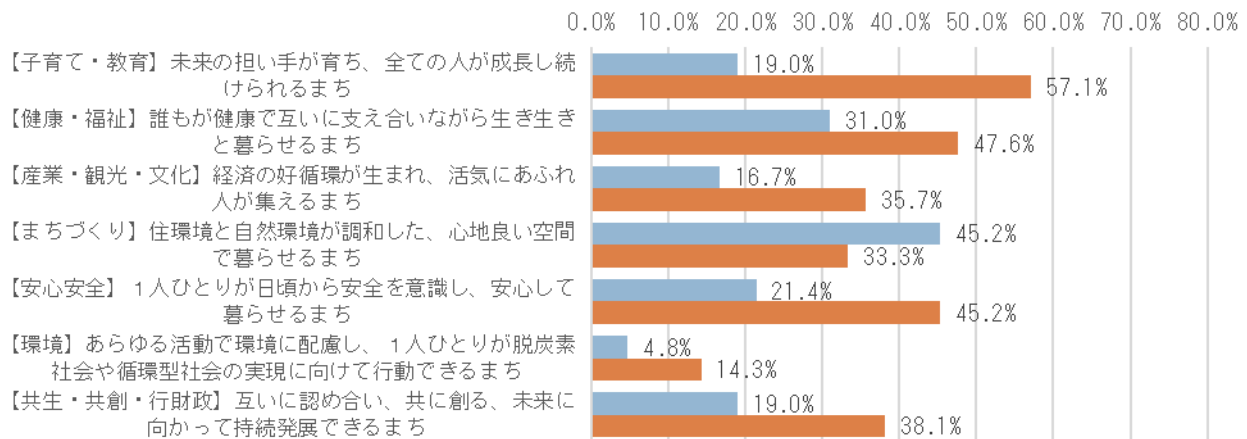
地区別の「現在の伊勢崎市」と「将来なってほしい伊勢崎市」の比較（ギャップ）

伊勢崎地区



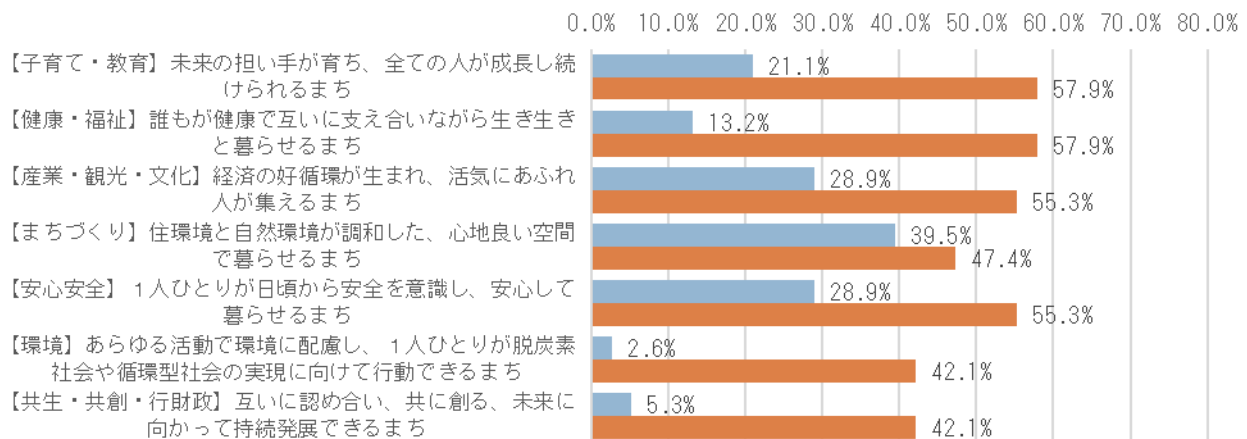
■現在の伊勢崎市 ■将来なってほしい伊勢崎市

赤堀地区

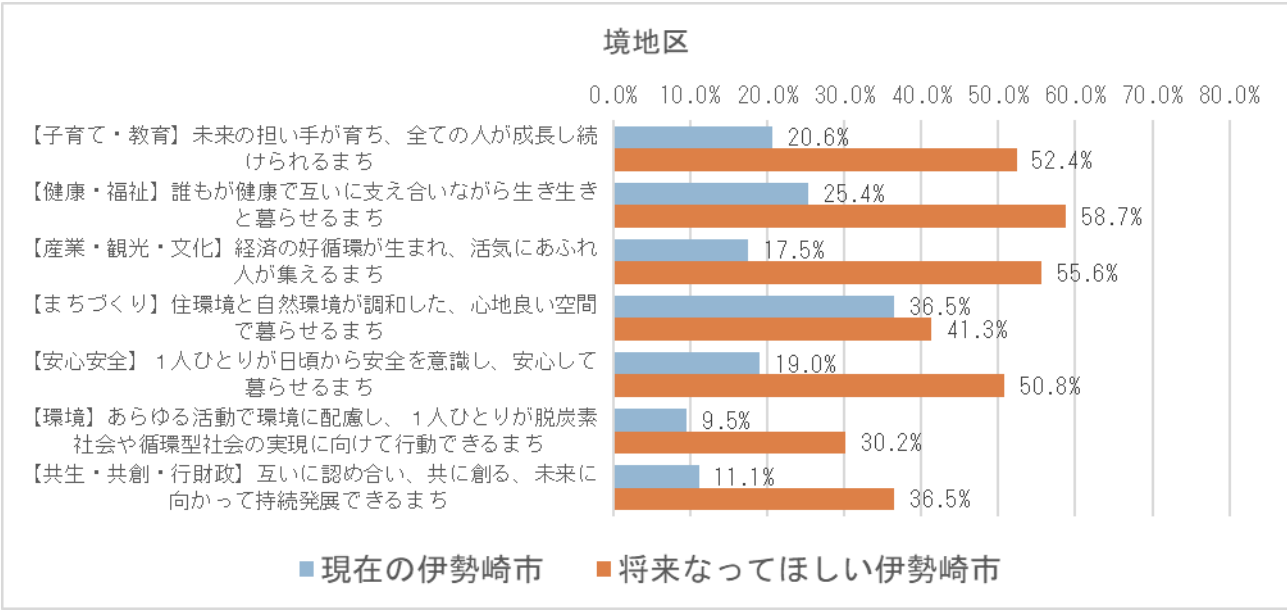


■現在の伊勢崎市 ■将来なってほしい伊勢崎市

東地区



■現在の伊勢崎市 ■将来なってほしい伊勢崎市



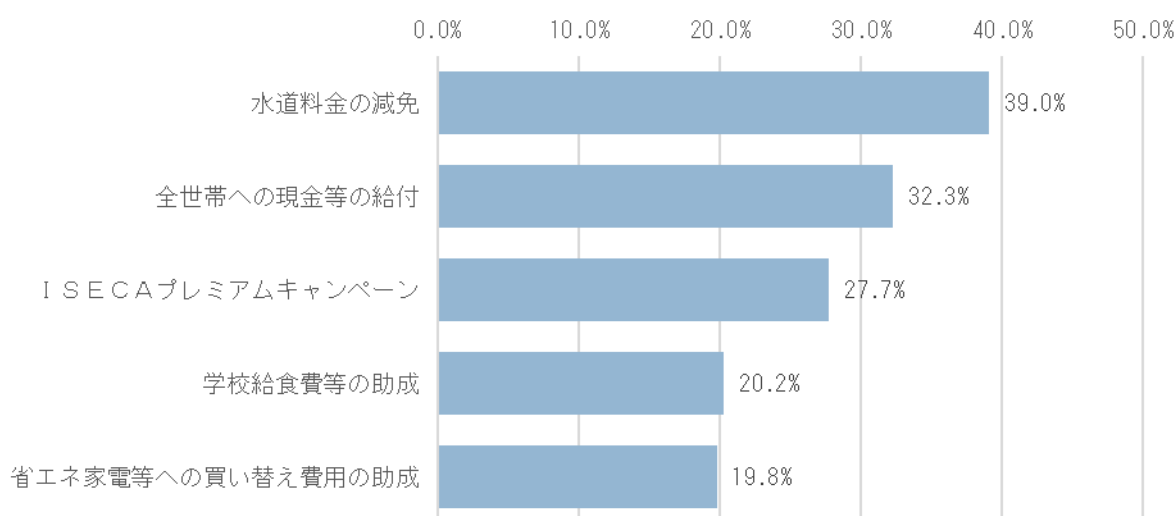
（１７）今後、市に実施してほしい取組

コロナ禍から続く物価高騰に対し、国の交付金を活用して伊勢崎市でも様々な支援策を実施してきたが、今後、市に実施してほしい取組について聞いたところ、「水道料金の減免」と回答した人が最も多く、162人(39.0%)となっている。以下、「全世帯への現金等の給付」が134人(32.3%)、「I S E C Aプレミアムキャンペーン」が115人(27.7%)と続いている。

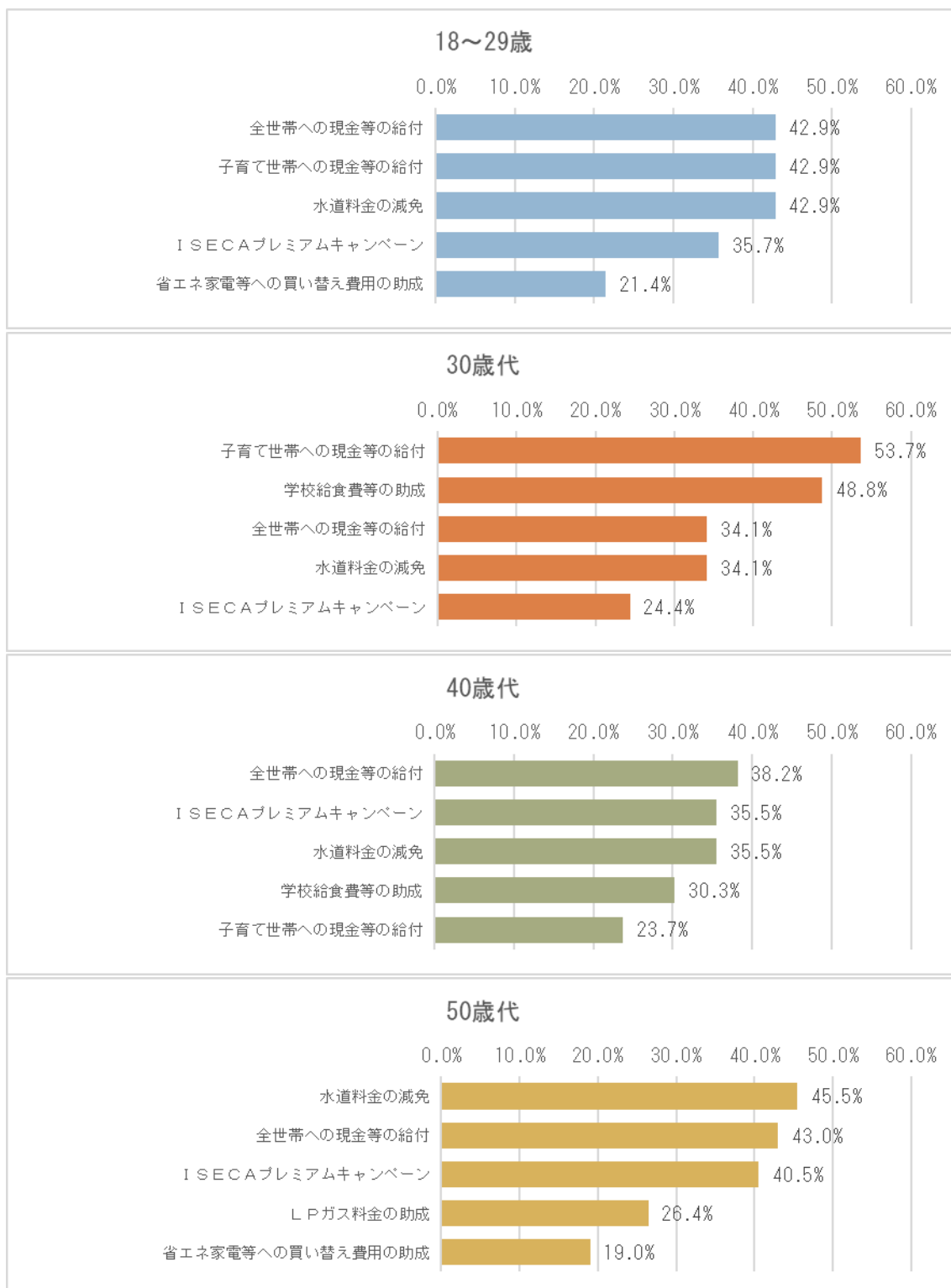
「市に実施してほしい取組」についての回答【複数回答】

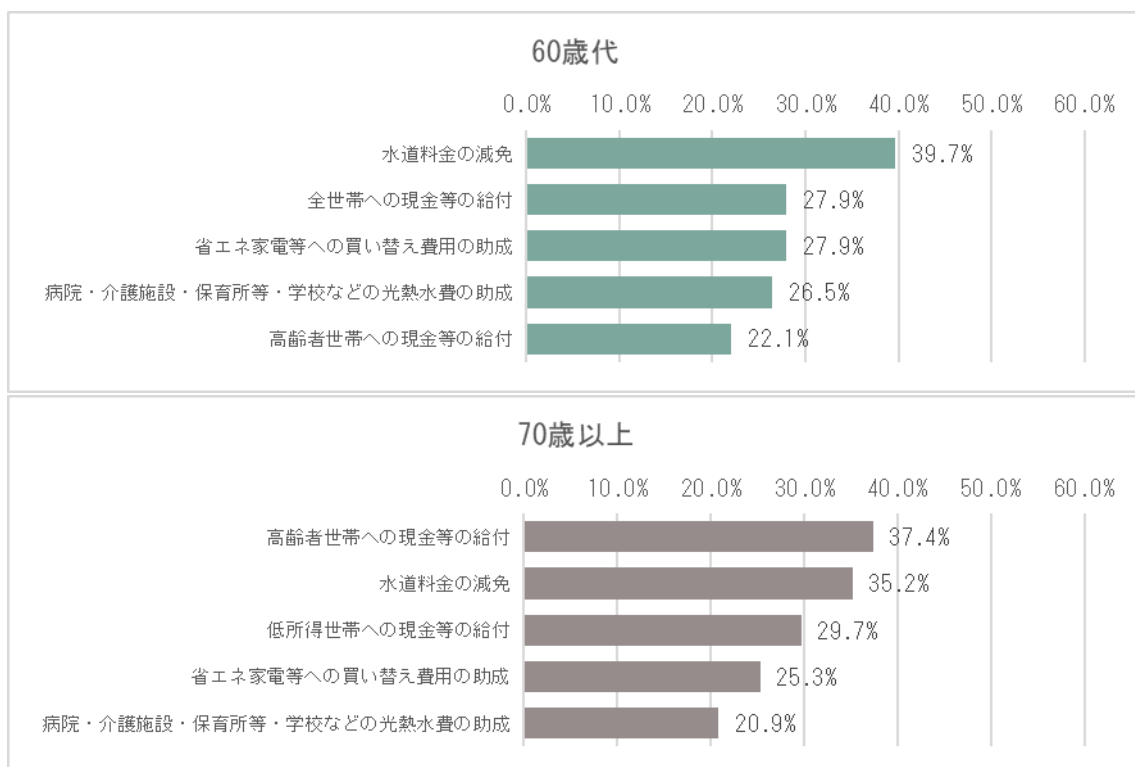
	回答数	回答数
水道料金の減免	162	39.0%
全世帯への現金等の給付	134	32.3%
I S E C Aプレミアムキャンペーン	115	27.7%
学校給食費等の助成	84	20.2%
省エネ家電等への買い替え費用の助成	82	19.8%
子育て世帯への現金等の給付	81	19.5%
L P ガス料金の助成	81	19.5%
病院・介護施設・保育所等・学校などの光熱水費の助成	71	17.1%
高齢者世帯への現金等の給付	68	16.4%
低所得世帯への現金等の給付	64	15.4%
農業者・畜産業者への支援（肥料・飼料代の助成）	40	9.6%
運送業者への燃料価格高騰への支援	20	4.8%
中小企業や商店街への電気料の助成	17	4.1%
中小企業の省エネ機器等導入費用の助成	6	1.4%
その他	22	5.3%

「市に実施してほしい取組」についての回答の上位５項目（割合）【複数回答】

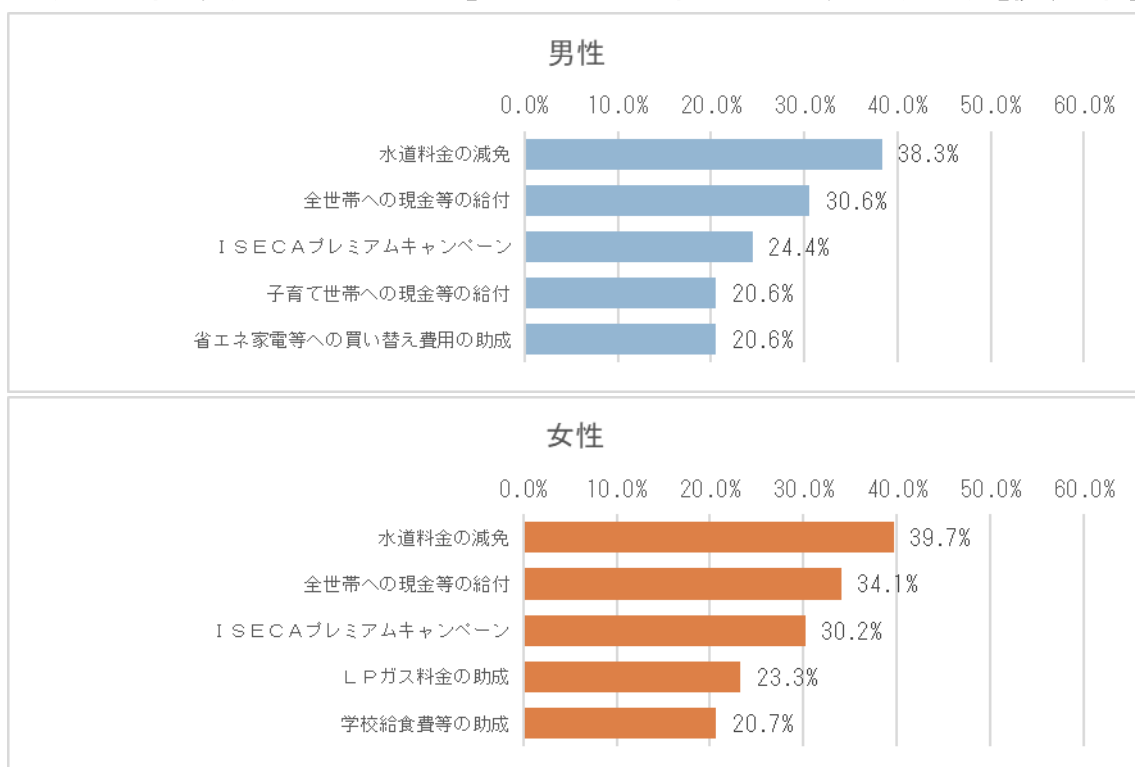


年代別の「市に実施してほしい取組」についての回答の上位5項目（割合）【複数回答】

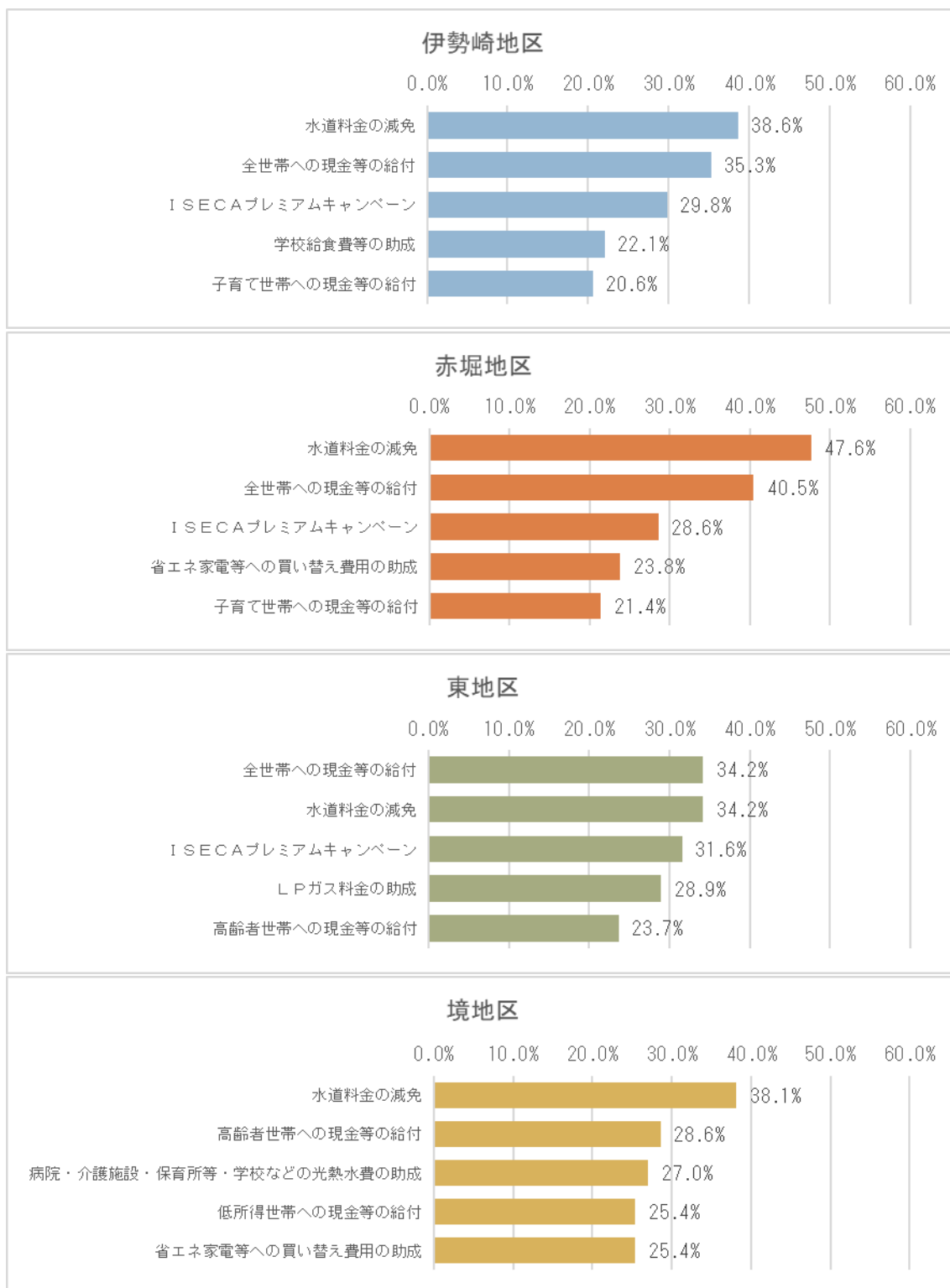




男女別の「市に実施してほしい取組」についての回答の上位5項目（割合）【複数回答】



地区別の「市に実施してほしい取組」についての回答の上位5項目（割合）【複数回答】



◆「その他」の回答（主なもの）

- ・ 減税
- ・ 保育料の減免・免除
- ・ 高齢者が働ける環境づくり
- ・ 求職者の資格取得費用の支援

5 市の取組についての評価

第3次伊勢崎市総合計画前期アクションプランの重点プロジェクトとして施策横断的に推進する、「少子高齢化対策」、「産業の活性化」、「暮らしの安心の実現」、「共生社会の実現」、「DXの推進」及び「SDGsの推進（いせさきGX※の推進）」に関する取組についての満足度と、今後力を入れてほしい取組について調査を行った。

市の取組についての満足度

「満足度」については、「満足」を5点とし、以下「どちらかといえば満足」を4点、「どちらともいえない」を3点、「どちらかといえば不満」を2点、「不満」を1点として平均値を算出した。各項目への回答が同数であった場合、平均得点は3.00点となる。

「満足度割合」については、「満足」と「どちらかといえば満足」を「満足」とし、「不満」と「どちらかといえば不満」を「不満」として回答の割合を算出している。

なお、「満足度」を算出するにあたっては、無回答を除いた有効回答数を基礎数としている。

全体の満足度の平均は3.00点で、最も満足度が高かった施策は、「【暮らしの安心実現】防災力の向上」の3.16点、最も満足度が低かった施策は、「【暮らしの安心実現】防犯体制の強化・交通安全対策の推進」の2.70点となった。

各プロジェクトの詳細はP87～P150を参照。

「市の取組」についての満足度【プロジェクトごと】

重点プロジェクト	満足度 (平均値)	順位
全体	3.00	—
SDGsの推進（いせさきGXの推進）	3.06	1
共生社会実現	3.03	2
DXの推進	3.01	3
少子高齢化対策	3.00	4
産業の活性化	2.95	5
暮らしの安心実現	2.94	6

※いせさきGX：「脱炭素に限定せず、一般的な環境問題への対応として、あらゆる主体が進める全ての取組を環境配慮という観点から検討・実行するもの。」

「市の取組」についての満足度【取組ごと】

重点プロジェクト	取組	満足度	順位
暮らしの安心実現	防災力の向上	3.16	1
SDGsの推進 (いせさきGXの推進)	循環型社会の推進	3.12	2
DXの推進	デジタル基盤の整備	3.11	3
共生社会実現	多文化理解の促進とグローバル人材の育成	3.09	4
SDGsの推進 (いせさきGXの推進)	自然環境の保全	3.06	5
少子高齢化対策	全ての市民が元気に活躍できる環境づくり	3.01	6
少子高齢化対策	結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現	3.01	6
共生社会実現	多様な人材が活躍できる環境づくり	3.01	6
DXの推進	デジタル人材の育成・確保	3.00	9
SDGsの推進 (いせさきGXの推進)	脱炭素社会の推進	2.99	10
産業の活性化	産業の競争力強化	2.99	10
少子高齢化対策	地域の未来を担う人材育成	2.98	12
共生社会実現	外国人への支援体制の構築	2.98	12
暮らしの安心実現	都市環境・交通網・インフラの整備	2.97	14
産業の活性化	労働環境の向上と雇用確保の支援	2.93	15
産業の活性化	関係人口の創出と地方居住の推進	2.93	15
DXの推進	誰一人取り残さないための取組	2.91	17
暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.70	18

年代別の「市の取組」についての満足度

18～29 歳（平均満足度：3.04）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	暮らしの安心実現	防災力の向上	3.36
	2	D X の推進	デジタル人材の育成・確保	3.21
	2	D X の推進	誰一人取り残さないための取組	3.21
	2	S D G s の推進 (いせさき G X の推進)	循環型社会の推進	3.21
下位	3	産業の活性化	関係人口の創出と地方居住の推進	2.79
	1	少子高齢化対策	結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現	2.71
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.71

30 歳代（平均満足度：3.03）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	共生社会実現	多文化理解の促進とグローバル人材の育成	3.29
	2	共生社会実現	多様な人材が活躍できる環境づくり	3.22
	3	少子高齢化対策	全ての市民が元気に活躍できる環境づくり	3.20
下位	3	産業の活性化	関係人口の創出と地方居住の推進	2.88
	2	少子高齢化対策	結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現	2.78
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.73

40 歳代（平均満足度：2.95）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	暮らしの安心実現	防災力の向上	3.19
	2	S D G s の推進 (いせさき G X の推進)	自然環境の保全	3.15
	3	少子高齢化対策	結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現	3.08
下位	3	D X の推進	誰一人取り残さないための取組	2.78
	2	産業の活性化	労働環境の向上と雇用確保の支援	2.76
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.62

50 歳代（平均満足度：3.02）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	暮らしの安心実現	防災力の向上	3.20
	2	D X の推進	デジタル基盤の整備	3.11
	2	S D G s の推進 (いせさき G X の推進)	自然環境の保全	3.11
下位	2	D X の推進	誰一人取り残さないための取組	2.93
	2	共生社会実現	外国人への支援体制の構築	2.93
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.74

60 歳代（平均満足度：2.90）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	S D G s の推進 (いせさき G X の推進)	循環型社会の推進	3.05
	2	少子高齢化対策	結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現	3.02
	3	少子高齢化対策	地域の未来を担う人材育成	3.00
下位	3	暮らしの安心実現	都市環境・交通網・インフラの整備	2.80
	2	D X の推進	誰一人取り残さないための取組	2.74
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.70

70 歳以上（平均満足度：3.08）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	D X の推進	デジタル基盤の整備	3.34
	2	S D G s の推進 (いせさき G X の推進)	循環型社会の推進	3.33
	3	共生社会実現	多文化理解の促進とグローバル人材の育成	3.21
下位	3	暮らしの安心実現	都市環境・交通網・インフラの整備	2.98
	2	産業の活性化	関係人口の創出と地方居住の推進	2.97
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.68

男女別の「市の取組」についての満足度

男性（平均満足度：2.95）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	暮らしの安心実現	防災力の向上	3.16
	2	D X の推進	デジタル基盤の整備	3.14
	3	共生社会実現	多文化理解の促進とグローバル人材の育成	3.06
下位	3	暮らしの安心実現	都市環境・交通網・インフラの整備	2.85
	2	産業の活性化	労働環境の向上と雇用確保の支援	2.84
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.63

女性（平均満足度：3.04）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	SDGs の推進 (いせさきGXの推進)	循環型社会の推進	3.21
	2	暮らしの安心実現	防災力の向上	3.16
	3	SDGs の推進 (いせさきGXの推進)	自然環境の保全	3.14
下位	3	産業の活性化	関係人口の創出と地方居住の推進	2.98
	2	D X の推進	誰一人取り残さないための取組	2.93
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.75

地区別の「市の取組」についての満足度

伊勢崎地区（平均満足度：3.00）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	暮らしの安心実現	防災力の向上	3.15
	2	D X の推進	デジタル基盤の整備	3.12
	3	SDGs の推進 (いせさきGXの推進)	循環型社会の推進	3.11
下位	3	産業の活性化	労働環境の向上と雇用確保の支援	2.93
	2	D X の推進	誰一人取り残さないための取組	2.91
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.70

赤堀地区（平均満足度：3.10）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	SDGsの推進 (いせさきGXの推進)	循環型社会の推進	3.35
	2	暮らしの安心実現	防災力の向上	3.33
	3	共生社会実現	多文化理解の促進とグローバル人材の育成	3.29
下位	3	DXの推進	誰一人取り残さないための取組	2.98
	2	暮らしの安心実現	都市環境・交通網・インフラの整備	2.90
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.83

東地区（平均満足度：3.04）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	暮らしの安心実現	防災力の向上	3.41
	2	DXの推進	デジタル基盤の整備	3.27
	3	共生社会実現	外国人への支援体制の構築	3.19
下位	3	産業の活性化	関係人口の創出と地方居住の推進	2.89
	2	産業の活性化	労働環境の向上と雇用確保の支援	2.86
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.84

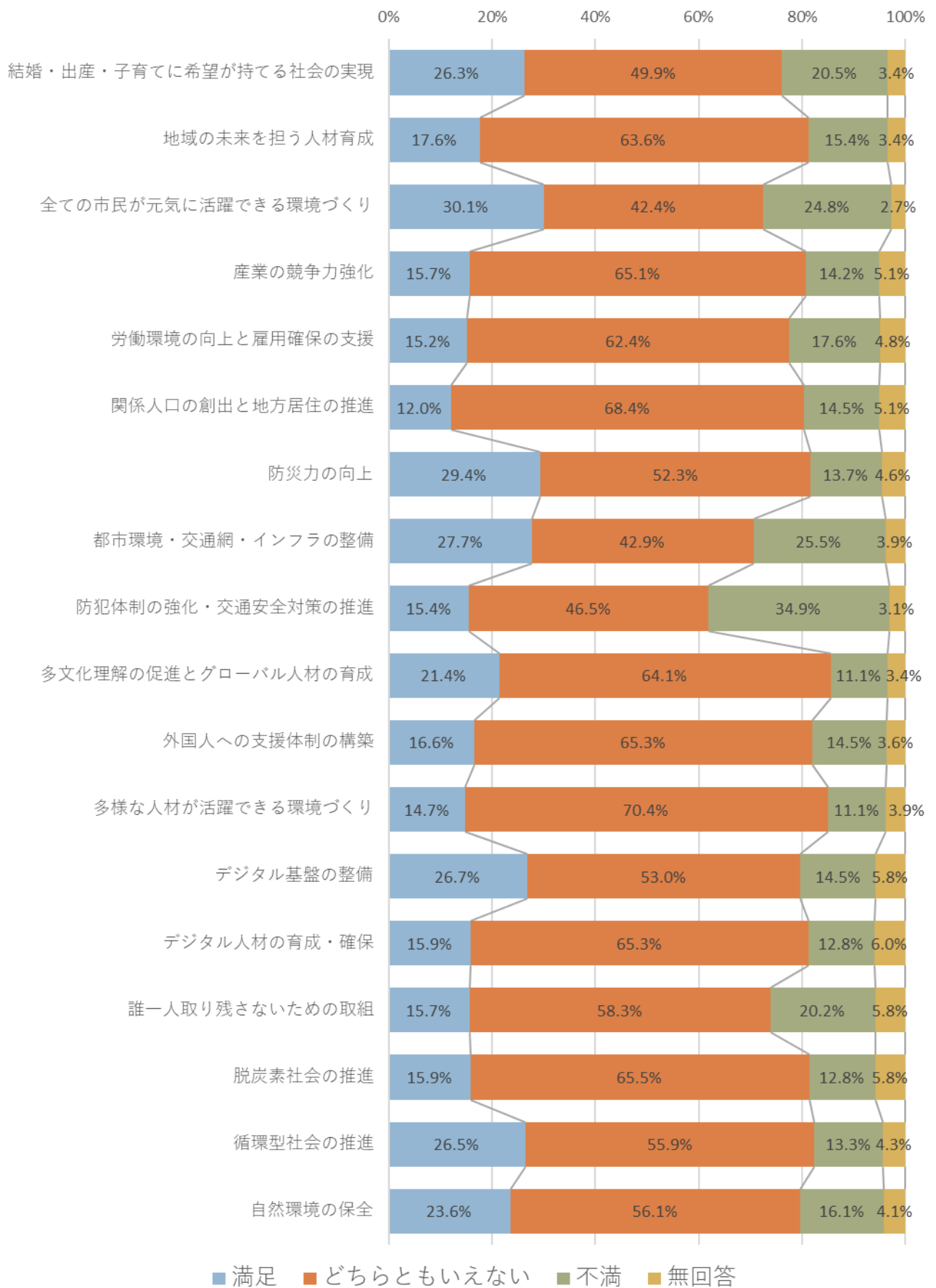
境地区（平均満足度：2.87）

		重点プロジェクト	取組	満足度
上位	1	DXの推進	デジタル基盤の整備	3.02
	2	少子高齢化対策	結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現	3.00
	2	SDGsの推進 (いせさきGXの推進)	循環型社会の推進	3.00
下位	3	DXの推進	誰一人取り残さないための取組	2.78
	2	産業の活性化	関係人口の創出と地方居住の推進	2.72
	1	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	2.51

「市の取組」についての満足度割合

重点プロジェクト	取組	満足	どちらとも いえない	不満	無回答	順位
少子高齢化対策	結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現	26.3%	49.9%	20.5%	3.4%	6
	地域の未来を担う人材育成	17.6%	63.6%	15.4%	3.4%	9
	全ての市民が元気に活躍できる環境づくり	30.1%	42.4%	24.8%	2.7%	1
産業の活性化	産業の競争力強化	15.7%	65.1%	14.2%	5.1%	13
	労働環境の向上と雇用確保の支援	15.2%	62.4%	17.6%	4.8%	16
	関係人口の創出と地方居住の推進	12.0%	68.4%	14.5%	5.1%	18
暮らしの 安心実現	防災力の向上	29.4%	52.3%	13.7%	4.6%	2
	都市環境・交通網・インフラの整備	27.7%	42.9%	25.5%	3.9%	3
	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	15.4%	46.5%	34.9%	3.1%	15
共生社会の実現	多文化理解の促進とグローバル人材の育成	21.4%	64.1%	11.1%	3.4%	8
	外国人への支援体制の構築	16.6%	65.3%	14.5%	3.6%	10
	多様な人材が活躍できる環境づくり	14.7%	70.4%	11.1%	3.9%	17
D X の推進	デジタル基盤の整備	26.7%	53.0%	14.5%	5.8%	4
	デジタル人材の育成・確保	15.9%	65.3%	12.8%	6.0%	11
	誰一人取り残さないための取組	15.7%	58.3%	20.2%	5.8%	13
S D G s の推進 (いせさきG X の推進)	脱炭素社会の推進	15.9%	65.5%	12.8%	5.8%	11
	循環型社会の推進	26.5%	55.9%	13.3%	4.3%	5
	自然環境の保全	23.6%	56.1%	16.1%	4.1%	7

「市の取組」についての満足度（割合）



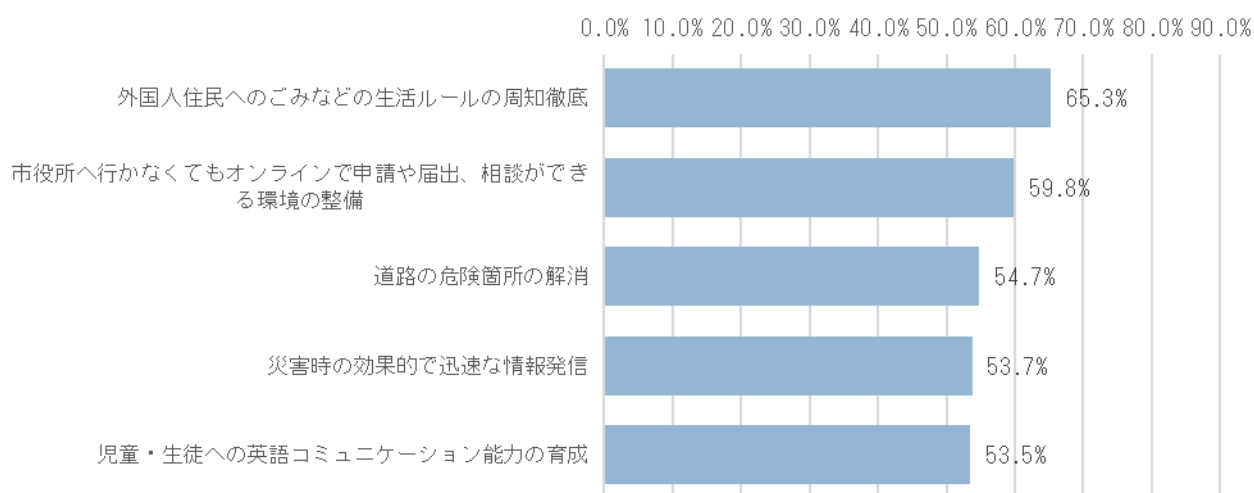
今後、力を入れてほしい取組

今後、特に力を入れてほしい取組を聞いたところ、「【共生社会実現】外国人住民へのごみなどの生活ルールの周知徹底」と答えた人が65.3%で最も高くなった。以下、「【ＤＸ推進】市役所へ行かなくてもオンラインで申請や届出、相談ができる環境の整備」が59.8%、「【暮らしの安心実現】道路の危険箇所の解消」が54.7%、「【暮らしの安心実現】災害時の効果的で迅速な情報発信」が53.7%、「【共生社会実現】児童・生徒への英語コミュニケーション能力の育成」が53.5%となっている。
各プロジェクトの詳細はP87～P150を参照。

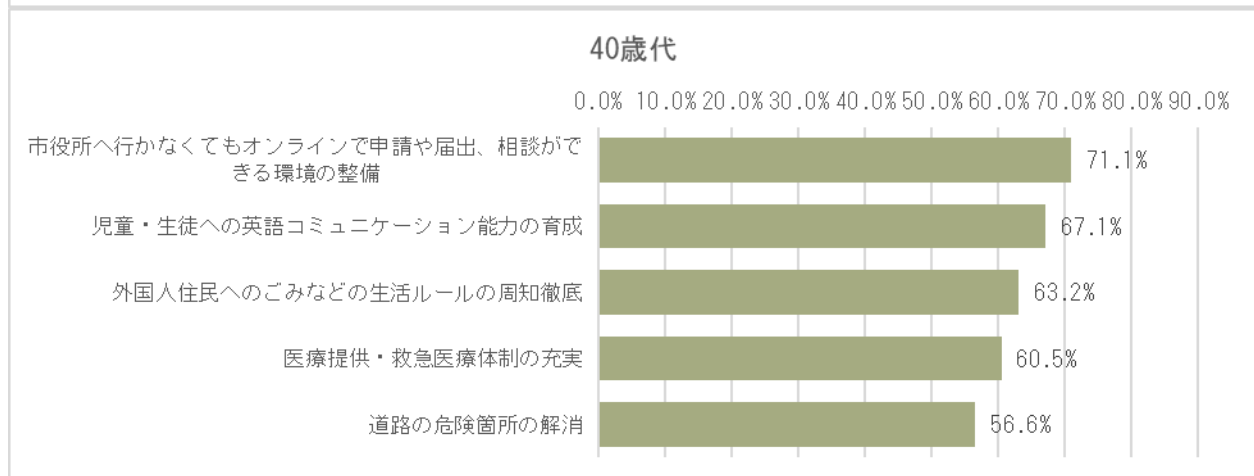
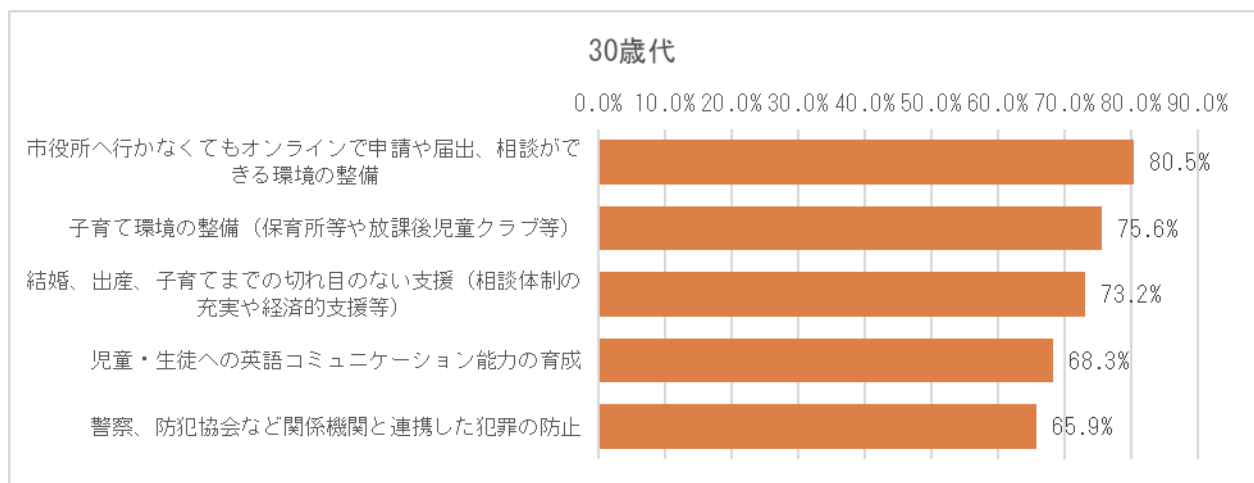
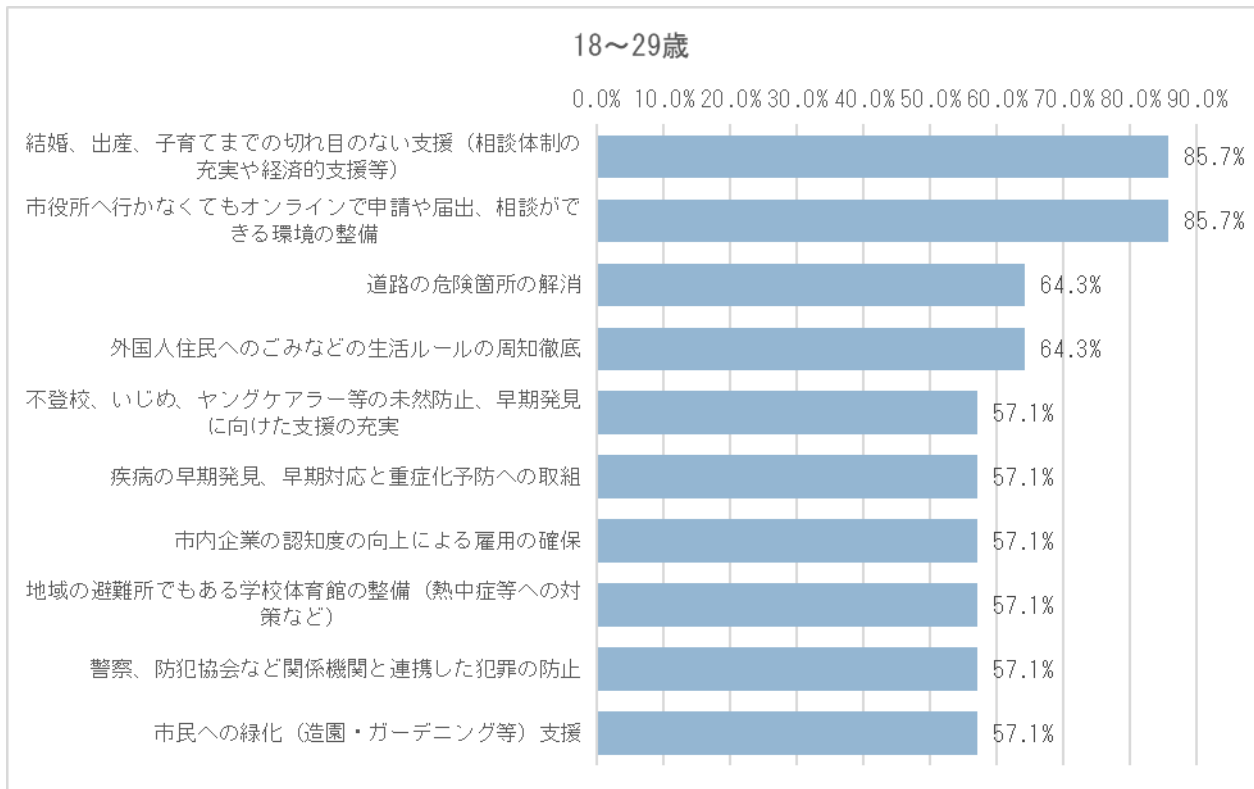
「今後、特に力を入れてほしい取組」の回答の上位5項目

	重点プロジェクト	取組	具体的な取組	割合
1	共生社会実現	外国人への支援体制の構築	外国人住民へのごみなどの生活ルールの周知徹底	65.3%
2	ＤＸ推進	デジタル基盤の整備	市役所へ行かなくてもオンラインで申請や届出、相談ができる環境の整備	59.8%
3	暮らしの安心実現	防犯体制の強化・交通安全対策の推進	道路の危険箇所の解消	54.7%
4	暮らしの安心実現	防災力の向上	災害時の効果的で迅速な情報発信	53.7%
5	共生社会実現	多文化理解の促進とグローバル人材の育成	児童・生徒への英語コミュニケーション能力の育成	53.5%

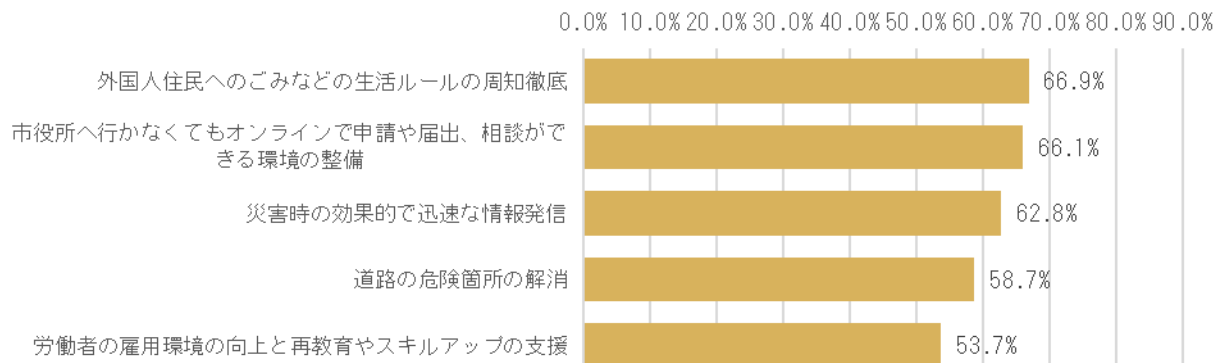
「今後、特に力を入れてほしい取組」の回答の上位5項目（割合）



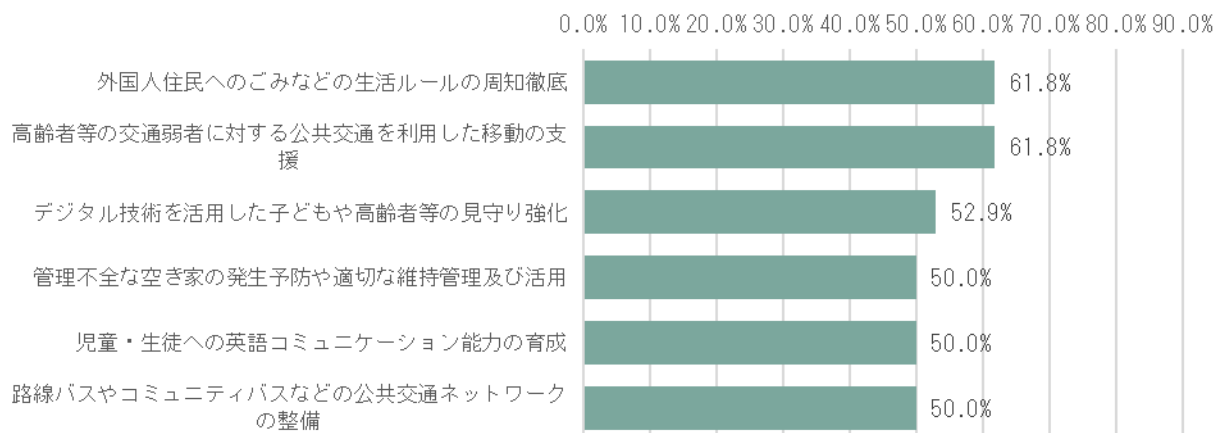
年代別の「今後、特に力を入れてほしい取組」の回答の上位5項目（割合）



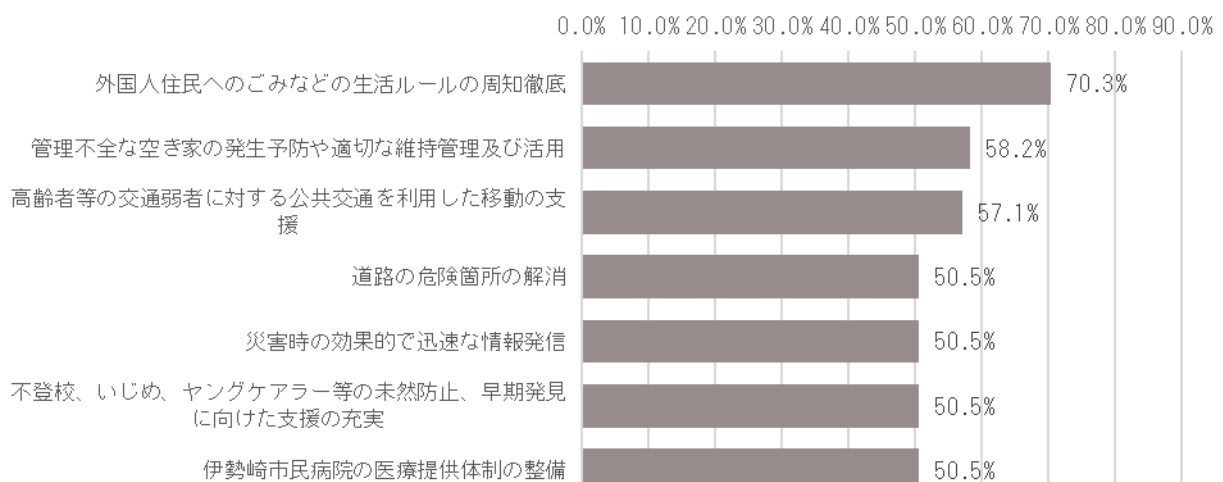
50歳代



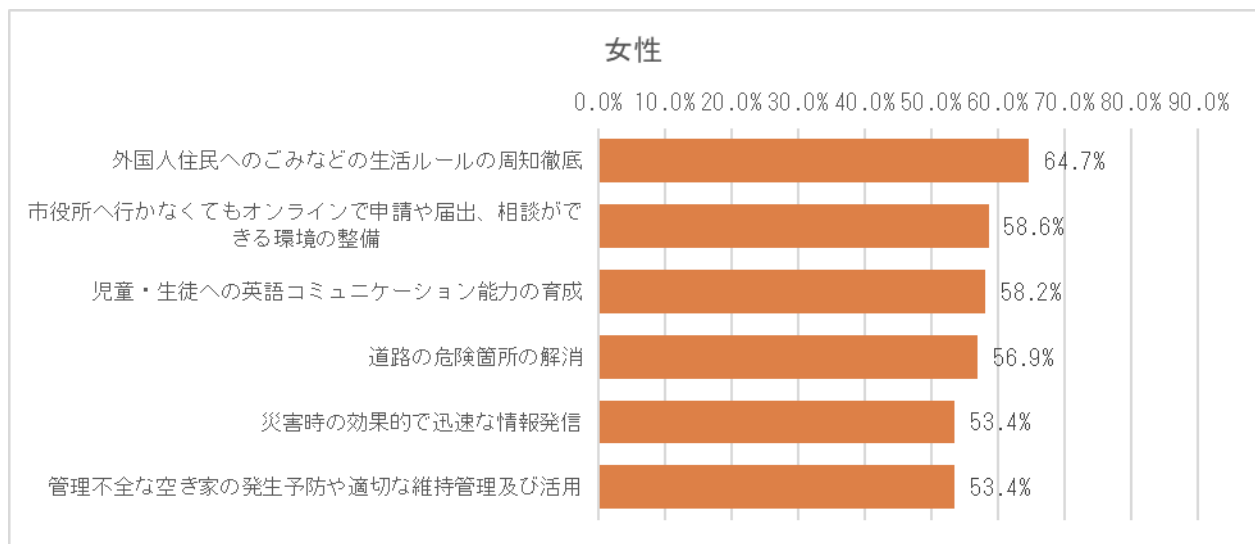
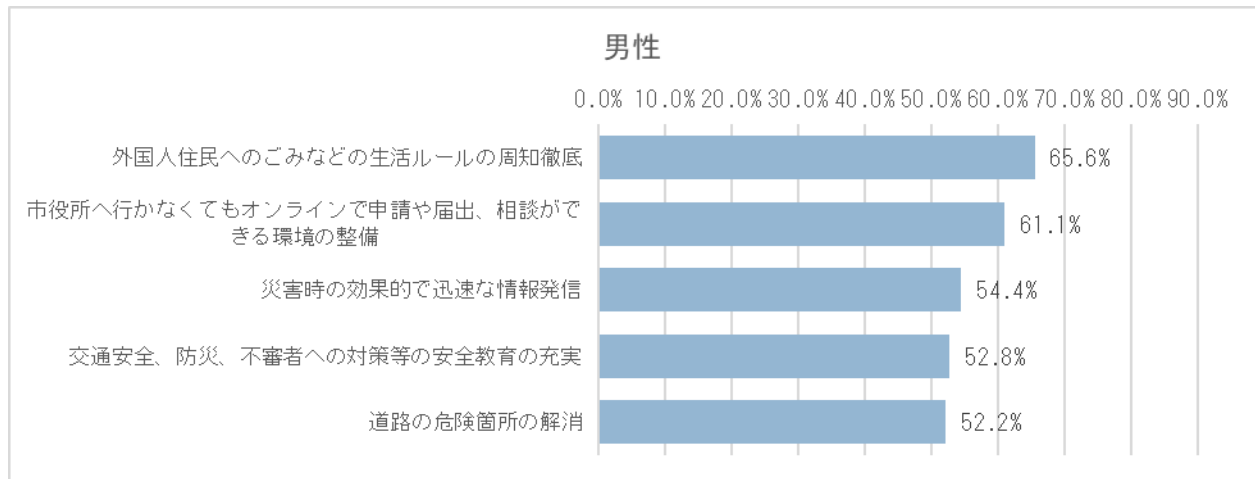
60歳代



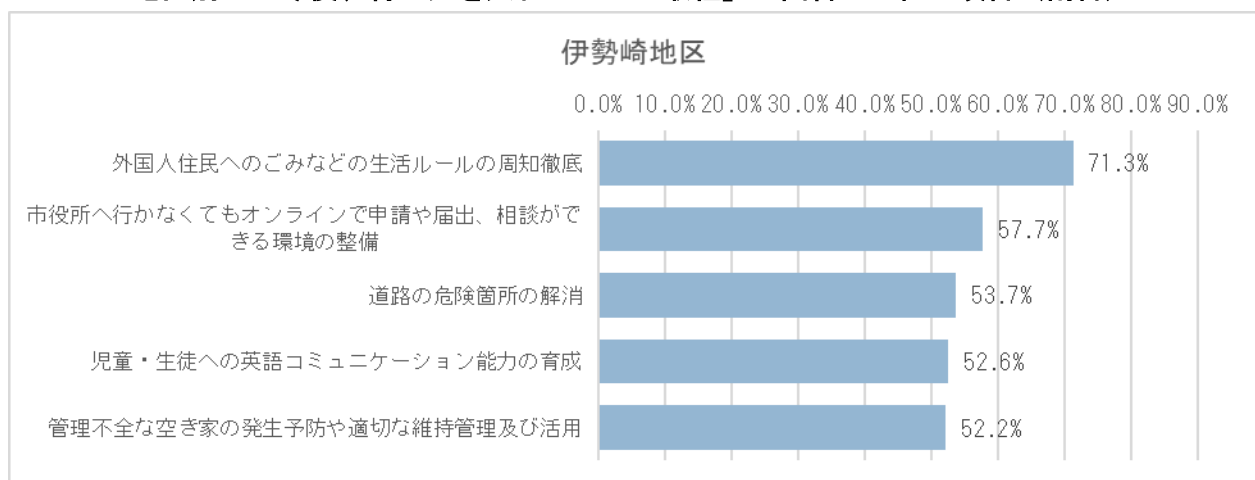
70歳以上



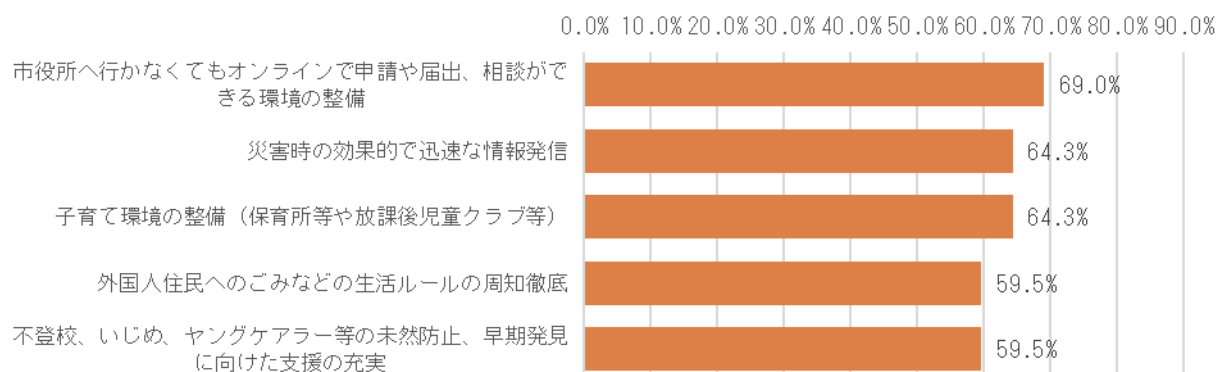
男女別の「今後、特に力を入れてほしい取組」の回答の上位5項目（割合）



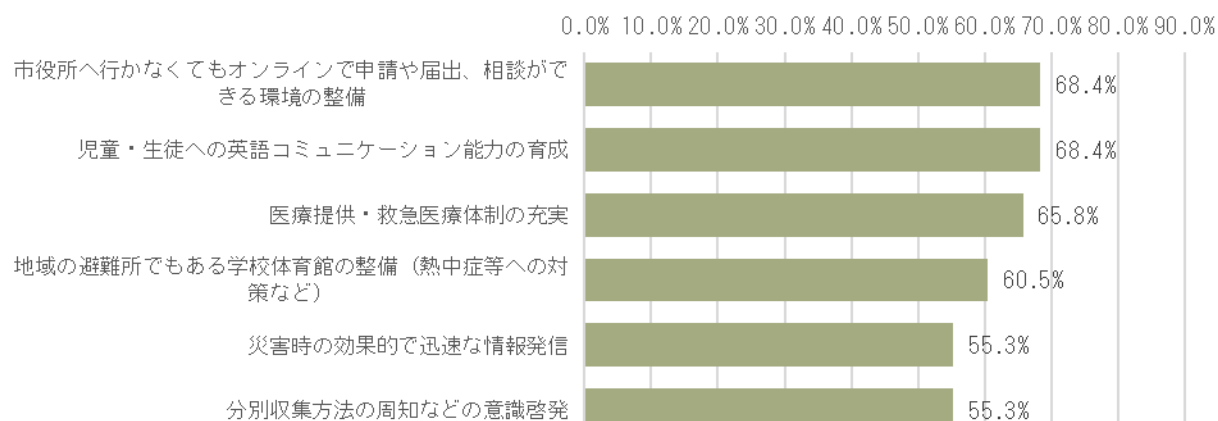
地区別の「今後、特に力を入れてほしい取組」の回答の上位5項目（割合）



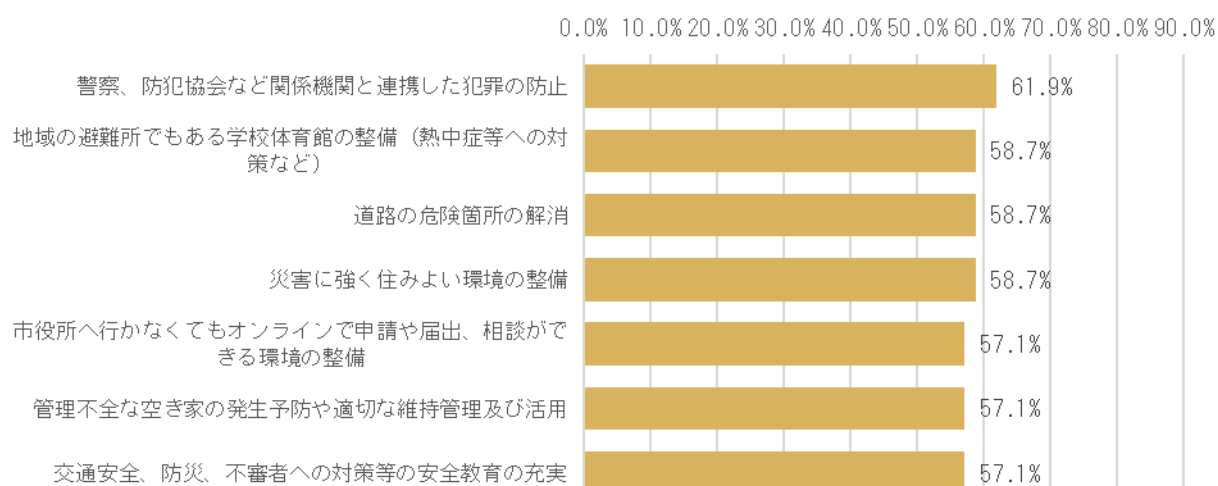
赤堀地区



東地区



境地区

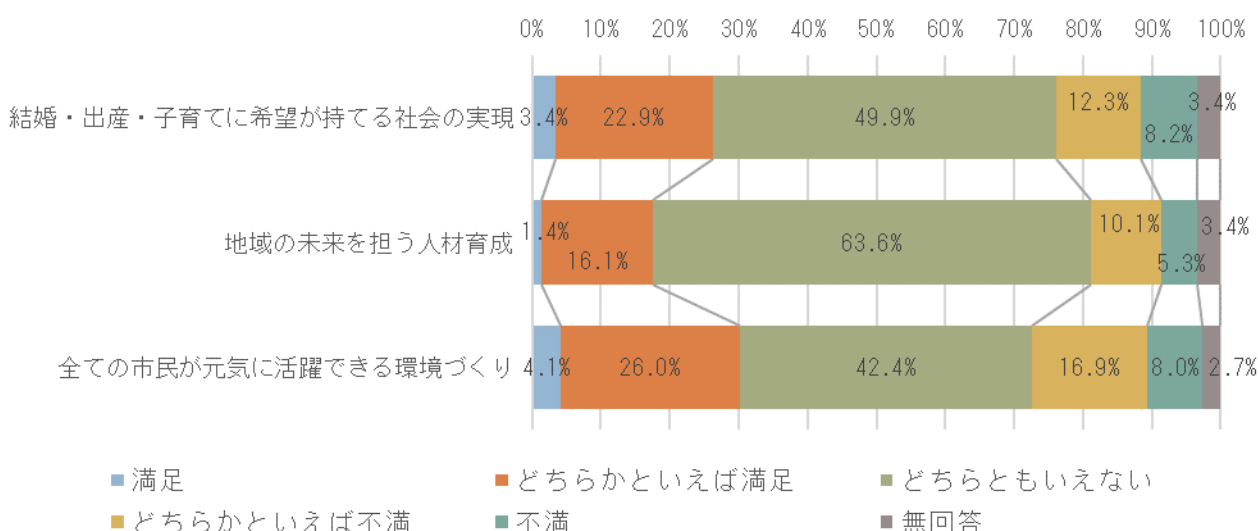


（１８）「少子高齢化対策」に関する取組への満足度

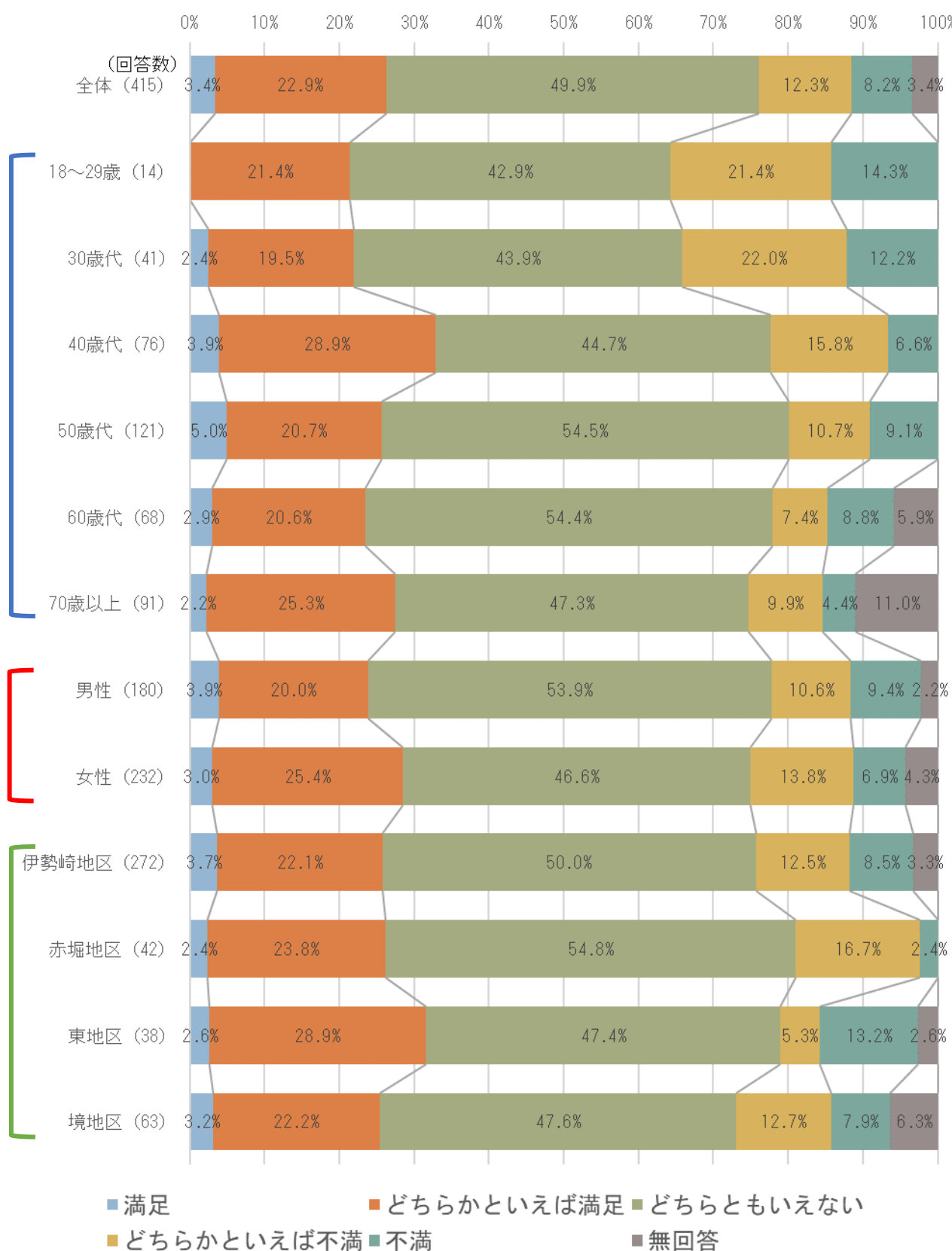
少子高齢化対策に関する取組への満足度を聞いたところ、「結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は26.3%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は20.5%であり、満足度は、3.01（全体の7位）であった。「地域の未来を担う人材育成」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は17.6%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は15.4%であり、満足度は、2.98（全体の12位）であった。「全ての市民が元気に活躍できる環境づくり」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は30.1%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は24.8%であり、満足度は、3.01（全体の6位）であった。

取組	具体的な取組	満足度		満足度割合	
		平均値	順位	満足	不満
結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現	妊娠・出産・子育ての支援の充実、保育施設・体制の整備など	3.01	7	26.3%	20.5%
地域の未来を担う人材育成	伊勢崎市独自の教育プログラムの推進、地域と学校の協働による教育、生徒の夢の実現を図るキャリア教育の充実など	2.98	12	17.6%	15.4%
全ての市民が元気に活躍できる環境づくり	健康管理意識の啓発、休日夜間急患センター体制の維持整備、公共交通機関の利用促進など	3.01	6	30.1%	24.8%

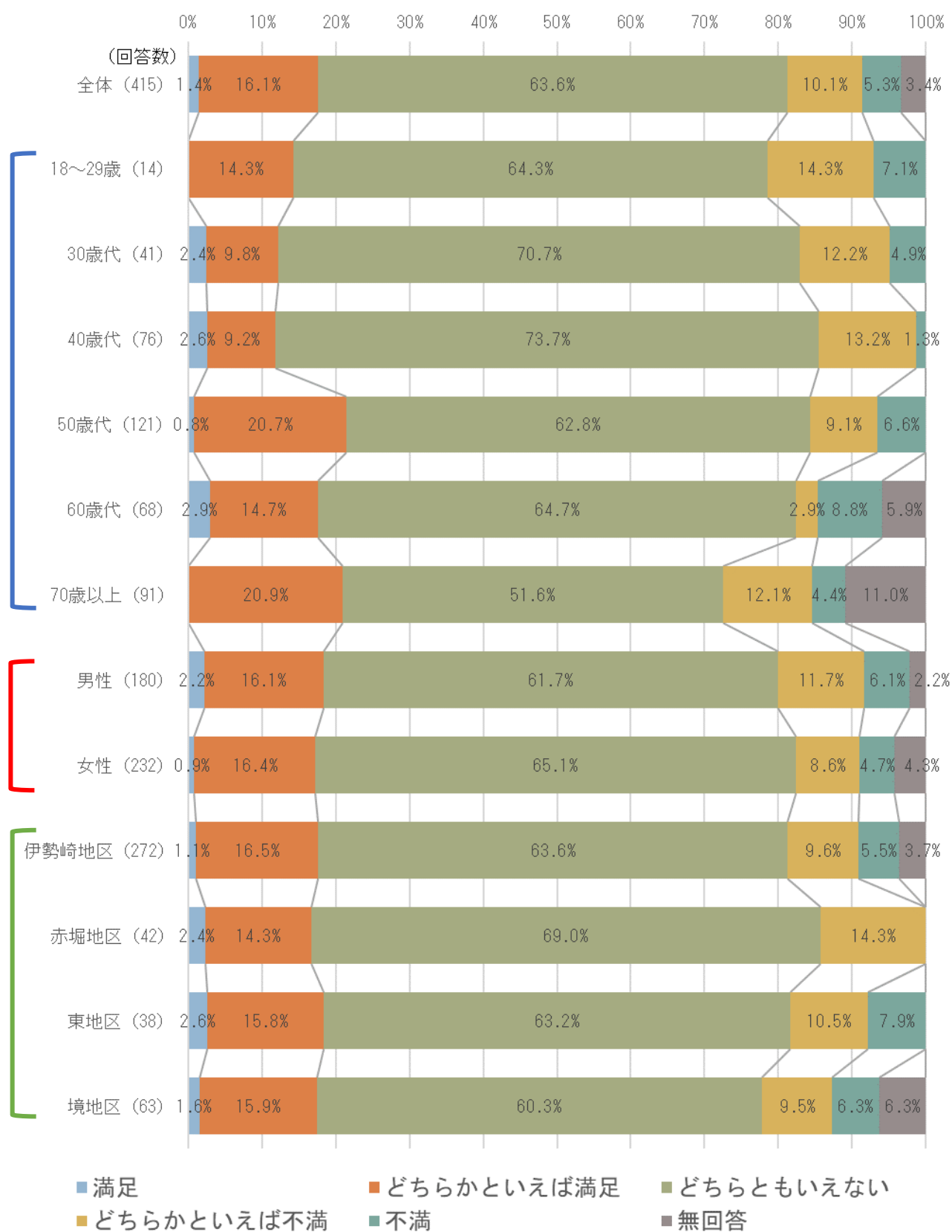
「少子高齢化対策」に関する取組への満足度（割合）



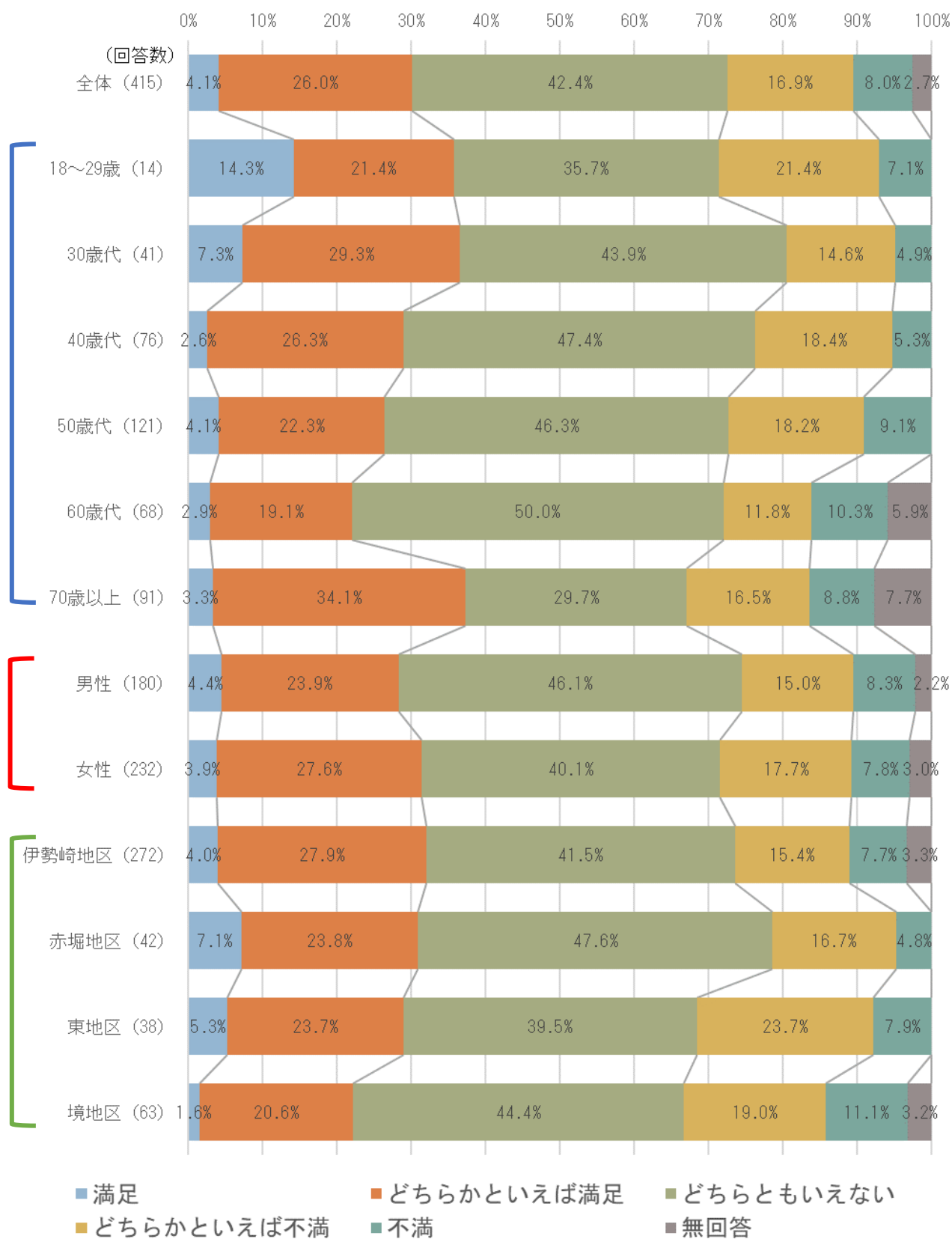
「結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「地域の未来を担う人材育成」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「全ての市民が元気に活躍できる環境づくり」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



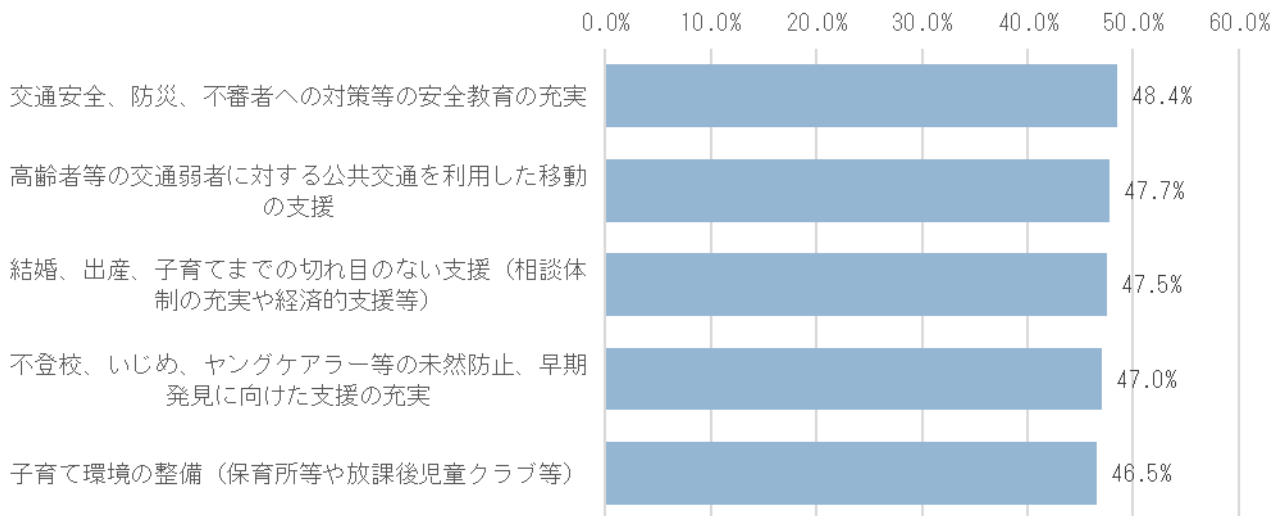
(19)「少子高齢化対策」に関する特に力を入れてほしい取組

少子高齢化対策に関して、特に力を入れてほしい取組について聞いたところ、「交通安全、防災、不審者への対策等の安全教育の充実」と回答した人が、48.4%で最も高くなった。以下、「高齢者等の交通弱者に対する公共交通を利用した移動の支援」が47.7%、「結婚、出産、子育てまでの切れ目のない支援（相談体制の充実や経済的支援等）」が47.5%、「不登校、いじめ、ヤングケアラー等の未然防止、早期発見に向けた支援の充実」が47.0%、「子育て環境の整備（保育所等や放課後児童クラブ等）」が46.5%と続いている。

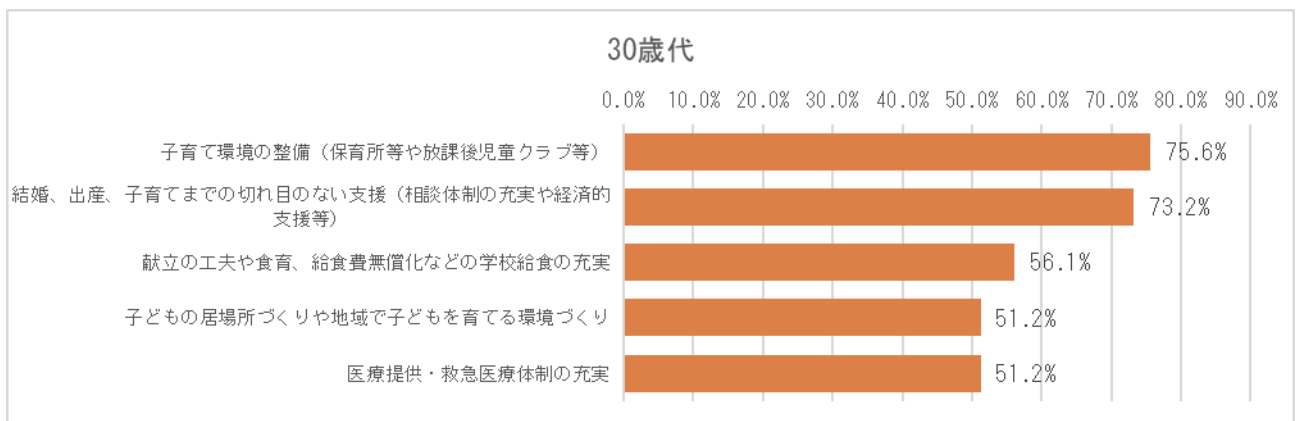
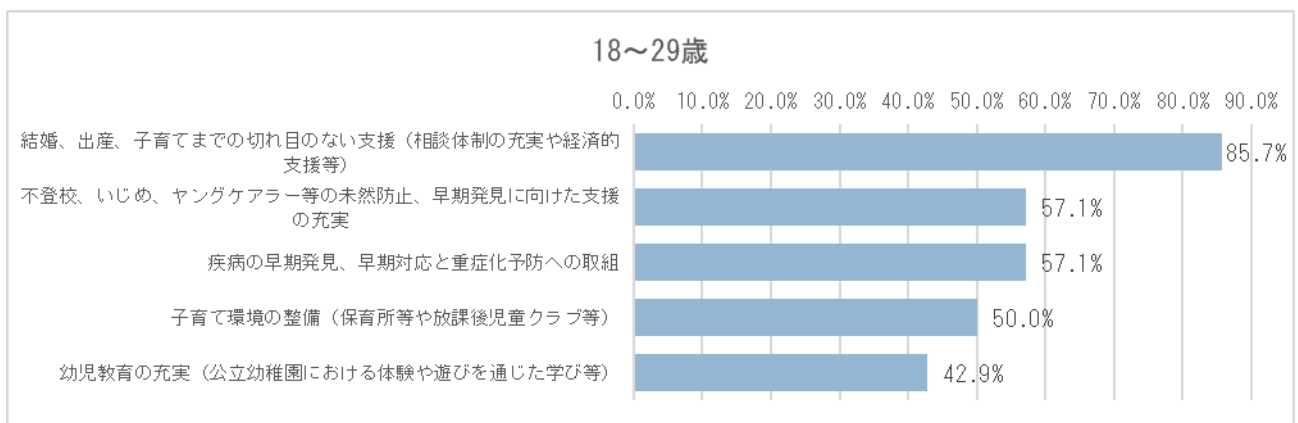
「少子高齢化対策に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答【複数回答】

		回答数	割合	全体 順位
結婚・ 出産・ 子育てに 希望が持 てる社会の 実現	結婚、出産、子育てまでの切れ目のない支援（相談体制の充実や経済的支援等）	197	47.5%	12
	子育て環境の整備（保育所等や放課後児童クラブ等）	193	46.5%	17
	交流の場や情報交換の機会の充実（児童館、児童センター等）	94	22.7%	84
	その他	21	5.1%	110
地域の 未来を担う 人材育成	幼児教育の充実（公立幼稚園における体験や遊びを通じた学び等）	77	18.6%	96
	興味関心に応じた児童・生徒1人ひとりの主体的な学びの推進	116	28.0%	64
	地域や関係機関と連携した学校運営	94	22.7%	84
	四ツ葉学園中等教育学校におけるキャリア教育、グローバル教育等	27	6.5%	109
	不登校、いじめ、ヤングケアラー等の未然防止、早期発見に向けた支援の充実	195	47.0%	13
	発達支援や日本語指導等、特別な配慮を要する子どもへの支援の充実	111	26.7%	69
	学校施設の老朽化や熱中症等対策などの学校施設の整備充実	133	32.0%	48
	健康教育の充実（生活習慣の乱れ、メンタルヘルス、熱中症予防等）	93	22.4%	87
	献立の工夫や食育、給食費無償化などの学校給食の充実	116	28.0%	64
	交通安全、防災、不審者への対策等の安全教育の充実	201	48.4%	9
	子どもの居場所づくりや地域で子どもを育てる環境づくり	140	33.7%	46
	その他	4	1.0%	122
全ての市民 が元気に 活躍できる 環境づくり	青少年の健全な心身の育成と環境づくり、社会活動への参加の支援	94	22.7%	84
	ニートや引きこもりなど、若者やその家族への相談体制の充実・援助	125	30.1%	53
	多種多彩な学習機会の充実（公民館や図書館、まゆドーム等での講座等）	73	17.6%	98
	公民館や図書館など、生涯学習施設の適正な維持管理の推進	93	22.4%	87
	市民の健康づくりへの支援（健康づくりの場の提供や情報発信等）	103	24.8%	78
	疾病の早期発見、早期対応と重症化予防への取組	151	36.4%	37
	医療提供・救急医療体制の充実	191	46.0%	18
	伊勢崎市民病院の医療提供体制の整備	163	39.3%	31
	1市民1スポーツの推進	29	7.0%	108
	高齢者の生きがいづくりや健康づくりへの支援	108	26.0%	74
	高齢者福祉サービスの充実（在宅生活の支援や相談窓口の周知等）	120	28.9%	58
	高齢者が住み慣れた地域で生活するための支援（介護予防や認知症施策の充実等）	131	31.6%	50
	高齢者等の交通弱者に対する公共交通を利用した移動の支援	198	47.7%	11
	その他	4	1.0%	122

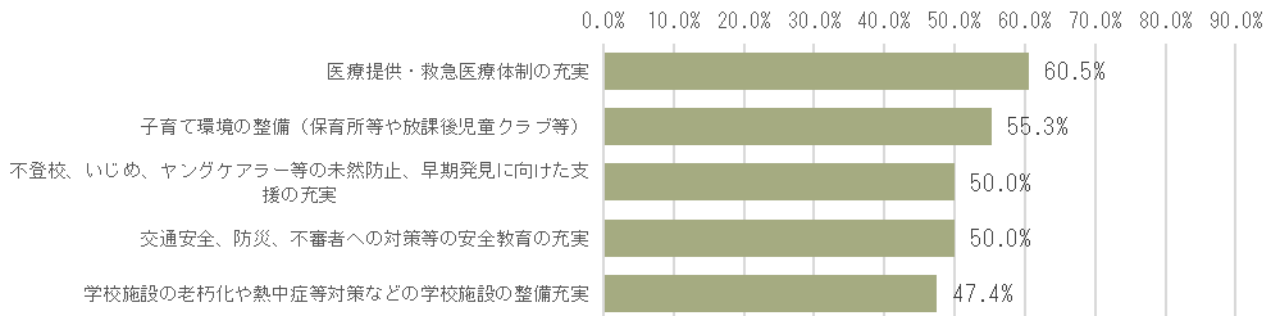
「少子高齢化対策に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



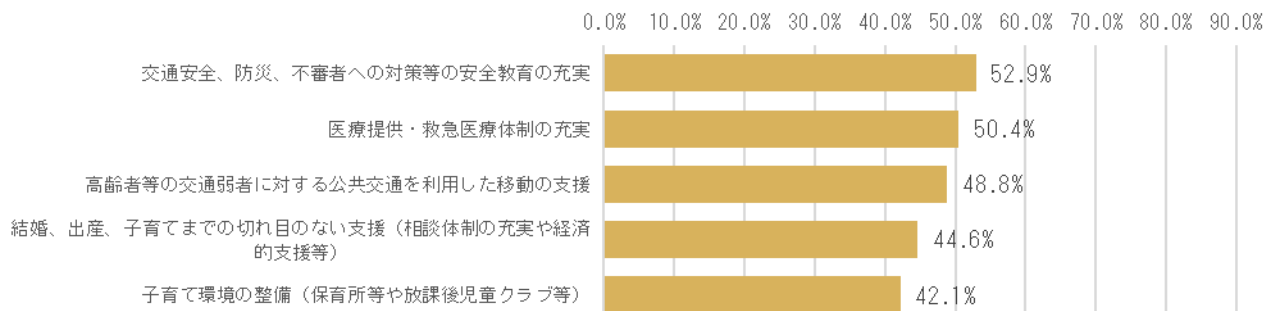
年代別の「少子高齢化対策に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



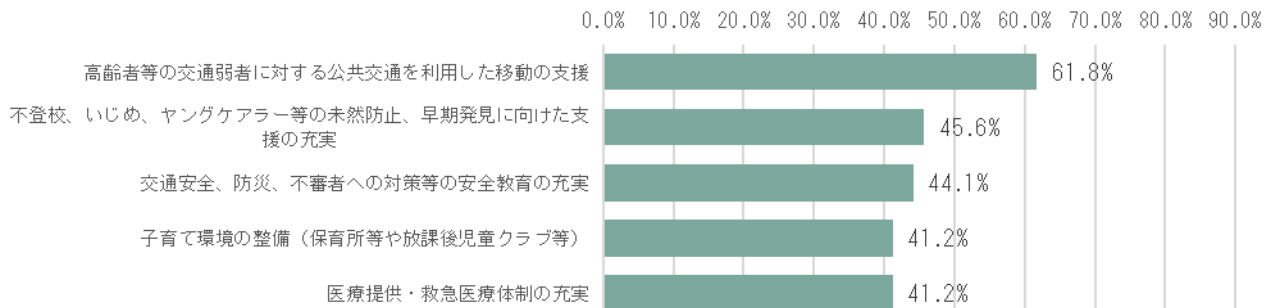
40歳代



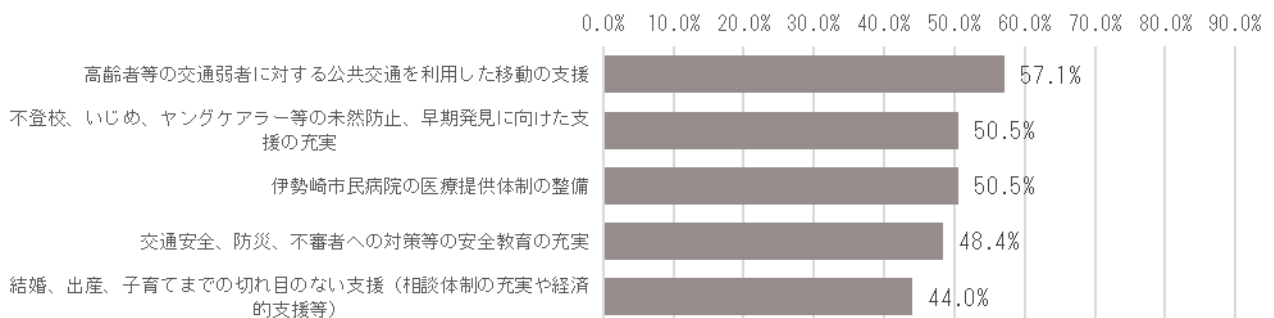
50歳代



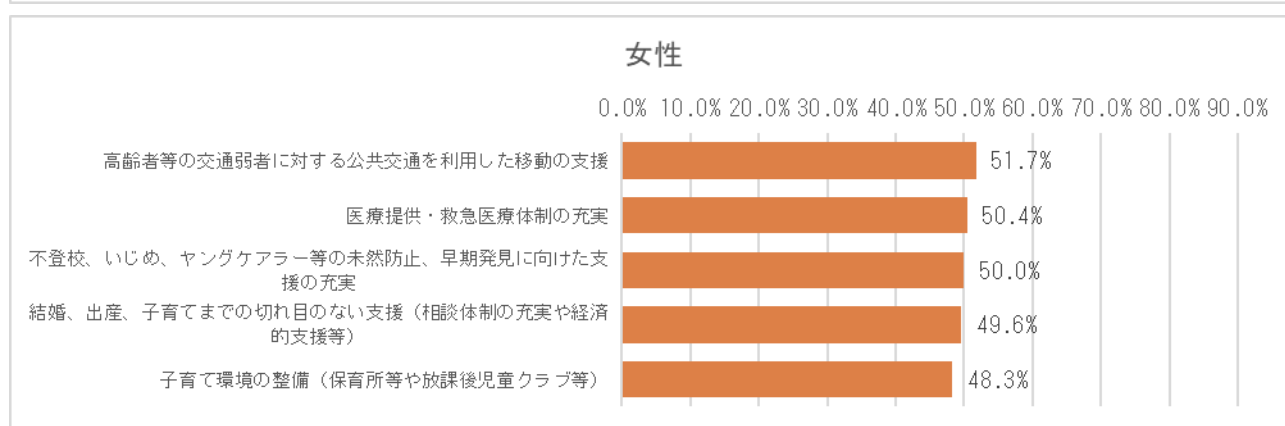
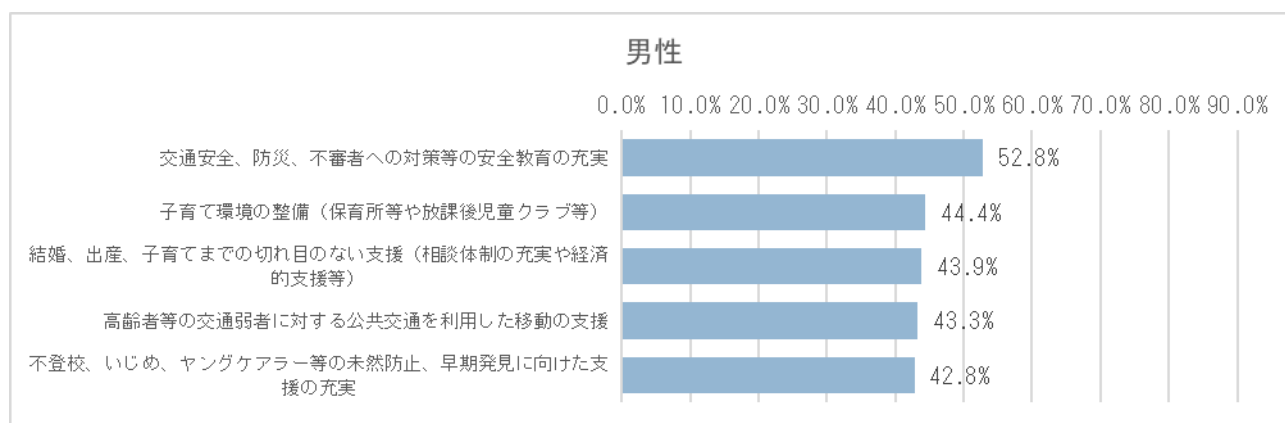
60歳代



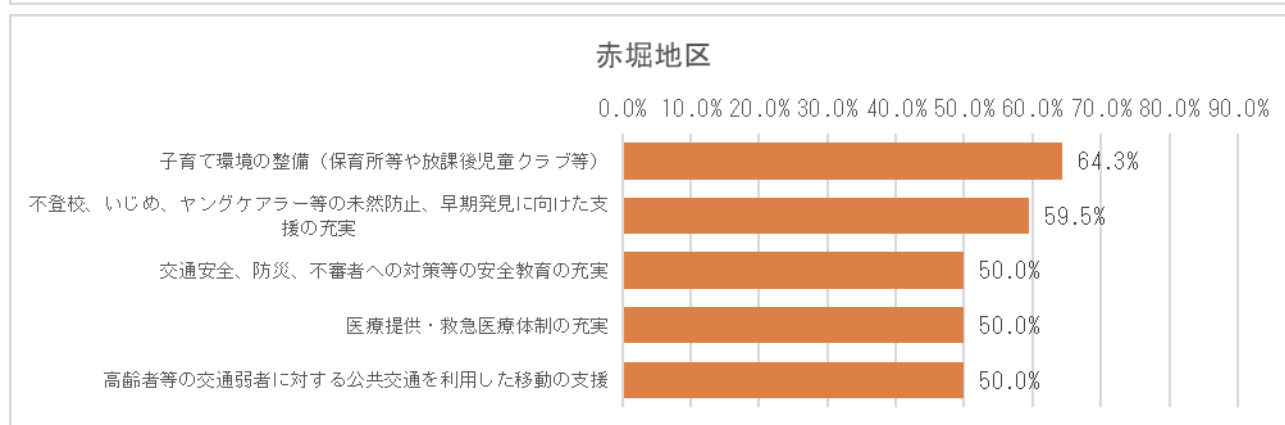
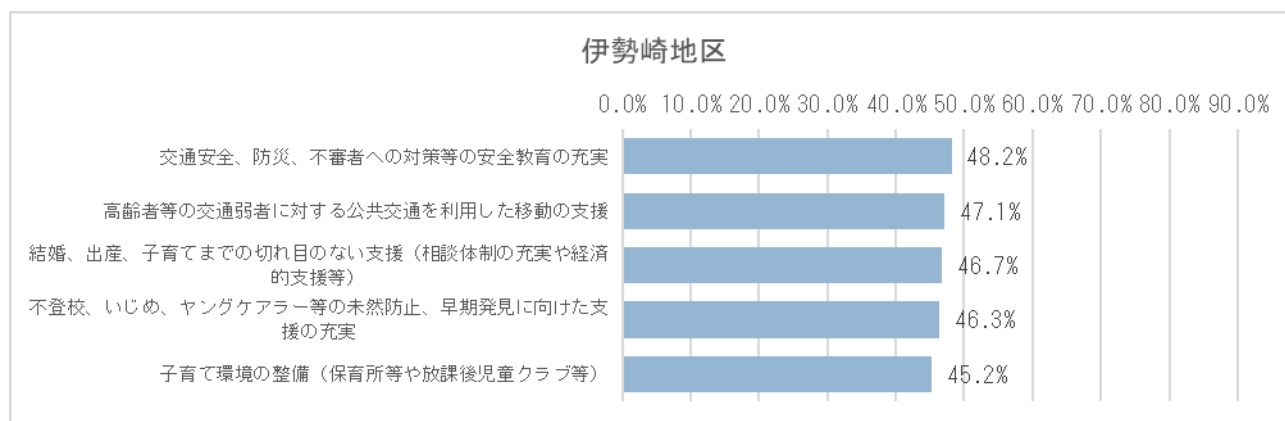
70歳以上

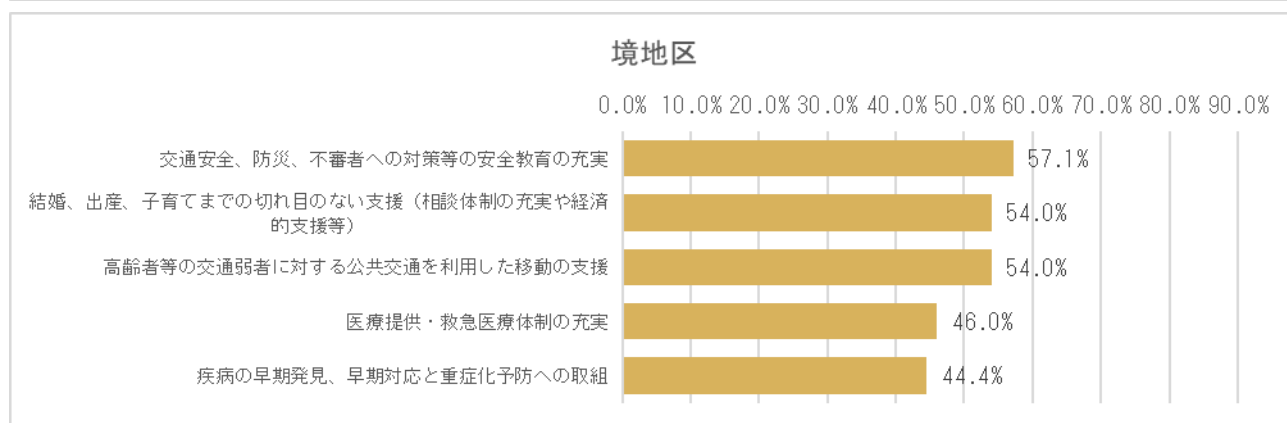
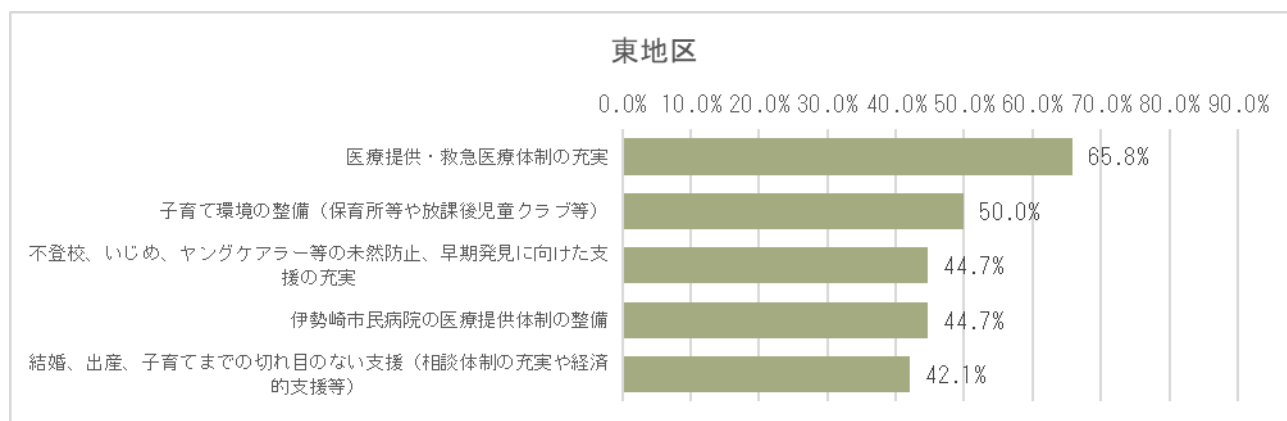


男女別の「少子高齢化対策に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



地区別の「少子高齢化対策に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目





◆「その他」の回答（主なもの）

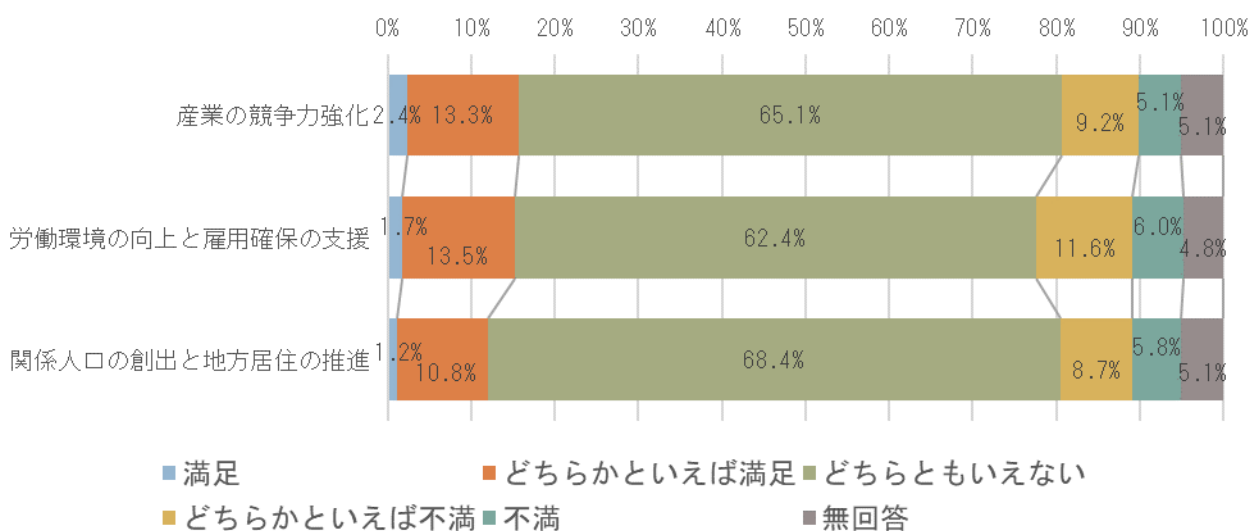
- ・ 出会いの場の提供
- ・ 出産（育休）から復帰までのサポート
- ・ 子育て支援等に関するワンストップ拠点の整備
- ・ 障害を持つ子ども及びその家族への支援

（２０）「産業の活性化」に関する取組への満足度

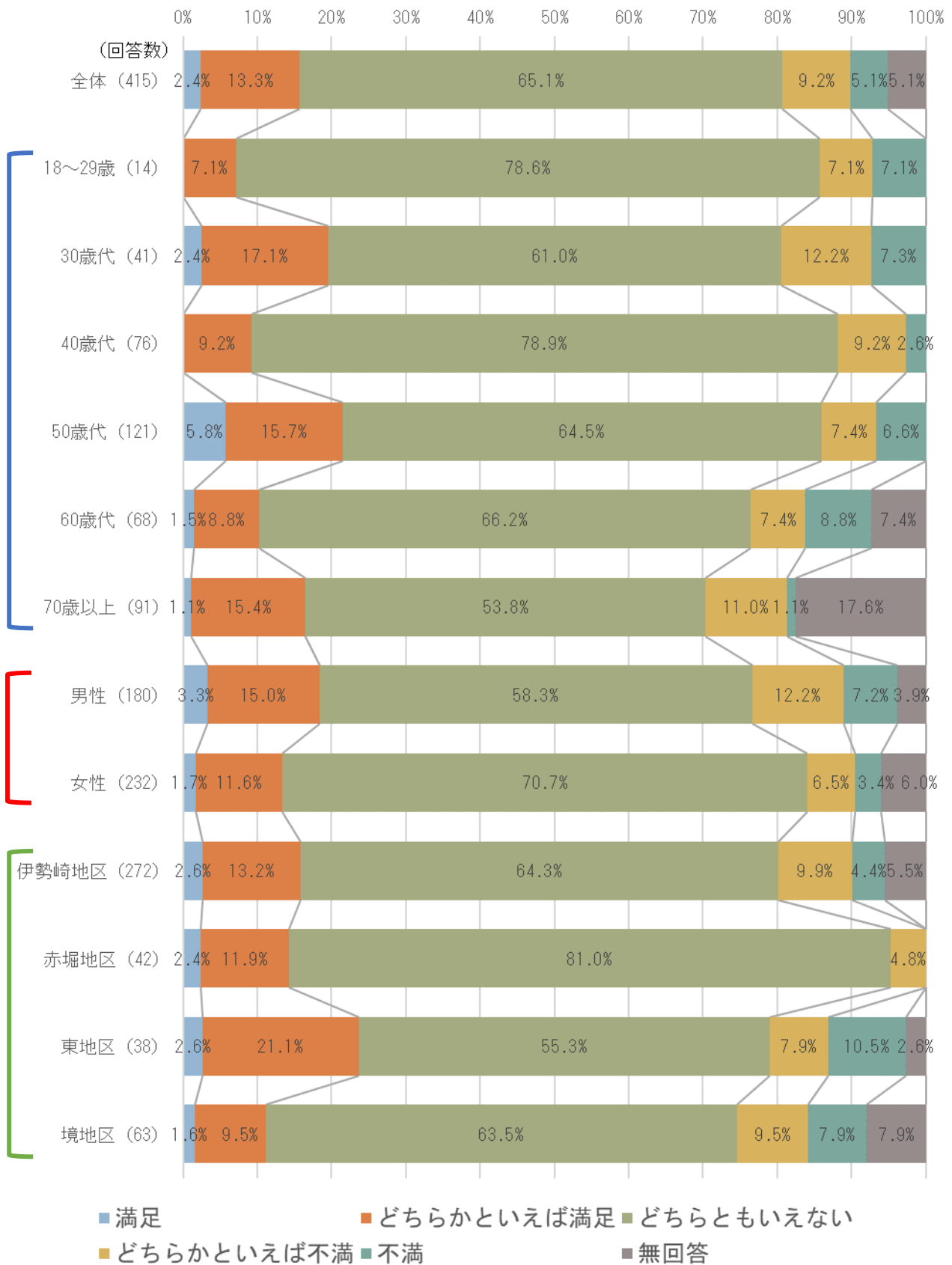
産業の活性化に関する取組への満足度を聞いたところ、「産業の競争力強化」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 15.7%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 14.2%であり、満足度は、2.99（全体の 11 位）であった。「労働環境の向上と雇用確保の支援」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 15.2%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 17.6%であり、満足度は、2.93（全体の 15 位）であった。「関係人口の創出と地方居住の推進」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 12.0%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 14.5%であり、満足度は、2.93（全体の 16 位）であった。

取組	具体的な取組	満足度		満足度割合	
		平均値	順位	満足	不満
産業の競争力強化	新技術開発や製品開発、ＤＸ化への支援、イベントや商談会、ポータルサイト等による販路拡大への支援など	2.99	11	15.7%	14.2%
労働環境の向上と雇用確保の支援	ハローワークとの連携、地元雇用の拡大、就職面接会などの開催など	2.93	15	15.2%	17.6%
関係人口の創出と地方居住の推進	eスポーツ等を活用した関係人口の拡大、移住定住の促進など	2.93	16	12.0%	14.5%

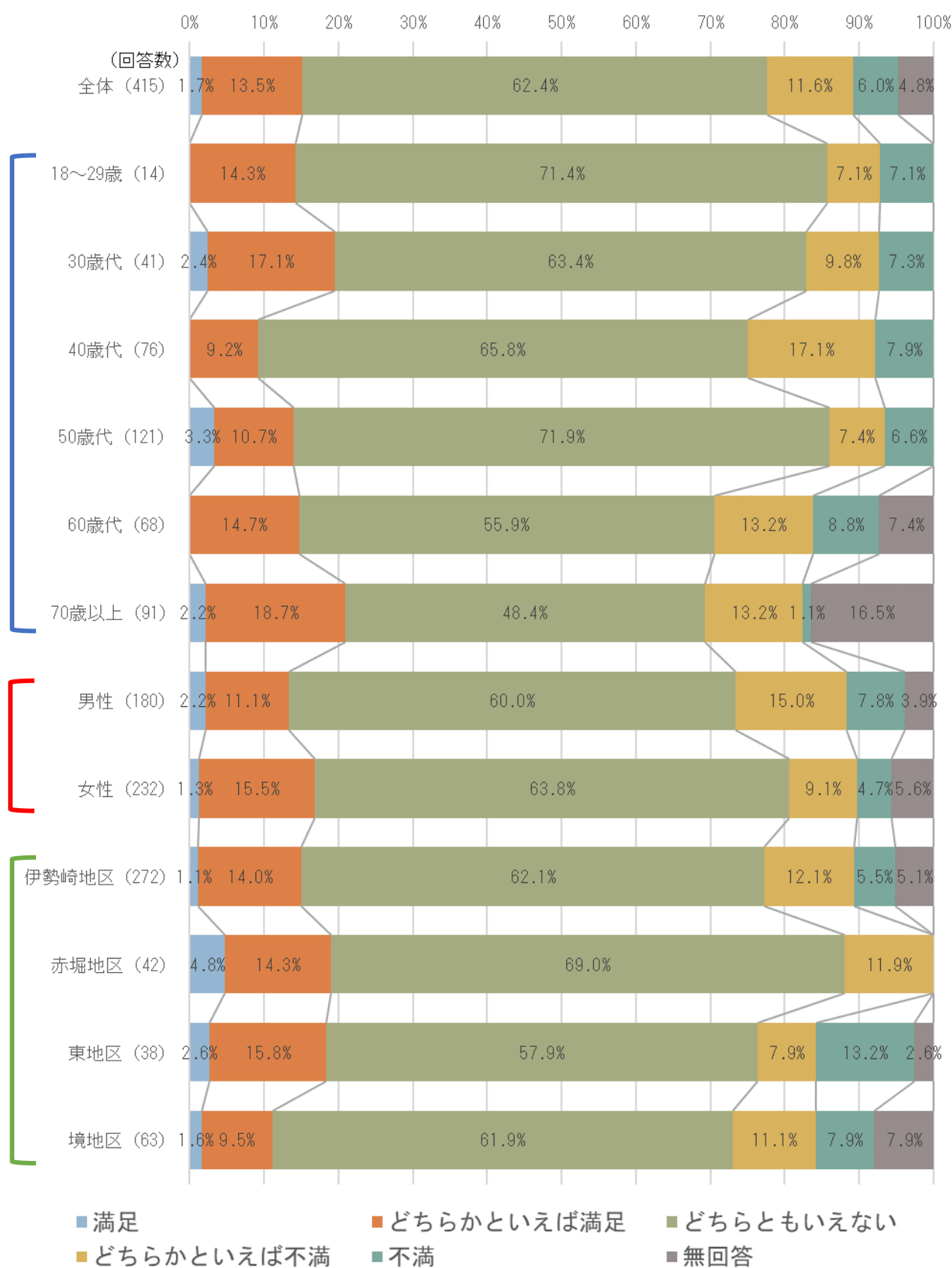
「産業の活性化」に関する取組への満足度の回答（割合）



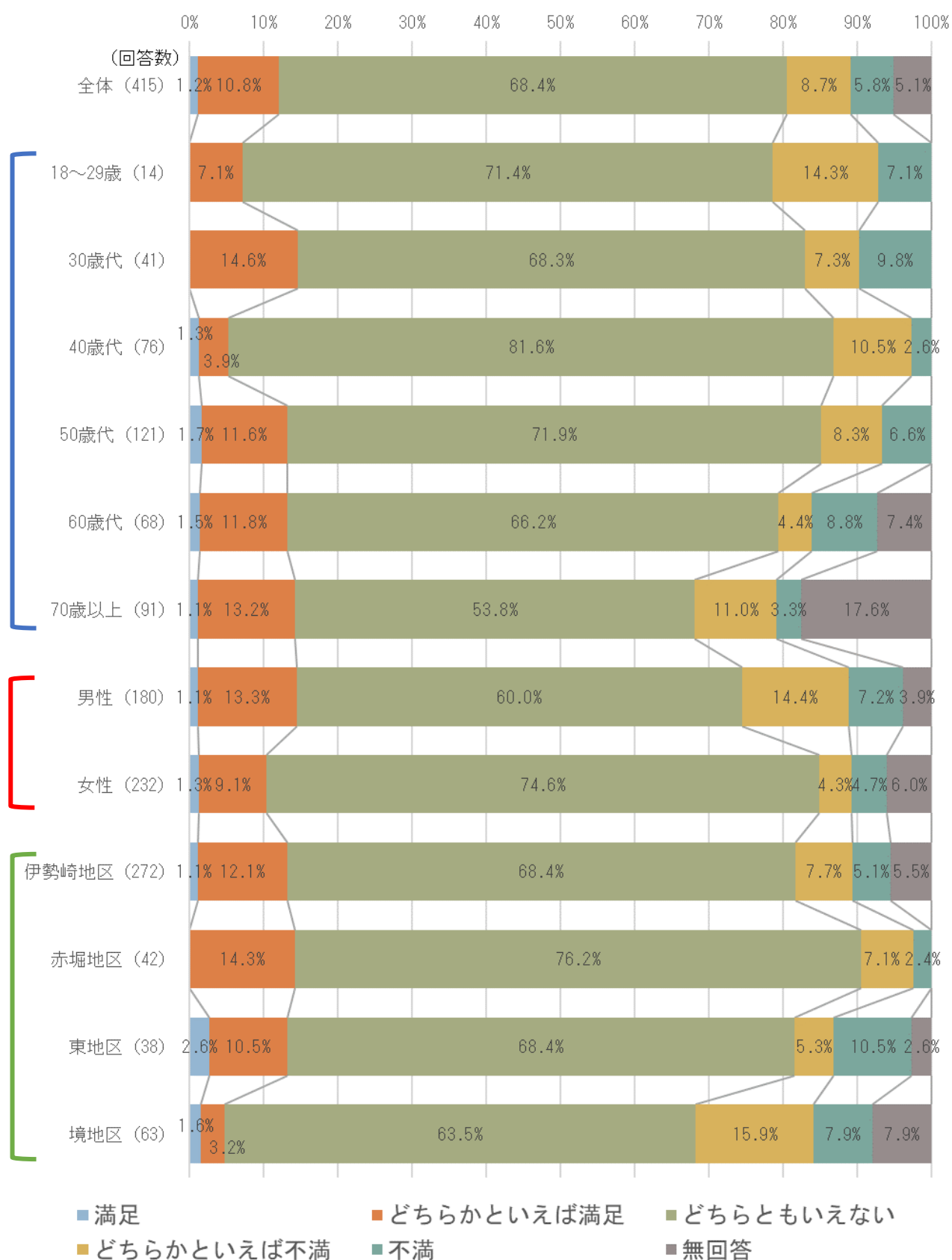
「産業の競争力強化」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「労働環境の向上と雇用確保の支援」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「関係人口の創出と地方居住の推進」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



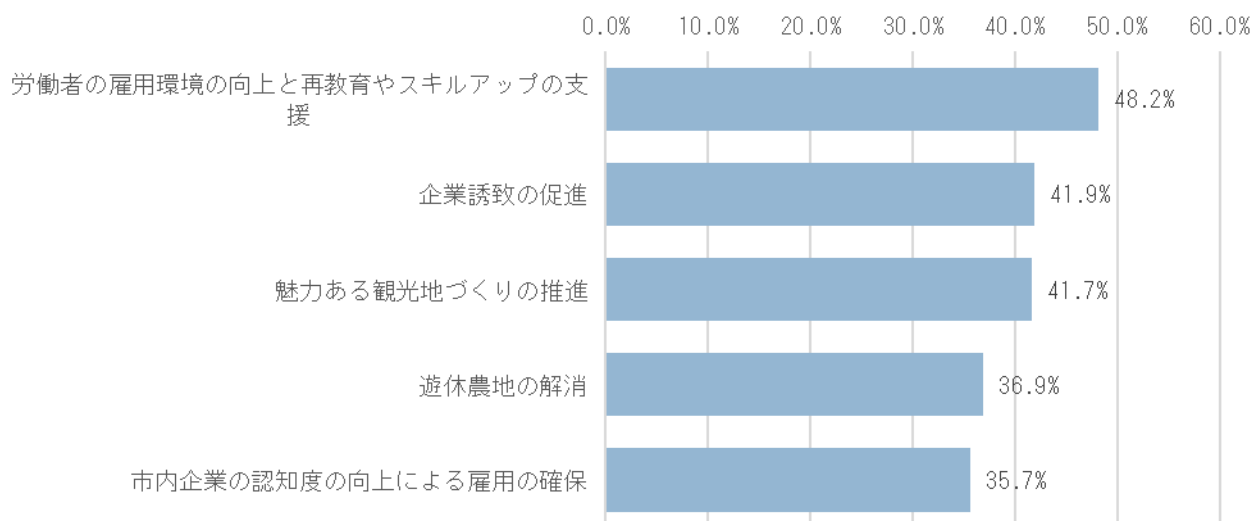
（２１）「産業の活性化」に関する特に力を入れてほしい取組

産業の活性化に関して、特に力を入れてほしい取組について聞いたところ、「労働者の雇用環境の向上と再教育やスキルアップの支援」と回答した人が、48.2%で最も高くなった。以下、「企業誘致の促進」が41.9%、「魅力ある観光地づくりの推進」が41.7%、「遊休農地の解消」が36.9%、「市内企業の認知度の向上による雇用の確保」が35.7%と続いている。

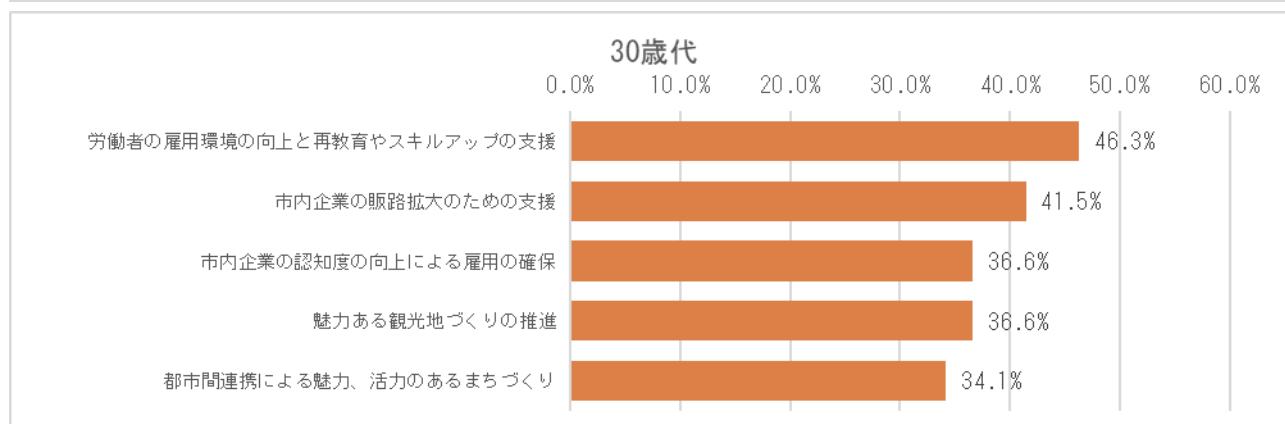
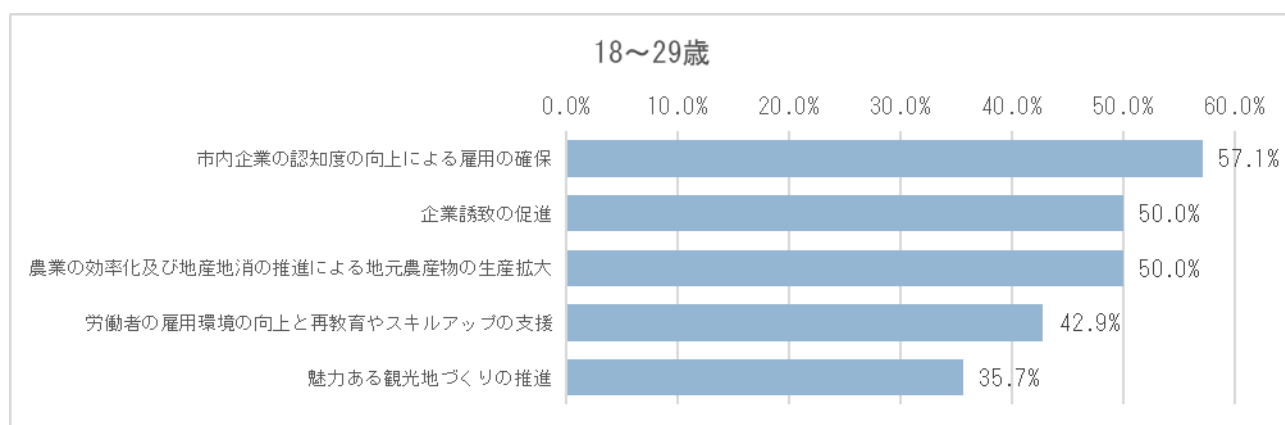
「産業の活性化に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答【複数回答】

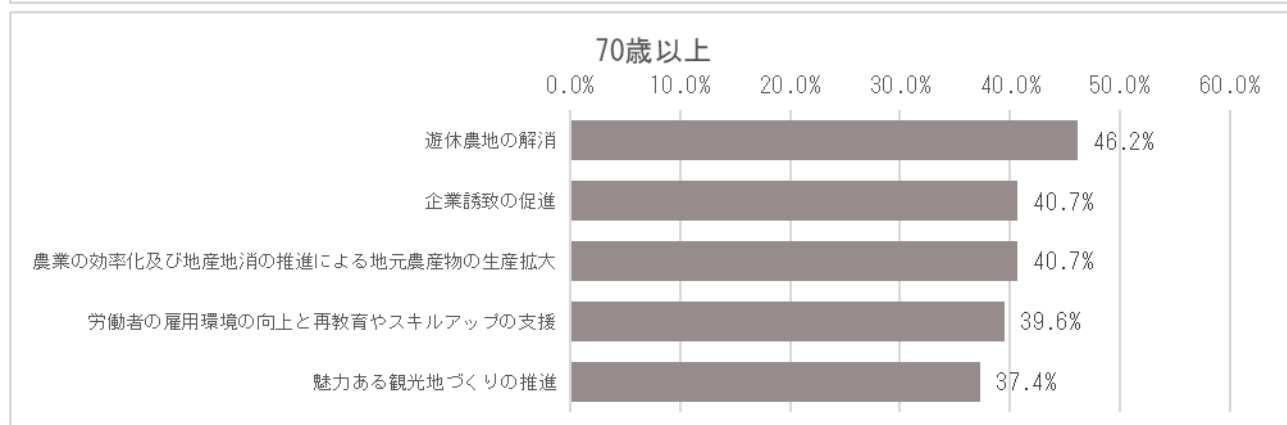
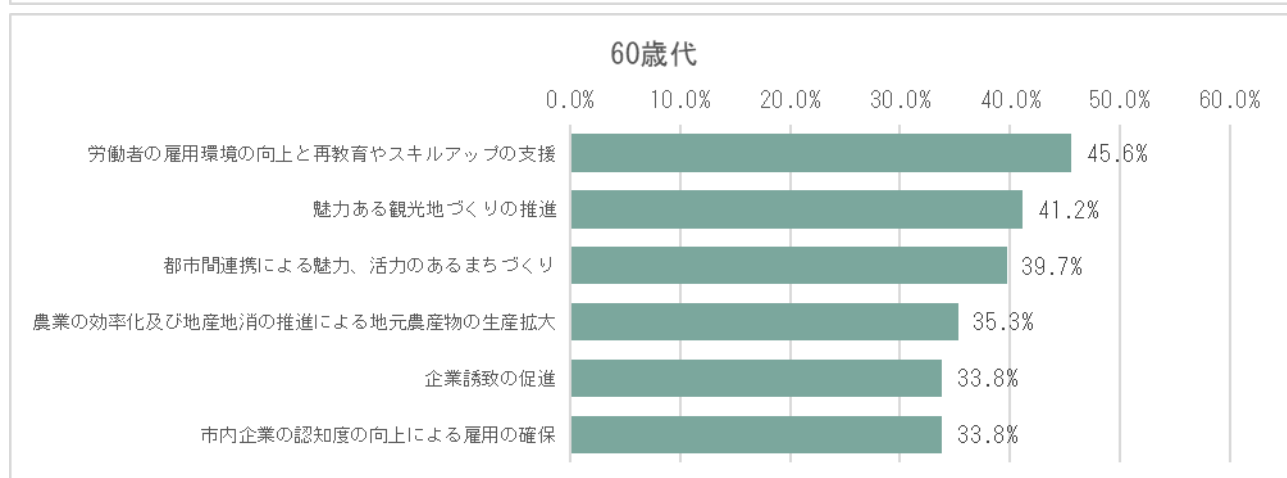
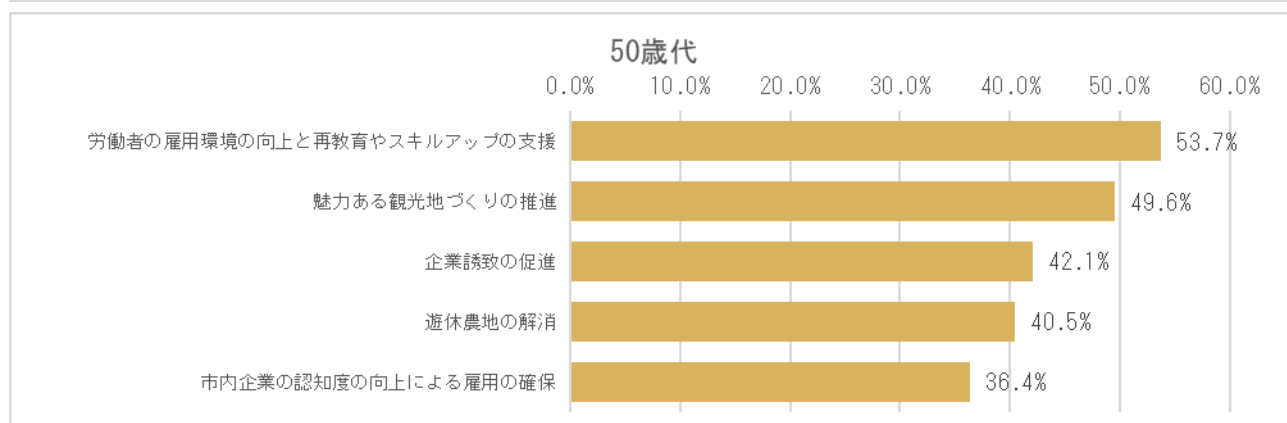
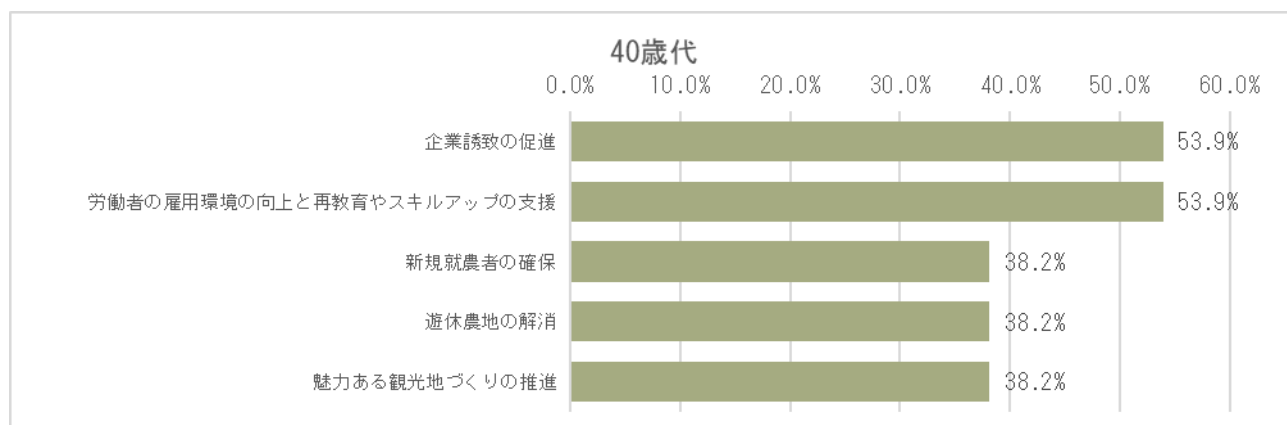
		回答数	割合	全体 順位
産業の 競争力 強化	デジタル技術の活用による新産業の創出と経営力強化	101	24.3%	80
	企業誘致の促進	174	41.9%	25
	市内企業の販路拡大のための支援	108	26.0%	74
	新規就農者の確保	115	27.7%	66
	農業の効率化及び地産地消の推進による地元農産物の生産拡大	142	34.2%	43
	遊休農地の解消	153	36.9%	36
	その他	4	1.0%	122
労働環境 の向上と 雇用確保 の支援	障害者の地域移行の支援（障害者の雇用や一般就労に向けた支援など）	110	26.5%	71
	労働者の雇用環境の向上と再教育やスキルアップの支援	200	48.2%	10
	市内企業の認知度の向上による雇用の確保	148	35.7%	39
	外国人の就労先での日本語や生活習慣を学ぶ機会の創出	77	18.6%	96
	男女共同参画の推進（性別による固定的な役割分担意識の解消など）	87	21.0%	91
	その他	9	2.2%	113
関係人口 の創出と 地方居住 の推進	世界遺産田島弥平旧宅などの文化財の保存活用	64	15.4%	100
	eスポーツなどのデジタルコンテンツによる関係人口の拡大と地域経済の活性化	63	15.2%	101
	魅力ある観光地づくりの推進	173	41.7%	26
	観光客誘致の促進	81	19.5%	94
	芸術・文化活動の活性化	100	24.1%	81
	都市間連携による魅力、活力のあるまちづくり	142	34.2%	43
	SNS等を活用した効果的な情報発信	92	22.2%	89
	ふるさと納税制度の推進	90	21.7%	90
	その他	8	1.9%	117

「産業の活性化に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目

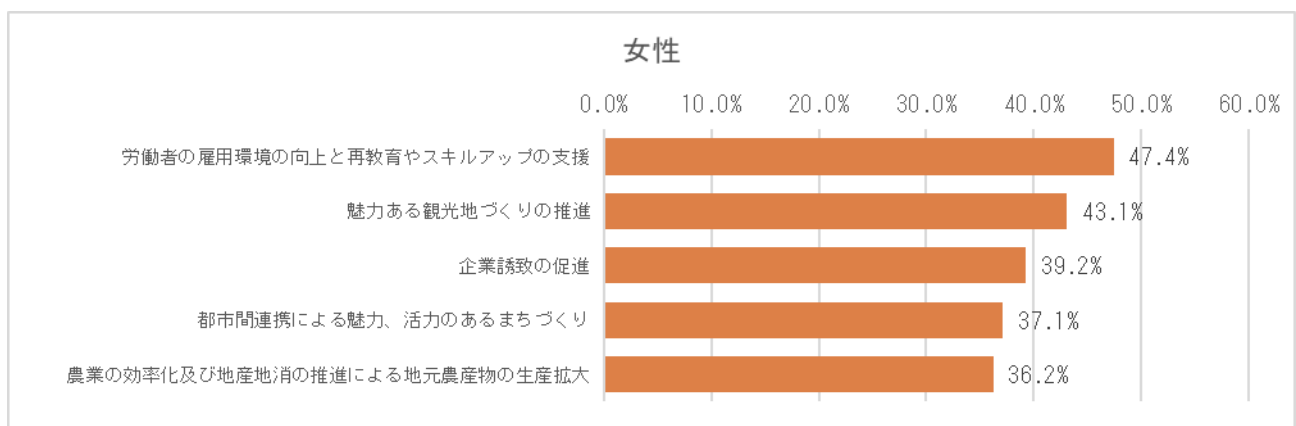
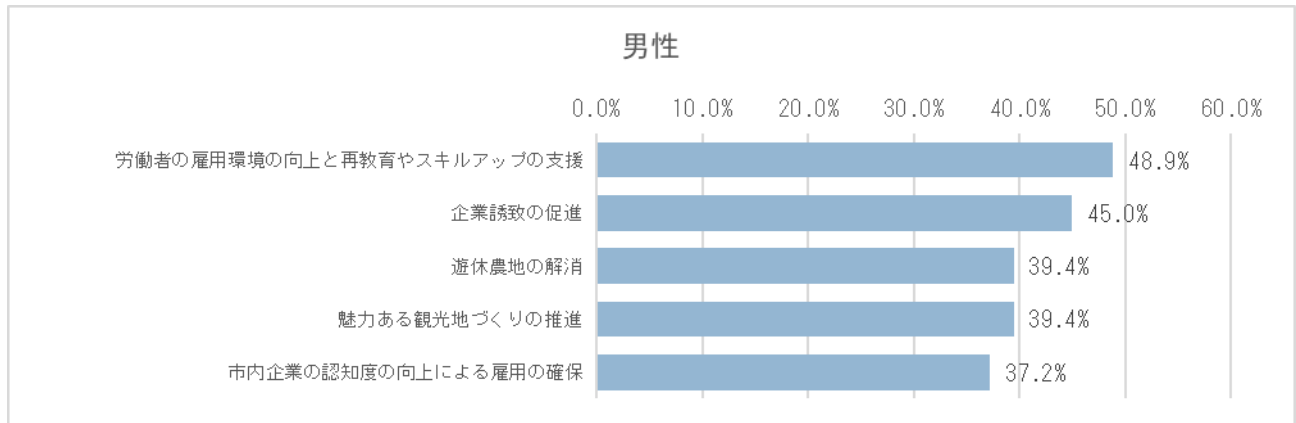


年代別の「産業の活性化に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目

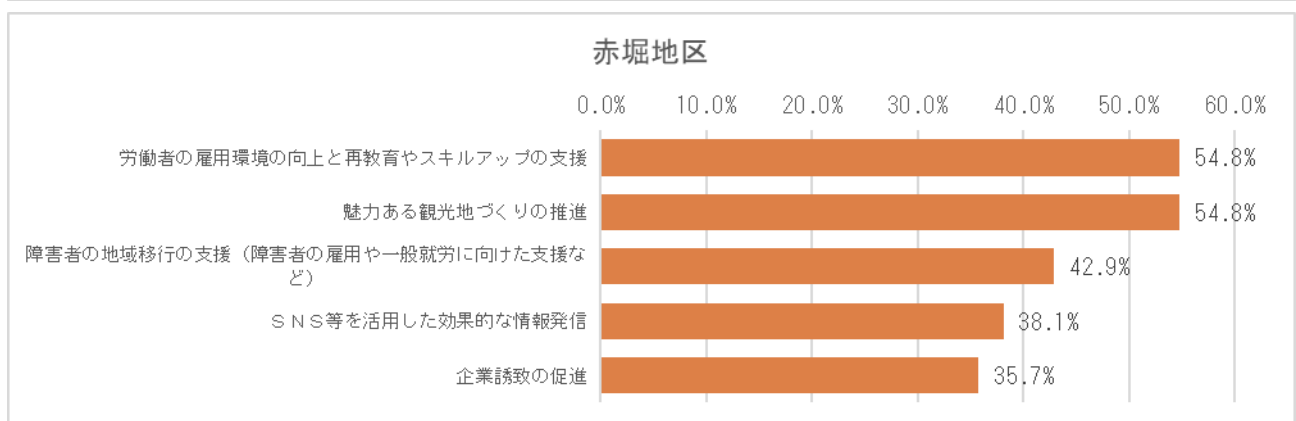
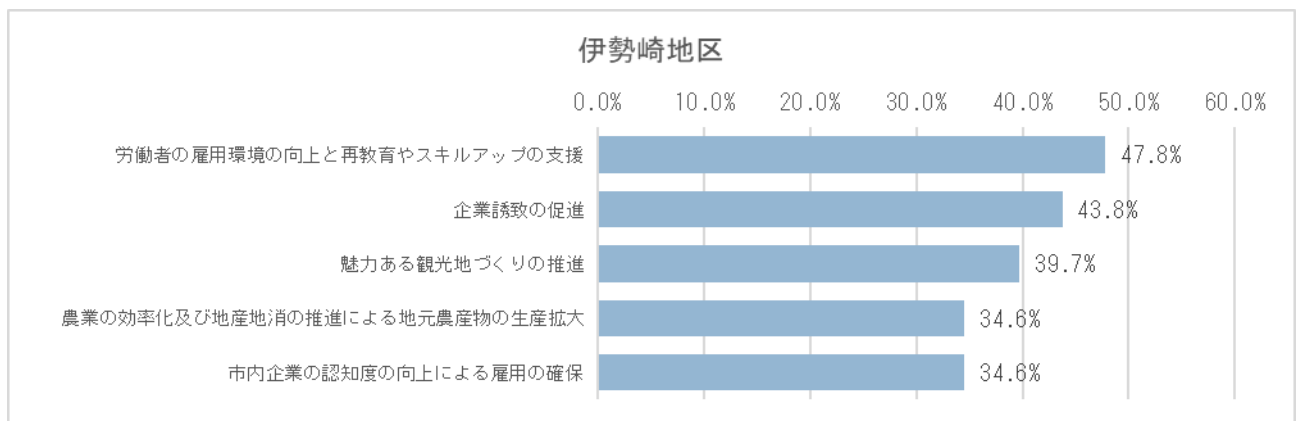


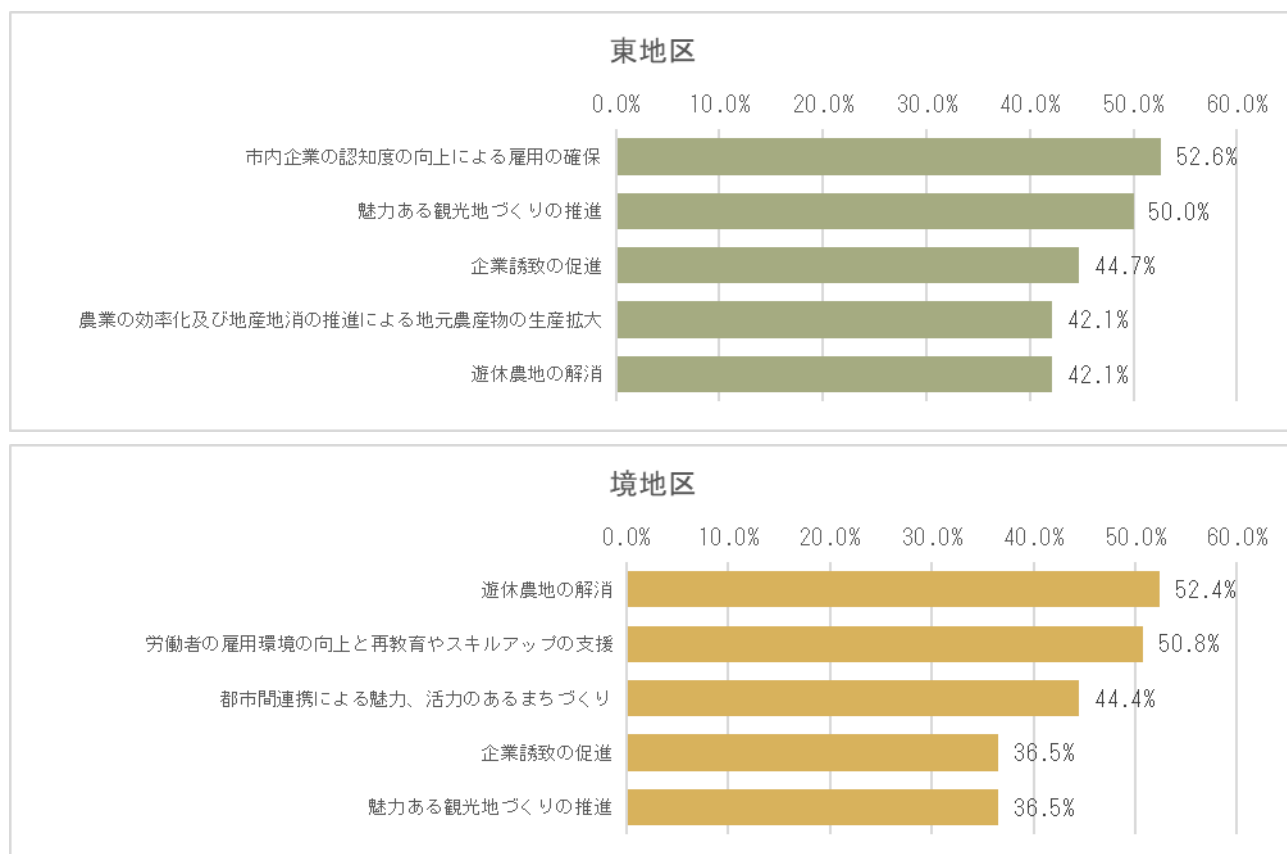


男女別の「産業の活性化に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



地区別の「産業の活性化に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目





◆「その他」の回答（主なもの）

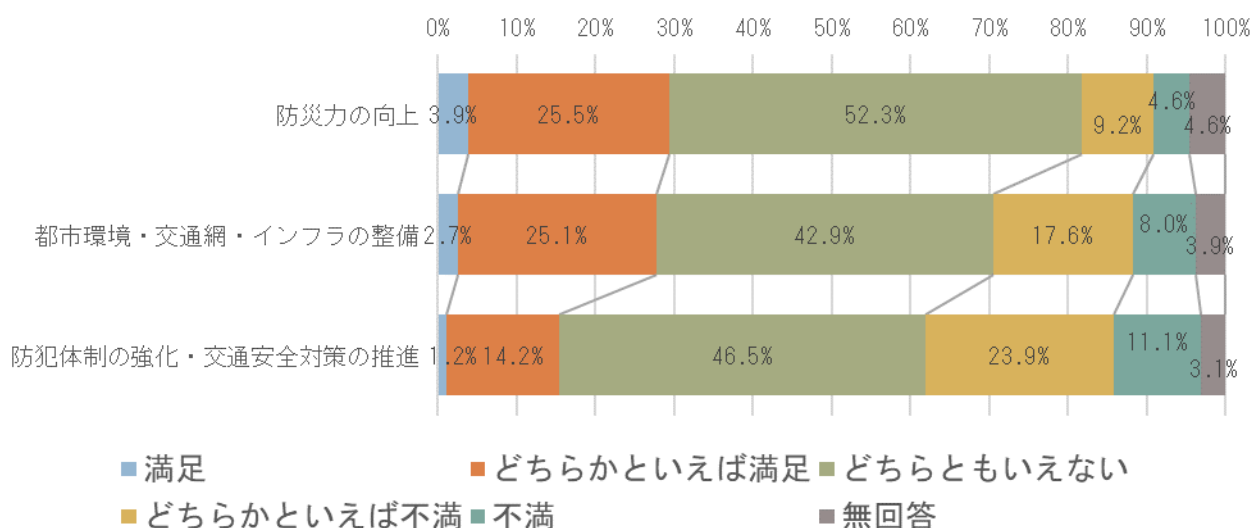
- ・ 農業法人の育成
- ・ 大型モール誘致による地域活性化と雇用の創出
- ・ 女性の妊娠時の産前産後フォローアップ
- ・ シニアの再就職支援と労働環境の調査
- ・ 産学官の交流機会と課題解決への取り組み
- ・ 都市からのアクセス改善と外国との提携
- ・ 日本人観光客を対象とする取組

（２２）「暮らしの安心実現」に関する取組への満足度

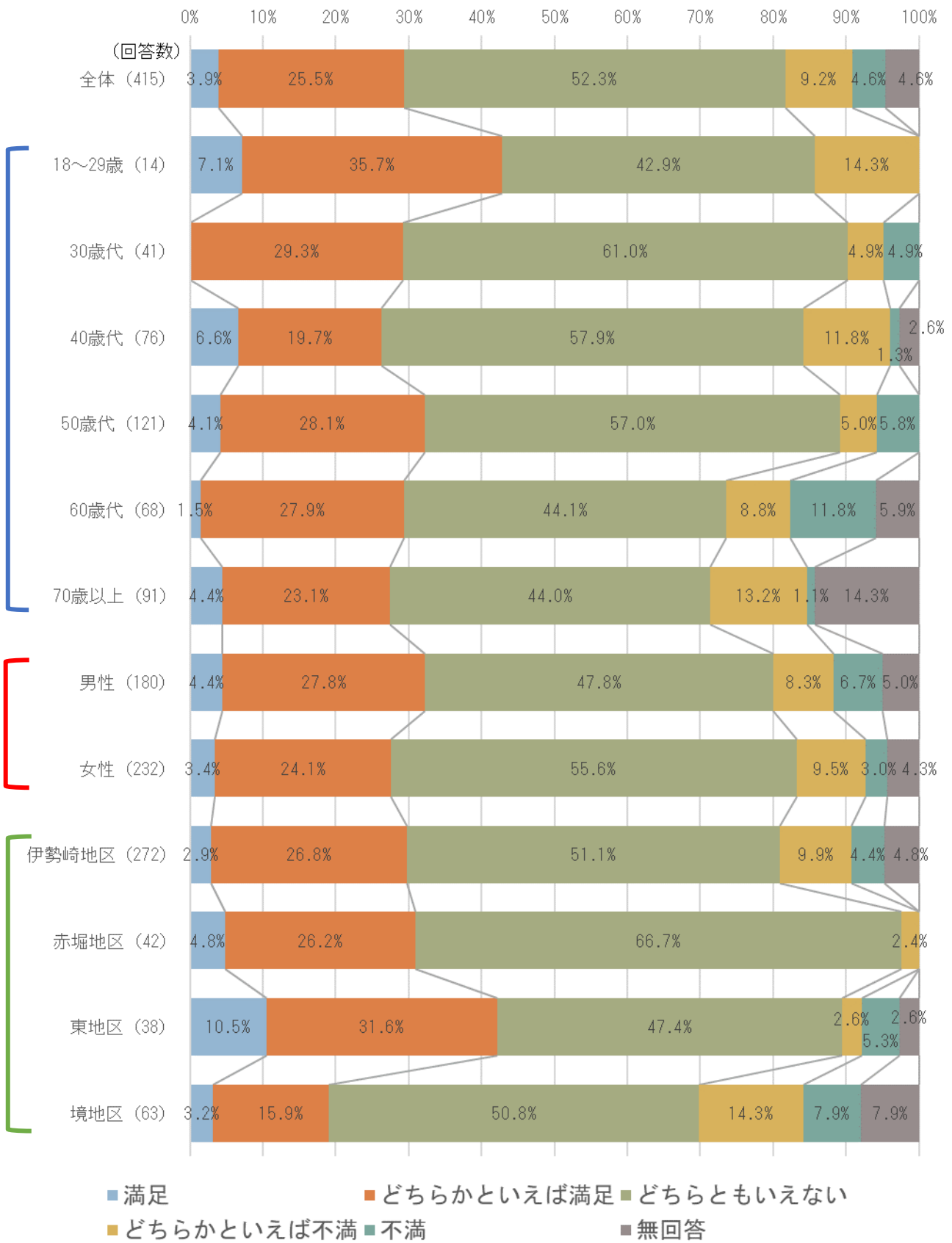
暮らしの安心実現に関する取組への満足度を聞いたところ、「防災力の向上」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 29.4%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 13.7%であり、満足度は、3.16（全体の 1 位）であった。「都市環境・交通網・インフラの整備」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 27.7%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 25.5%であり、満足度は、2.97（全体の 14 位）であった。「防犯体制の強化・交通安全対策の推進」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 15.4%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 34.9%であり、満足度は、2.70（全体の 18 位）であった。

取組	具体的な取組	満足度		満足度割合	
		平均値	順位	満足	不満
防災力の向上	情報の収集や提供の強化、地域防災力の強化など	3.16	1	29.4%	13.7%
都市環境・交通網・インフラの整備	河川や水路等の整備、上下水道施設の整備や耐震化・更新など	2.97	14	27.7%	25.5%
防犯体制の強化・交通安全対策の推進	防犯灯や防犯カメラ整備、空き家・空き地の適正管理、高齢者や子どもを対象とした交通安全教室の開催など	2.70	18	15.4%	34.9%

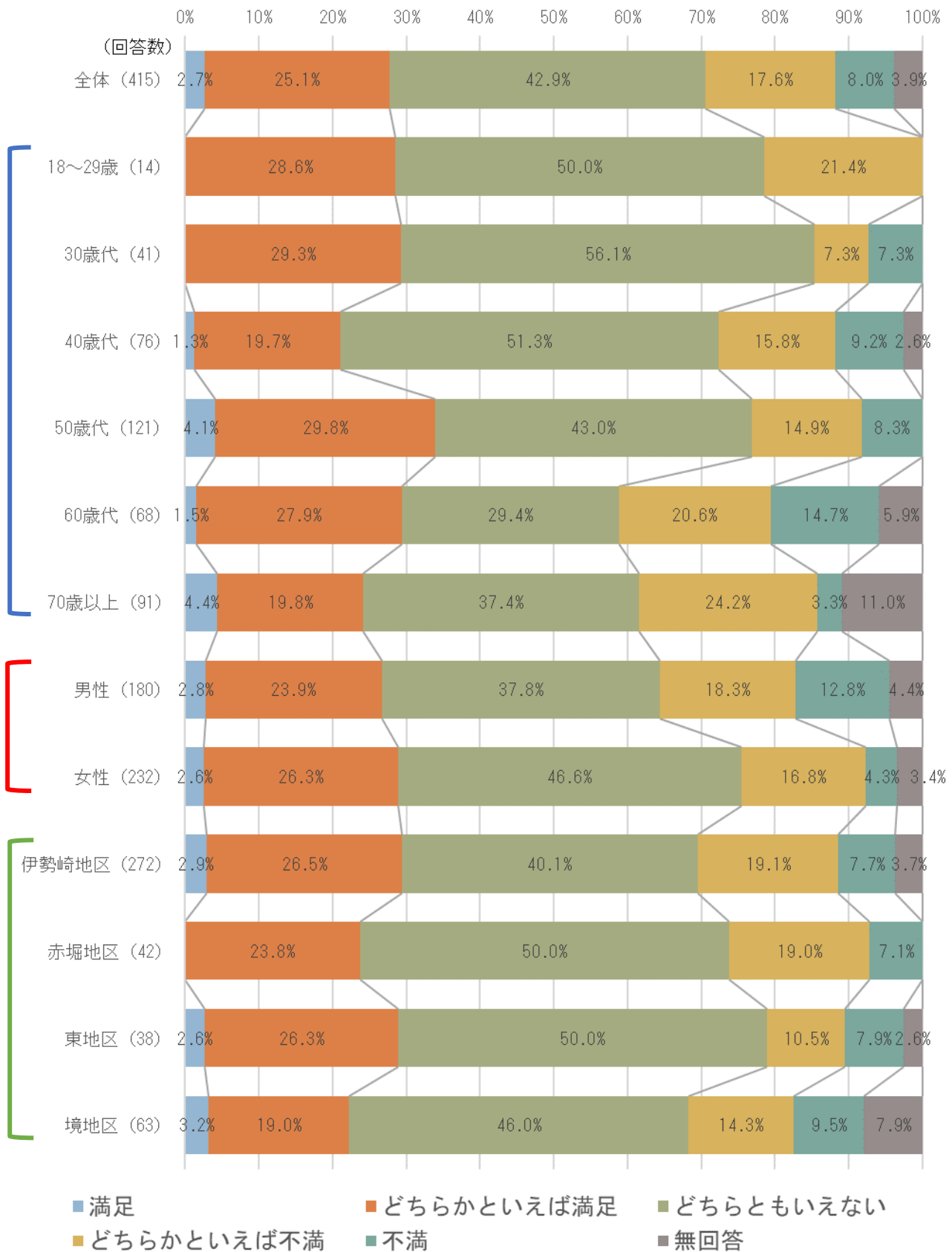
「暮らしの安心実現」に関する取組への満足度の回答（割合）



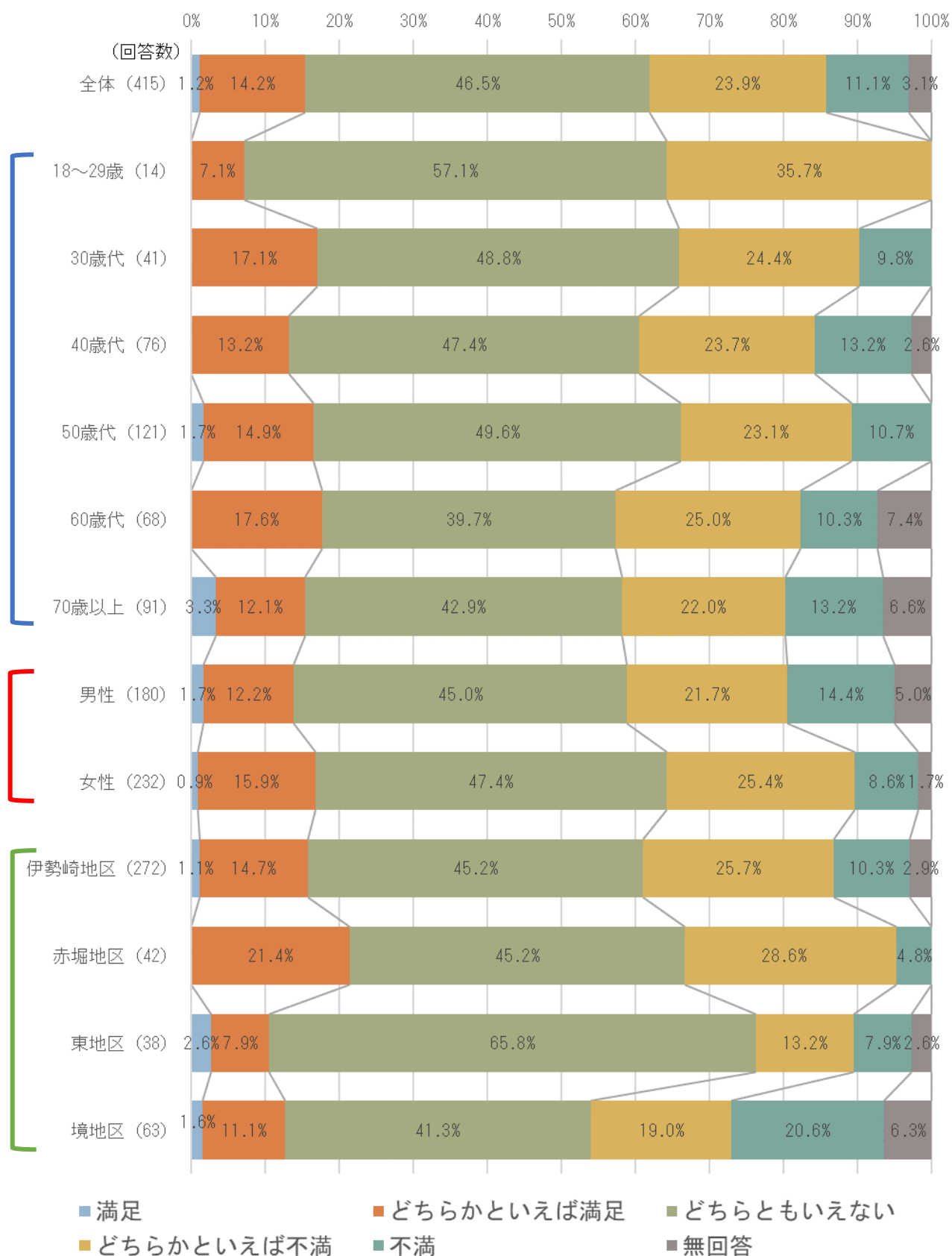
「防災力の向上」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「都市環境・交通網・インフラの整備」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「防犯体制の強化・交通安全対策の推進」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



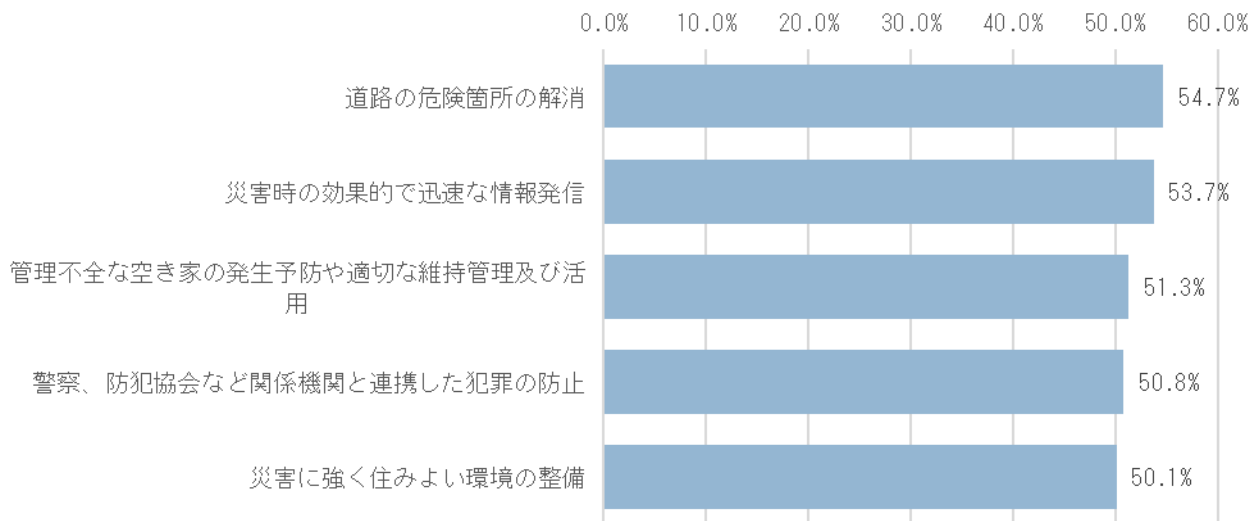
（２３）「暮らしの安心実現」に関する特に力を入れてほしい取組

暮らしの安心実現に関して、特に力を入れてほしい取組を聞いたところ、「道路の危険箇所の解消」と回答した人が、54.7%で最も高くなった。以下、「災害時の効果的で迅速な情報発信」が53.7%、「管理不全な空き家の発生予防や適切な維持管理及び活用」が51.3%、「警察、防犯協会など関係機関と連携した犯罪の防止」が50.8%、「災害に強く住みよい環境の整備」が50.1%と続いている。

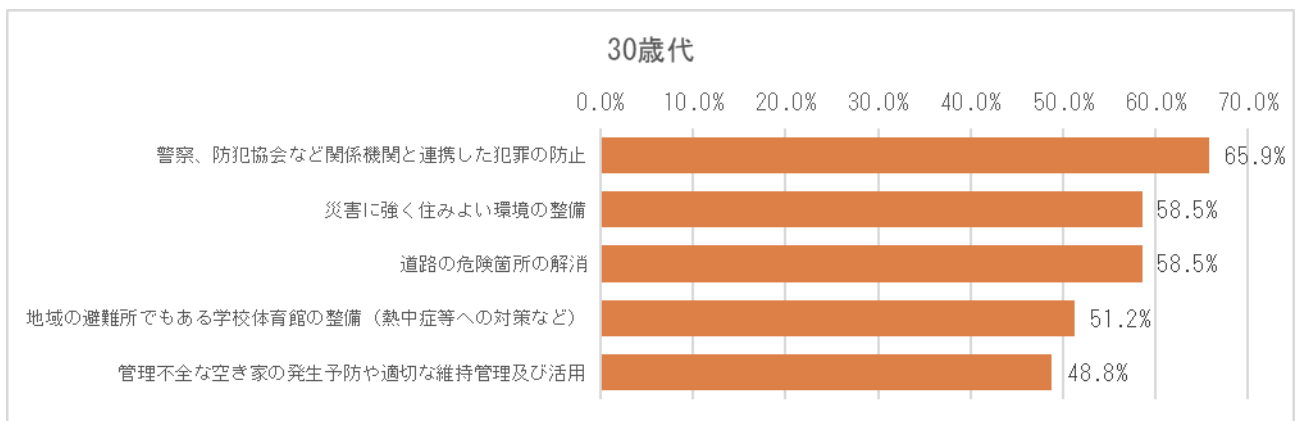
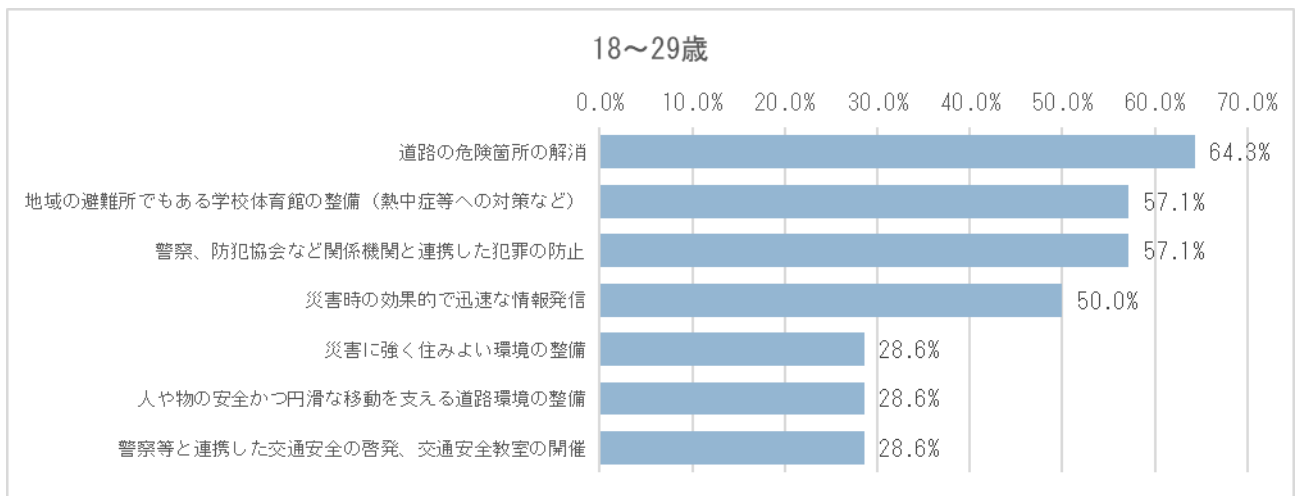
「暮らしの安心実現に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答【複数回答】

		回答数	割合	全体 順位
防災力の 向上	地域の避難所でもある学校体育館の整備（熱中症等への対策など）	188	45.3%	19
	市民、企業、関係機関、行政が連携した総合的な危機管理体制の充実	156	37.6%	34
	地域での防災訓練の実施や要配慮者への支援体制の充実	105	25.3%	77
	災害時の効果的で迅速な情報発信	223	53.7%	4
	大規模災害へ備えた消防体制の充実と強化	162	39.0%	32
	その他	13	3.1%	111
都市環境・ 交通網・ インフラの 整備	まとまりのあるまちの形成に向けた計画的な土地利用の推進	103	24.8%	78
	災害復旧の迅速化や土地の有効活用に向けた計画的な地籍調査の推進	80	19.3%	95
	災害に強く住みよい環境の整備	208	50.1%	8
	人や物の安全かつ円滑な移動を支える道路環境の整備	123	29.6%	56
	地域住民の利便性及び安全性を向上させる生活道路等の整備	123	29.6%	56
	道路施設の効率的かつ適正な維持管理	98	23.6%	82
	コミュニティバスの利便性の向上	169	40.7%	27
	路線バスやコミュニティバスなどの公共交通ネットワークの整備	176	42.4%	23
	計画的な水道施設の整備と維持管理	111	26.7%	69
	効率的な下水処理の推進	107	25.8%	76
	豊かな公園環境の維持・整備	118	28.4%	61
	その他	8	1.9%	117
防犯体制の 強化・交通 安全対策の 推進	管理不全な空き家の発生予防や適切な維持管理及び活用	213	51.3%	6
	警察、防犯協会など関係機関と連携した犯罪の防止	211	50.8%	7
	消費者被害の防止、被害回復や助言のための相談体制の充実	112	27.0%	68
	警察等と連携した交通安全の啓発、交通安全教室の開催	118	28.4%	61
	道路の危険箇所の解消	227	54.7%	3
	その他	13	3.1%	111

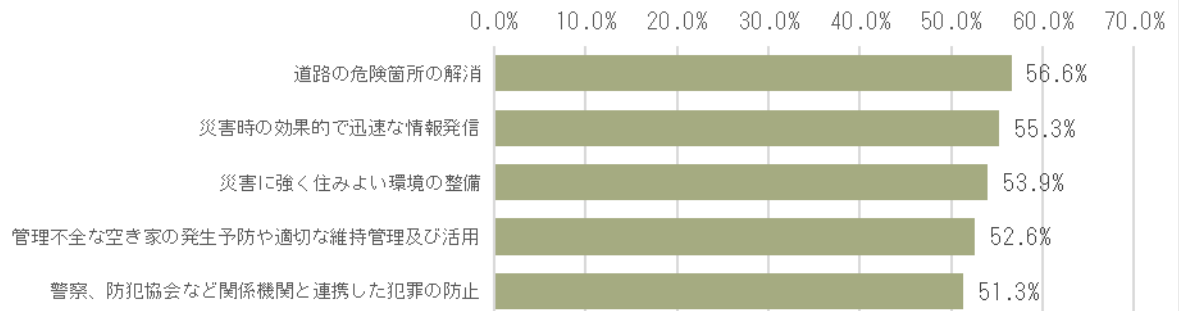
「暮らしの安心実現に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



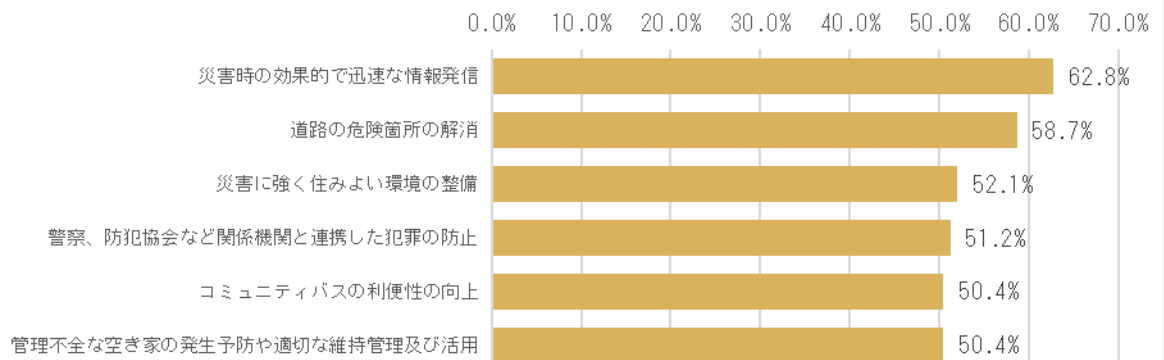
年代別の「暮らしの安心実現に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



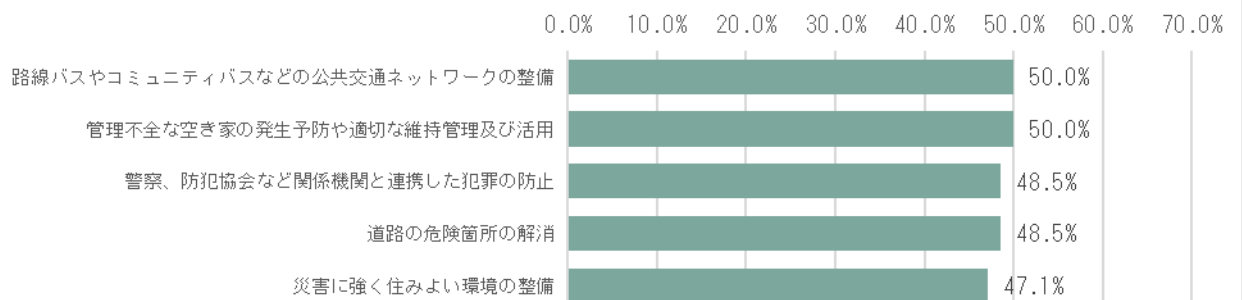
40歳代



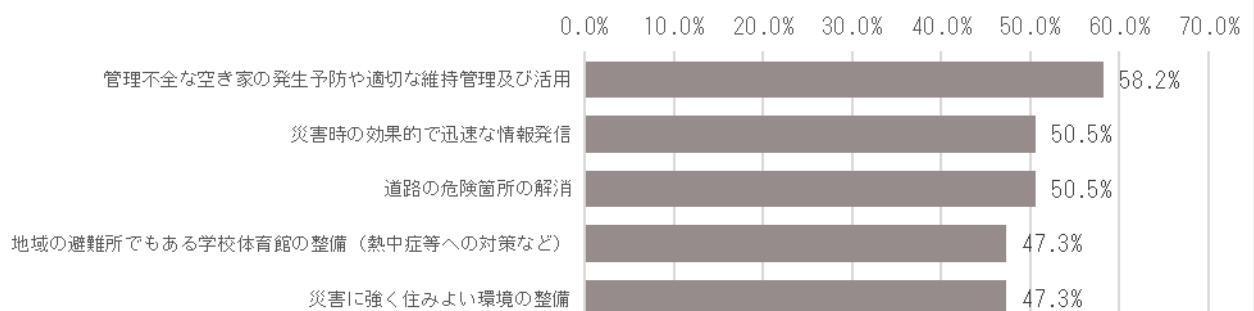
50歳代



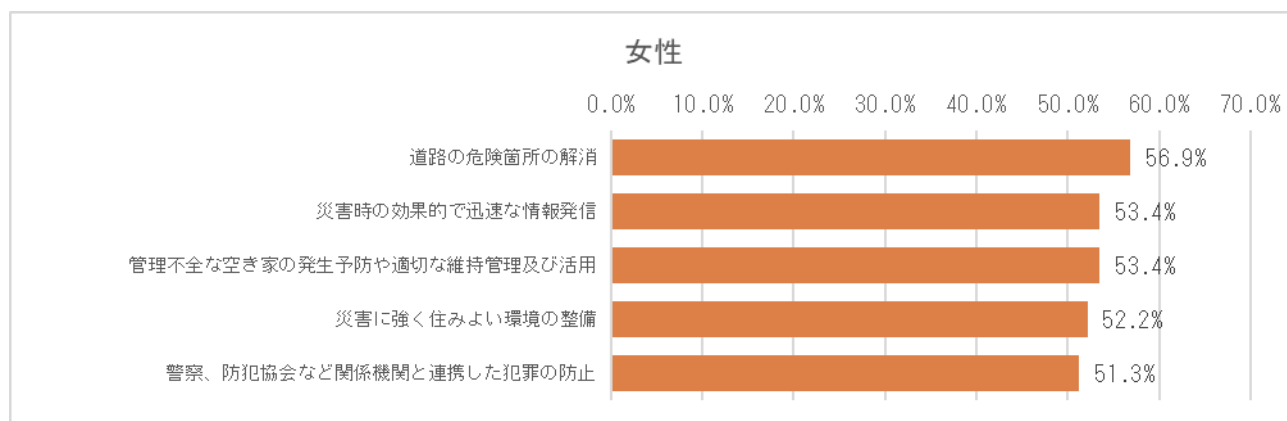
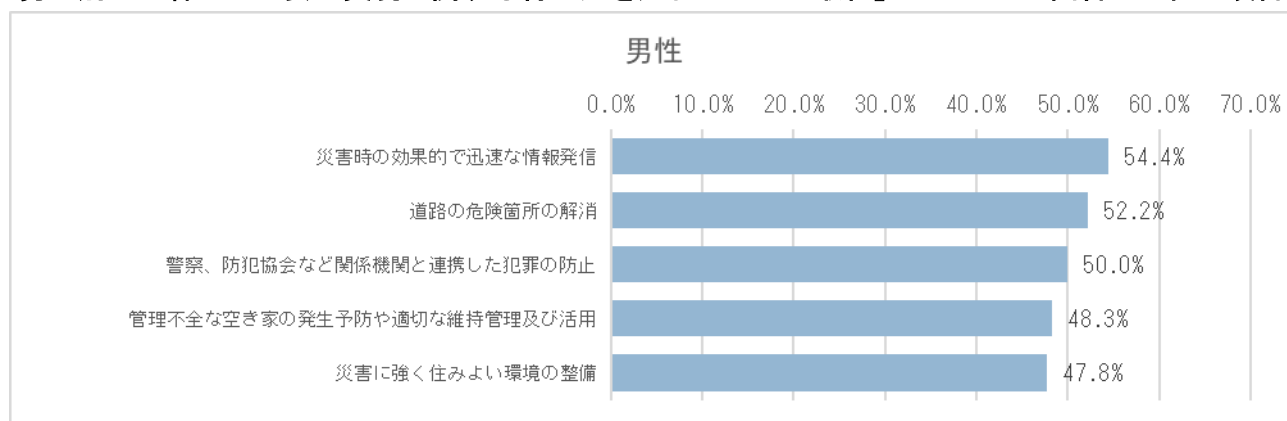
60歳代



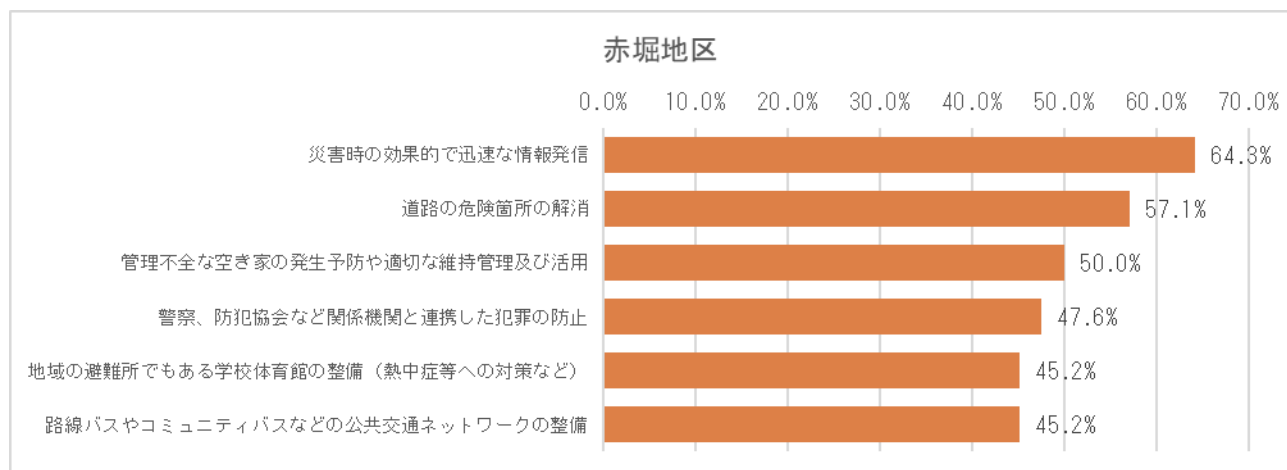
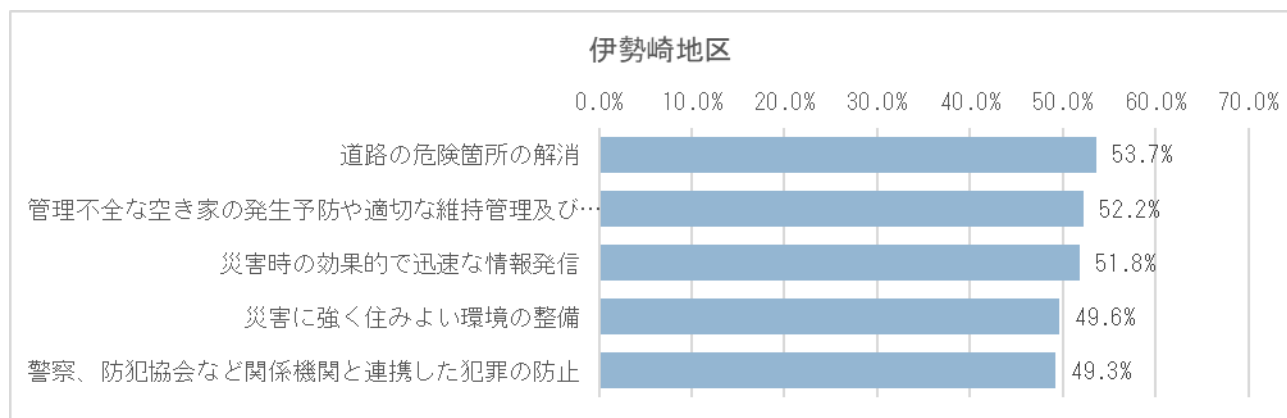
70歳以上

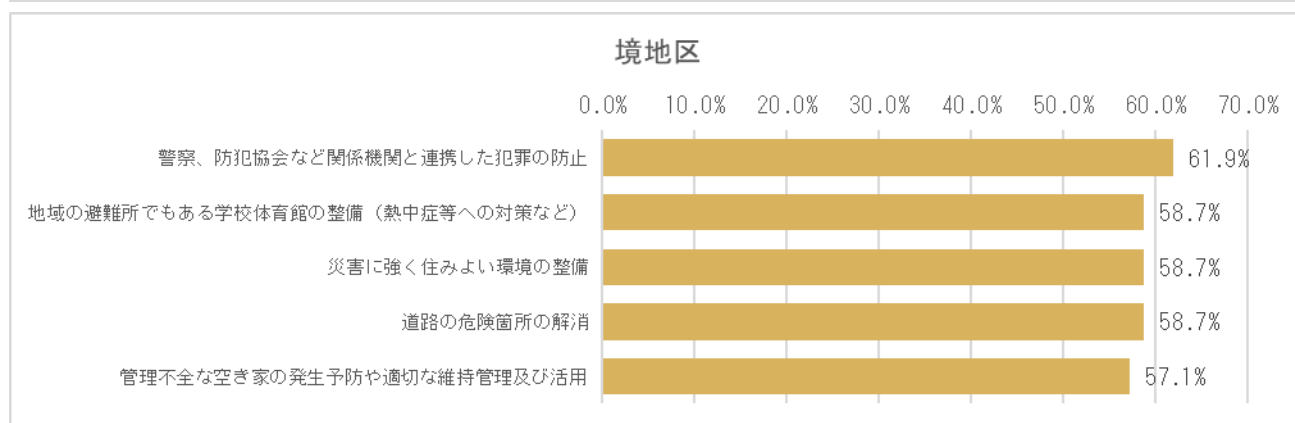
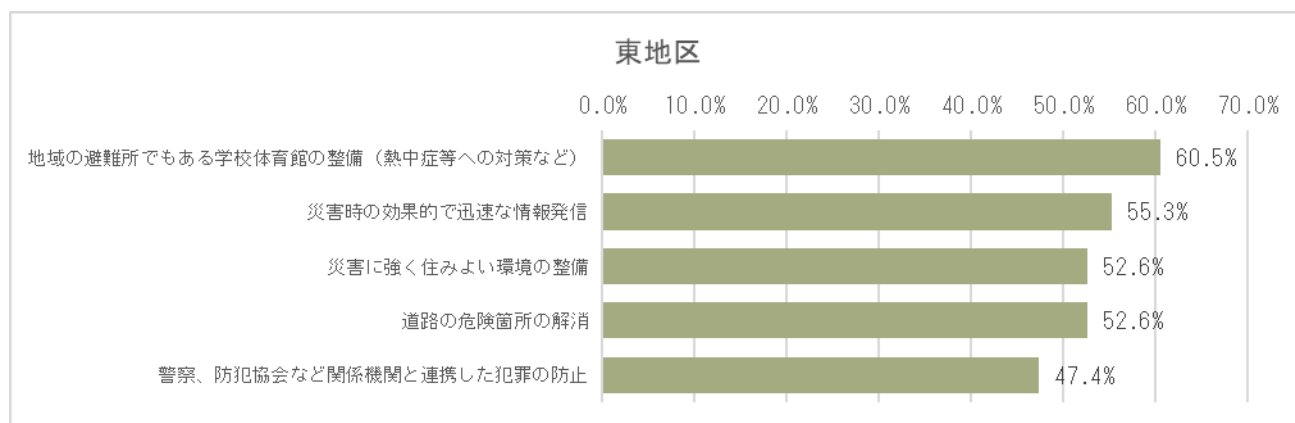


男女別の「暮らしの安心実現に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



地区別の「暮らしの安心実現に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目





◆「その他」の回答（主なもの）

- ・ 堤防強化や防災倉庫の整備
- ・ 歩道の拡幅
- ・ 道路整備と渋滞対策
- ・ 災害時の避難行動等に関する指針の具体化

（２４）「互いに認め合う多文化共生」への満足度

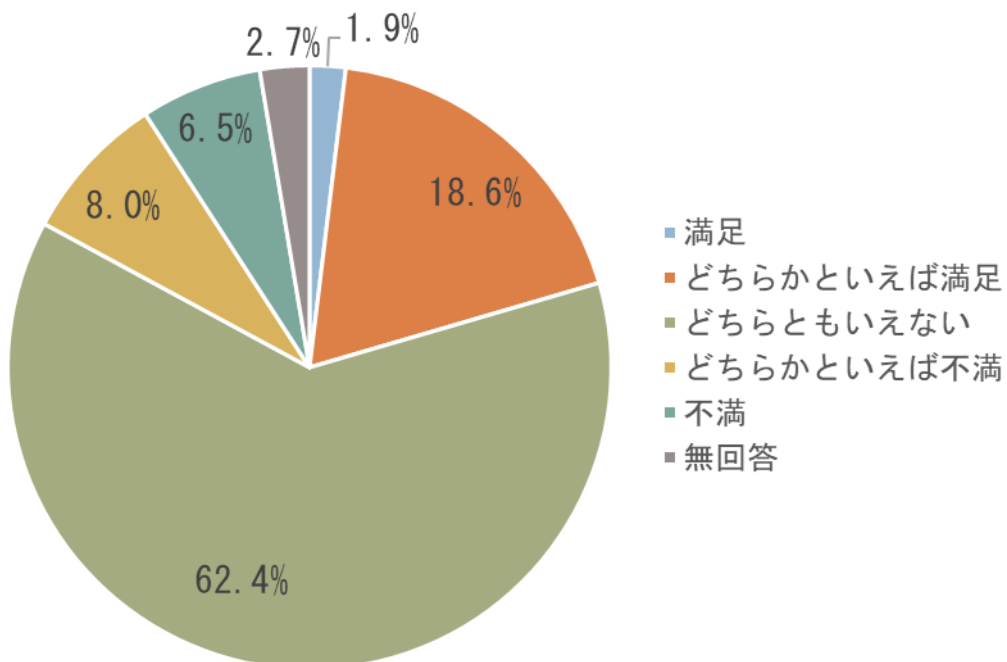
伊勢崎市では「互いに認め合う多文化共生」推進しているため、これに関する取組について満足度を聞いたところ、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 85 人(20.5%)、どちらともいえないと回答した人は 259 人(62.4%)、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 60 人(14.5%)、「無回答」が 11 人(2.7%)となった。

主な取組：外国人向け日本語教室、各種行政サービスの翻訳や通訳、企業等関係機関と連携、多文化交流のイベントや講座の開催など

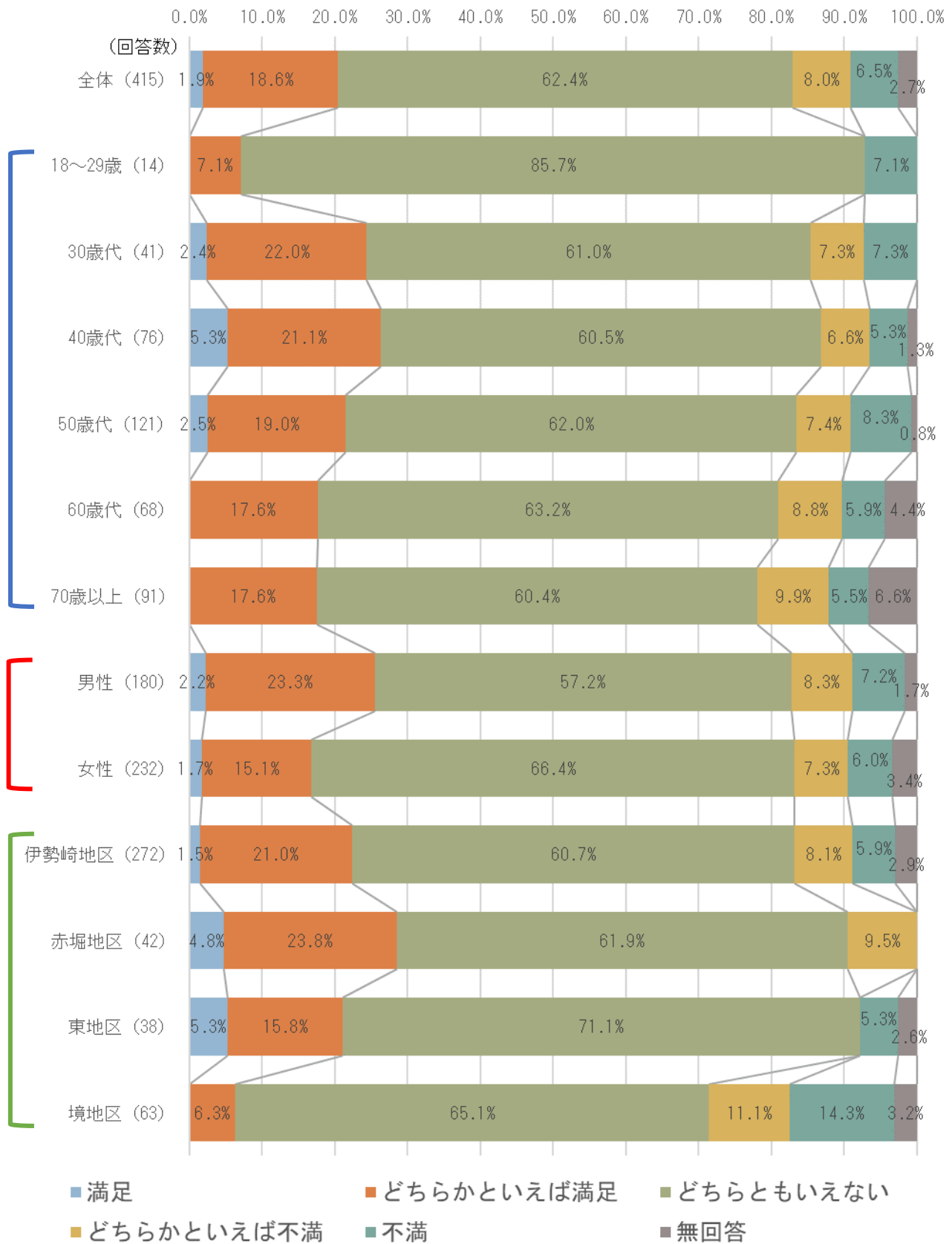
「互いに認め合う多文化共生」への満足度

	回答数	割合
満足	8	1.9%
どちらかといえば満足	77	18.6%
どちらともいえない	259	62.4%
どちらかといえば不満	33	8.0%
不満	27	6.5%
無回答	11	2.7%
合計	415	100.0%

「互いに認め合う多文化共生」への満足度（割合）



「互いに認め合う多文化共生」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



（２５）「人権を尊重するまちづくり」への満足度

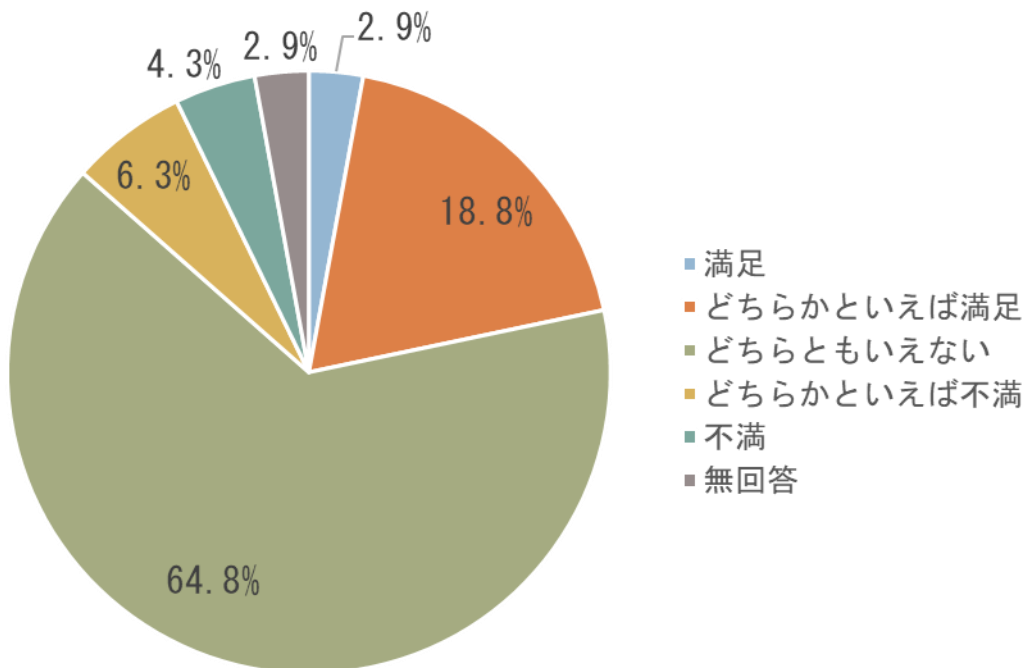
伊勢崎市では「人権を尊重するまちづくり」推進しているため、これに関する取組について満足度を聞いたところ、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 90 人(21.7%)、「どちらともいえない」と回答した人は 269 人（64.8%）、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 44 人(10.6%)、「無回答」が 12 人 2.9%となった。

主な取組：人権法律行政相談、教職員を対象とした人権教育に係る研修、講演会やパネル展などの啓発、相談・支援体制の強化など

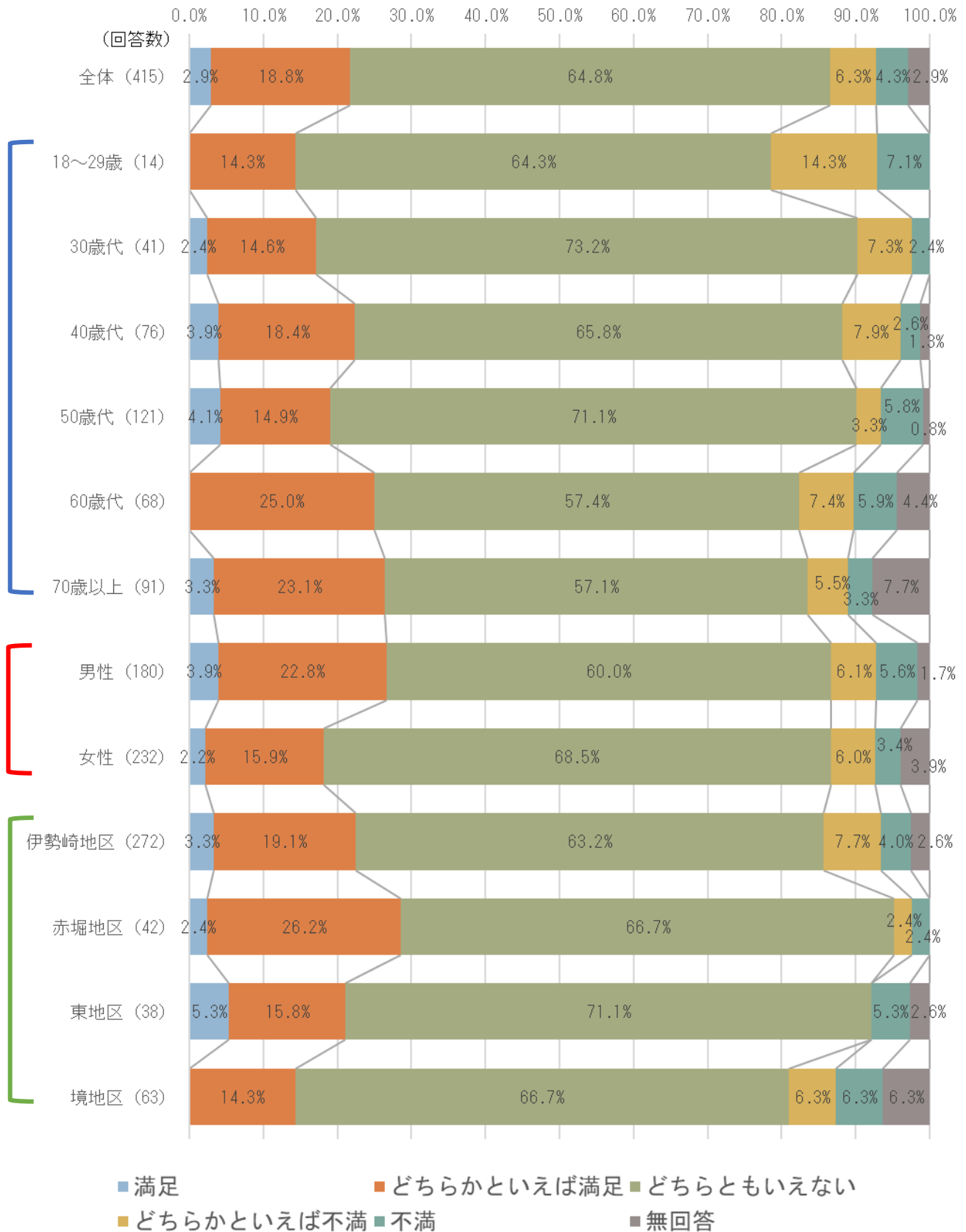
「人権を尊重するまちづくり」への満足度

	回答数	割合
満足	12	2.9%
どちらかといえば満足	78	18.8%
どちらともいえない	269	64.8%
どちらかといえば不満	26	6.3%
不満	18	4.3%
無回答	12	2.9%
合計	415	100.0%

「人権を尊重するまちづくり」への満足度の回答（割合）



「人権を尊重するまちづくり」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】

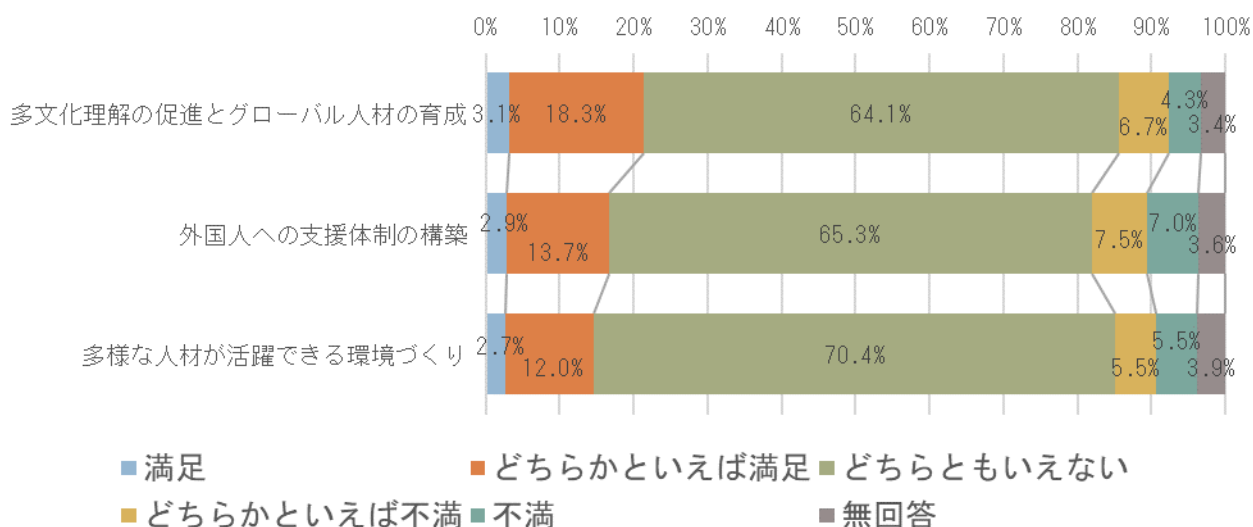


（２６）「共生社会の実現」に関する取組への満足度

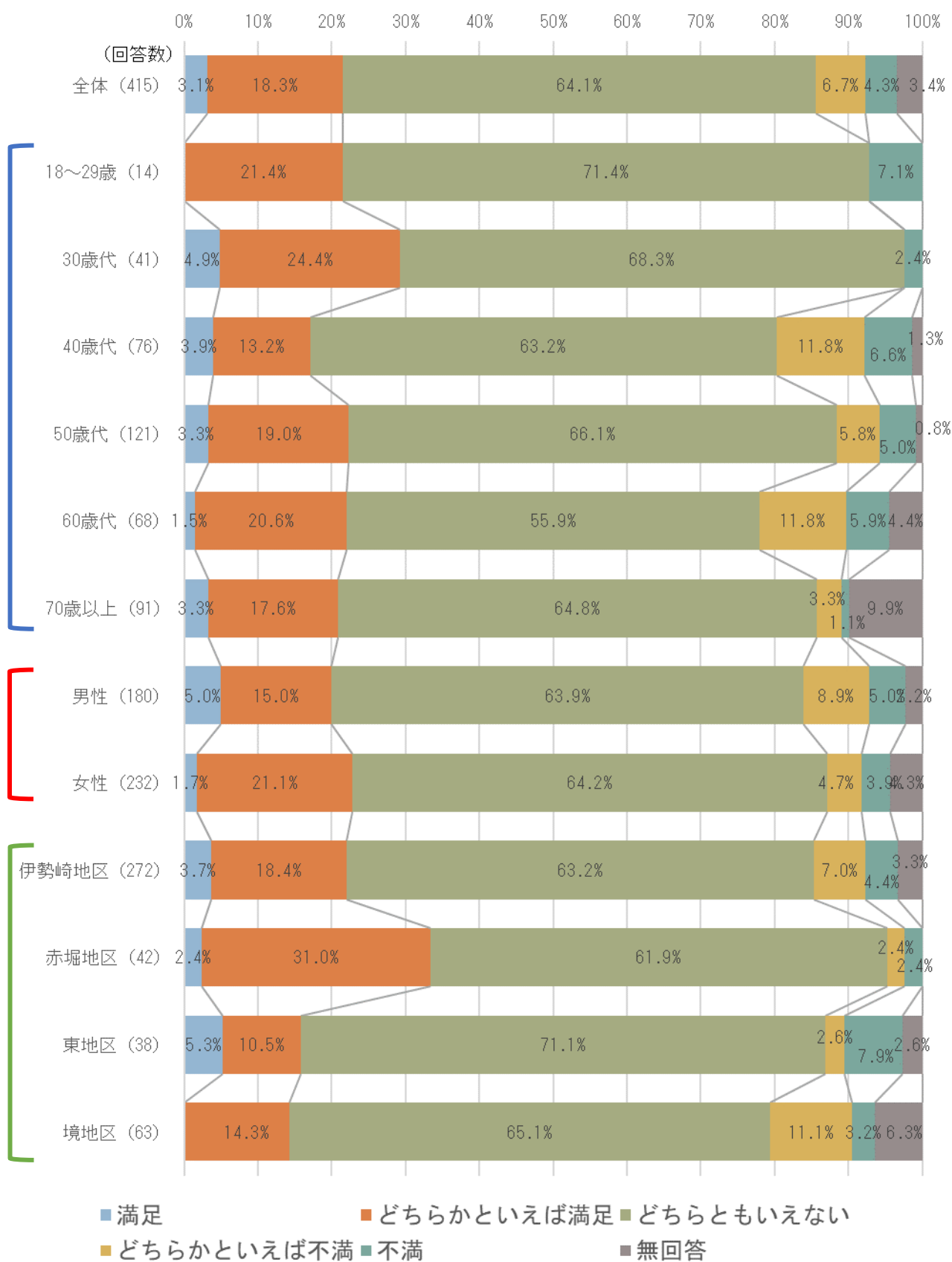
共生社会の実現に関する取組への満足度を聞いたところ、「多文化理解の促進とグローバル人材の育成」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は21.4%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は11.1%であり、満足度は、3.09（全体の4位）であった。「外国人への支援体制の構築」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は16.6%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は14.5%であり、満足度は、2.98（全体の13位）であった。「多様な人材が活躍できる環境づくり」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は14.7%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は11.1%であり、満足度は、3.01（全体の8位）であった。

取組	具体的な取組	満足度		満足度割合	
		平均値	順位	満足	不満
多文化理解の促進とグローバル人材の育成	外国人向け日本語教室、中学生のグローバル体験活動の推進、小中9年間の一貫指導による英語コミュニケーション能力の育成など	3.09	4	21.4%	11.1%
外国人への支援体制の構築	地域の情報やサービスの多言語化の推進、防災・医療分野での連携の強化、外国人住民が地域づくりに参加できる仕組みづくりなど	2.98	13	16.6%	14.5%
多様な人材が活躍できる環境づくり	男女平等教育の推進、基本的人権に関わる講演会等の開催、インクルーシブ教育の推進、障害者理解のための啓発活動の推進など	3.01	8	14.7%	11.1%

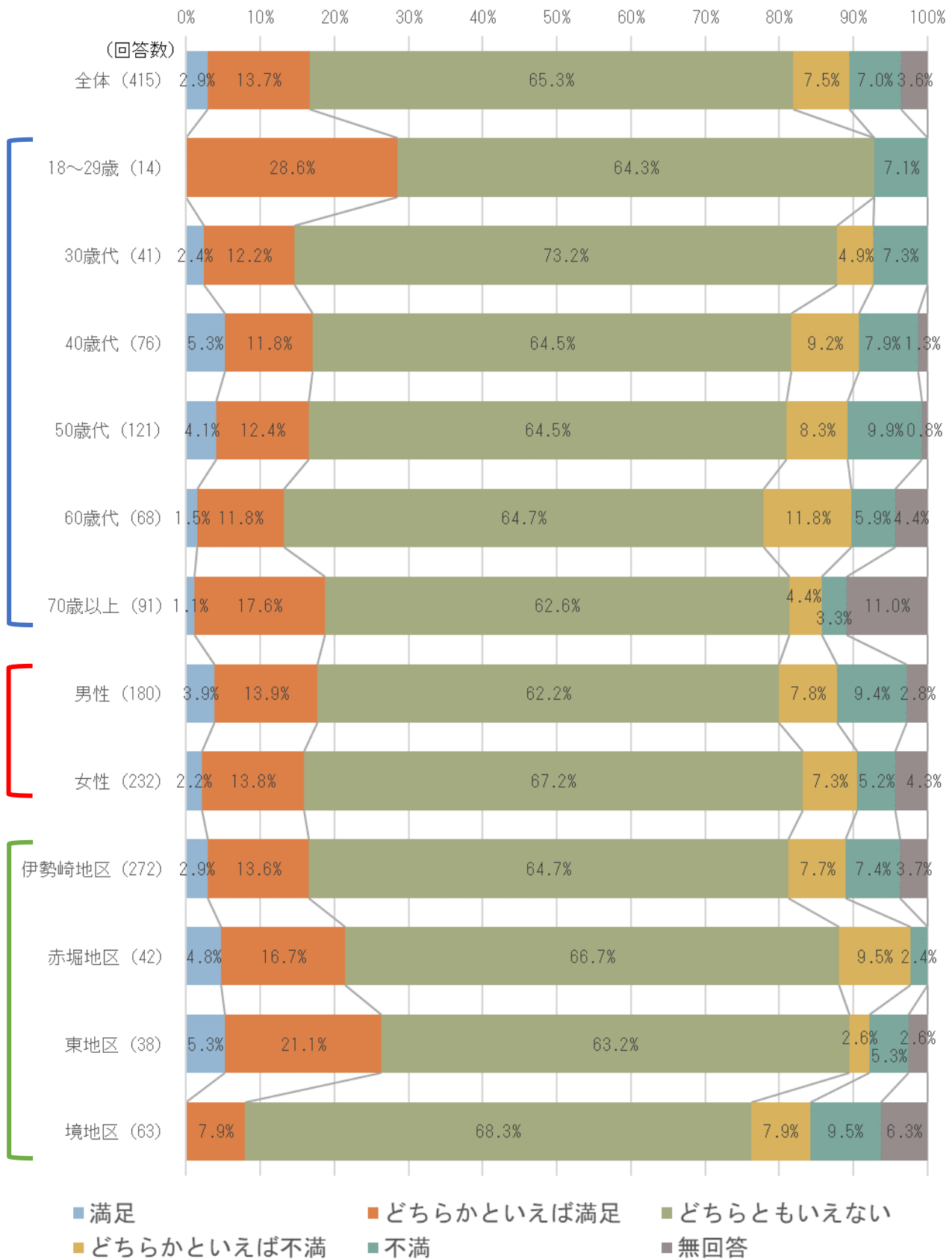
「共生社会の実現」に関する取組への満足度の回答（割合）



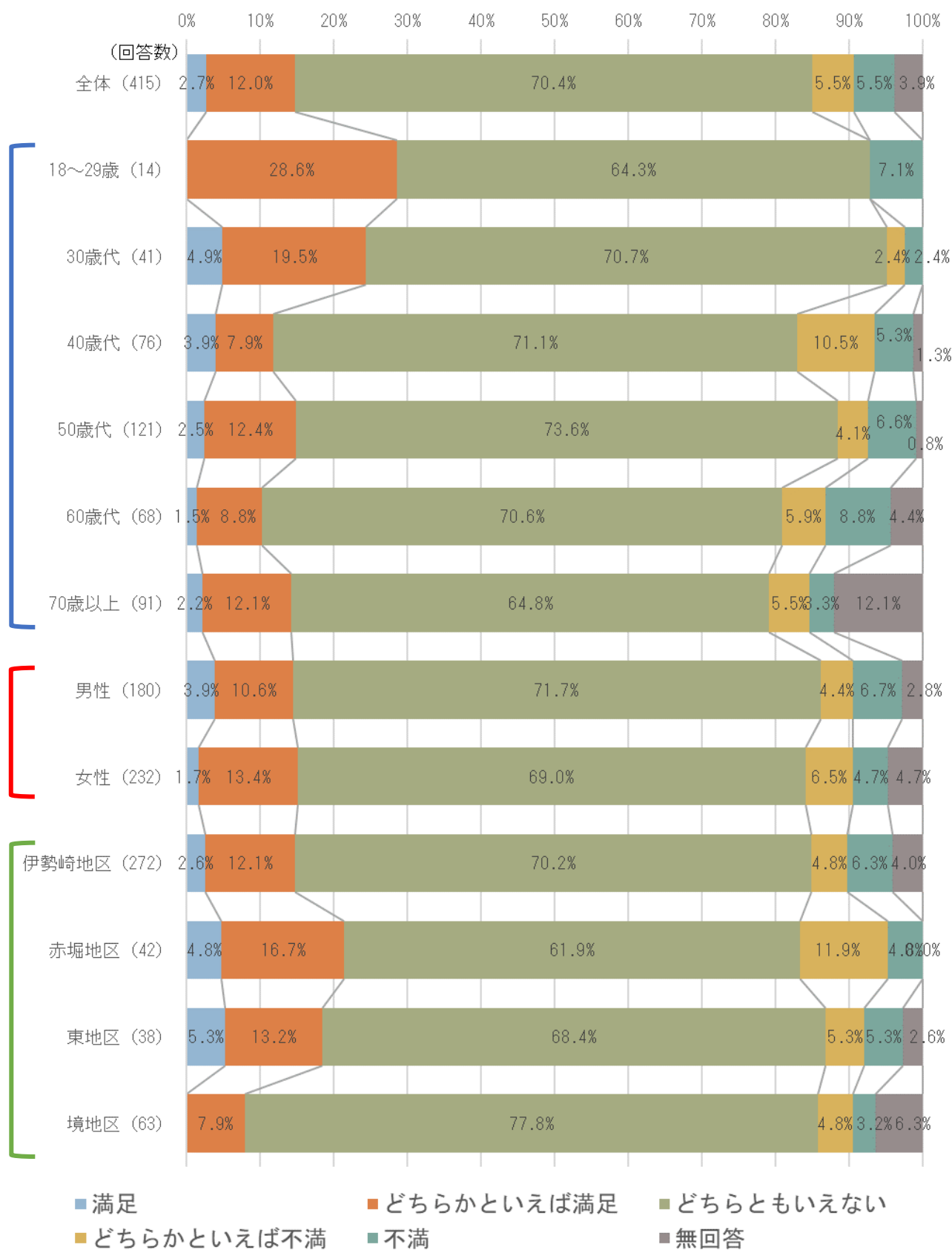
「多文化理解の促進とグローバル人材の育成」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「外国人への支援体制の構築」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「多様な人材が活躍できる環境づくり」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



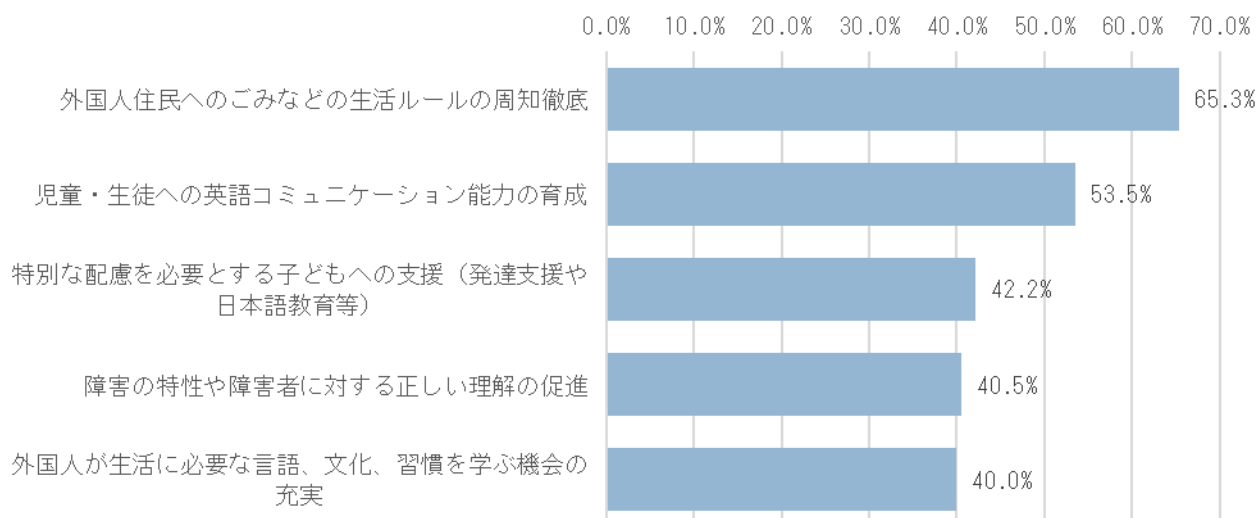
（２７）「共生社会の実現」に関する特に力を入れてほしい取組

共生社会の実現に関して、特に力を入れてほしい取組について聞いたところ、「外国人住民へのごみなどの生活ルールの周知徹底」と回答した人が、65.3%で最も高くなった。以下、「児童・生徒への英語コミュニケーション能力の育成」が53.5%、「特別な配慮を必要とする子どもへの支援（発達支援や日本語教育等）」が42.2%、「障害の特性や障害者に対する正しい理解の促進」が40.5%、「外国人が生活に必要な言語、文化、習慣を学ぶ機会の充実」が40.0%と続いている。

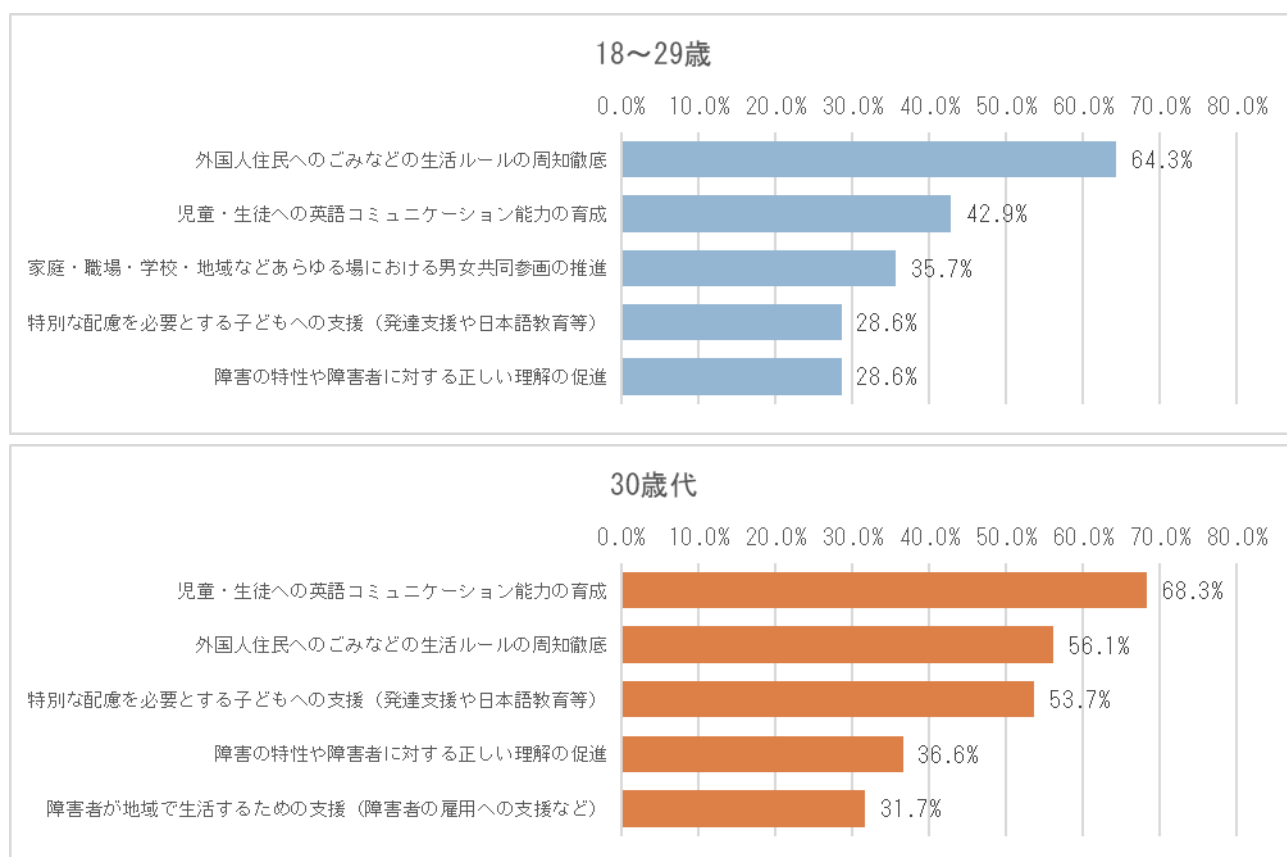
「共生社会の実現に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答【複数回答】

		回答数	割合	全体 順位
多文化理解 の促進と グローバル 人材の育成	児童・生徒への英語コミュニケーション能力の育成	222	53.5%	5
	四ツ葉学園中等教育学校におけるグローバル人材の育成	39	9.4%	105
	外国人が生活に必要な言語、文化、習慣を学ぶ機会の充実	166	40.0%	29
	外国人が就労先で日本語や生活習慣を学ぶ機会の充実	129	31.1%	51
	外国人が地域に参加できる環境づくり	119	28.7%	60
	その他	9	2.2%	113
外国人への 支援体制の 構築	翻訳や通訳の充実	109	26.3%	73
	災害時外国人支援ボランティアの充実	59	14.2%	103
	外国人住民へのごみなどの生活ルールの周知徹底	271	65.3%	1
	外国人住民の仕事や働く場所についての情報の充実	82	19.8%	93
	医療サービスや健康についての情報の充実	98	23.6%	82
	住居についての情報の充実	57	13.7%	104
	各種行政手続きについての情報の充実	72	17.3%	99
	外国人住民が母語（自分の国の言語）を学ぶ機会の充実	33	8.0%	107
	その他	7	1.7%	119
多様な 人材が 活躍できる 環境づくり	特別な配慮を必要とする子どもへの支援（発達支援や日本語教育等）	175	42.2%	24
	障害者が地域で生活するための支援（障害者の雇用への支援など）	145	34.9%	41
	障害の特性や障害者に対する正しい理解の促進	168	40.5%	28
	人権教育・啓発（人権法律行政相談などの支援等）	113	27.2%	67
	家庭・職場・学校・地域などあらゆる場における男女共同参画の推進	140	33.7%	46
	その他	6	1.4%	121

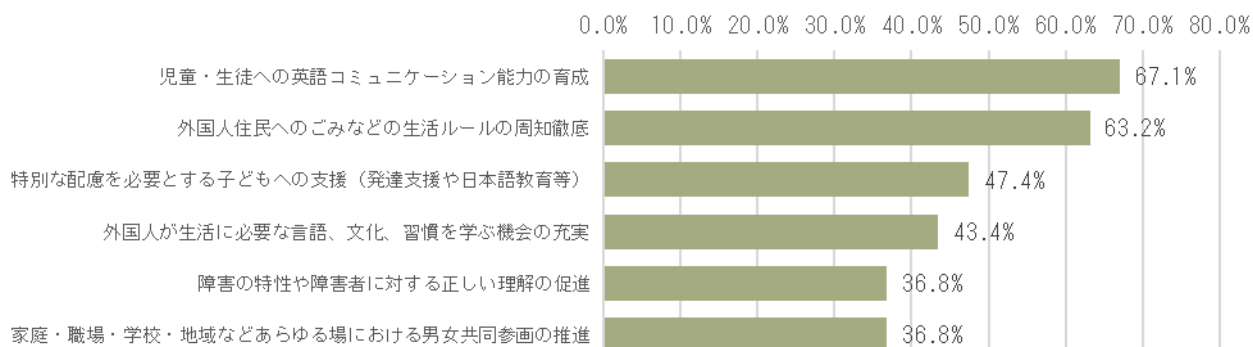
「共生社会の実現に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



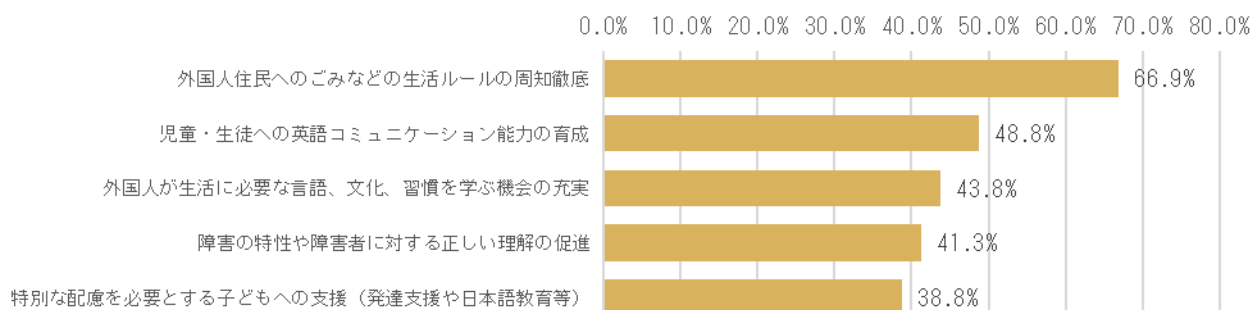
年代別の「共生社会の実現に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



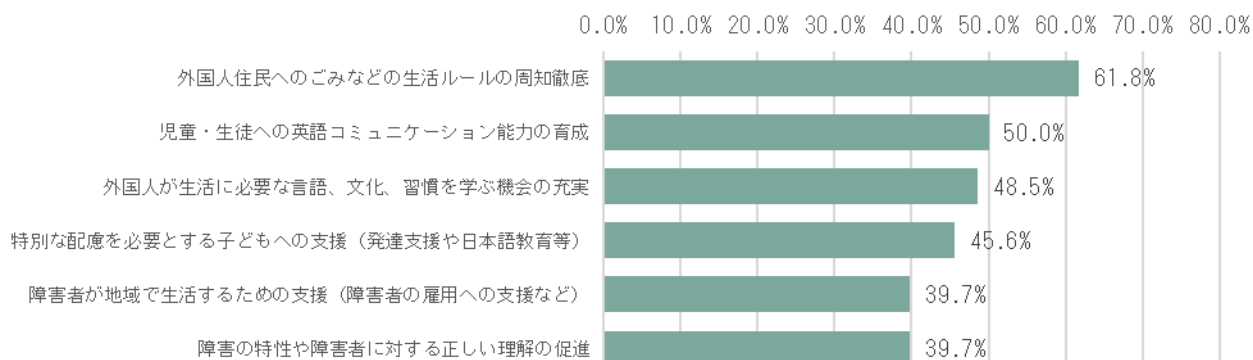
40歳代



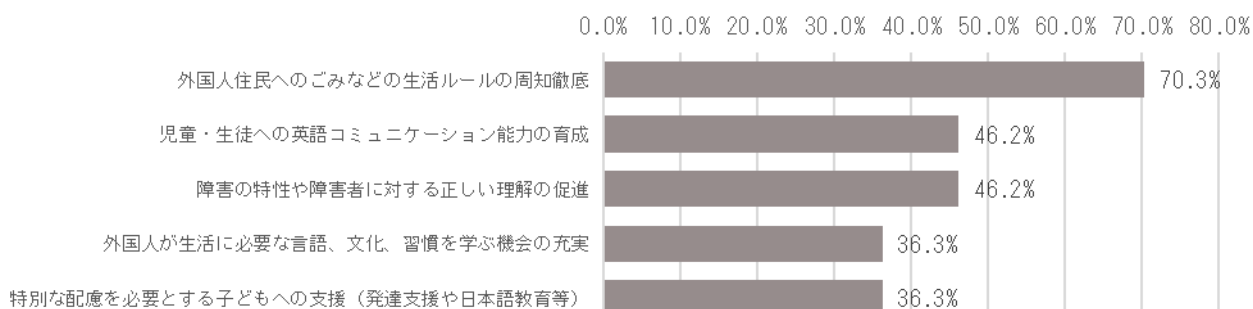
50歳代



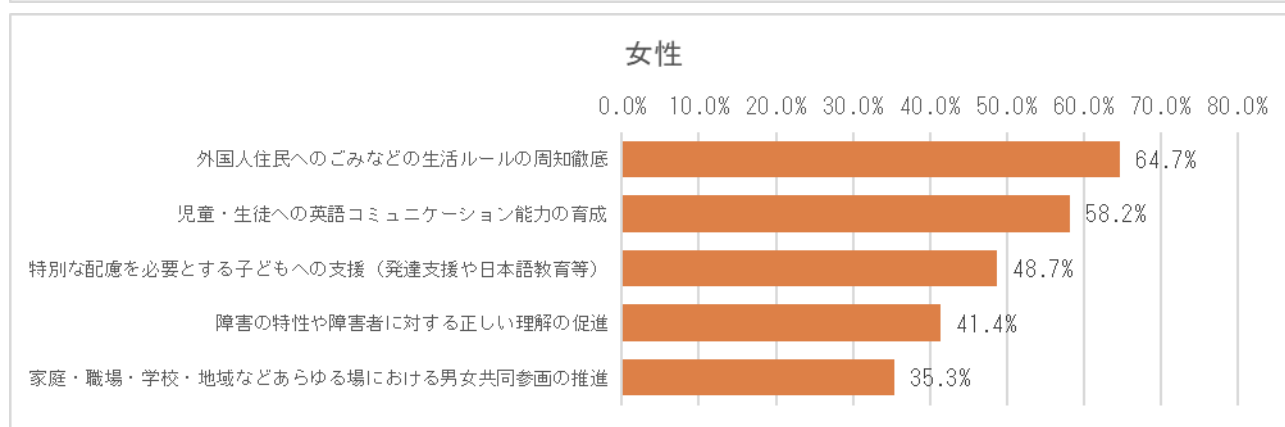
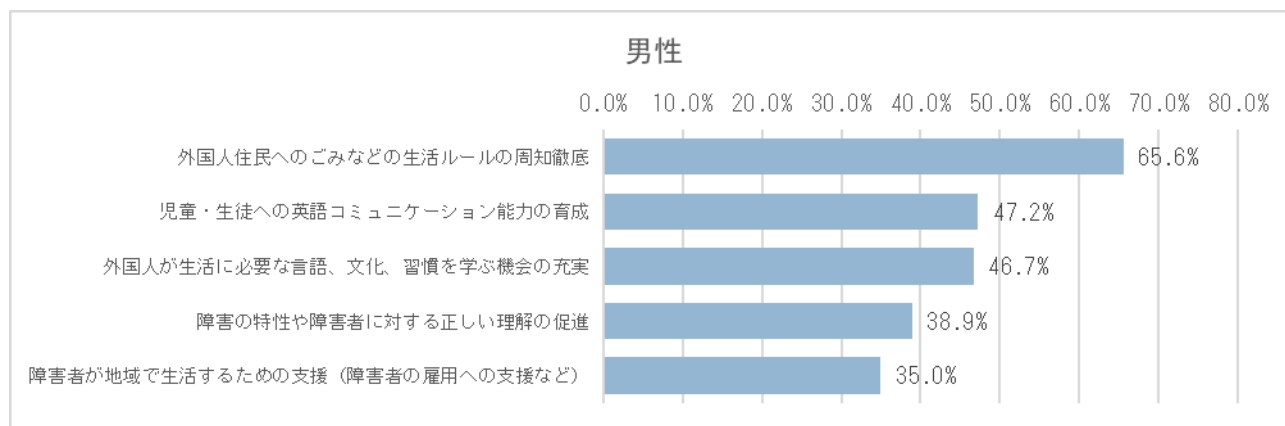
60歳代



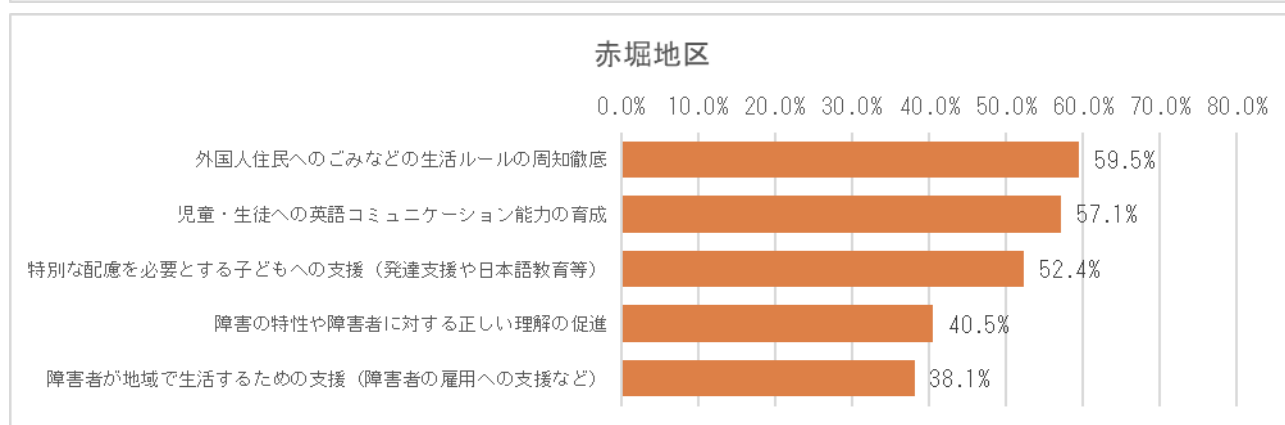
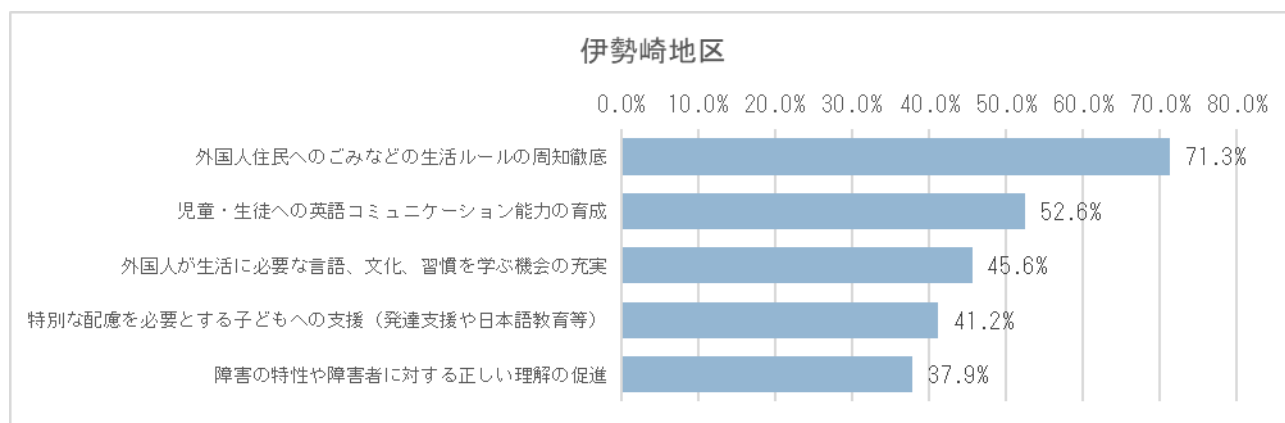
70歳以上

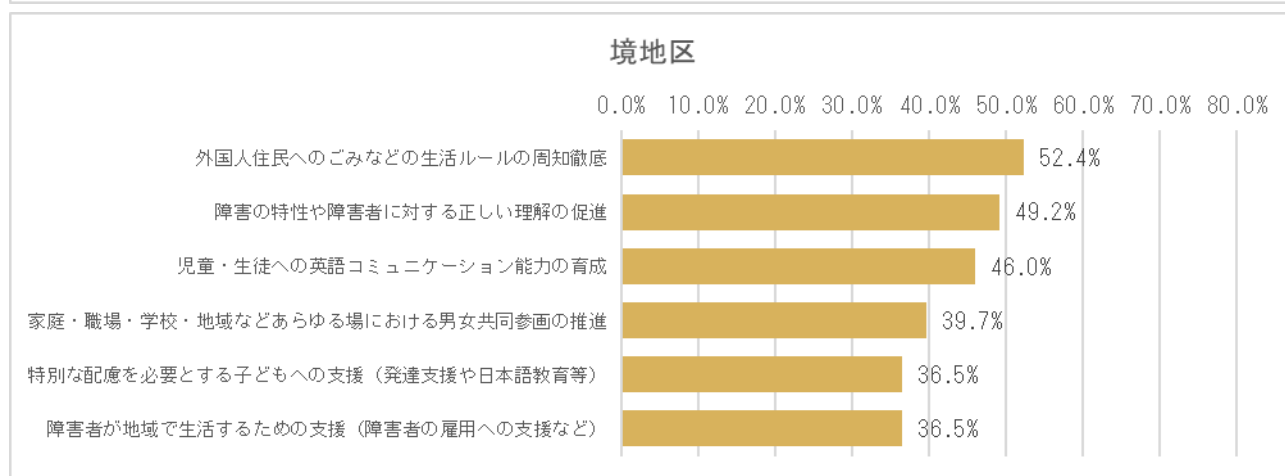
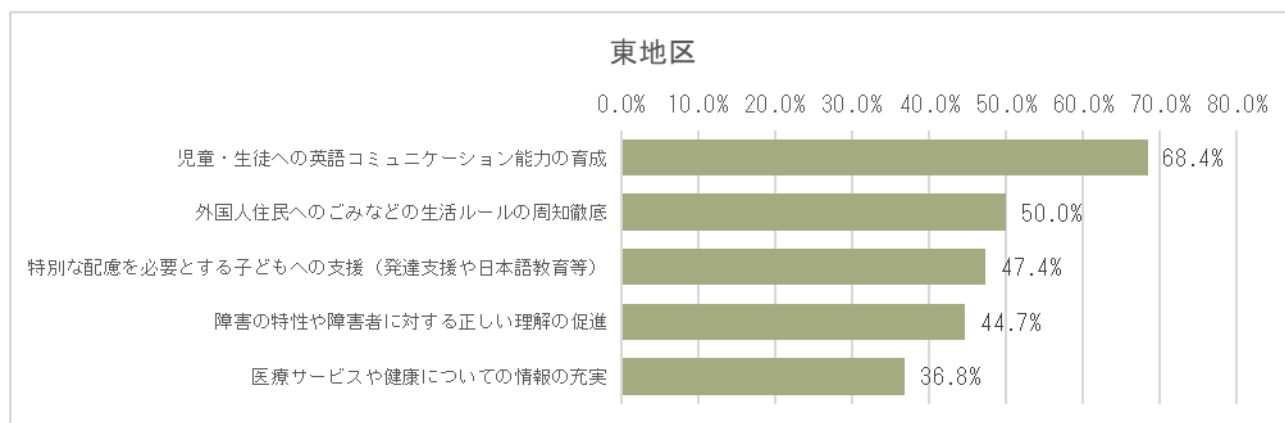


男女別の「共生社会の実現に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



地区別の「共生社会の実現に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目





◆「その他」の回答（主なもの）

- ・ 大人の英語コミュニケーション能力の育成
- ・ 不法滞在の外国人への対応
- ・ 日本人が外国人住民の母語を学ぶ機会
- ・ インクルーシブデザインを用いた雇用促進環境の整備
- ・ 外国人に日本の文化を知ってもらう

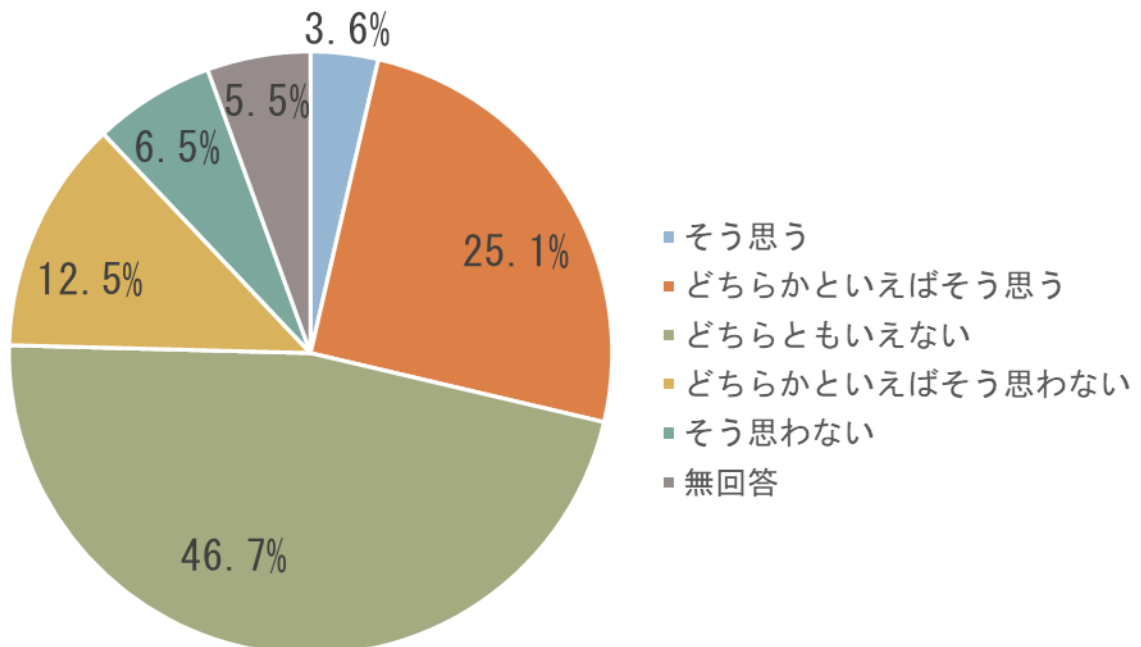
（２８）伊勢崎市はＤＸが進んでいると思うか

伊勢崎市は行政手続においてデジタルの活用が進んでいると思うか聞いたところ、「どちらかといえばそう思う」を含め「そう思う」と回答した人は119人(28.7%)、「どちらともいえない」と回答した人は194人(46.7%)、「どちらかといえばそう思わない」を含め「そう思わない」と回答した人は79人(19.0%)、「無回答」が23人(5.5%)となった。

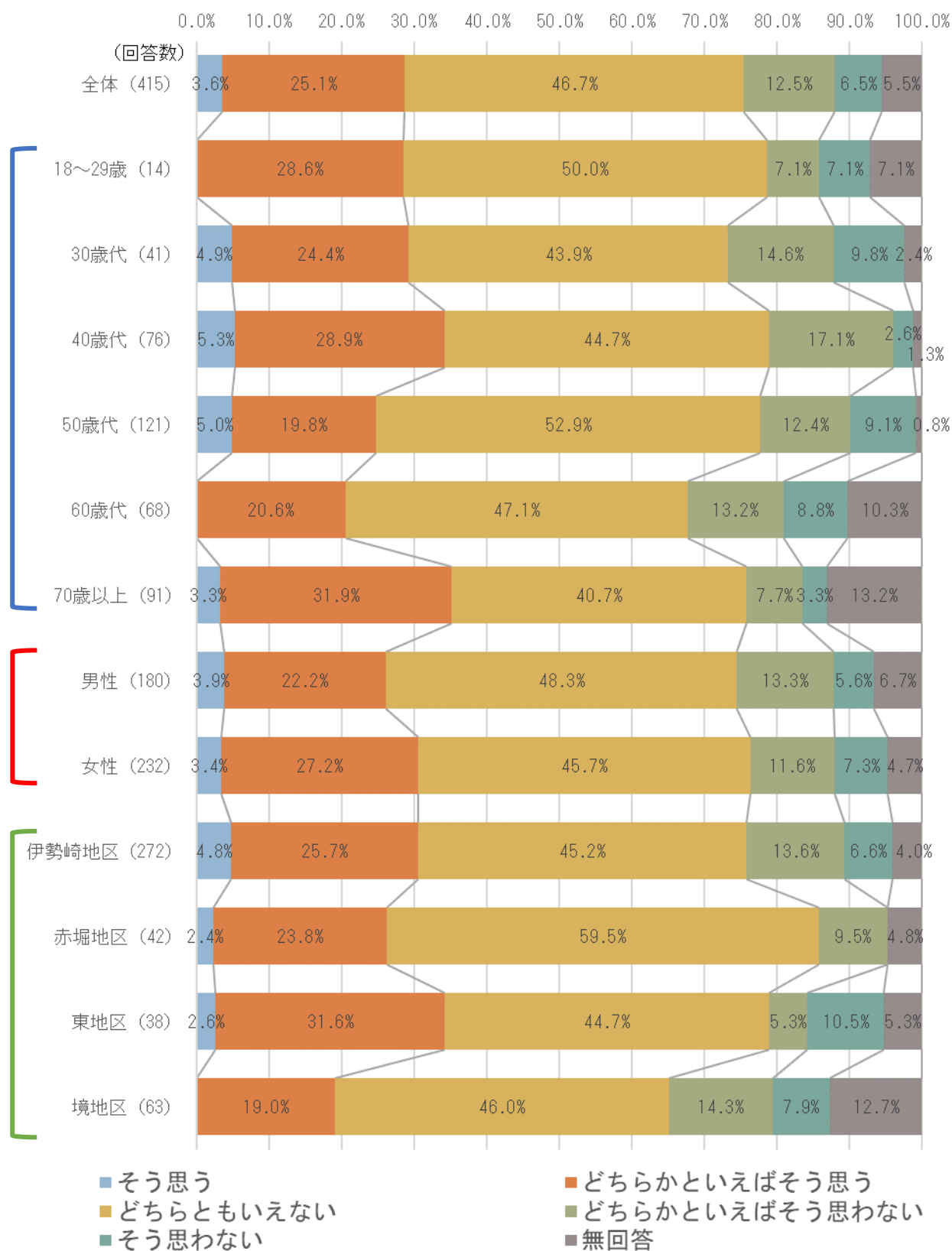
「伊勢崎市はＤＸが進んでいると思うか」についての回答

	回答数	割合
そう思う	15	3.6%
どちらかといえばそう思う	104	25.1%
どちらともいえない	194	46.7%
どちらかといえばそう思わない	52	12.5%
そう思わない	27	6.5%
無回答	23	5.5%
合計	415	100.0%

「伊勢崎市はＤＸが進んでいると思うか」についての回答（割合）



「伊勢崎市はＤＸが進んでいると思うか」についての回答【年代別、男女別、地区別】（割合）

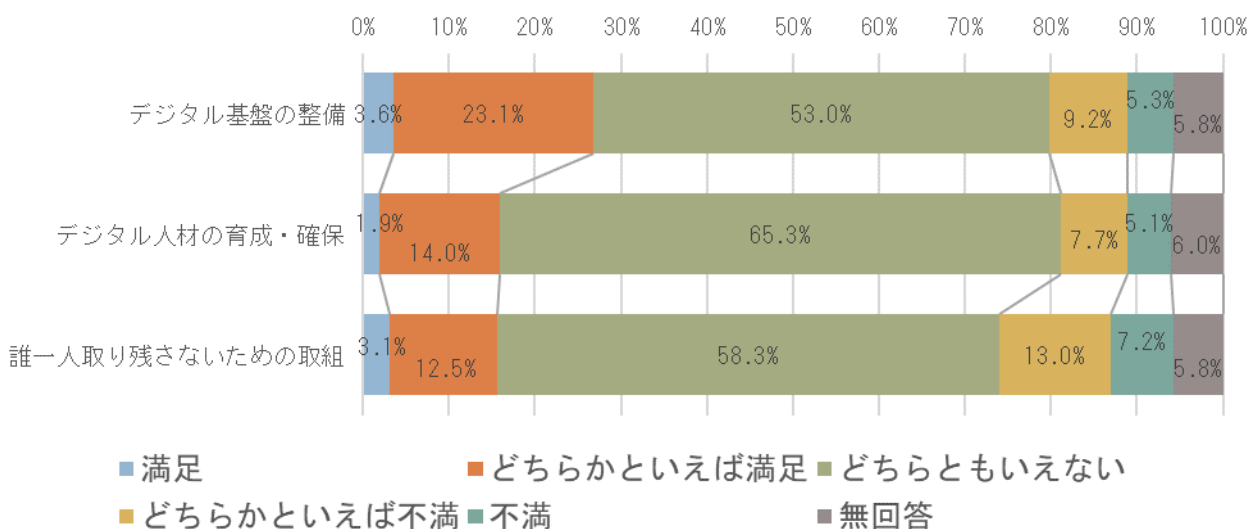


（２９）「ＤＸの推進」に関する取組への満足度

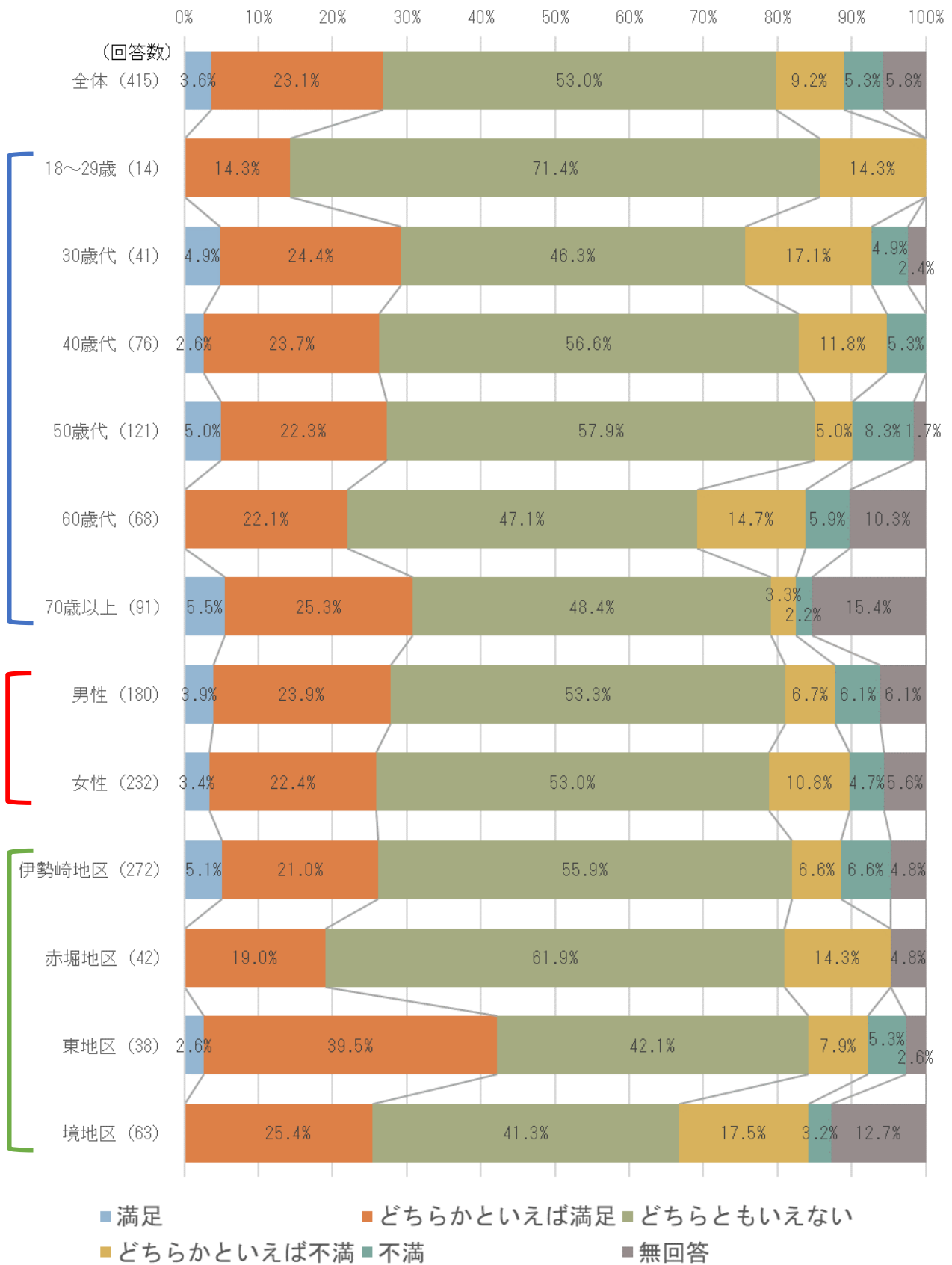
ＤＸの推進に関する取組への満足度を聞いたところ、「デジタル基盤の整備」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 26.7%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 14.5%であり、満足度は、3.11（全体の 3 位）であった。「デジタル人材の育成・確保」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 15.9%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 12.8%であり、満足度は、3.00（全体の 9 位）であった。「誰一人取り残さないための取組」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は 15.7%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は 20.2%であり、満足度は、2.91（全体の 17 位）であった。

取組	具体的な取組	満足度		満足度割合	
		平均値	順位	満足	不満
デジタル基盤の整備	マイナンバーカードの利活用拡大、保育業務支援システムの導入、医療機関におけるデジタル化推進の支援など	3.11	3	26.7%	14.5%
デジタル人材の育成・確保	デジタル機器の活用等による学びの充実、eスポーツの推進等による新産業分野の育成支援、ＤＸ推進に向けた職員の育成など	3.00	9	15.9%	12.8%
誰一人取り残さないための取組	デジタル技術を用いたタクシーの活用、予防接種におけるアプリの活用、運動施設のオンライン予約など	2.91	17	15.7%	20.2%

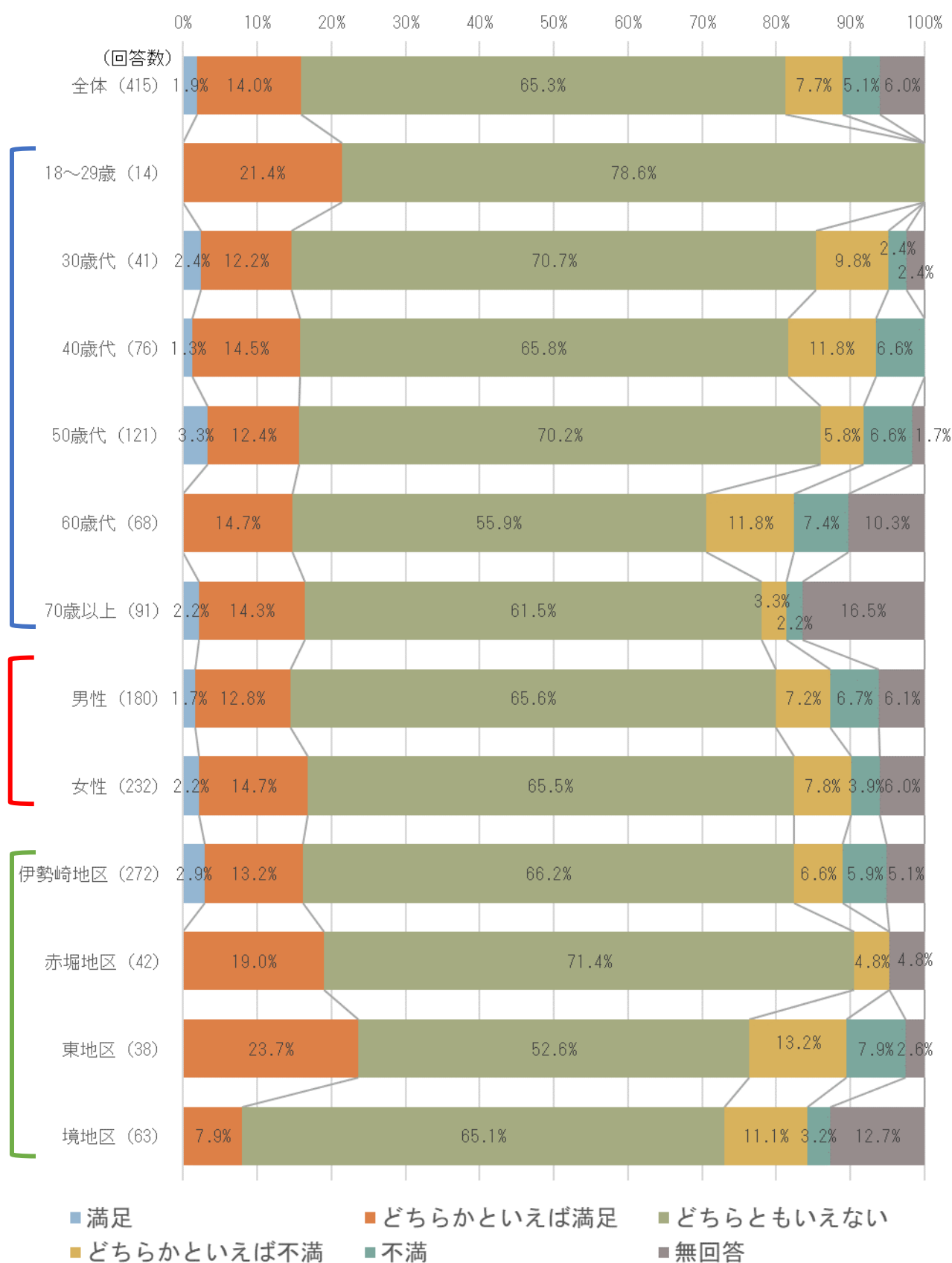
「ＤＸの推進」に関する取組への満足度（割合）



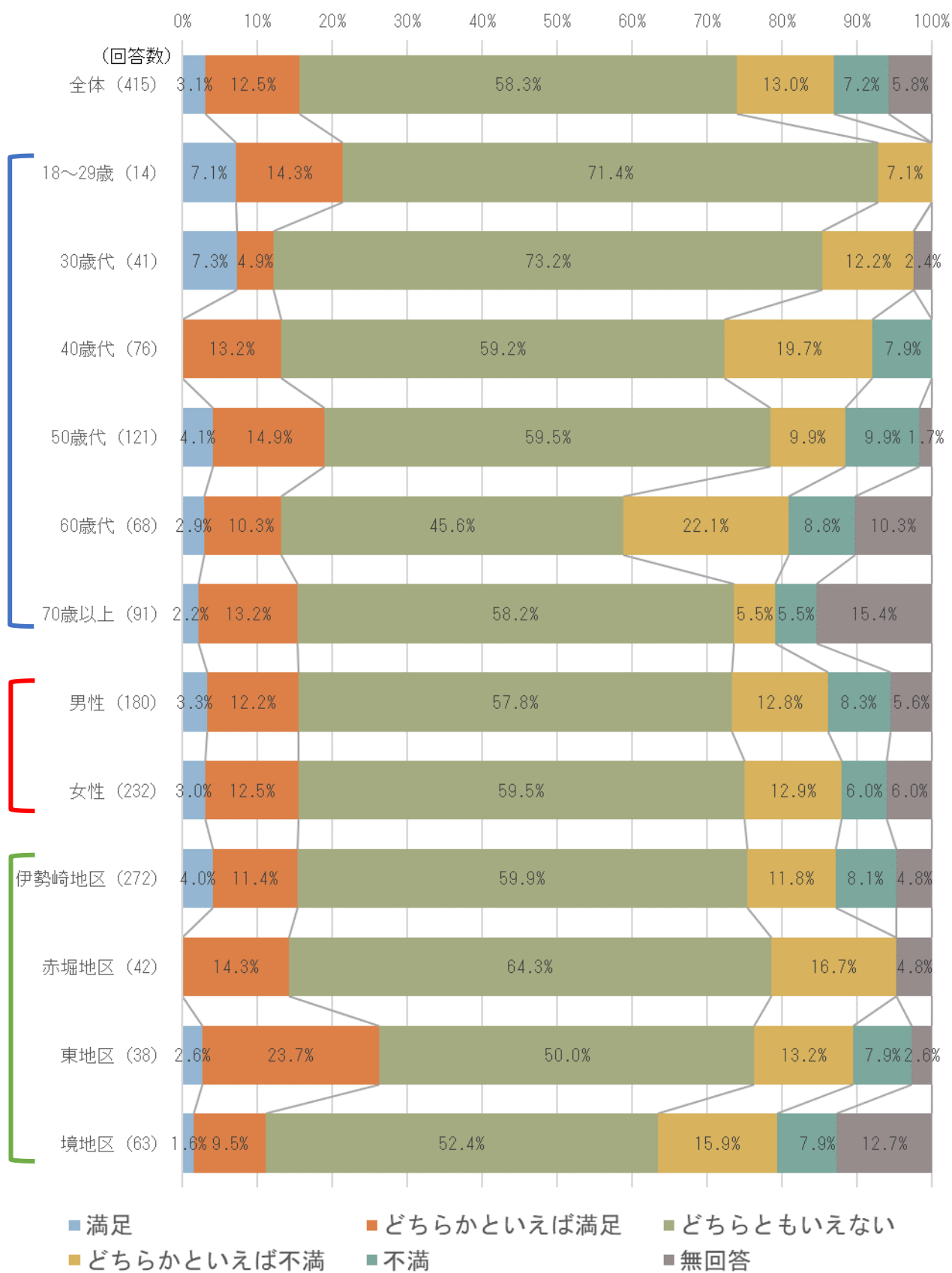
「デジタル基盤の整備」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「デジタル人材の育成・確保」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「誰一人取り残さないための取組」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



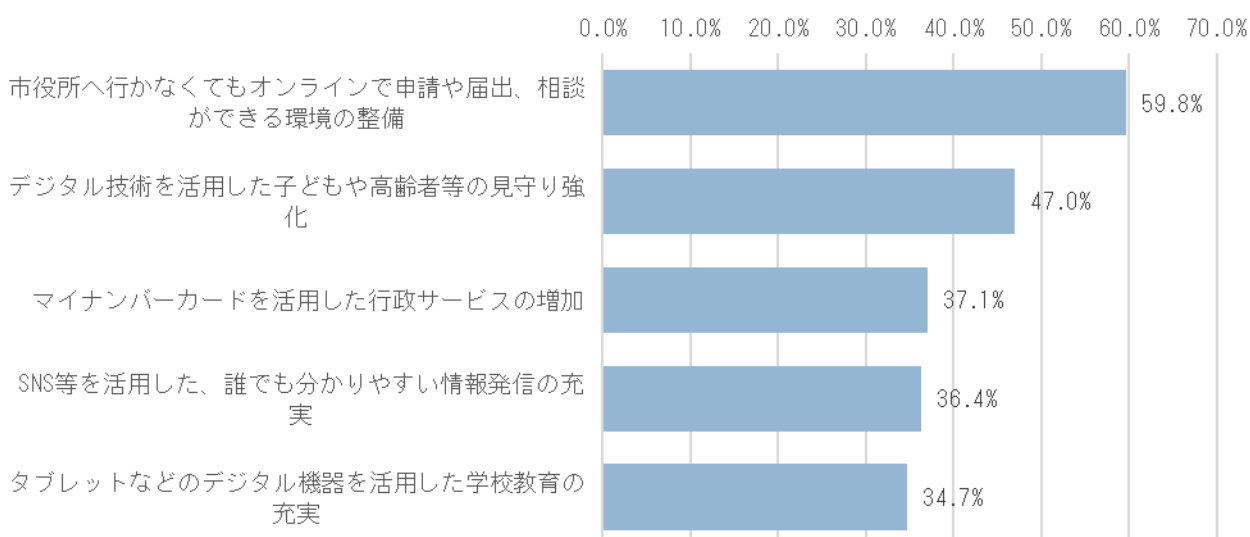
（３０）「ＤＸの推進」に関する特に力を入れてほしい取組

ＤＸの推進に関して、特に力を入れてほしい取組について聞いたところ、「市役所へ行かなくてもオンラインで申請や届出、相談ができる環境の整備」と回答した人が、59.8%で最も高くなった。以下、「デジタル技術を活用した子どもや高齢者等の見守り強化」が47.0%、「マイナンバーカードを活用した行政サービスの増加」が37.1%、「ＳＮＳ等を活用した、誰でも分かりやすい情報発信の充実」が36.4%、「タブレットなどのデジタル機器を活用した学校教育の充実」が34.7%と続いている。

「ＤＸの推進に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答【複数回答】

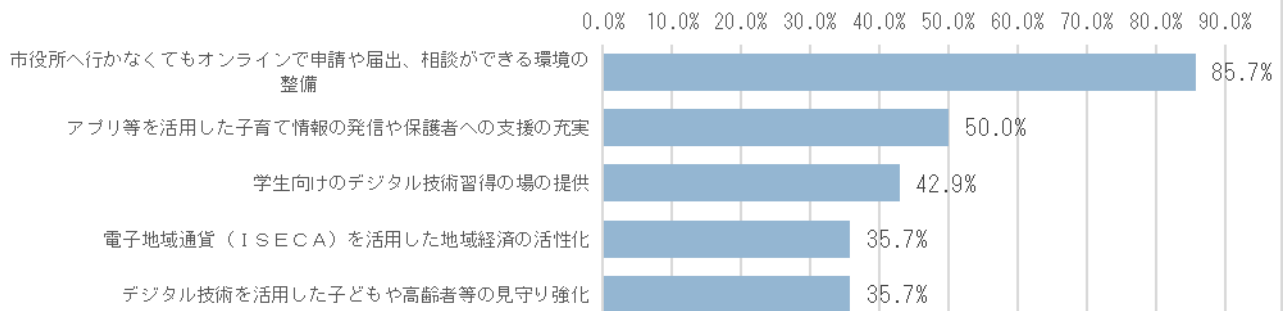
		回答数	割合	全体 順位
デジタル 基盤の整備	市役所へ行かなくてもオンラインで申請や届出、相談ができる環境の整備	248	59.8%	2
	市役所や市有施設におけるキャッシュレス決済可能な窓口の整備	126	30.4%	52
	マイナンバーカードを活用した行政サービスの増加	154	37.1%	35
	オープンデータ等を活用した官民データ利活用の推進	34	8.2%	106
	電子地域通貨（ＩＳＥＣＡ）を活用した地域経済の活性化	120	28.9%	58
	その他	9	2.2%	113
デジタル 人材の 育成・確保	タブレットなどのデジタル機器を活用した学校教育の充実	144	34.7%	42
	デジタル技術を活用した新産業分野の育成支援（ｅスポーツの推進など）	61	14.7%	102
	労働者へのデジタル技術習得機会の提供	142	34.2%	43
	学生向けのデジタル技術習得の場の提供	110	26.5%	71
	その他	9	2.2%	113
誰一人 取り残さな い ための取組	アプリ等を活用した子育て情報の発信や保護者への支援の充実	118	28.4%	61
	ＳＮＳ等を活用した、誰でも分かりやすい情報発信の充実	151	36.4%	37
	デジタル技術を活用した子どもや高齢者等の見守り強化	195	47.0%	13
	スマートフォンなどのデジタル機器の使い方講座等の充実	125	30.1%	53
	その他	7	1.7%	119

「ＤＸの推進に関する特に力を入れてほしい取組」の回答の上位５項目

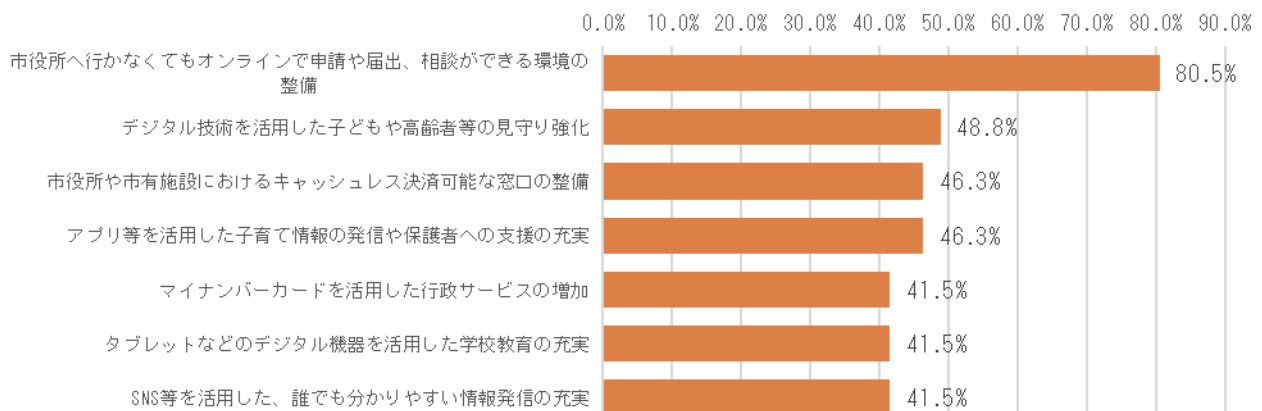


年代別の「DXの推進に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目

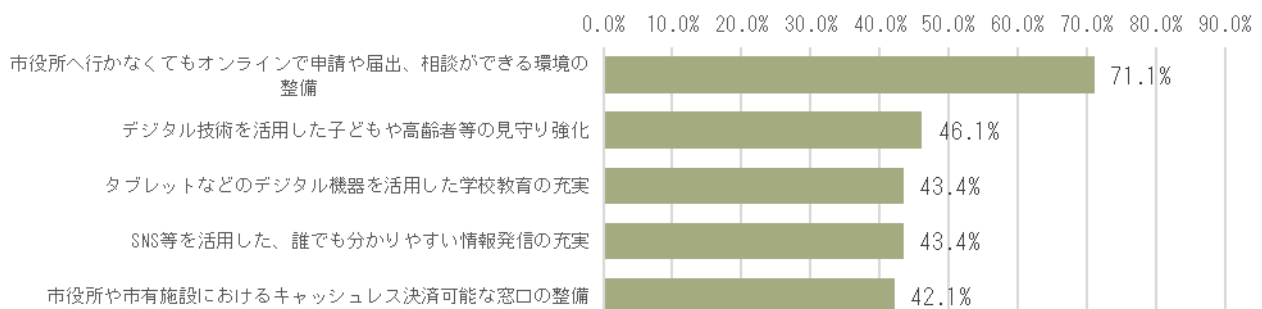
18～29歳



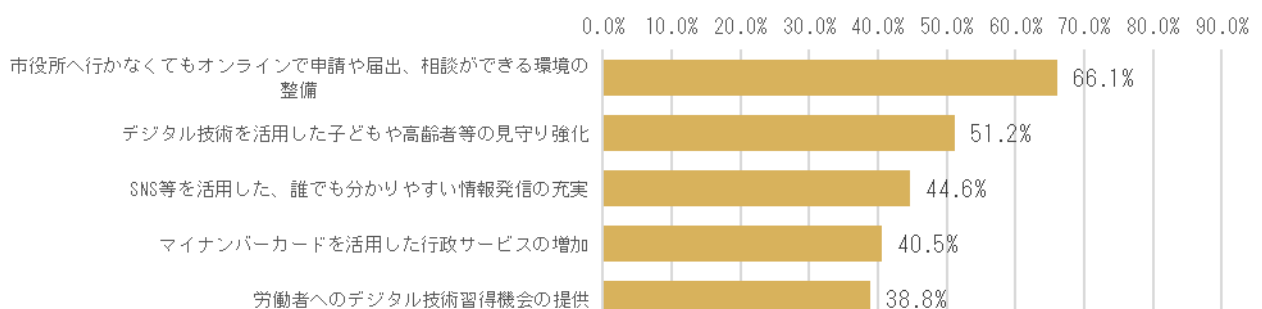
30歳代

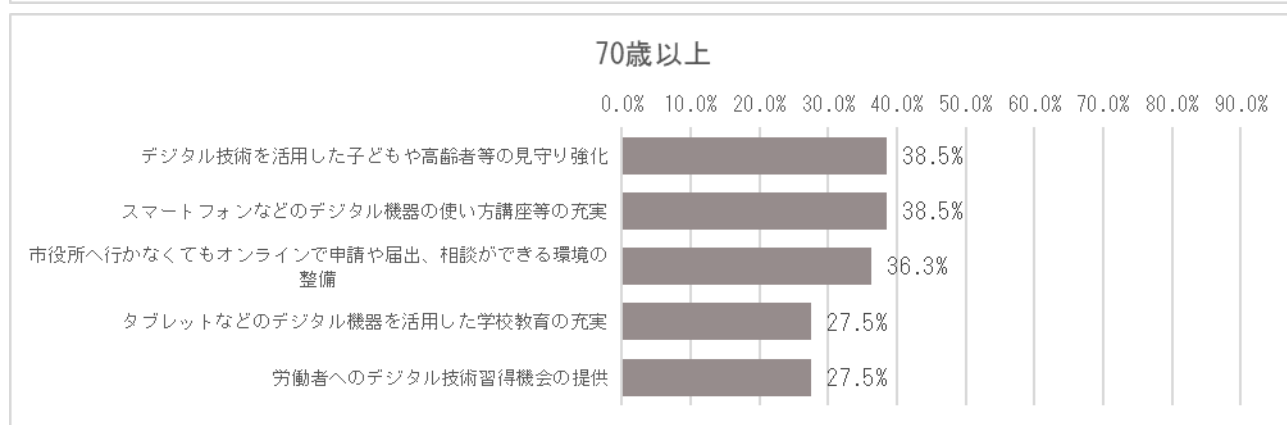
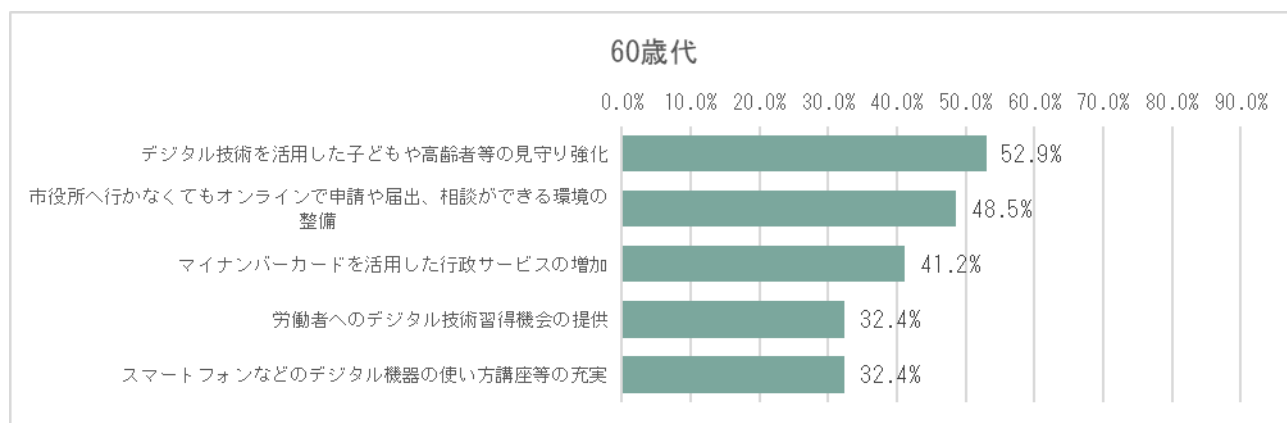


40歳代

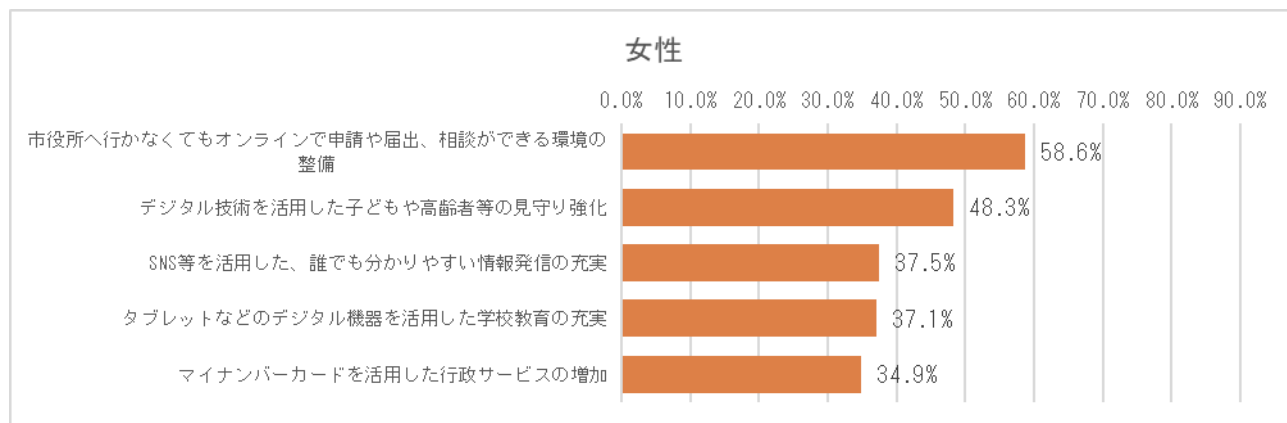
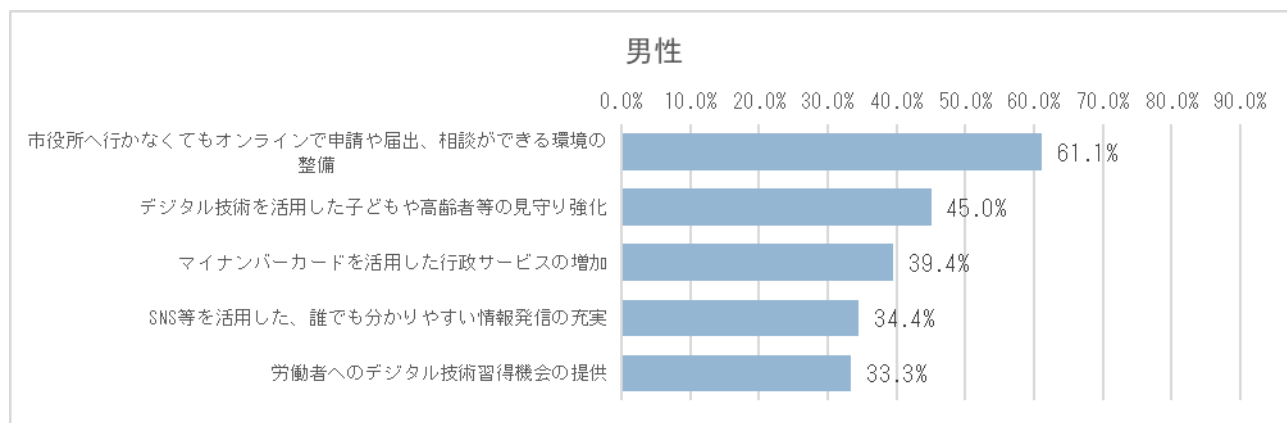


50歳代



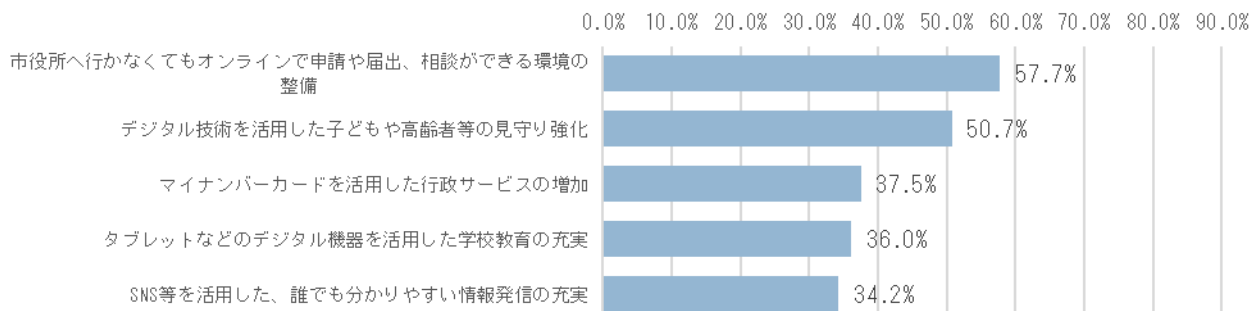


男女別の「DXの推進に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目

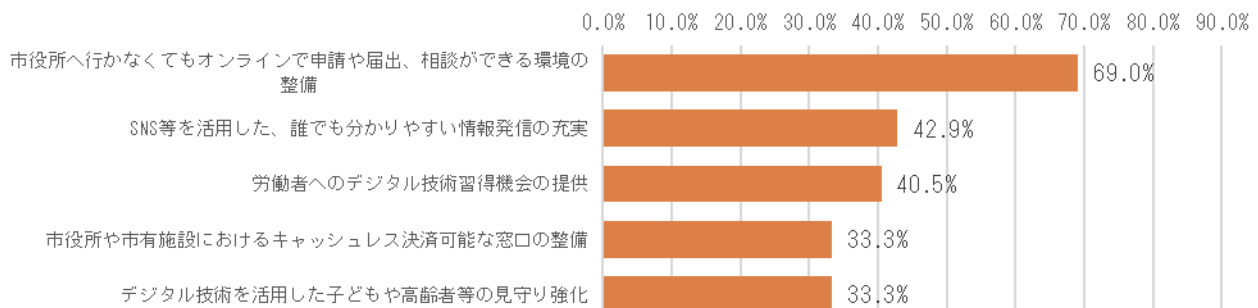


地区別の「DXの推進に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目

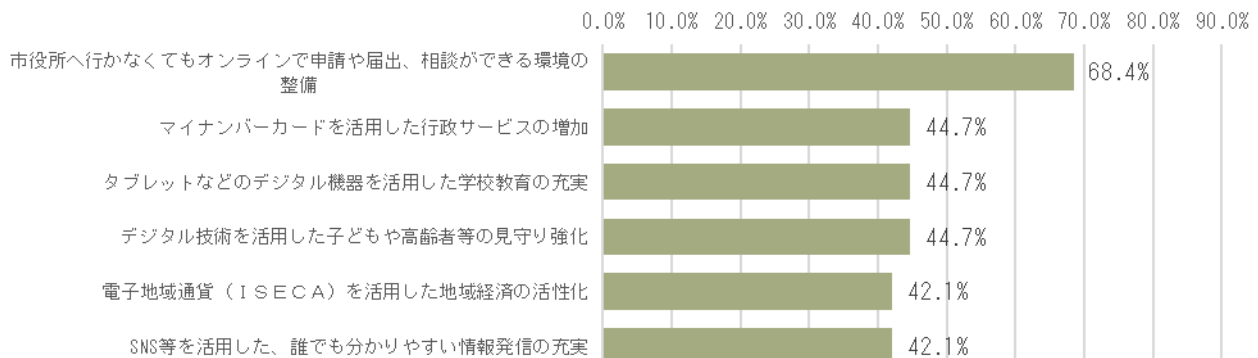
伊勢崎地区



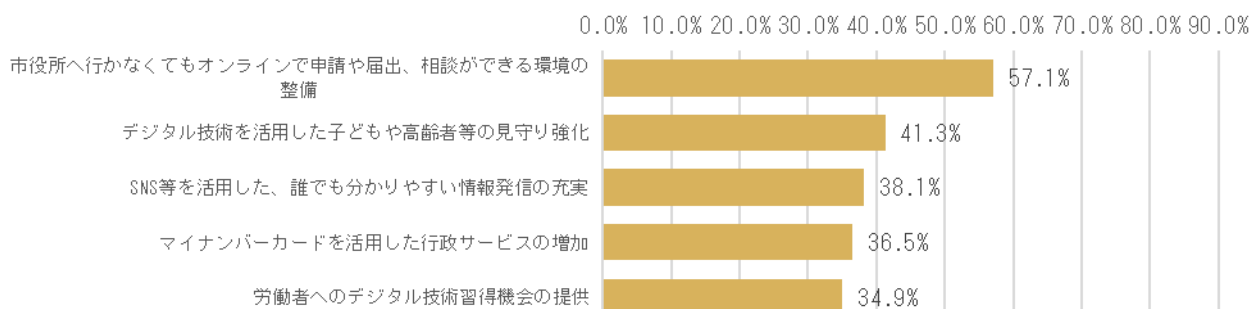
赤堀地区



東地区



境地区



◆「その他」の回答（主なもの）

- ・スマートフォンに関するサポート体制の強化
- ・マイナンバーカードを持っていない人への支援
- ・アナログでの手続きなども残してほしい

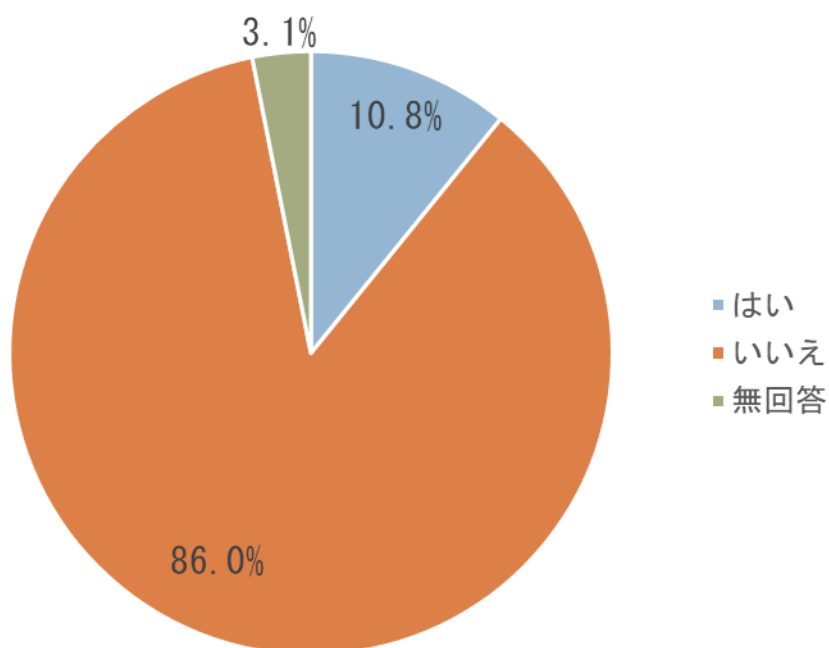
（３１）伊勢崎市が「ＳＤＧｓ未来都市」であることの認知度

伊勢崎市が、令和６年５月に国の「ＳＤＧｓ未来都市」に選定されたことについて知っているか聞いたところ、知っていた人は４５人（１０．８％）であり、知らなかった人は３５７人（８６．０％）、無回答が１３人（３．１％）であった。

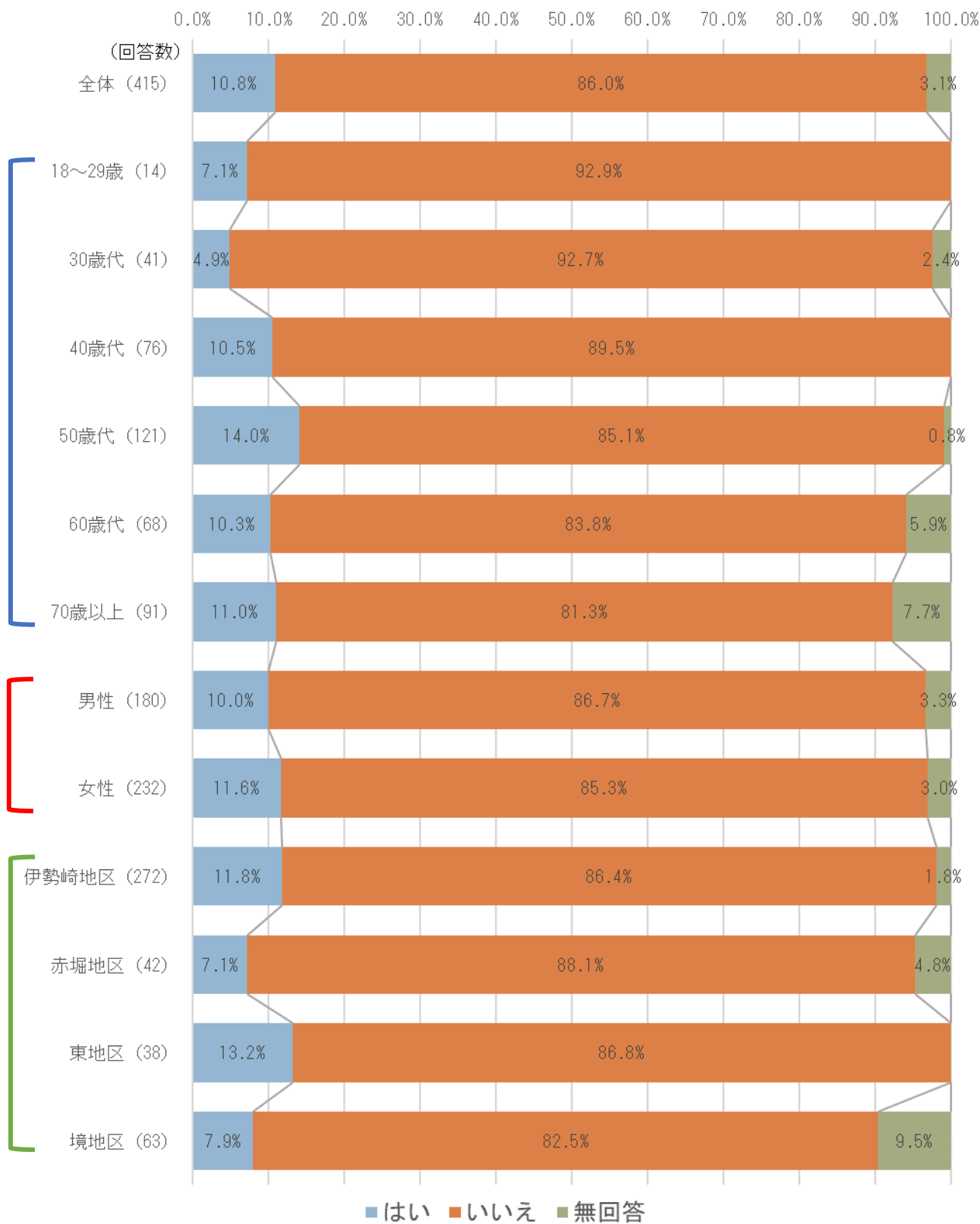
「伊勢崎市がＳＤＧｓ未来都市であること」の認知度の回答

	回答数	割合
はい	45	10.8%
いいえ	357	86.0%
無回答	13	3.1%
合計	415	100.0%

「伊勢崎市がＳＤＧｓ未来都市であること」の認知度の回答（割合）



「伊勢崎市がSDGs未来都市であること」の認知度（割合）【年代別、男女別、地区別】



（３２）「いせさきGX」の認知度

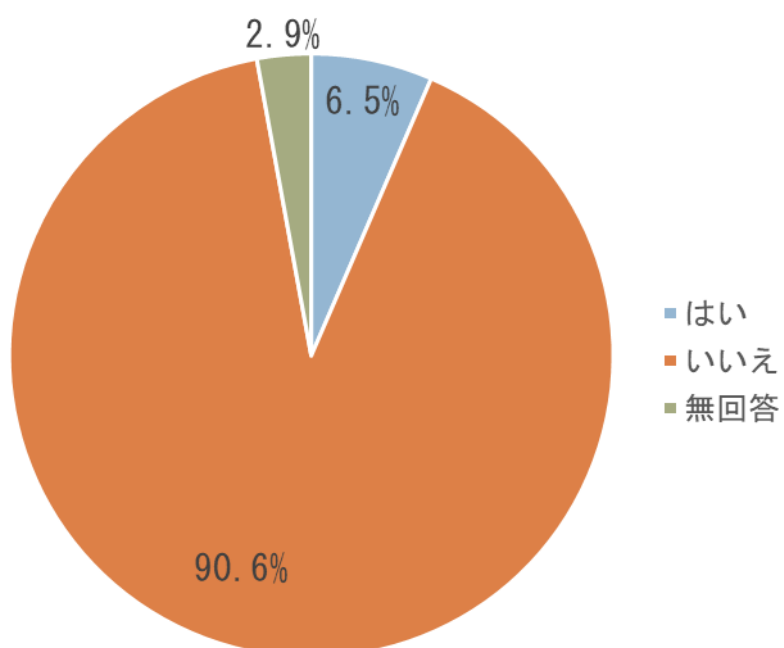
「いせさきGX※」について知っていたか聞いたところ、知っていた人は27人（6.5%）であり、知らなかった人は376人（90.6%）、無回答が12人（2.9%）であった。

※いせさきGX：「脱炭素に限定せず、一般的な環境問題への対応として、あらゆる主体が進める全ての取組を環境配慮という観点から検討・実行するもの。」

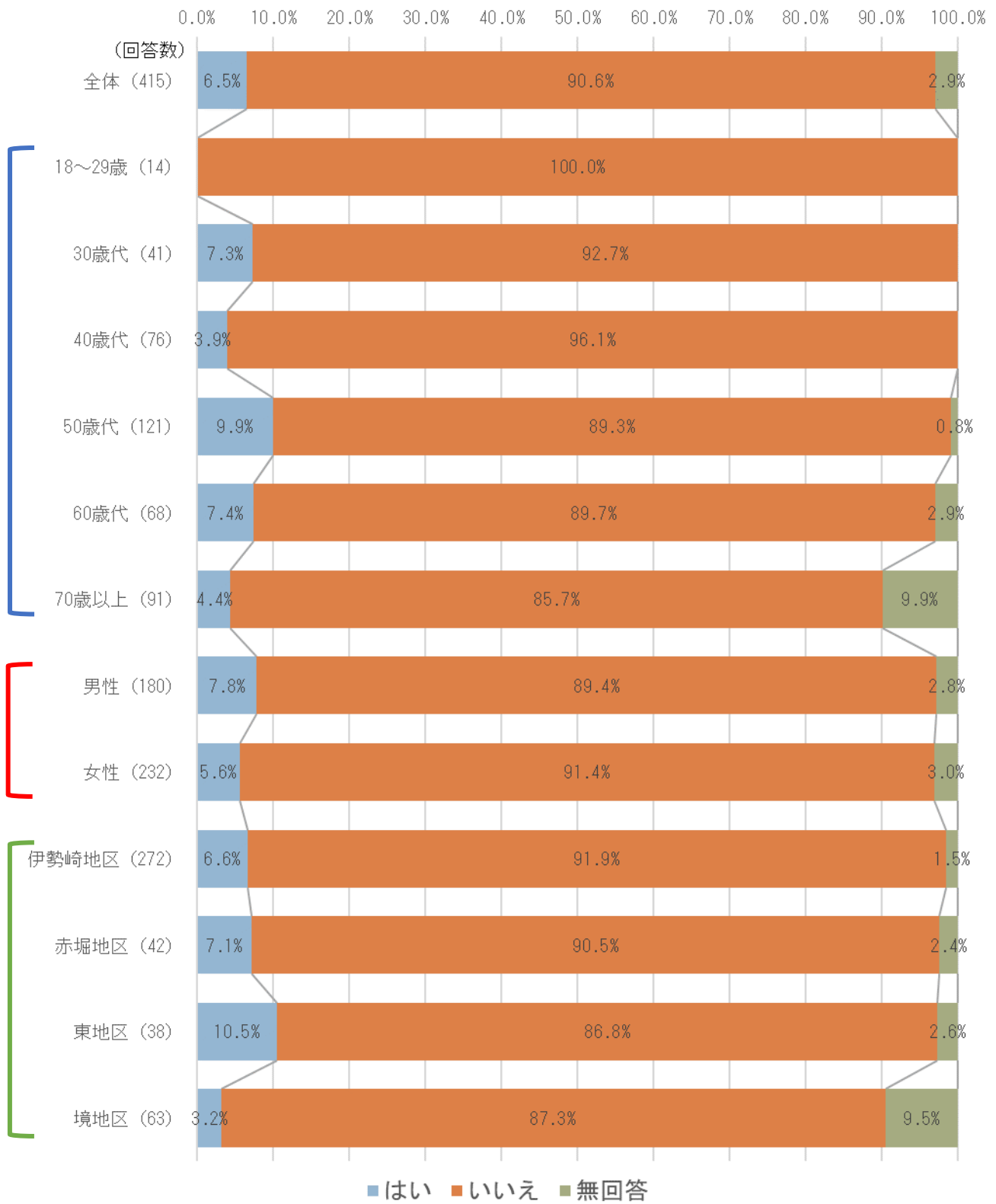
「『いせさきGX』の認知度」についての回答

	回答数	割合
はい	27	6.5%
いいえ	376	90.6%
無回答	12	2.9%
合計	415	100.0%

「『いせさきGX』の認知度」についての回答（割合）



『いせさきG×』の認知度」についての回答（割合）【年代別、男女別、地区別】

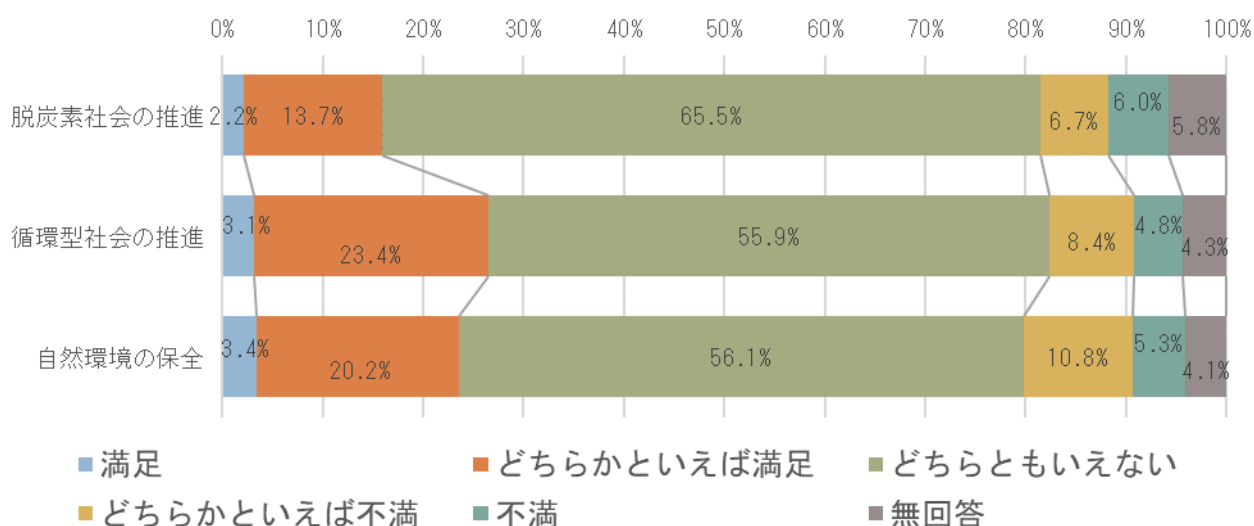


（３３）「ＳＤＧｓ（いせさきＧＸ）の推進」に関する取組への満足度

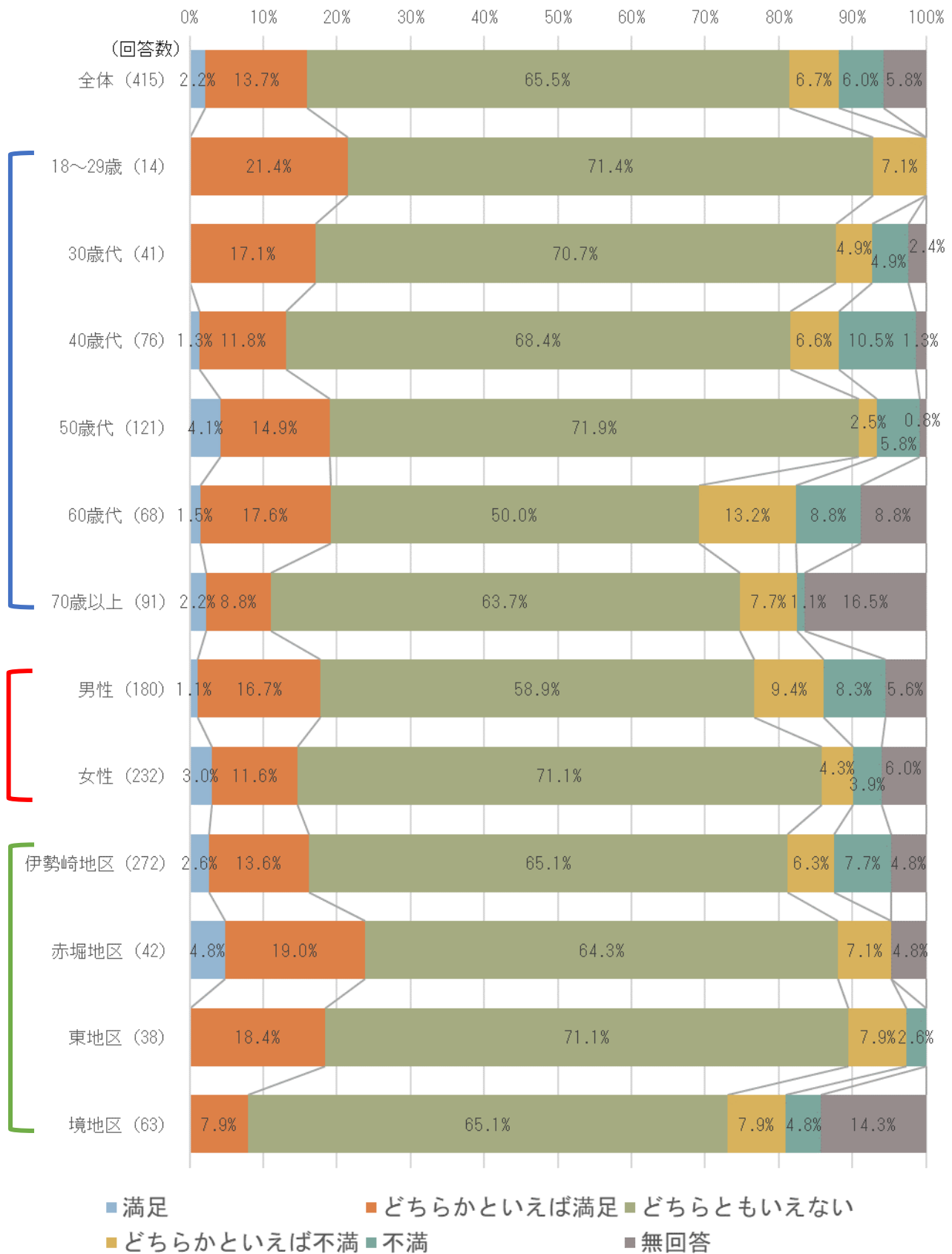
ＳＤＧｓ（いせさきＧＸ）の推進に関する取組への満足度を聞いたところ、「脱炭素社会の推進」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は15.9%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は12.8%であり、満足度は、2.99（全体の10位）であった。「循環型社会の推進」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は26.5%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は13.3%であり、満足度は、3.12（全体の2位）であった。「自然環境の保全」については、「どちらかといえば満足」を含め「満足」と回答した人は23.6%、「どちらかといえば不満」を含め「不満」と回答した人は16.1%であり、満足度は、3.06（全体の5位）であった。

取組	具体的な取組	満足度		満足度割合	
		平均値	順位	満足	不満
脱炭素社会の推進	家庭用脱炭素化設備導入補助金、公共施設への太陽光発電システムの設置、公用自動車の電気自動車の導入、省エネルギー機器の導入推進など	2.99	10	15.9%	12.8%
循環型社会の推進	分別収集方法の周知・啓発、リサイクル率の向上、1人1日当たりのごみ排出量の削減など	3.12	2	26.5%	13.3%
自然環境の保全	緑化の推進、街路樹や市有林の管理、地域に身近な里山や河川の保全、生物多様性・生態系の保全、水環境の保全など	3.06	5	23.6%	16.1%

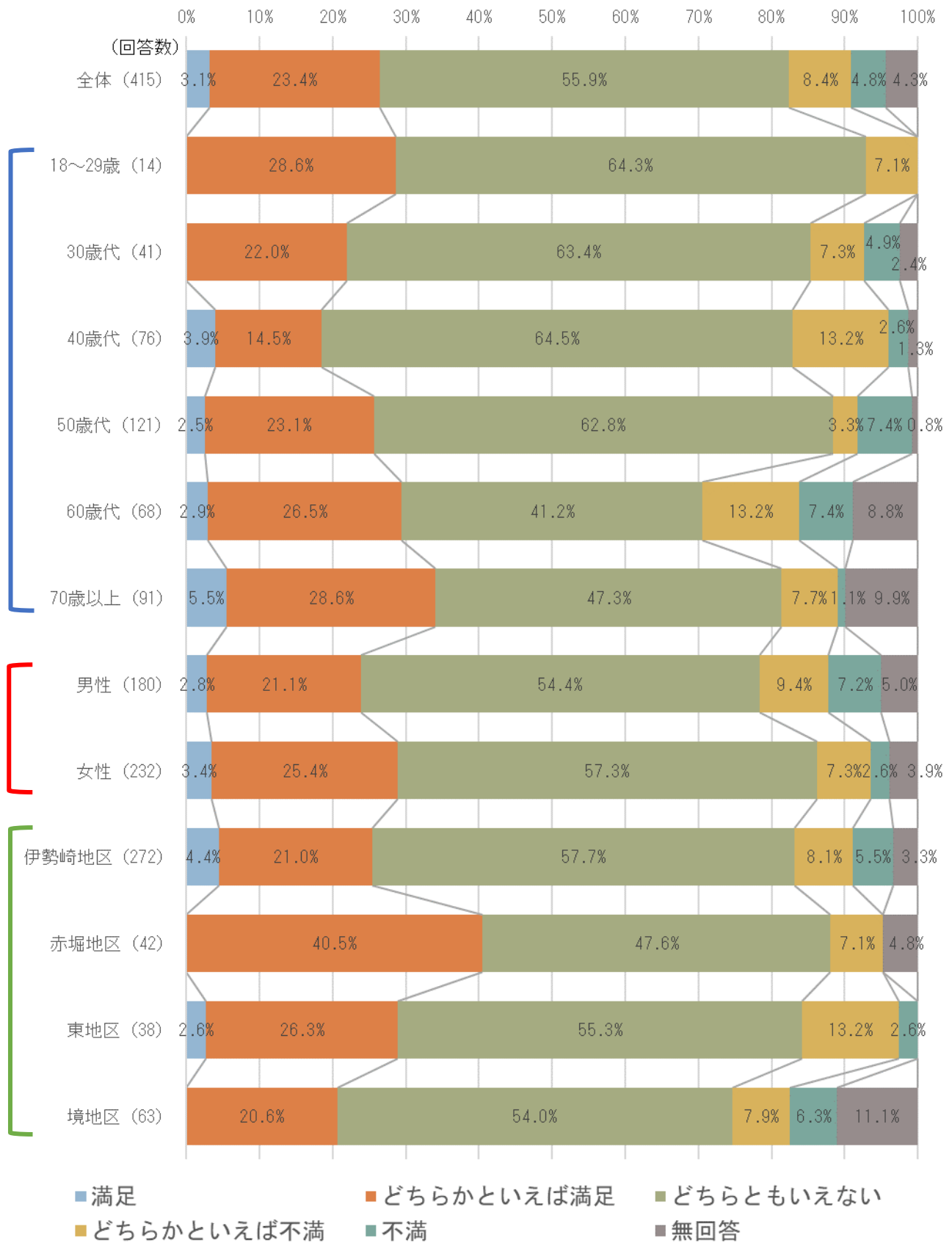
「ＳＤＧｓ（いせさきＧＸ）の推進」への満足度（割合）



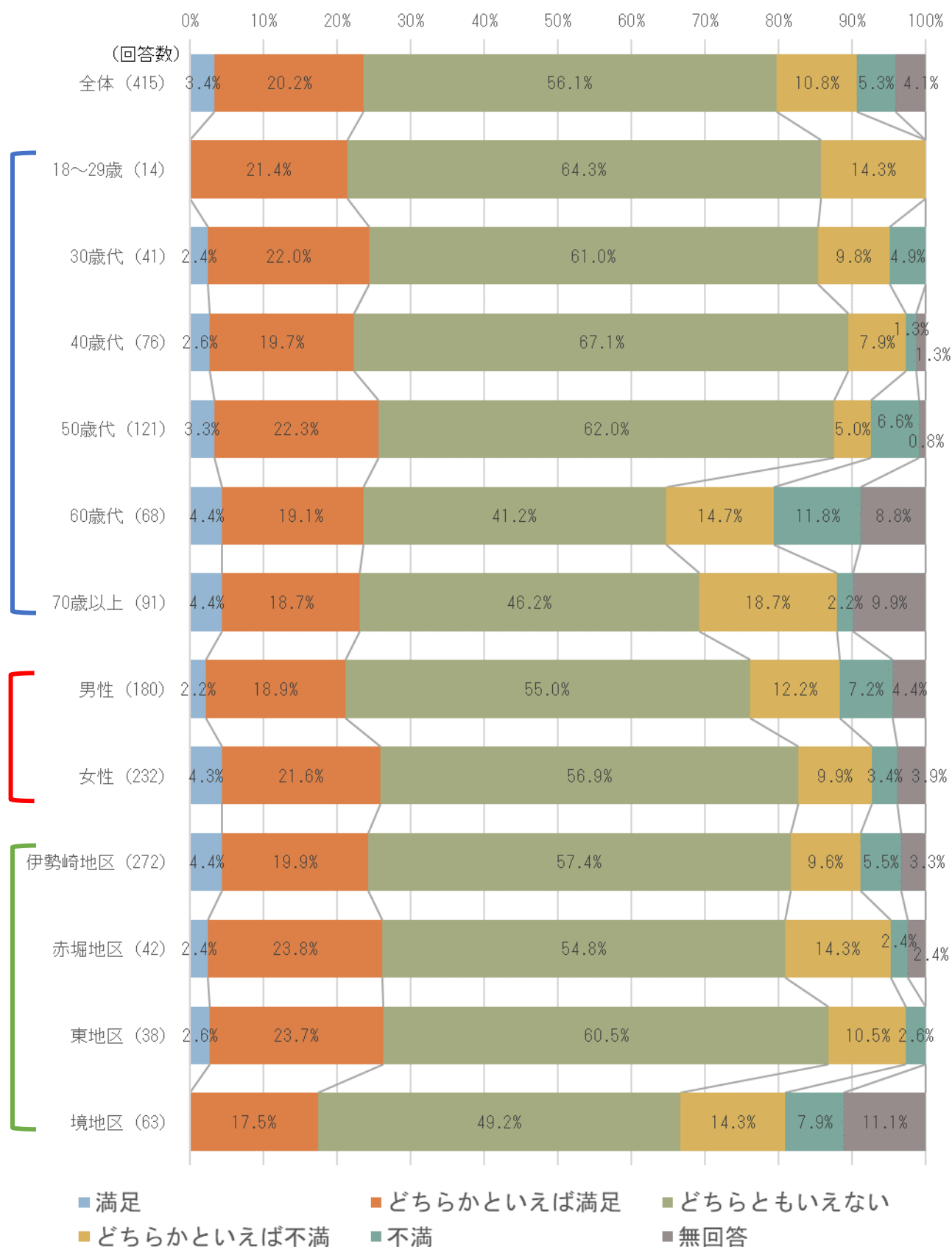
「脱炭素社会の推進」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「循環型社会の推進」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



「自然環境の保全」への満足度（割合）【年代別、男女別、地区別】



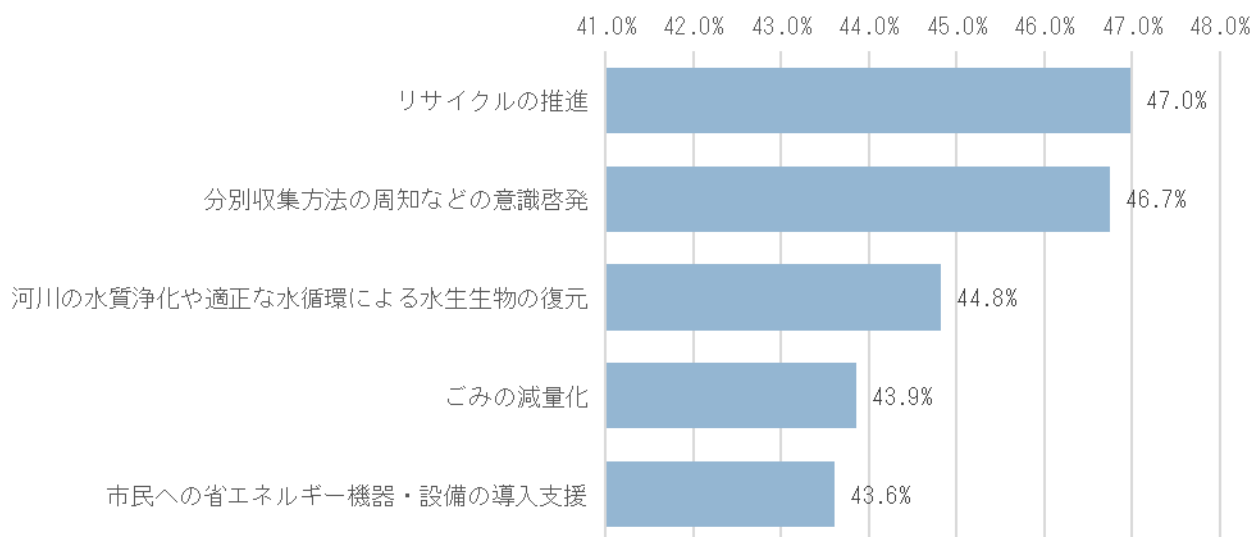
（３４）「ＳＤＧｓ（いせさきＧＸ）の推進」に関する特に力を入れてほしい取組

ＳＤＧｓ（いせさきＧＸ）の推進に関して、特に力を入れてほしい取組については、「リサイクルの推進」と回答した人が、47.0%で最も高くなった。以下、「分別収集方法の周知などの意識啓発」が46.7%、「河川の水質浄化や適正な水循環による水生生物の復元」が44.8%、「ごみの減量化」が43.9%、「市民への省エネルギー機器・設備の導入支援」が43.6%と続いている。

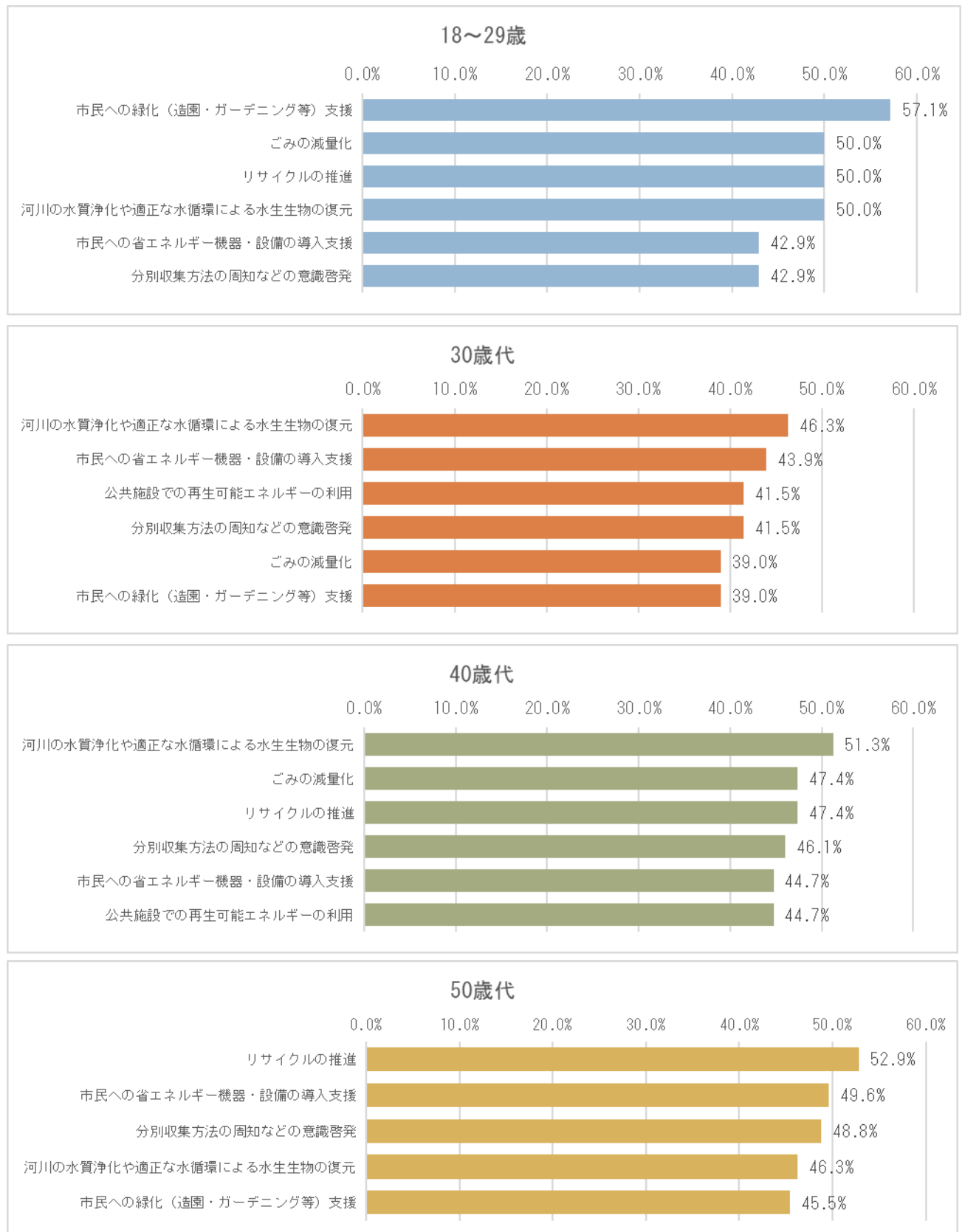
「ＳＤＧｓ（いせさきＧＸ）の推進に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答（一覧）

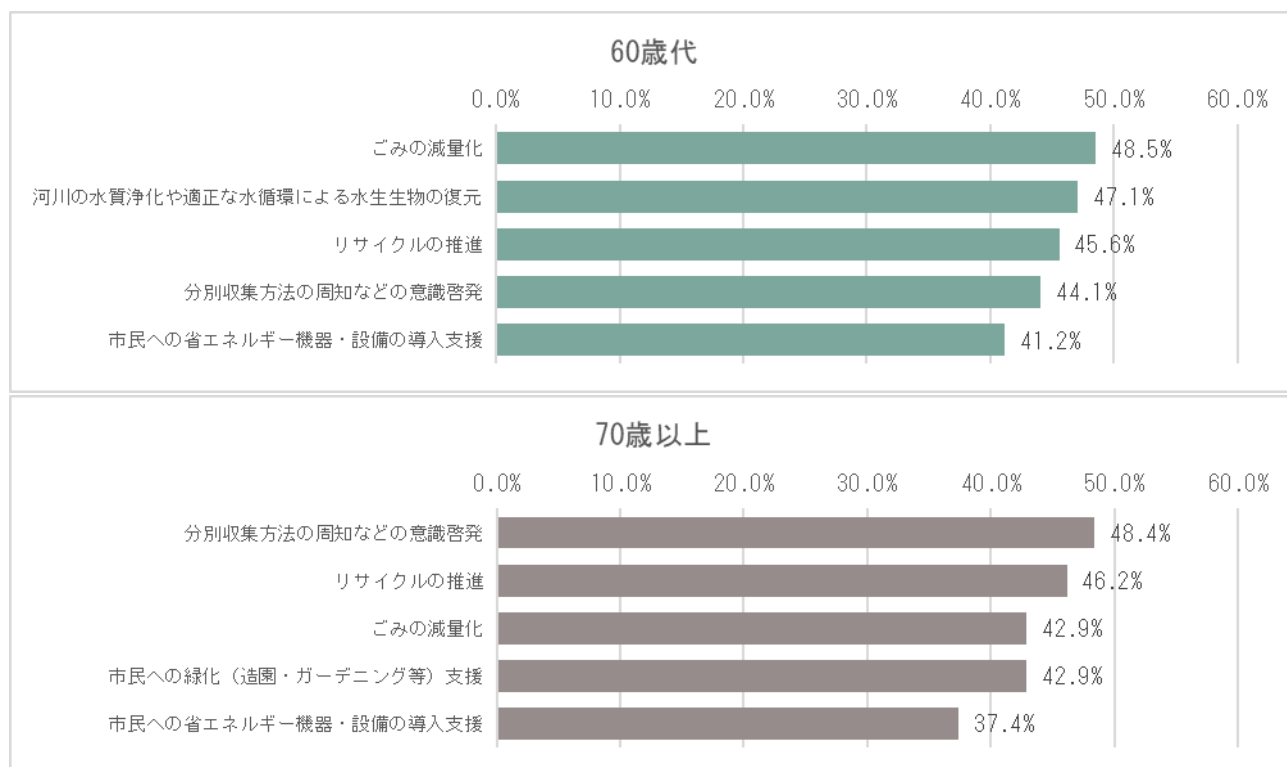
		回答数	割合	全体順位
脱炭素社会の推進	市民への省エネルギー機器・設備の導入支援	181	43.6%	22
	事業者への省エネルギー活動の実践や省エネルギー機器・設備の導入支援	86	20.7%	92
	公共施設での再生可能エネルギーの利用	157	37.8%	33
	環境問題についての学びの場の提供や情報発信	124	29.9%	55
	その他	3	0.7%	126
循環型社会の推進	ごみの減量化	182	43.9%	21
	分別収集方法の周知などの意識啓発	194	46.7%	16
	リサイクルの推進	195	47.0%	13
	その他	4	1.0%	122
自然環境の保全	市民への緑化（造園・ガーデニング等）支援	166	40.0%	29
	街路樹や市有林における在来種樹木への植替え	147	35.4%	40
	里山や河川（ビオトープ等）など自然観察活動場所と機会の創設	133	32.0%	48
	河川の水質浄化や適正な水循環による水生生物の復元	18	44.8%	20
	その他	3	0.7%	126

「ＳＤＧｓ（いせさきＧＸ）の推進に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目

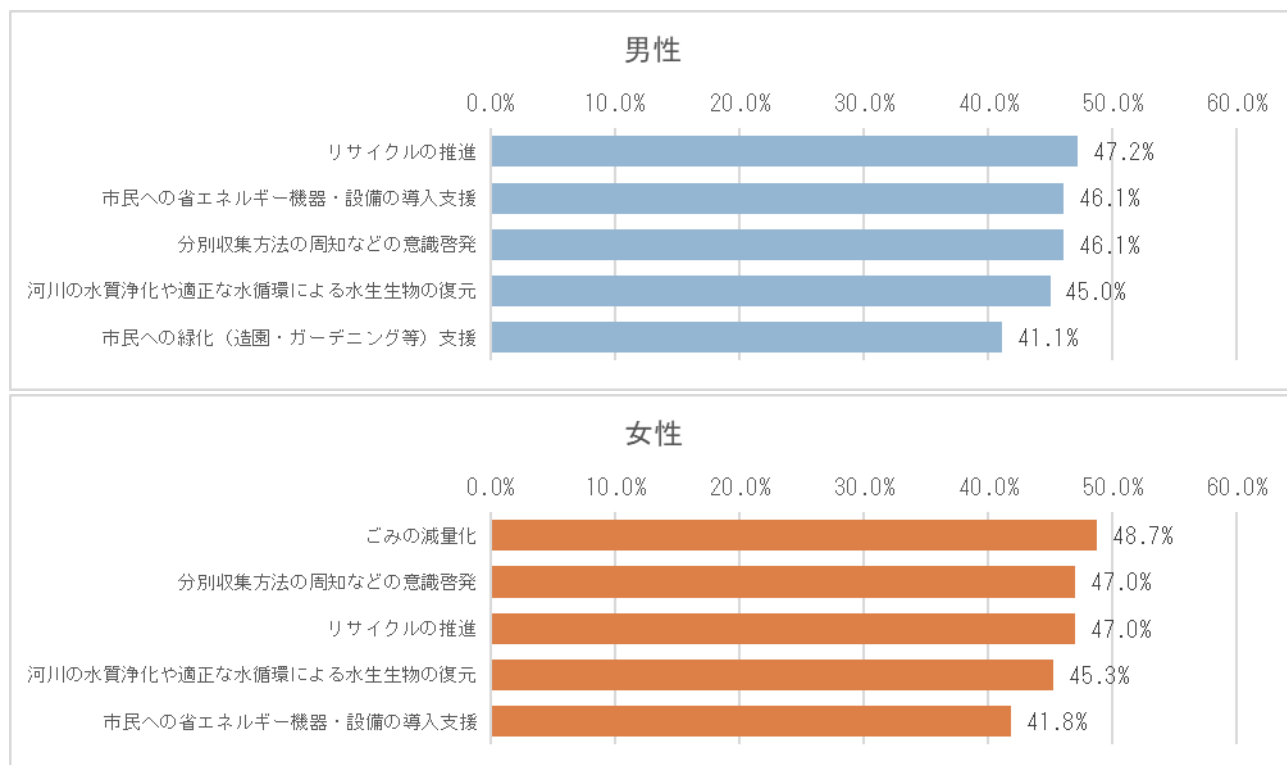


年代別の「SDGs（いせさきGX）の推進に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目

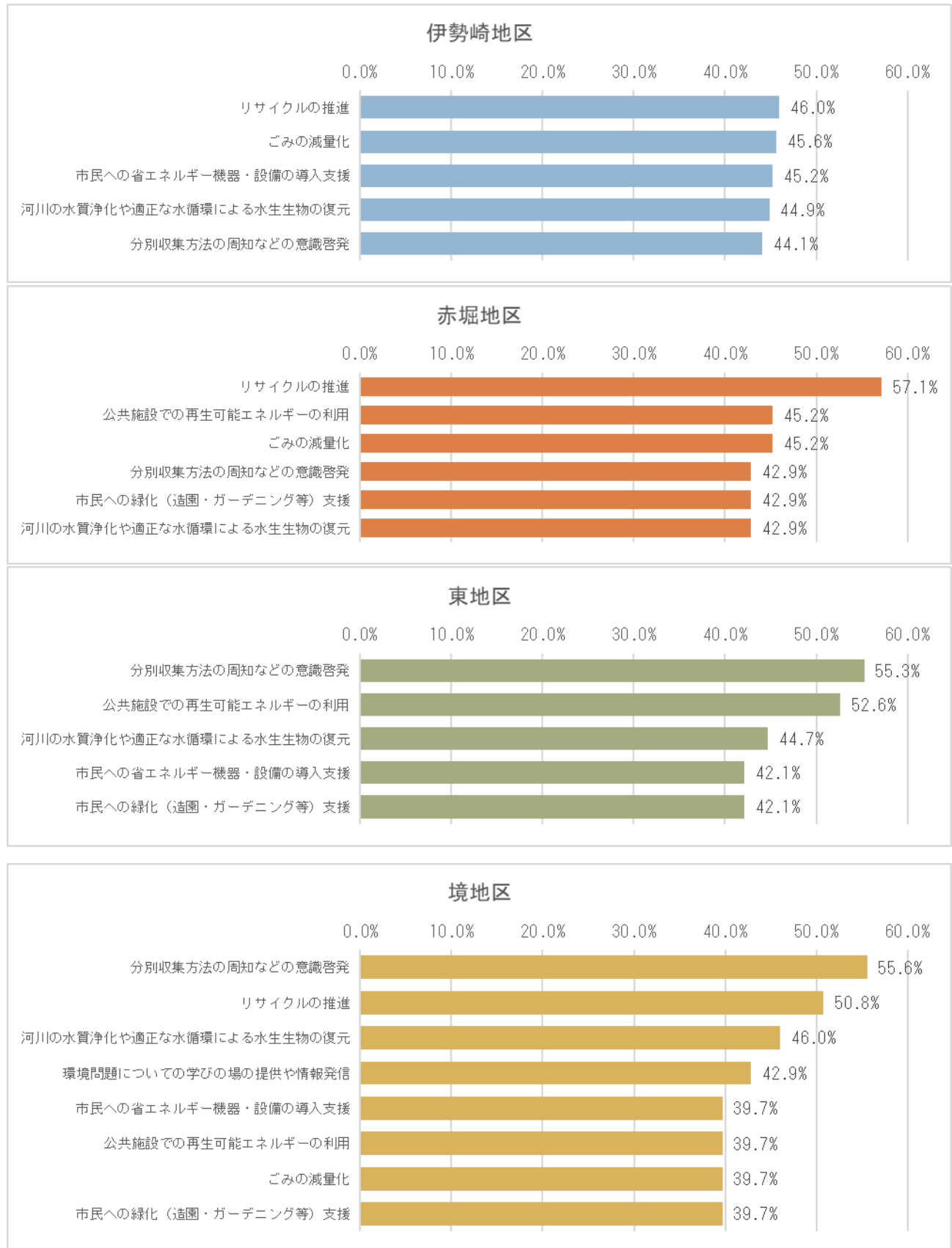




男女別の「SDGs（いせさきGX）の推進に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



地区別の「SDGs（いせさきGX）の推進に関する特に力を入れてほしい取組」についての回答の上位5項目



◆「その他」の回答（主なもの）

- ・ごみ捨てのルールの周知徹底
- ・夏にもウォーキングできる涼しい（木陰）道を作してほしい
- ・街路樹の整備

（３５）自由記述（市に対する意見、要望）

【少子高齢化対策】

- ・高齢者にも配慮したＩＳＥＣＡ窓口の対応が必要。
- ・時間に余裕のある高齢者がシルバー人材として活躍できる環境づくりが必要。
- ・子どもたちが伸び伸びと遊べる場所を確保してほしい。
- ・不登校やひきこもりの状態にある若者への支援が必要。
- ・胃カメラ検診が毎年受けられなくなったことが疑問である。

【産業の活性化】

- ・伊勢崎駅周辺の飲食店やテナントの誘致など、駅周辺の活性化が必要。
- ・若年者や就職氷河期世代への起業支援策の検討が必要。
- ・伊勢崎市でのイベントが少ない。
- ・耕作放棄地対策や農家への支援強化が必要。

【暮らしの安心実現】

- ・公共事業の発注に関する透明性と費用対効果の検証が求められている。
- ・下水道整備や生活インフラの整備が遅れている地域の格差解消が必要。
- ・夜間の歩行者の安全確保のため、街灯の設置が必要。
- ・公共交通機関の充実が必要。
- ・福祉タクシーの利用料金やコミュニティバスの路線見直しなどをしてほしい。
- ・空家が増加しており、今後の対応が課題となっている。

【共生社会の実現】

- ・多国籍の子どもたちの学校生活への適応支援が重要。
- ・多国籍の子どもたちが地域での日常的なコミュニケーション機会の確保が重要。
- ・ゴミ出しルールや交通ルールの遵守など、外国人住民への周知が必要。

【ＤＸの推進】

- ・ＩＳＥＣＡ利用可能な場所と不可能な場所があり、利用可能な場所を増やす必要がある。
- ・マイナンバーカードやマイナポータルの利用に戸惑う高齢者のための相談場所の整備が必要。

【ＳＤＧｓ（いせさきＧＸ）の推進】

- ・夏の暑さに対して公園などの環境整備をしてほしい。
- ・身近な自然の景観を保ってほしい。
- ・公園の草木管理や道路の植栽管理が不十分で危険な状態である。
- ・各家庭の緑化や植樹などによる夏季の気温上昇抑制策の実施が必要。

【その他】

- ・アンケートの内容が難しかった。
- ・市ホームページの情報量が少ない。
- ・地域の班長制度などのコミュニティ活動が若い世代には負担となっているため、見直してほしい。

Ⅲ 参考資料（調査票）

令和7年度伊勢崎市市民意識調査

より良い市政運営を目指し、市民意識調査を実施します。伊勢崎市の取組に対する満足度やもっと力を入れてほしいことなど、皆さまのご意見を、ぜひお聞かせください。

なお、調査結果は市ホームページなどで公表いたします。ご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年6月

伊勢崎市長 臂 泰雄

令和7年 **7月11日まで** にご回答ください。
回答時間の目安：15分

インターネットでの回答が便利です



◀左の2次元コードをスマートフォン等で読み取ってアクセスしてください。

〈アンケート専用ページURL〉

<https://logoform.jp/form/Gpfu/1059909>

紙の調査票で回答する場合

本調査票にご記入のうえ、同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

令和7年7月11日（金）
消印有効



期日までにアンケートに回答していただいた方に、

200円分のISECAポイント
をプレゼントします。

※詳細は別紙「ISECAポイントの申請方法」をご覧ください。

《本アンケートについて》

- この調査は、18歳以上の市民の皆様から無作為に選んだ2,000人の方々にご協力をお願いしています。
- 封筒のあて名がご本人がご回答ください。ご本人による回答用紙への記入が困難な場合は、ご家族の方などにご協力いただき、ご記入くださいますようお願いいたします。
- ご回答いただいた内容は、個人が特定できないよう、全て統計的に処理します。

〈お問合せ先〉
伊勢崎市役所企画部企画調整課

TEL：24-5111（直通：27-2707） FAX：23-9800
E-mail：kikaku@city.isesaki.lg.jp

■あなたご自身についておたずねします。

(1) あなたの性別は。

〈○は1つ〉

1. 男性

2. 女性

3. その他

(2) あなたの年齢は。

〈○は1つ〉

1. 18～29歳

2. 30歳代

3. 40歳代

4. 50歳代

5. 60歳代

6. 70歳以上

(3) あなたの職業は。

〈○は1つ〉

1. 会社員・公務員・団体職員

2. 自営業

3. 主婦・主夫

4. 学生

5. パートタイマー・アルバイト

6. 無職

7. その他（ ）

(4) 伊勢崎市での通算居住年数は。(合併前の市町村を含む)

〈○は1つ〉

1. 5年未満

2. 5年～9年

3. 10年～19年

4. 20年以上

(5) 一緒に住んでいる家族は。

〈あてはまるものすべてに○〉

1. 配偶者

2. 子ども

3. 孫

4. 自身または配偶者の親

5. 一人暮らし

6. その他（ ）

(6) あなたの居住形態は。

〈○は1つ〉

1. 持ち家（一戸建て・マンション）

2. 借家

3. 会社の寮や社宅

4. その他（ ）

■定住意向についておたずねします。

(7) 現在のお住まいの直前に住んでいたところはどちらですか。

〈〇は1つ〉

- | | | | |
|--------------------|-----------|------------|-------|
| 1. 生まれてからずっと現在の住まい | 2. 市内の別住所 | 3. 県内の他市町村 | 4. 県外 |
|--------------------|-----------|------------|-------|

(8) 伊勢崎市をお住まいとして選んだ理由は何ですか。

〈あてはまるものすべてに〇〉

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 生まれ育った場所だから | 2. 自分や家族の持家があるから |
| 3. 家賃や住宅の価格が手ごろだから | 4. 親や子、親族、友人などがいるから |
| 5. 通勤・通学に便利だから | 6. 買い物、医療などの生活環境が整っているから |
| 7. 子育ての環境が整っているから | 8. 余暇や休日を楽しく過ごせる場所があるから |
| 9. 街ににぎわいや活気があるから | 10. 街並みや景観がよいから |
| 11. 自然が身近にあるから | 12. 街のイメージがよいから |
| 13. 長年住んでいて愛着があるから | 14. 伊勢崎市が好きだから |
| 15. 特に理由はない | |
| 16. その他 () | |

(9) これからもずっと今のお住まいに住み続けますか。

〈〇は1つ〉

- | | | |
|--------------|-------------|-----------------------|
| 1. ずっと住んでいたい | 2. 当分住んでいたい | 3. どちらともいえない |
| 4. できれば移りたい | 5. 移りたい | 6. 移るかもしれないがいずれ戻ってきたい |

(10) 現実の問題は別として、もし転居するとしたら、伊勢崎市内、伊勢崎市以外のいずれを希望されますか。

〈〇は1つ〉

- | | | |
|----------|-----------------|---------------|
| 1. 伊勢崎市内 | 2. 伊勢崎市以外（群馬県内） | |
| 3. 群馬県以外 | 4. 現在の住まいがいい | 5. 具体的にはわからない |

(11) (10) で選んだ転居先を希望するのは、どのような理由からですか。

〈あてはまるものすべてに〇〉

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 生まれ育った場所だから | 2. 自分や家族の持家があるから |
| 3. 家賃や住宅の価格が手ごろだから | 4. 親や子、親族、友人などがいるから |
| 5. 通勤・通学に便利だから | 6. 買い物、医療などの生活環境が整っているから |
| 7. 子育ての環境が整っているから | 8. 余暇や休日を楽しく過ごせる場所があるから |
| 9. 街ににぎわいや活気があるから | 10. 街並みや景観がよいから |
| 11. 自然が身近にあるから | 12. 街のイメージがよいから |
| 13. 長年住んでいて愛着があるから | 14. 伊勢崎市が好きだから |
| 15. 特に理由はない | |
| 16. その他 () | |

■地区の住みやすさについておたずねします。

(12) あなたのお住まいの地区は。

〈〇は1つ〉

1. 伊勢崎地区※	2. 赤堀地区	3. 東地区	4. 境地区
-----------	---------	--------	--------

※伊勢崎地区：北地区、南地区、殖蓮地区、茂呂地区、三郷地区、宮郷地区、名和地区、豊受地区

(13) お住まいの地区の住みよさについて、どのように感じていますか。

〈〇は1つ〉

1. 住みよい	2. どちらかといえば住みよい	3. どちらともいえない
4. どちらかといえば住みにくい	5. 住みにくい	

(14) お住まいの地区の住みやすいと思う点、住みにくいと思う点について、1～14からそれぞれ3つまで選んで〇をつけてください。

〈〇は3つまで〉

項目	住みやすい点 (〇は3つまで)	住みにくい点 (〇は3つまで)
1. 車移動の利便性		
2. バスなどの公共交通機関の利便性		
3. 通勤・通学先への距離		
4. 地域での人間関係		
5. 買い物などの利便性		
6. 自然環境		
7. 学校・図書館などの教育施設の充実度		
8. 公園・スポーツ施設の充実度		
9. 子育て環境の充実度		
10. 高齢者・障害者への対応の充実度		
11. 医療体制の充実度		
12. 災害の被害の大きさや頻度		
13. 魅力的な仕事の充実度		
14. 学校教育の充実度		

その他に「住みやすいと思う点」、「住みにくいと思う点」があればご記入ください。

住みやすいと思う点	
住みにくいと思う点	

■現在と将来の伊勢崎市についておたずねします。

(15) あなたは伊勢崎市に愛着を感じていますか。

〈〇は1つ〉

- | | | |
|-----------------|---------------|--------------|
| 1. 愛着を感じている | 2. やや愛着を感じている | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり愛着を感じていない | 5. 愛着を感じていない | |

(16) 現在の伊勢崎市のイメージと、将来の伊勢崎市がどんな市になって欲しいかについて、それぞれ選んで〇をつけてください。

〈あてはまるものすべてに〇〉

項目	現在の伊勢崎市のイメージ	将来の伊勢崎市がどんな市になって欲しいか
【子育て・教育】 未来の担い手が育ち、全ての人が成長し続けられるまち		
【健康・福祉】 誰もが健康で互いに支え合いながら生き生きと暮らせるまち		
【産業・観光・文化】 経済の好循環が生まれ、活気にあふれ人が集えるまち		
【まちづくり】 住環境と自然環境が調和した、心地良い空間で暮らせるまち		
【安心安全】 1人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らせるまち		
【環境】 あらゆる活動で環境に配慮し、1人ひとりが脱炭素社会や循環型社会の実現に向けて行動できるまち		
【共生・共創・行財政】 互いに認め合い、共に創る、未来に向かって持続発展できるまち		

(17) コロナ禍から続く物価高騰に対し、国の交付金を活用して伊勢崎市でも様々な支援策を実施してきましたが、今後、市に実施してほしい取組について、1～15から選んで、3つまで選んで〇をつけてください。

〈〇は3つまで〉

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 低所得世帯への現金等の給付 | 2. 全世帯への現金等の給付 |
| 3. 子育て世帯への現金等の給付 | 4. 高齢者世帯への現金等の給付 |
| 5. 学校給食費等の助成 | 6. ISECAプレミアムキャンペーン |
| 7. LPガス料金の助成 | 8. 省エネ家電等への買い替え費用の助成 |
| 9. 病院・介護施設・保育所等・学校などの光熱水費の助成 | |
| 10. 農業者・畜産業者への支援（肥料・飼料代の助成） | |
| 11. 中小企業や商店街への電気料の助成 | 12. 中小企業の省エネ機器等導入費用の助成 |
| 13. 運送業者への燃料価格高騰への支援 | 14. 水道料金の減免 |
| 15. その他（ | ） |

■将来に向けた市の取組について、満足度をおたずねします。

伊勢崎市では、令和 7 年度から令和 1 1 年度の 5 年間に、次の 6 つの課題に優先的に取り組みます。

- 少子高齢化対策
- 産業の活性化
- 暮らしの安心の実現
- 共生社会の実現
- DXの推進
- SDGsの推進（いせさきGX※の推進）

第 3 次伊勢崎市総合計画前期アクションプランより

※いせさきGX：「脱炭素に限定せず、一般的な環境問題への対応として、あらゆる主体が進める全ての取組を環境配慮という観点から検討・実行するもの。」

■少子高齢化対策についておたずねします。

（18）次に示す伊勢崎市の取組について、どの程度満足していますか。

取組ごとにあてはまる満足度を 1～5 の中から 1 つずつ選んで○をつけてください。

市の取組	満足度				
	満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	不満
1 結婚・出産・子育てに希望が持てる社会の実現 妊娠・出産・子育ての支援の充実、保育施設・体制の整備など	1	2	3	4	5
2 地域の未来を担う人材育成 伊勢崎市独自の教育プログラムの推進、地域と学校の協働による教育、生徒の夢の実現を図るキャリア教育の充実など	1	2	3	4	5
3 全ての市民が元気に活躍できる環境づくり 健康管理意識の啓発、休日夜間急患センター体制の維持整備、公共交通機関の利用促進など	1	2	3	4	5

(19) 伊勢崎市がもっと住みよいまちになるために、特に力を入れてほしいと思うものを次の中から選んで、
○をつけてください。 〈あてはまるものすべてに○〉

	取組	力を入れてほしいものに○
1 結婚・出産 ・子育てに 希望が 持てる社会 の実現	結婚、出産、子育てまでの切れ目のない支援（相談体制の充実や経済的支援等）	
	子育て環境の整備（保育所等や放課後児童クラブ等）	
	交流の場や情報交換の機会の充実（児童館、児童センター等）	
	その他：具体的に（ ）	
2 地域の未来 を担う 人材育成	幼児教育の充実（公立幼稚園における体験や遊びを通じた学び等）	
	興味関心に応じた児童・生徒 1 人ひとりの主体的な学びの推進	
	地域や関係機関と連携した学校運営	
	四ツ葉学園中等教育学校におけるキャリア教育、グローバル教育等	
	不登校、いじめ、ヤングケアラー等の未然防止、早期発見に向けた支援の充実	
	発達支援や日本語指導等、特別な配慮を要する子どもへの支援の充実	
	学校施設の老朽化や熱中症等対策などの学校施設の整備充実	
	健康教育の充実（生活習慣の乱れ、メンタルヘルス、熱中症予防等）	
	献立の工夫や食育、給食費無償化などの学校給食の充実	
	交通安全、防災、不審者への対策等の安全教育の充実	
	子どもの居場所づくりや地域で子どもを育てる環境づくり	
	その他：具体的に（ ）	
3 全ての市民 が元気に 活躍できる 環境づくり	青少年の健全な心身の育成と環境づくり、社会活動への参加の支援	
	ニートや引きこもりなど、若者やその家族への相談体制の充実・援助	
	多種多様な学習機会の充実（公民館や図書館、まゆドーム等での講座等）	
	公民館や図書館など、生涯学習施設の適正な維持管理の推進	
	市民の健康づくりへの支援（健康づくりの場の提供や情報発信等）	
	疾病の早期発見、早期対応と重症化予防への取組	
	医療提供・救急医療体制の充実	
	伊勢崎市民病院の医療提供体制の整備	
	1 市民 1 スポーツの推進	
	高齢者の生きがいづくりや健康づくりへの支援	
	高齢者福祉サービスの充実（在宅生活の支援や相談窓口の周知等）	
	高齢者が住み慣れた地域で生活するための支援（介護予防や認知症施策の充実等）	
	高齢者等の交通弱者に対する公共交通を利用した移動の支援	
	その他：具体的に（ ）	

■産業の活性化についておたずねします。

(20) 次に示す伊勢崎市の取組について、どの程度満足していますか。

取組ごとにあてはまる満足度を1～5の中から1つずつ選んで○をつけてください。

市の取組	満足度				
	満足	どちらかといえは満足	どちらともいえない	どちらかといえは不満	不満
4 産業の競争力強化 新技術開発や製品開発、DX化への支援、イベントや商談会、ポータルサイト等による販路拡大への支援など	1	2	3	4	5
5 労働環境の向上と雇用確保の支援 ハローワークとの連携、地元雇用の拡大、就職面接会などの開催など	1	2	3	4	5
6 関係人口の創出と地方居住の推進 eスポーツ等を活用した関係人口の拡大、移住定住の促進など	1	2	3	4	5

(21) 伊勢崎市がもっと住みよいまちになるために、特に力を入れてほしいと思うものを次の中から選んで、○をつけてください。
(あてはまるものすべてに○)

	取組	力を入れてほしいものに○
4 産業の競争力強化	デジタル技術の活用による新産業の創出と経営力強化	
	企業誘致の促進	
	市内企業の販路拡大のための支援	
	新規就農者の確保	
	農業の効率化及び地産地消の推進による地元農産物の生産拡大	
	遊休農地の解消	
	その他：具体的に ()	
5 労働環境の向上と雇用確保の支援	障害者の地域移行の支援（障害者の雇用や一般就労に向けた支援など）	
	労働者の雇用環境の向上と再教育やスキルアップの支援	
	市内企業の認知度の向上による雇用の確保	
	外国人の就労先での日本語や生活習慣を学ぶ機会の創出	
	男女共同参画の推進（性別による固定的な役割分担意識の解消など）	
	その他：具体的に ()	
6 関係人口の創出と地方居住の推進	世界遺産田島弥平旧宅などの文化財の保存活用	
	eスポーツなどのデジタルコンテンツによる関係人口の拡大と地域経済の活性化	
	魅力ある観光地づくりの推進	
	観光客誘致の促進	
	芸術・文化活動の活性化	
	都市間連携による魅力、活力のあるまちづくり	
	SNS等を活用した効果的な情報発信	
	ふるさと納税制度の推進	
	その他：具体的に ()	

■暮らしの安心の実現についておたずねします。

(22) 次に示す伊勢崎市の取組について、どの程度満足していますか。

取組ごとにあてはまる満足度を1～5の中から1つずつ選んで○をつけてください。

市の取組	満足度				
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	どちらかといえば不満	不満
7 防災力の向上 情報の収集や提供の強化、地域防災力の強化など	1	2	3	4	5
8 都市環境・交通網・インフラの整備 河川や水路等の整備、上下水道施設の整備や耐震化・更新など	1	2	3	4	5
9 防犯体制の強化・交通安全対策の推進 防犯灯や防犯カメラ整備、空き家・空き地の適正管理、高齢者や子どもを対象とした交通安全教室の開催など	1	2	3	4	5

(23) 伊勢崎市がもっと住みよいまちになるために、特に力を入れてほしいと思うものを次の中から選んで、○をつけてください。
(あてはまるものすべてに○)

	取組	力を入れてほしいものに○
7 防災力の向上	地域の避難所でもある学校体育館の整備（熱中症等への対策など）	
	市民、企業、関係機関、行政が連携した総合的な危機管理体制の充実	
	地域での防災訓練の実施や要配慮者への支援体制の充実	
	災害時の効果的で迅速な情報発信	
	大規模災害へ備えた消防体制の充実と強化	
	その他：具体的に（ ）	
8 都市環境・交通網・インフラの整備	まとまりのあるまちの形成に向けた計画的な土地利用の推進	
	災害復旧の迅速化や土地の有効活用に向けた計画的な地籍調査の推進	
	災害に強く住みよい環境の整備	
	人や物の安全かつ円滑な移動を支える道路環境の整備	
	地域住民の利便性及び安全性を向上させる生活道路等の整備	
	道路施設の効率的かつ適正な維持管理	
	コミュニティバスの利便性の向上	
	路線バスやコミュニティバスなどの公共交通ネットワークの整備	
	計画的な水道施設の整備と維持管理	
	効率的な下水処理の推進	
	豊かな公園環境の維持・整備	
	その他：具体的に（ ）	
9 防犯体制の強化・交通安全対策の推進	管理不全な空き家の発生予防や適切な維持管理及び活用	
	警察、防犯協会など関係機関と連携した犯罪の防止	
	消費者被害の防止、被害回復や助言のための相談体制の充実	
	警察等と連携した交通安全の啓発、交通安全教室の開催	
	道路の危険箇所の解消	
	その他：具体的に（ ）	

■共生社会の実現についておたずねします。

伊勢崎市では、外国人住民の多さを踏まえ、全国に先駆けた多文化共生の地域づくりに取り組むとともに、男女共同参画の推進や人権の啓発を通じて、多様な人材が分け隔てなく活躍できるまちの実現に取り組んでいます。

(24) 伊勢崎市は「互いに認め合う多文化共生」を推進しています。以下の取組について、どの程度満足していますか。

具体的な取組：外国人向け日本語教室、各種行政サービスの翻訳や通訳、企業等関係機関と連携、多文化交流のイベントや講座の開催など

〈○は1つ〉

- | | | |
|--------------|---------------|-------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば不満 | 5. 不満 |

(25) 伊勢崎市は「人権を尊重するまちづくり」を推進しています。以下の取組について、どの程度満足していますか。

具体的な取組：人権法律行政相談、教職員を対象とした人権教育に係る研修、講演会やパネル展などの啓発、相談・支援体制の強化など

〈○は1つ〉

- | | | |
|--------------|---------------|-------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば不満 | 5. 不満 |

(26) 次に示す伊勢崎市の取組について、どの程度満足していますか。

取組ごとにあてはまる満足度を1～5の中から1つずつ選んで○をつけてください。

市の取組	満足度				
	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満
10 多文化理解の促進とグローバル人材の育成 外国人向け日本語教室、中学生のグローバル体験活動の推進、 小中9年間の一貫指導による英語コミュニケーション能力の育成など	1	2	3	4	5
11 外国人への支援体制の構築 地域の情報やサービスの多言語化の推進、防災・医療分野での連携の強化、 外国人住民が地域づくりに参加できる仕組みづくりなど	1	2	3	4	5
12 多様な人材が活躍できる環境づくり 男女平等教育の推進、基本的人権に関わる講演会等の開催、 インクルーシブ教育の推進、障害者理解のための啓発活動の推進など	1	2	3	4	5

(27) 伊勢崎市がもっと住みよいまちになるために、特に力を入れてほしいと思うものを次の中から選んで、
○をつけてください。 〈あてはまるものすべてに○〉

	取組	力を入れてほしいものに○
10 多文化理解 の促進と グローバル 人材の育成	児童・生徒への英語コミュニケーション能力の育成	
	四ツ葉学園中等教育学校におけるグローバル人材の育成	
	外国人が生活に必要な言語、文化、習慣を学ぶ機会の充実	
	外国人が就労先で日本語や生活習慣を学ぶ機会の充実	
	外国人が地域に参加できる環境づくり	
	その他：具体的に（ ）	
11 外国人への 支援体制の 構築	翻訳や通訳の充実	
	災害時外国人支援ボランティアの充実	
	外国人住民へのごみなどの生活ルールの周知徹底	
	外国人住民の仕事や働く場所についての情報の充実	
	医療サービスや健康についての情報の充実	
	住居についての情報の充実	
	各種行政手続きについての情報の充実	
	外国人住民が母語（自分の国の言語）を学ぶ機会の充実	
	その他：具体的に（ ）	
12 多様な 人材が活躍 できる 環境づくり	特別な配慮を必要とする子どもへの支援（発達支援や日本語教育等）	
	障害者が地域で生活するための支援（障害者の雇用への支援など）	
	障害の特性や障害者に対する正しい理解の促進	
	人権教育・啓発（人権法律行政相談などの支援等）	
	家庭・職場・学校・地域などあらゆる場における男女共同参画の推進	
	その他：具体的に（ ）	

■DXの推進についておたずねします。

(28) 現在、社会のあらゆる分野でデジタル化が進められていますが、伊勢崎市は行政手続においてデジタルの活用が進んでいると思いますか。
 (〇は1つ)

1. そう思う	2. どちらかといえばそう思う	
3. どちらともいえない	4. どちらかといえばそう思わない	5. そう思わない

(29) 次に示す伊勢崎市の取組について、どの程度満足していますか。
 取組ごとにあてはまる満足度を1～5の中から1つずつ選んで〇をつけてください。

市の取組	満足度				
	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満
15 デジタル基盤の整備 マイナンバーカードの利活用拡大、保育業務支援システムの導入、医療機関におけるデジタル化推進の支援など	1	2	3	4	5
16 デジタル人材の育成・確保 デジタル機器の活用等による学びの充実、eスポーツの推進等による新産業分野の育成支援、DX推進に向けた職員の育成など	1	2	3	4	5
17 誰一人取り残さないための取組 デジタル技術を用いたタクシーの活用、予防接種におけるアプリの活用、運動施設のオンライン予約など	1	2	3	4	5

(30) 伊勢崎市がもっと住みよいまちになるために、特に力を入れてほしいと思うものを次の中から選んで、〇をつけてください。
 (あてはまるものすべてに〇)

	取組	力を入れてほしいものに〇
15 デジタル基盤の整備	市役所へ行かなくてもオンラインで申請や届出、相談ができる環境の整備	
	市役所や市有施設におけるキャッシュレス決済可能な窓口の整備	
	マイナンバーカードを活用した行政サービスの増加	
	オープンデータ等を活用した官民データ利活用の推進	
	電子地域通貨（ISECA）を活用した地域経済の活性化	
	その他：具体的に（ ）	
16 デジタル人材の育成・確保	タブレットなどのデジタル機器を活用した学校教育の充実	
	デジタル技術を活用した新産業分野の育成支援（eスポーツの推進など）	
	労働者へのデジタル技術習得機会の提供	
	学生向けのデジタル技術習得の場の提供	
	その他：具体的に（ ）	
17 誰一人取り残さないための取組	アプリ等を活用した子育て情報の発信や保護者への支援の充実	
	SNS等を活用した、誰でも分かりやすい情報発信の充実	
	デジタル技術を活用した子どもや高齢者等の見守り強化	
	スマートフォンなどのデジタル機器の使い方講座等の充実	
	その他：具体的に（ ）	

■SDGsの推進（いせさきGXの取組）についておたずねします。

伊勢崎市では、SDGsの理念を政策に積極的に取り入れていくこととしており、令和6年5月に国の「SDGs未来都市」に選定されました。SDGs未来都市として、多文化共生の推進を軸に、経済・社会・環境の3つの側面における相乗効果・好循環の実現を目指すこととしています。

このうち、経済面については「産業の活性化」、社会面については「共生社会の実現」でお聞きしたため、ここでは、環境面への取組である「いせさきGX」についておたずねします。

いせさきGX：「脱炭素に限定せず、一般的な環境問題への対応として、あらゆる主体が進める全ての取組を環境配慮という観点から検討・実行するもの。市が進める全ての施策や事業に「環境配慮」を取り入れ、市の取組のどこを取っても環境に配慮されている状態を目指します。

(31) 伊勢崎市が「SDGs未来都市」に選定されたことを知っていましたか。 <〇は1つ>

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(32) 「いせさきGX」について知っていましたか。 <〇は1つ>

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(33) あなたは、次に示す伊勢崎市の取組について、どの程度満足していますか。
取組ごとにあてはまる満足度を1～5の中から1つずつ選んで〇をつけてください。

市の取組	満足度				
	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満
18 脱炭素社会の推進 家庭用脱炭素化設備導入補助金、公共施設への太陽光発電システムの設置、 公用自動車の電気自動車の導入、省エネルギー機器の導入推進など	1	2	3	4	5
19 循環型社会の推進 分別収集方法の周知・啓発、リサイクル率の向上、 1人1日当たりのごみ排出量の削減など	1	2	3	4	5
20 自然環境の保全 緑化の推進、街路樹や市有林の管理、地域に身近な里山や河川の保全、 生物多様性・生態系の保全、水環境の保全など	1	2	3	4	5

(34) 伊勢崎市がもっと住みよいまちになるために、特に力を入れてほしいと思うものを次の中から選んで、
〇をつけてください。 <あてはまるものすべてに〇>

	具体的な取組	力を入れてほしいものに〇
18 脱炭素社会 の推進	市民への省エネルギー機器・設備の導入支援	
	事業者への省エネルギー活動の実践や省エネルギー機器・設備の導入支援	
	公共施設での再生可能エネルギーの利用	
	環境問題についての学びの場の提供や情報発信	
	その他：具体的に（ ）	
19 循環型社会 の推進	ごみの減量化	
	分別収集方法の周知などの意識啓発	
	リサイクルの推進	
	その他：具体的に（ ）	
20 自然環境の 保全	市民への緑化（造園・ガーデニング等）支援	
	街路樹や市有林における在来種樹木への植替え	
	里山や河川（ビオトープ等）など自然観察活動場所と機会の創設	
	河川の水質浄化や適正な水循環による水生生物の復元	
	その他：具体的に（ ）	

自由意見欄

(35) 市に対するご意見・ご要望・ご提案等がございましたら、ご自由にお書きください。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no text or other markings on the paper.

■アンケートの実施方法についておたずねします。

(36) I SECAポイントのプレゼントは回答の意欲向上につながりましたか。

〈○は1つ〉

1. はい 2. いいえ

(37) 次のどの方法だったら、回答しようと思いますか。

〈○は1つ〉

1. 回答者全員に一律200ポイント（今回と同様）
2. 200ポイントより多いポイント（1000ポイント等）を回答者の中から抽選でプレゼント
3. その他（ ）

アンケートは以上で終了です。ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れてご投函ください（切手は不要です）



令和 7 年 7 月 11 日消印有効

ISECAポイントのプレゼントを希望する場合は、「会員コード確認書」を必ず同封の上
ご投函ください。